

よし たけ

吉武遺跡群

VII

飯盛・吉武團場整備事業関係調査報告書 I

—弥生時代掘立柱建物の報告—

福岡市埋蔵文化財調査報告書第437集

1995

福岡市教育委員会

よし たけ
吉 武 遺 跡 群
VII

飯盛・吉武園場整備事業関係調査報告書 I

—弥生時代掘立柱建物の報告—

福岡市埋蔵文化財調査報告書第437集



遺跡地号：Y S T
調査番号：8102, 8334, 8335
8416, 8518, 8535

1995

福岡市教育委員会



▲ 大型建物 (SB02建物、第四次調査、西から)



▲ 大型建物 (SB02建物、第四次調査、南から)

序

古来より大陸文化の門戸であった福岡市域には、アジアとの交流を示す多くの文化財が市内各所に残されています。

この中でも特に、市西郊の室見川左岸にひろがる吉武遺跡群は、弥生～奈良時代にわたる長期の遺跡が数多く分布する地域として知られています。

さて、この地域では昭和56年度より飯盛・吉武地区農業基盤整備事業の施工にともない、工事によってやむなく消滅する埋蔵文化財について、事前に発掘調査による記録保存が必要となり、当年度より事業が完結する昭和60年度まで調査を継続しました。

発掘調査の結果、紀元前二世紀に遡る弥生時代の豊富な青銅器を多く副葬した特定集団の墓地や大型の建物群、紀元前後の弥生時代の墳丘墓、古墳時代中期の前方後円墳・円墳群および集落跡、奈良時代末～平安時代にかけての官衙あるいは寺院跡など各時代の遺構が検出されました。

本書は、これらの発掘調査の成果の一部を取録したものでありますが、本書が、市民の方々の埋蔵文化財に対する認識と理解につながり、さらには学術研究上も役立つことができれば幸甚に存じます。

最後になりましたが、発掘調査にかかる飯盛・吉武土地改良組合、地元作業員および市農林水産局の方々、報告書作成にかかわった方々をはじめ、本遺跡の史跡指定についての強力なご理解とご協力をいただきました地権者の方々にに対し、心よりの感謝の意を表する次第であります。

平成7年3月31日

福岡市教育委員会

教育長 尾花 剛

例 言

1. 本書は、飯盛吉武地区土地改良事業（圃場整備）に伴い発掘調査を実施した福岡市西区大字飯盛・吉武地内に所在する『吉武遺跡群』橋渡地区・高木地区・大石地区の発掘調査の報告書である。
2. 発掘調査は、福岡市教育委員会が昭和56年から昭和60年まで6次にわたって実施した。
3. 発掘調査で検出した各遺構は、その種類毎に記号を付し、土壌をSK、溝状遺構をSD、竪穴住居跡をSC、掘立柱建物をSB、ピットをSPと表記した。
4. 本書は調査された各時代遺構のうち、弥生時代掘立柱建物群を中心に報告するものである。
5. 本書に使用した遺構実測図の作成は、調査担当者の他に別記の調査補助員が行い、また、遺物の実測は担当者のほかに大庭友子が行った。
6. 本書に使用した図面類の整因および製図は、安野良、副田剛子、伊藤美紀、牛尾美保子、海内美也子、大庭友子が行った。
7. 本書に使用した写真は、空中写真を空中写真企画に、他は二宮忠司（第一～二次）、下村智（第三～四次）、横山邦継（第五次）、力武卓治（第六次）が行った。
8. 本書で使用した方位は、すべて磁北である。
9. 本書の執筆は、第三章第一節1・2、第二・三節を二宮忠司・大庭友子、第三章第一節5を力武卓治で行った。他は横山邦継が担当した。また本書の編集は関係者の協力をえて、横山が行った。
10. 本書に関する調査記録、出土遺物類は、平成7年度に福岡市埋蔵文化財センターに収蔵する予定である。
11. 表紙題字は杉山悦子氏におねがいをした。記して感謝いたします。

本文目次

第一章	はじめに	1
1.	調査に至る経過	1
2.	調査の組織	1
第二章	遺跡の立地と環境	6
第三章	弥生時代調査の報告	9
第一節	第一～六次調査の概要	9
1.	第一次調査の概要	9
2.	第二次調査の概要	13
3.	第三次調査の概要	17
4.	第四・五次調査の概要	21
5.	第六次調査の概要	25
第二節	第一次調査報告	31
1.	調査概要	31
2.	第Ⅱ区検出掘立柱建物	35
3.	第Ⅲ・Ⅳ区の調査	57
4.	第一次調査小結	63
第三節	第二次調査報告	65
1.	調査概要	65
2.	検出掘立柱建物	69
3.	掘立柱建物内出土遺物	97
4.	第二次調査小結	102
第四節	第四・五次調査報告	103
1.	調査概要	103
2.	掘立柱建物	103
3.	第四・五次調査小結	151
第四章	おわりに	153

插图目次

Fig. 1	周边遺跡分布图 (1/25,000)	6
Fig. 2	調査区配置图 (第一—六次調査)	7
Fig. 3	第一次調査遺構全体图	10-11
Fig. 4	第二次調査遺構全体图	14-15
Fig. 5	第三次調査遺構全体图	18-19
Fig. 6	第四・五次調査遺構全体图	22-23
Fig. 7	第六次調査遺構全体图 ①	26-27
Fig. 8	第六次調査遺構全体图 ② (1/500)	28
Fig. 9	第一次調査弥生時代遺構分布图 (I・II区) (縮尺 1/500)	32
Fig. 10	SA01・SB01 建物検出状況実測图 (縮尺1/80.1/100)	33
Fig. 11	SB02・03・04 建物検出状況実測图 (縮尺1/80)	34
Fig. 12	SB05・06 建物検出状況実測图 (縮尺1/80)	36
Fig. 13	SB07・08 建物検出状況実測图 (縮尺1/80)	37
Fig. 14	SB09 建物検出状況実測图 (縮尺1/80)	38
Fig. 15	SB10・11 建物検出状況実測图 (縮尺1/80)	40
Fig. 16	SB12・13 建物検出状況実測图 (縮尺1/80)	41
Fig. 17	SB14・15 建物検出状況実測图 (縮尺1/80)	42
Fig. 18	SB16・17 建物検出状況実測图 (縮尺1/80)	44
Fig. 19	SB18・19 建物検出状況実測图 (縮尺1/80)	45
Fig. 20	SB20・21 建物検出状況実測图 (縮尺1/80)	48
Fig. 21	SB22・23・24 建物検出状況実測图 (縮尺1/80)	49
Fig. 22	SB25 建物検出状況実測图 (縮尺1/80)	50
Fig. 23	SB26・27 建物検出状況実測图 (縮尺1/80)	52
Fig. 24	SB28・29 建物検出状況実測图 (縮尺1/80)	54
Fig. 25	SB30・31 建物検出状況実測图 (縮尺1/80)	55
Fig. 26	SB32・33・34 建物検出状況実測图 (縮尺1/80)	56
Fig. 27	第一次調査弥生時代遺構分布图 (III区) (縮尺 1/500)	58
Fig. 28	第一次調査弥生時代遺構分布图 (IV区) (縮尺 1/300)	59
Fig. 29	SB35・36 建物検出状況実測图 (縮尺1/80)	60
Fig. 30	SB37・38・39 建物検出状況実測图 (縮尺1/80)	61
Fig. 31	SB40・41 建物検出状況実測图 (縮尺1/80)	62
Fig. 32	第二次調査弥生時代遺構分布图 (V区)	66-67
Fig. 33	SB01・02 建物検出状況実測图 (縮尺1/80)	70
Fig. 34	SB03・04・05 建物検出状況実測图 (縮尺1/80)	71
Fig. 35	SB06・07 建物検出状況実測图 (縮尺1/80)	72
Fig. 36	SB08・09・10 建物検出状況実測图 (縮尺1/80)	74
Fig. 37	SB11・12・13 建物検出状況実測图 (縮尺1/80)	75
Fig. 38	SB14・15 建物検出状況実測图 (縮尺1/80)	76
Fig. 39	SB16・17 建物検出状況実測图 (縮尺1/80)	78
Fig. 40	SB18・19 建物検出状況実測图 (縮尺1/80)	80
Fig. 41	SB20・21・22 建物検出状況実測图 (縮尺1/80)	81
Fig. 42	SB23・24 建物検出状況実測图 (縮尺1/80)	82
Fig. 43	SB25・26・27 建物検出状況実測图 (縮尺1/80)	84
Fig. 44	SB28・29・30 建物検出状況実測图 (縮尺1/80)	85
Fig. 45	SB31 建物検出状況実測图 (縮尺1/80)	86
Fig. 46	SB32・33・34 建物検出状況実測图 (縮尺1/80)	89
Fig. 47	SB35・36・37 建物検出状況実測图 (縮尺1/80)	90
Fig. 48	SB38・39・40 建物検出状況実測图 (縮尺1/80)	92
Fig. 49	第二次調査弥生時代遺構分布图 (V・VI区) (縮尺 1/300)	93
Fig. 50	第二次調査弥生時代遺構分布图 (VII区) (縮尺 1/300)	94
Fig. 51	SB41・42・43 建物検出状況実測图 (縮尺1/80)	96
Fig. 52	第一・二次調査出土土器実測图 (1) (縮尺 1/3)	98
Fig. 53	第一・二次調査出土土器実測图 (2) (縮尺 1/3)	99
Fig. 54	第一・二次調査出土土器実測图 (3) (縮尺 1/3)	100

Fig.55	第四次調査弥生時代遺構分布図(1)	104-105
Fig.56	SB01・03 建物跡出土状況実測図(縮尺1/80)	106
Fig.57	SB02 建物跡出土状況実測図(縮尺1/100)	折込
Fig.58	SB04・05 建物跡出土状況実測図(縮尺1/80)	111
Fig.59	SB06 建物跡出土状況実測図(縮尺1/80)	113
Fig.60	SB07・08 建物跡出土状況実測図(縮尺1/80)	114
Fig.61	SB09・10 建物跡出土状況実測図(縮尺1/80)	116
Fig.62	SB11・12 建物跡出土状況実測図(縮尺1/80)	118
Fig.63	SB13・14 建物跡出土状況実測図(縮尺1/80)	119
Fig.64	第四次調査弥生時代遺構分布図(2)	120-121
Fig.65	SB15・16 建物跡出土状況実測図(縮尺1/80)	122
Fig.66	SB17・18 建物跡出土状況実測図(縮尺1/80)	123
Fig.67	SB19・20 建物跡出土状況実測図(縮尺1/80)	125
Fig.68	SB21 建物跡出土状況実測図(縮尺1/80)	126
Fig.69	SB22・23 建物跡出土状況実測図(縮尺1/80)	128
Fig.70	SB24・25 建物跡出土状況実測図(縮尺1/80)	130
Fig.71	SB26・27 建物跡出土状況実測図(縮尺1/80)	131
Fig.72	SB28・29 建物跡出土状況実測図(縮尺1/80)	133
Fig.73	SB30・31 建物跡出土状況実測図(縮尺1/80)	134
Fig.74	SB32・33 建物跡出土状況実測図(縮尺1/80)	136
Fig.75	SB34・35 建物跡出土状況実測図(縮尺1/80)	137
Fig.76	SB36・37 建物跡出土状況実測図(縮尺1/80)	139
Fig.77	SB38・39 建物跡出土状況実測図(縮尺1/80)	140
Fig.78	SB40・41 建物跡出土状況実測図(縮尺1/80)	142
Fig.79	SB42・43 建物跡出土状況実測図(縮尺1/80)	143
Fig.80	SB44 建物跡出土状況実測図(縮尺1/80)	144
Fig.81	第四次調査建物出土土器実測図(1)(縮尺1/3)	145
Fig.82	第四次調査建物出土土器実測図(2)(縮尺1/3)	146
Fig.83	第四次調査建物出土土器実測図(3)(縮尺1/3)	147
Fig.84	第四次調査弥生時代遺構分布図(3)	148-149
Fig.85	古武遺跡群弥生時代遺構分布図	155
Fig.86	弥生時代掘立柱建物年表	156
Fig.87	第四次調査検出のSB02建物復元図	158
Fig.88	SB02 建物の復元と家屋文鏡に描かれた四種の建物復元	159

図版目次

PL. 1	第四次調査調査区東部全景(西から)
PL. 2	1. 第四次調査SB02建物検出状況(南から) 2. 第四次調査SB02建物検出状況(西から)
PL. 3	1. 第一次Ⅰ区調査全景SB-01, SA-01(北から) 2. 第一次Ⅰ区調査全景SA-01他(南から)
PL. 4	第一次Ⅱ区調査円形住居址SC-04・16~20(北東から)
PL. 5	1. 第一次Ⅱ区調査住居址の切り合い(北西から) 2. 第一次Ⅱ区調査住居址・妻棺墓・掘立柱建物(北東から)
PL. 6	1. 第一次Ⅱ区調査SC-04・18~20の切り合い(北東から) 2. 第一次Ⅱ区調査SC-27住居址(南から)
PL. 7	1. 第一次Ⅱ区調査SC-24・32の切り合い関係(東から) 2. 第一次Ⅱ区調査住居址SC-27掘立柱建物SB-25・27・33(南西から)
PL. 8	1. 第一次Ⅱ区調査住居址SC-21・23と掘立柱建物SB-16~18(北東から) 2. 第一次Ⅱ区調査SC-21円形住居址(北西から)
PL. 9	1. 第一次Ⅱ区調査掘立柱建物SB-21(南東から) 2. 第一次Ⅱ区調査住居址SC-36・37と掘立柱建物SB-07~10・12(南東から)
PL.10	1. 第一次Ⅱ区調査掘立柱建物SB-08, 09との切り合い関係(北東から) 2. 第一次Ⅱ区調査掘立柱建物SB-07~11との切り合い関係(東から)
PL.11	1. 第一次Ⅱ区調査掘立柱建物SB-12, 21とSC-37・39・40(北東から)

2. 第一次Ⅱ区調査東南隅SC-36-37他(南東から)
- PL.12 1. 第一次Ⅱ区調査SB-07-10~12とSC-37-40-41(東から)
2. 第一次Ⅱ区調査南東隅SC-36-38, SB-21-1010-1011(北東から)
- PL.13 1. 第一次Ⅱ区調査SC-104と古墳時代の掘立柱建物SB-1012(南から)
2. 第一次Ⅱ区調査SB-08他(北東から)
- PL.14 1. 第一次Ⅱ区調査住居址・薬棺・掘立柱建物(南東から)
2. 第一次Ⅱ区調査住居址切り合い関係と掘立柱建物(SC-39-40-42)(南西から)
- PL.15 1. 第一次Ⅱ区調査北側遺構検出状態(西から)
2. 第一次Ⅱ区調査北側遺構検出状態(東から)
- PL.16 1. 第一次Ⅱ区調査北側遺構検出近景(東から)
2. 第一次Ⅱ区調査北側遺構検出近景(南から)
- PL.17 1. 第一次Ⅲ区調査SD-01全景(北から)
2. 第一次Ⅳ区調査検出薬棺墓(東から)
- PL.18 1. 第一次Ⅳ区調査全景(西から)
2. 第一次Ⅳ区調査中央部近景(南東から)
- PL.19 1. 第一次Ⅳ区調査SC-53検出状態(南東から)
2. 第一次Ⅳ区調査中央部薬棺墓とSC-56-58-67検出状態(北から)
- PL.20 1. 第一次Ⅳ区調査SK-211-214検出状態(南東から)
2. 第一次Ⅳ区調査SC-59~64-68~72検出状態(北から)
- PL.21 1. 第一次Ⅳ区調査SC-59~61-70~72, SB-37~39(西から)
2. 第一次Ⅳ区調査SC-51-55-SC-66, SB-37~40(西から)
- PL.22 1. 第一次Ⅳ区調査SC-60~64-69~72, SB-36-41(西から)
2. 第一次Ⅳ区調査SC-69~72, SB-35(南東から)
- PL.23 1. 第一次Ⅳ区調査SC-67完掘状態(北から)
2. 第一次Ⅳ区調査SC-66完掘状態(南西から)
- PL.24 1. 第二次Ⅰ区調査透景(南西から)
2. 第二次Ⅰ区調査南東隅SB-10-13-SC-73(北から)
- PL.25 1. 第二次Ⅰ区調査SC-73, SB-15-24(南東から)
2. 第二次Ⅰ区調査透景SB-10-12-13他(北東から)
- PL.26 1. 第二次Ⅰ区調査南西隅透景(北から)
2. 第二次Ⅰ区調査東隅透景SB-14-15(南東から)
- PL.27 1. 第二次Ⅰ区調査北隅透景(南西から)
2. 第二次Ⅰ区調査東側調査区SB-09-12(南東から)
- PL.28 1. 第二次Ⅰ区調査北隅SB-02-07(東から)
2. 第二次Ⅰ区調査北隅SB-06-10, SD-03(北東から)
- PL.29 1. 第二次Ⅰ区調査中央部SB-10-12(南東から)
2. 第二次Ⅰ区調査中央部SB-24-29(西から)
- PL.30 1. 第二次Ⅰ区調査中央部北隅SD-05-08, SB-13-20~24(北西から)
2. 第二次Ⅰ区調査中央部SB-13-14, SD-05-08(東から)
- PL.31 1. 第二次Ⅰ区調査南東隅SB-13-15-24, SD-05-08(東から)
2. 第二次Ⅰ区調査西隅SB-16-17-19-32-34-35古墳時代住居址(西から)
- PL.32 1. 第二次Ⅰ区調査中央部SB-13, SD-05-08, SC-75(東から)
2. 第二次Ⅰ区調査西隅SB-18-19-31他(南から)
- PL.33 1. 第二次Ⅰ区調査SB-15(東から)
2. 第二次Ⅰ区調査SD-05-08と塚状遺構(北から)
- PL.34 1. 第二次Ⅰ区調査北隅SB-02-07-09(東から)
2. 第二次Ⅰ区調査SD-06-07とSB-18-29-31(北から)
- PL.35 1. 第二次Ⅰ区調査南東隅SB-14-15, SC-73(北から)
2. 第二次Ⅰ区調査SB-1000
- PL.36 1. 第二次Ⅰ区調査南東隅SB-14-15-24, SC-73(北東から)
2. 第二次Ⅰ区調査SB-18-31-32(北西から)
- PL.37 1. 第二次Ⅰ区調査SB-37-39-40, SC-74(北西から)
2. 第二次Ⅰ区調査SD-34~38(北から)
- PL.38 1. 第二次Ⅰ区調査SC-74, SB-39-40(北西から)
2. 第二次Ⅰ区調査SB-30-33~38(西から)
- PL.39 1. 第二次Ⅴ区調査SD-10-11, SB-41検出状態(西から)

2. 第二次V区調査SD-11 土器出土状態 (北西から)
- PL.40 1. 第二次Ⅱ区調査全景 (北から)
2. 第二次Ⅱ区調査全景 (南から)
- PL.41 1. 第二次Ⅱ区調査SD-15 近景 (西から)
2. 第二次Ⅱ区調査SD-14・15近景 (北から)
- PL.42 1. 第二次Ⅱ区調査SD-14 他近景 (南東から)
2. 第二次Ⅱ区調査SB-42 全景 (北から)
- PL.43 第一次調査建物出土遺物-1
- PL.44 第二次調査建物出土遺物-2
- PL.45 第四次調査1号幹線道路第4区遺構検出状況 (西から、向こうがSB02大型建物)
- PL.46 1. 第四次調査1号幹線道路第4区遺構検出状況 (西から、向こうが古武高木弥生墓地)
2. 第四次調査4号支線道路北端部遺構検出状況 (南から)
- PL.47 第四次調査区東半部建物群検出状況 (東から)
- PL.48 第四次調査SB15・16・17・18・19・20建物検出状況
- PL.49 第四次調査SB21・22・23・24建物検出状況
- PL.50 第四次調査SB25・26・27・30建物検出状況
- PL.51 第四次調査SB31・32・35建物検出状況
- PL.52 第四次調査SB33・34建物検出状況
- PL.53 第四次調査区西半部建物群検出状況 (東から)
- PL.54 第四次調査SB38・39・40建物検出状況

表 目 次

Tab.1	吉武遺跡群調査一覧	2
Tab.2	第一次調査SA01・SB01 建物計測表	33
Tab.3	SB02・03・04 建物計測表	34
Tab.4	SB05・06 建物計測表	36
Tab.5	SB07・08 建物計測表	37
Tab.6	SB09 建物計測表	38
Tab.7	SB10・11 建物計測表	40
Tab.8	SB12・13 建物計測表	41
Tab.9	SB14・15 建物計測表	42
Tab.10	SB16・17 建物計測表	44
Tab.11	SB18・19 建物計測表	45
Tab.12	SB20・21 建物計測表	48
Tab.13	SB22・23・24 建物計測表	49
Tab.14	SB25 建物計測表	50
Tab.15	SB26・27 建物計測表	52
Tab.16	SB28・29 建物計測表	54
Tab.17	SB30・31 建物計測表	55
Tab.18	SB32・33・34 建物計測表	56
Tab.19	SB35・36 建物計測表	60
Tab.20	SB37・38・39 建物計測表	61
Tab.21	SB40・41 建物計測表	62
Tab.22	第二次調査SB01・02 建物計測表	70
Tab.23	SB03・04・05 建物計測表	71
Tab.24	SB06・07 建物計測表	72
Tab.25	SB08・09・10 建物計測表	74
Tab.26	SB11・12・13 建物計測表	75
Tab.27	SB14・15 建物計測表	76
Tab.28	SB16・17 建物計測表	78
Tab.29	SB18・19 建物計測表	80
Tab.30	SB20・21・22 建物計測表	81
Tab.31	SB23・24 建物計測表	82
Tab.32	SB25・26・27 建物計測表	84
Tab.33	SB28・29・30 建物計測表	85

Tab.34	SB31 建物計測表	86
Tab.35	SB32・33・34 建物計測表	89
Tab.36	SB35・36・37 建物計測表	90
Tab.37	SB38・39・40 建物計測表	92
Tab.38	SB41・42・43 建物計測表	96
Tab.39	第四次調査SB01・03 建物計測表	106
Tab.40	SB02 建物計測表	109
Tab.41	SB04・05 建物計測表	111
Tab.42	SB06 建物計測表	113
Tab.43	SB07・08 建物計測表	114
Tab.44	SB09・10 建物計測表	117
Tab.45	SB11・12 建物計測表	118
Tab.46	SB13・14 建物計測表	119
Tab.47	SB15・16 建物計測表	122
Tab.48	SB17・18 建物計測表	123
Tab.49	SB19・20 建物計測表	125
Tab.50	SB21 建物計測表	127
Tab.51	SB22・23 建物計測表	128
Tab.52	SB24・25 建物計測表	130
Tab.53	SB26・27 建物計測表	131
Tab.54	SB28・29 建物計測表	133
Tab.55	SB30・31 建物計測表	134
Tab.56	SB32・33 建物計測表	136
Tab.57	SB34・35 建物計測表	137
Tab.58	SB36・37 建物計測表	139
Tab.59	SB38・39 建物計測表	140
Tab.60	SB40・41 建物計測表	142
Tab.61	SB42・43 建物計測表	143
Tab.62	SB44 建物計測表	144
Tab.63	弥生時代獨立柱建物地名表(1)	161
Tab.64	弥生時代獨立柱建物地名表(2)	162
Tab.65	弥生時代獨立柱建物地名表(3)	163
Tab.66	弥生時代獨立柱建物地名表(4)	164
Tab.67	弥生時代獨立柱建物地名表(5)	165
Tab.68	弥生時代獨立柱建物地名表(6)	166
Tab.69	弥生時代獨立柱建物地名表(7)	167
Tab.70	弥生時代獨立柱建物地名表(8)	168
Tab.71	弥生時代獨立柱建物地名表(9)	169
Tab.72	弥生時代獨立柱建物地名表(10)	170
Tab.73	弥生時代獨立柱建物地名表(11)	171
Tab.74	弥生時代獨立柱建物地名表(12)	172
Tab.75	弥生時代獨立柱建物地名表(13)	173
Tab.76	弥生時代獨立柱建物地名表(14)	174
Tab.77	弥生時代獨立柱建物地名表(15)	175
Tab.78	弥生時代獨立柱建物地名表(16)	176
Tab.79	弥生時代獨立柱建物地名表(17)	177
Tab.80	弥生時代獨立柱建物地名表(18)	178
Tab.81	弥生時代獨立柱建物地名表(19)	179
Tab.82	弥生時代獨立柱建物地名表(20)	180

付 図 目 次

古式遺跡群遺構全体図 (1/1,000)

第一章 はじめに

1. 調査に至る経過

吉武遺跡群発掘調査のきっかけとなったのは、昭和55年（1980年）6月11日に農林水産局農業構造改善部農業土木課より教育委員会文化部文化課に提出された福岡市西区の「飯盛・吉武団体営開場整備事業」計画である。

当初の整備計画では、対象面積46.4haのうち、昭和55年度-3.6ha・昭和56年度-9.0ha・昭和57年度以降-33.8haを整備するものであった。このうち昭和55年度対象地区は、地形的に明らかに東側を流れる室見川の比較的新しい氾濫原であることと工事施工のうえでほとんど影響を受けないために、本調査からは除外した。

昭和56年度以降の対象地は、昭和44年に行われた九州大学による分布調査やその後の市教育委員会の遺跡分布調査によって、全域に弥生～古墳時代遺物が散布することが知られていた。

教育委員会文化課では、昭和56年度事業地（対象 7.5ha）について試掘調査（56年6月16～19日・7月8日～10日）を実施して遺構内容の把握を行ったところ、弥生時代前期末～後期初めの竪穴群や堅穴住居跡・溝・柱穴群など古墳時代にわたる遺構が、全体的にまんべんなく分布することが明らかとなった。この後、この成果をもとに対象地のうち、造成工事にもなつて遺構の失われる切土・構造物（道路・水路）部分などの範囲を確定するために事業者と協議を重ね、昭和56年11月1日より本格的な調査を開始した。（第一次調査）

第一次調査以降、工事施工と発掘調査が時期的に重複するため、各事業年度での発掘調査規模を設計変更などで最低におさえるための協議が土地改良組合、文化課、事業指導課（農業土木課）とで定期的にもたれ、事業の円滑な推進がはかられた。

また、圍場整備で6次にわたって調査された吉武遺跡群のうち、豊富な青銅製武器・鏡・玉などの副葬品をともなう吉武高木弥生墓地（第四・五次）や吉武大石弥生墓地（第六次）の一部は、弥生時代の墓制を考える上で学術的に非常に価値が高く、地権者の理解をえて国史跡「吉武高木遺跡」として永久に保全されることとなった。

2. 調査の組織

昭和56年度の調査関係者は下記の通りである。

- 【調査委託】 農林水産局農業土木課、飯盛吉武地区土地改良組合
- 【調査主体】 福岡市教育委員会 教育長 西津茂美
- 【調査総括】 埋蔵文化財課長 甲能貞行
埋蔵文化財係長 柳田純孝
- 【調査庶務】 埋蔵文化財課 岡島洋一
- 【調査担当】 発掘調査 二宮忠司、田中寿夫、小林義彦 試掘調査 横山邦継
- 【調査補助】 渡辺和子
- 【整理調査員】 大庭友子
- 【整理作業員】 牛尾美保子、海内美也子、尾崎京子、斎藤美紀枝、西田優樹、真名子順子
- 【調査作業員】 青柳弘子、石橋輝江、伊藤みどり、牛尾秋子、牛尾シキヲ、牛尾準一、牛尾二三子、牛尾奈美江、大内文恵、大穂朝子、大穂栄子、尾崎達也、尾崎八重、金子ヨシ子、菊池栄子、菊池キミ、菊池ミツヨ、倉光千鶴子、倉光三保、倉光ユキエ、藍田洋子、

Tab.1 吉武遺跡群調査一覧（平成6年12月28日現在）

発掘調査番号	遺跡番号	調査地名称	分布地区番号	調査対象面積	調査面積	調査期間	調査担当者	既刊報告書
1次	8102	YST 西区大字飯盛字本名池内(園場整備第一次)	092-A-12(0405)	83,000	12,000	1981.11.1-1982.3.5	二宮忠司、田中秀夫、小林義彦	
2次	8234	YST 西区大字飯盛地内(園場整備第二次)	092-A-2(0405)	79,000	21,000	1982.9.1-1983.2.15	二宮忠司	
3次	8235	YST 西区大字飯盛字トイ池地内(田・飯盛線第一次)	092-A-12(0405)	—	5,200	1982.9.22-1983.2.12	山崎龍雄	福岡市埋蔵文化財調査報告書第127集
4次	8335	YST 西区大字吉武110地地内(園場整備第三次)	092-A-10-12(0405)	101,000	25,000	1983.9.12-1984.3.24	下村 智、横山邦雄	福岡市埋蔵文化財調査報告書第143集
5次	84:5	YST 西区大字飯盛地内(田・飯盛線第二次)	093-A-10(0405)	—	1,600	1984.4.13-1984.5.31	浜石哲也	福岡市埋蔵文化財調査報告書第154集
6次	84:6	YST 西区大字吉武字高木194地(園場整備第四次)	093-A-10(0405)	70,000	36,000	1984.7.1-1985.3.20	下村 智、常松幹雄、横山邦雄	福岡市埋蔵文化財調査報告書第136集
7次	8426	YST 西区大字吉武字三十六146地(野方・金武線第一次)	093-A-7(0405)	—	1,050	1985.3.26-1985.5.5	下村 智、横山邦雄	福岡市埋蔵文化財調査報告書第138集
8次	8518	YST 西区大字吉武字高木地内(園場整備第五次)	093-A-10-12(0405)	70,000	470	1985.7.2-1985.7.24	横山邦雄	
9次	8535	YST 西区大字吉武地内(園場整備第六次)	093-A-10(0405)	106,000	23,000	1985.8.1-1986.3.31	方武卓治、下村 智、常松幹雄、加藤良彦	
10次	8650	YST 西区大字吉武字三十六地内(園場整備)	092-A-12(0405)	—	5,000	1986.11.17-1987.2.27	方武卓治、常松幹雄	
11次	8662	YST 西区大字飯盛地内(野方・金武線第十一次)	093-A-2(0405)	4,320	3,780	1987.3.1-1987.5.10	二宮忠司、佐藤一郎	福岡市埋蔵文化財調査報告書第303集

榑スミ子、榑太郎、榑光雄、柴田大正、白坂フサヲ、新町ナツ子、惣慶トミ子、高原ナヲ、高地幸枝、典略初、中牟田サカエ、鍋山千鶴子、西島タミエ、西島初子、能美八重子、浜田澄美枝、林嘉子、平田タマエ、平田政子、平野ミサオ、藤タケ、藤崎友記、細川ミサヲ、又野栄子、真名子千恵子、真名子時雄、八尋君代、山下サノエ、結城若江、結城千賀子、結城信子、横溝惠美子、横溝ユキエ、吉岡あつ子、吉岡アヤ子、吉岡員代、吉岡竹子、吉岡タヤ子、吉岡蓮江、吉岡フサエ、吉岡文子、米島ハツネ、臨坂ミサヲ

昭和57年度の調査関係者は下記の通りである。

【調査委託】 農林水産局農業土木課、飯盛吉武地区土地改良組合

【調査主体】 福岡市教育委員会 教育長 西津茂美

【調査総括】 埋蔵文化財課長 生田征生

埋蔵文化財第1係長 柳田純孝

【調査職務】 埋蔵文化財課 岡島洋一、岸田隆

【調査担当】 発掘調査 二宮忠司、山崎龍雄

【調査補助員】 渡辺和子

【整理調査員】 大庭友子

- 【整理作業員】** 牛尾美保子、海内美也子、尾崎京子、斎藤美紀枝、西田優樹、真名子順子
- 【調査作業員】** 青柳弘子、石橋輝江、伊藤みどり、牛尾秋子、牛尾和子、牛尾シキヲ、牛尾準一、牛尾二三子、牛尾奈美江、大内文恵、牛尾睦子、大穂朝子、大穂栄子、尾崎達也、尾崎八重、金子ヨシ子、釜堀耐美、菊池栄子、菊池キミ、菊池ミツヨ、倉光千鶴子、倉光三保、倉光ユキエ、小林ツチエ、塚田洋子、柳スミ子、柳太郎、柳光雄、坂田セイ子、柴田大正、柴田常人、清水フミ代、白坂フサヲ、新町ナツ子、杉村文子、惣慶トミ子、高田マサエ、高原ナヲ、高地幸枝、典略初、舎川春江、中牟田サカエ、鍋山千鶴子、西島タミエ、西島初子、西納トシエ、西納テル子、能美八重子、浜田澄美枝、林嘉子、平田タマエ、平田政子、平野ミサオ、藤タケ、藤崎友記、細川ミサヲ、又野栄子、松尾鈴子、松尾キミ子、松尾久代、真名子千恵子、真名子時雄、真鍋チエ子、八尋君代、山下サノエ、山西人美、山本キノ、結城君江、結城千賀子、結城信子、横溝恵美子、横溝ユキエ、吉岡あつ子、吉岡アヤ子、吉岡員代、吉岡竹子、吉岡タヤ子、吉岡進江、吉岡フサエ、吉岡文子、米島ハツネ、脇坂ミサヲ

昭和58年度の調査関係者は下記の通りである。

- 【調査委託】** 農林水産局農業土木課、飯盛吉武地区土地改良組合
- 【調査主体】** 福岡市教育委員会 教育長 西津茂美
- 【調査総括】** 文化財部長 中田宏
文化課長 生田征生
埋蔵文化財第2係長 折尾学
- 【調査庶務】** 埋蔵文化財第1係 岡島洋一、古藤国生
- 【調査担当】** 発掘調査 下村智、横山邦継 試掘調査 田中寿夫
- 【調査・整理補助員】** 田中克子、緒方俊輔（奈良大学文化財学科）
- 【調査作業員】** 村本健二、溝口武司、中山章、牧重幸、川田初、橋哲也、大賀敏明、青柳貴子、青柳弘子、青柳陽子、池田由美、石橋洋子、井上カズ子、井上喜美子、井上清子、井上キヨ子、井上千代子、井上トミ子、井上ヒデア子、井上鷹智子、井上ムツ子、鬼尾喜代子、岸田浩、清末シズエ、倉光アヤ子、倉光京子、倉光千鶴子、倉光イワ子、倉光スマ子、倉光ナツ子、倉光信子、倉光初江、小柳和子、斎藤国子、柴田憲子、柴田タツ子、柴田春代、滝良子、高松美智子、筒井ひとみ、堤直代、土壁崎つや子、富崎栄子、富崎フミ子、富永ミツ子、烏島タキ子、永井鈴子、中島栄子、中西ヒデア子、中西美由紀、中牟田チエ子、中山サダ子、西島美千代、西原春子、野下久美子、花畑照子、原幸子、原コマサ子、平田節子、平田美絵子、三角清子、溝口博子、宮原富代、宮崎泰子、矢富富士子、柳井順子、柳浦八重子、山口タツエ、結城千代子、吉岡朱美、吉岡津幾子、吉積ハル子、吉積フサノ、横溝恵美子、横溝チエ子、脇坂マキノ
- 【整理作業員】** 花畑照子、溝口博子、安野良、副田則子、伊藤美紀

昭和59年度の調査関係者は下記の通りである。

- 【調査委託】** 農林水産局農業土木課、飯盛吉武地区土地改良組合
- 【調査主体】** 福岡市教育委員会 教育長 西津茂美

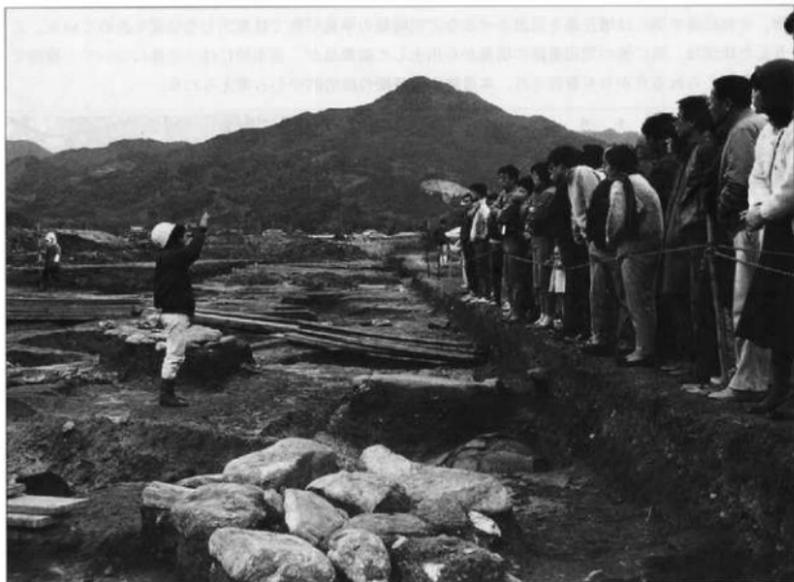
- 【調査総括】** 文化財部長 中田宏
文化課長 生田征生
埋蔵文化財第2係長 折尾学
- 【調査庶務】** 埋蔵文化財第1係 岡島洋一、松延好文
- 【調査担当】** 発掘調査 下村智、横山邦継 常松幹雄 試掘調査 田中寿夫
- 【調査・整理補助員】** 田中克子、岩本陽児、矢野健一（京都大学）、緒方俊輔（奈良大学文化財学科）、火口秀信（早稲田大学）、進藤敏雄（早稲田大学）、溝口孝司（九州大学）
- 【調査作業員】** 村本健二、松田定美、溝口武司、池上宏、山下清作、平川謙一、沖浩人、吉岡勝美、辻繁一郎、川田初、橋哲也、亀川照義、北園論、小路永智明、藤嶋博明、甲斐美佐江、末松一馬
青柳貴子、青柳弘子、青柳洋子、池田由美、石橋洋子、井上カズ子、井上喜美子、井上清子、井上千代子、井上トミ子、井上ヒデ子、井上廣智子、井上ムツ子、鬼尾喜代子、川口シゲノ、岸田浩、木村厚子、清末シズエ、倉光アヤ子、倉光京子、倉光千鶴子、倉光信子、倉光初江、小林恵美子、小林ツチエ、小柳和子、斎藤国子、坂田セイ子、柴田常人、柴田タツ子、柴田春代、白坂フサヨ、末永鶴子、高田マサエ、滝良子、高松美智子、田中カヨ子、筒井ひとみ、土斐崎つや子、富崎栄子、富田マチ子、富永ミツ子、舎川春江、永井鈴子、中島栄子、中牟田チエ子、中山サダ子、西山秀子、能美須賀子、花畑照子、原ハナエ、原口マサ子、平田千鶴子、平田美絵子、堀尾久美子、松尾キミ子、松尾鈴子、松本育子、溝口博子、溝口洋子、宮原富代、宮崎泰子、森山早苗、矢富富士子、柳井順子、柳浦八重子、山口タツエ、山下アヤ子、山本キクノ、山田トキエ、結城千代子、吉積ミエ子、吉田勝代、横田松ノ、横溝恵美子、横溝カヨ子、横溝チエ子、吉武早苗、脇坂マキノ、脇山喜代子
- 【整理作業員】** 花畑照子、溝口博子、別府加代子、矢野隆子、安野良、副田則子、伊藤美紀

昭和60年度の調査関係者は下記の通りである。

- 【調査委託】** 農林水産局農業土木課、飯盛吉武地区土地改良組合
- 【調査主体】** 福岡市教育委員会 教育長 佐藤善郎
- 【調査総括】** 文化部長 河野清一
埋蔵文化財課長 柳田純孝
埋蔵文化財第2係長 飛高憲雄
- 【調査庶務】** 埋蔵文化財第1係 岡島洋一、松延好文
- 【調査担当】** 発掘調査 力武卓治、下村智、常松幹雄、加藤良彦
- 【調査・整理補助員】** 田中克子、岩本陽児、矢野健一（京都大学）、緒方俊輔（奈良大学文化財学科）、樋口秀信（早稲田大学）、進藤敏雄（早稲田大学）、溝口孝司（九州大学）
- 【調査作業員】** 村本健二、松田定美、溝口武司、池上宏、山下清作、平川謙一、沖浩人、吉岡勝美、辻繁一郎、川田初、橋哲也、亀川照義、北園論、小路永智明、藤嶋博明、甲斐美佐江、末松一馬
青柳貴子、青柳弘子、青柳洋子、池田由美、石橋洋子、井上カズ子、井上喜美子、井上清子、井上千代子、井上トミ子、井上ヒデ子、井上廣智子、井上ムツ子、鬼尾喜代子、川口シゲノ、岸田浩、木村厚子、清末シズエ、倉光アヤ子、倉光京子、倉

光千鶴子、倉光信子、倉光初江、小林恵美子、小林ツチエ、小柳和子、斎藤国子、坂田セイ子、柴田常人、柴田タツ子、柴田春代、白坂フサヨ、末永鶴子、高田マサエ、滝良子、高松美智子、田中カヨ子、筒井ひとみ、土斐崎つや子、富崎栄子、富田マチ子、富永ミツ子、舎川春江、永井鈴子、中島栄子、中牟田チエ子、中山サダ子、西山秀子、能美須賀子、花畑照子、原ハナエ、原ロマサ子、平田千鶴子、平田美絵子、堀尾久美子、松尾キミ子、松尾鈴子、松本育子、溝口博子、溝口洋子、宮原富代、宮崎泰子、轟山早苗、矢富富士子、柳井順子、柳浦八重子、山口タツエ、山下アヤ子、山本キクノ、山田トキエ、結城千代子、吉積ミエ子、吉田勝代、横田松ノ、横溝恵美子、横溝カヨ子、横溝チエ子、吉武早苗、脇坂マキノ、脇山喜代子

【整理作業員】 花畑照子、溝口博子、安野良、副田則子、伊藤美紀



— 第四次調査見学風景 —

第二章 遺跡の立地と環境

北部九州の玄界灘沿岸に面した平野には、弥生時代以来の多くの遺跡群が分布しており、これまでも大陸や朝鮮半島との交流を物語る数多くの文物が発見されている。

福岡市西部の室見川流域にひろがる早良平野もその一つである。早良平野は弥生時代中期～後期にかけては西の「伊都(いと)国」、東の「奴(な)国」に挟まれた地域にあたり、両国の力の複合する緩衝地帯と考えられている。

ところで今回報告を行う吉武高木遺跡は、この早良平野を北流する室見川の中流域左岸にひろがる広大な扇状地に展開した約40ha規模の遺跡群である。遺跡群は時期的に旧石器時代後期から中世におよび、特に弥生時代前期末～中期末(紀元前二世紀～紀元一世紀)及び古墳時代中期にその隆盛を窺うことができる。弥生時代の吉武高木遺跡は、前期末から中期末の時期にあって朝鮮半島で製作された青銅製武器・多鈕細文鏡、多くの装身具等を副葬した木棺墓・甕棺墓からなる特定集団墓や大型建物、それに後半期には墳丘墓を現出させるなど同時期の早良平野では突出した位置を占めている。こうした状況は、特に他の周辺遺跡の墳墓から出土した副葬品が、基本的には一主体について一種類であるとえられる点からも首肯され、本遺跡が同時期の政治的中心と考えられる。



Fig. 1 周辺遺跡分布図(1/25,000)

- | | |
|----------|----------|
| 1. 吉武遺跡群 | 4. 久保園遺跡 |
| 2. 有田遺跡群 | 5. 雀居遺跡 |
| 3. 野方遺跡 | |



しかしながら、このような政治勢力は、具体名として中国の史書に記された倭の国々の中にはついて登場することがなかった。恐らく『漢書』に記された「百余国」の一国であったと思われる。

以下では早良平野を中心とした弥生時代の主要遺跡について概要を紹介し、本遺跡の理解の一助としたい。

1. **東入部遺跡** 早良平野最奥部の室見川右岸の微高地上にあり、平成3(1991)年の調査で前期後半から後期前半の墓地在り。墓地は、南北延長がほぼ100mで、甕棺墓130基、木棺墓・土壇墓32基が検出された。前期段階では副葬品をもたないが、中期初頭～中期後半の時期になると6基の甕棺墓から、細形銅剣1、銅鏡10、鉄剣1、鉄矛1、鉄刀1、ヤリガンナ1、素環頭刀子1などが副葬される。更に墓地では中期中頃以降になると方形に溝で囲まれた墳丘墓2基が出現している。また、平成6(1994)年調査では、前期末から中期前半の小村(約4,000㎡)を完掘し、竪穴住居跡7・掘立柱建物12、土壇10余を検出した。村の時期構成は、ほぼ3時期で、①竪穴住居+貯蔵穴、②竪穴住居+高床倉庫、③掘立柱建物+高床倉庫と推移する。このことから本遺跡では少なくとも第3期の中期前半の時期には住居としての掘立柱建物が成立していたと思われる。

2. **有田遺跡** 室見川右岸の標高12mの独立丘陵上に展開した早良平野の拠点集落である。丘陵中央には前期初頭の環濠集落をともし、弥生時代の遺構はほぼ全域に分布する。墓地ではこれまで前期末甕棺墓から絹布の付着した細形銅戈1が出土していたが、平成6(1994)年調査で丘陵北端の墓地が調査されて中期後半～末の甕棺墓2基から銅鏡2面が出土した。中期後半の甕棺からは『内日月心忽而不滞』銘をもつ前漢鏡(昭明鏡、直径7.5cm)が、また中期末の甕棺から直径5.1cmの仿製鏡(重園文日光鏡)が出土した。仿製鏡は韓国漁陽洞遺跡出土例と類似し、朝鮮半島南部より将来された製品と考えられる。何れにしても墓地は一つの埋葬主体に一個の副葬を行うものである。

3. **野方中原遺跡** 早良平野北西部の山麓に位置する弥生時代後期末の環濠集落遺跡である。環濠は長径が100mをこえ、楕円形を呈する。集落は、後期末以降古墳時代前期まで続き、約100軒の竪穴住居跡が検出された。古墳前期集落の北西側には箱式石棺を主体にした墓地があり、後漢鏡(方格規矩鏡)、鉄刀、素環頭刀子、勾玉、管玉が出土している。弥生終末の集落構造と古墳前期の集落・墓地のあり方を考える上で重要な遺跡である。【国指定史跡】

4. **久保園遺跡** 御笠川右岸に接する月隈丘陵(標高100～150m)の西麓に位置する。1977年調査では弥生時代中期後半の大型掘立柱建物(桁・梁行き8×5間)とこれより古い2×1間規模の掘立柱建物が検出された。大型建物は、桁行き実長14.1m・梁行き実長8.74m・床面積123㎡をはかる規模である。同時期の同規模例が那珂河遺跡でも知られている。なお、遺跡に南接する赤穂ノ浦遺跡では横帯文銅鐸の鋳型が出土しており、注目される遺跡である。

5. **雀居遺跡** 御笠川右岸の標高6.5mほどの沖積微高地に展開した縄文時代晩期から弥生時代後期末までの大規模遺跡である。後期中葉～終末にかけての環濠の内・外側には同時期の大型建物2棟が検出された。それらは桁・梁間規模が3×1間のもので、6×4間のものであり、前者は桁行き実長9m・梁行き実長6.84m・床面積61.56㎡をはかる。また後者は、桁行き実長12.3m・梁行き実長8.6m・床面積105.78㎡という大型のもので、中央に棟持柱をもつ構造である。遺跡は全体的に各時期の木製品や礎板・建築部材の遺存が非常に良好であり、建物の上部構造を検討する上で非常に貴重である。

第三章 弥生時代調査の報告

第一節 第一～六次調査の概要

1. 第一次調査の概要

飯盛地区園場整備に伴う発掘調査

所在地	: 福岡市西区飯盛字本名地区
園場整備面積	: 61ha
発掘調査対象面積	: 2.5ha
発掘調査面積	: 1.2ha
発掘調査年月日	: 昭和56年11月9日～57年3月10日

昭和56年7月に試掘調査を行い、発掘対象面積を埋土する部分を除いて2.5haとし、この中で著しく削平を受ける1.2haを実際の調査面積とした。ただ耕作土排除後にすぐ検出される甕棺墓は破壊を免れないため調査の対象とした。全体の2.5haの内、区割りによりⅠ区からⅣ区とした。これとは別に磁北を区割りの中心線とし東西・南北に100m単位でグリッドを設定し、将来の基準線とした。

Ⅰ区の調査 (Fig. 3 PL. 3 付図-1)

掘立柱建物1棟と溝列を検出した。東側は段落ちとなり、室見川の氾濫源と考えられる。この部分は水田址の可能性が考えられたが削平されない所から調査から除外した。

Ⅱ区の調査 (Fig. 3 PL. 4～16 付図-1)

今回の対象区の中で4区とともに最も削平される部分で8,000㎡ある。この内完掘の必要な面積は4,000㎡であった。4区とともに2区も遺構の遺存状態がよく、上層に古墳時代初期の住居址・祭祀遺構等を検出し、下層からは弥生時代後期・中期の住居址等が検出された。また、弥生時代前期末の甕棺墓(金海式)が44基と土塚墓4基を検出した。

古墳時代初期の住居址を9軒(方形)祭祀遺構・土器溜が27基検出でき、弥生時代後期の住居址9軒、その内の1軒(SC-6)から石戈・石剣を出土した。弥生時代中期の円形住居址は16軒検出した。遺構の遺存状態は非常によく壁高が40～50cm程度残っているものも少なくない。弥生時代中期の甕棺墓は小児棺が2基検出した。弥生時代前期の甕棺墓は44基検出され、その内の1基は倒置棺であった。



第一次(上層)に亘る発掘現場「弥生時代調査」参加者

成人棺の内、2基から棺外副葬品(板付Ⅱ式の壺、内1点は彩文土器)が出土した。

弥生時代中期に属する掘立柱建物は27棟検出され、弥生時代後期に属する掘立柱建物は6棟、古墳時代に属する掘立柱建物20棟が検出された。

Ⅲ区の調査 (Fig. 3 PL. 17-1 付図-1)

Ⅲ区全体で表土排除作業をおこなった面積は、4,000㎡であるが、検出した遺構は甕棺墓14基と台地



Fig. 3 第一次調査遺構全体図



0 50m

を切断する幅12~20mの河川である。この河川は断面調査の結果、兩岸に杭列を検出し、底面付近から弥生時代中期初頭の土器が出土しているところから河川を人工的に使用した可能性を持つ。また、人工的に手を加え使用した時期は底面から出土した弥生時代中期の土器を基準と考えてこの前後の可能性がある。ただ最上層から須恵器片が出土していることから、この河川は急激に埋まったものと考えられ、時期も弥生時代~古墳時代の範疇に納まる。

壘棺墓は河川を挟んで弥生時代中期中葉の5基(西側)と東側に弥生時代中期後半の9基が検出された。

Ⅳ区の調査 (Fig. 3 PL. 17-2~23 付図-1)

調査対象面積は、6,000㎡で表土排除作業4,500㎡である。検出した遺構は、弥生時代前期末の壘棺墓・住居址・溝、弥生時代中期初頭~後半にかけての住居址・壘棺墓・井戸・掘立柱建物・中世の溝二条・井戸を検出した。壘棺墓は149基検出し、その内23基が弥生時代前期末の金海式壘棺墓であり、126基が弥生時代中期の時期に属する。

以上のことから一次調査の問題点は

1 弥生時代前期末の墓域について

一次調査の成果として弥生時代前期末から中期・後期・古墳時代初期・中世の遺構を検出し、連続した複合遺跡であることが判明した。特にⅡ区に44基、Ⅳ区に23基と二ヶ所で弥生時代前期末の墓域が検出された。この中でⅣ区の壘棺墓K-88の1基だけに棺内副葬品(細形銅剣の切先)が出土した点、棺外副葬でも3例しか認められないことに、次の壘棺墓検出の問題点を集約できる。

2 住居址と壘棺墓について

Ⅱ区の弥生時代中期の住居址群は中央部と東側・南側に位置する。これに対して壘棺墓は北側に東西に長く配列され、あたかも二列埋葬を思わせる配置を呈する。

住居址は切り合い関係がみられるが、これは建替及び増築の要素を持つもので弥生時代中期の範疇に入るもので、その時間的経過も50年前後と考えられる。

Ⅳ区の中心部に壘棺墓が約100基ほど集中して検出された。その下層から弥生時代前期末~中期初頭にかけての方形・円形住居址が検出された。壘棺墓は弥生時代中期中葉~後半の時期に設定されることから、住居址が放棄された直後に多量の土砂により完全に埋没し、その後墓域として壘棺墓が埋葬されたものと思われる。

3 Ⅱ区における遺構の広がりについて

遺構の遺存状態が非常に良かったⅡ区は上層に古墳時代の住居址・祭祀遺構等を検出し、下層に弥生時代中期・後期の住居址群を検出した。この他に弥生時代前期末の壘棺墓を検出し、Ⅱ区が他の地域よりも集中的に遺構が多いことが認められた。遺構の広がりには西は河川部分まで達し、東はⅠ区の台地段落部分にまで達している。今回遺構上面で終了したⅡ区北側(盛土部分で遺構面まで掘削が達しない範囲)でも数十軒の竪穴式住居址を確認している。

4 Ⅰ区の水田址の可能性について

Ⅰ区の中央部に台地が急激に落ちる部分を検出した。これは北から南にはば放物線を描くように台地の端が認められた。これは室見川の氾濫による蛇行時に作られた部分であり、水田址の可能性が高い地点と考えて良い。今回は調査対象外であったため、その実態は不明であるが、Ⅱ・Ⅳ区の集落を考えると水田の利用地としては、最適な場所であったと思われる。

2. 第二次調査の概要

1. 調査概要

飯盛地区園場整備に伴う発掘調査

所在地	: 福岡市西区飯盛字本名地区
園場整備面積	: 61ha
発掘調査対象面積	: 7.8ha
発掘調査面積	: 2.1ha
発掘調査年月日	: 昭和57年9月15日～58年2月15日

試掘調査の結果、約6haに遺構を確認し、その内の約4haについては埋土、2.1haが削平することとなり、発掘調査面積を2.1haとした。調査区は五ヶ所となり、第二次調査はV区からⅩ区の地点を設定した。V・Ⅵ区が3,400㎡、Ⅶ区が3,300㎡、Ⅷ区が2,800㎡、Ⅸ区が7,100㎡、Ⅹ区及び道路・水路部分の調査で4,168㎡、計20,768㎡を調査した。

V・Ⅵ区の調査 (Fig. 4 PL. 39 付図-1)

検出された主な遺構は、縄文時代後期初頭の貯蔵穴、弥生時代中期の溝・掘立柱建物と奈良時代の溝である。

縄文時代後期の遺構

貯蔵穴を47基検出した。中央部に柱・柱痕を残すものが約半数ある。最大のもはST-16で径3.9m、深さ1.6mである。最小のもはST-38で、径1.9m、深さ1.8mである。形状は摺鉢形やわずかに袋状を呈するもの、ほぼ垂直に落ちるもの三種類に大別できる。出土遺物は土器のほか種子(ドングリ等)が約半数の貯蔵穴から出土した。土器形式は後期初頭に比定される鐘崎式土器、北久根式土器を中心に出土している。早良平野で縄文後期初頭の遺構が発見されたのは有田遺跡についで2例目である。

弥生時代中期の遺構

三条の溝と掘立柱建物一棟を検出した。溝は台地を北西から南東に切断するSD-10にSD-11・12が流れ込む状態で検出された。SD-10の南東端は台地が段落ちする部分まで続く形状を呈するが、台地が削平されているため全体の形状は不明である。SD-11は環濠状を呈するものと考えられ再度SD-10に流れ込むものと思われる。現存する深さは50cm程度しかなく底面に近い部分であったが、土器は多量に出土した。特に祭祀用に使用された丹塗りの高坏形土器・甕形土器・壺形土器が多く出土した。

SD-10は幅3m、深さ1.5mの大溝であり、溝内より多量の土器と共に三又鍬・平鍬の柄・用途不明の木器が出土した。SD-11が幅1.9m、深さ0.4m、SD-12は幅2.5m、深さ0.7mである。

掘立柱建物は2間×2間の建物でSD-11に囲まれた中に検出した。

Ⅶ区の遺構 (Fig. 4 PL. 40 付図-1)

弥生時代中期の遺構と中世の遺構を検出した。

弥生時代の遺構

溝七条・甕棺墓1基・掘立柱建物2棟・ピット多数を検出した。この中で弥生時代に属するものは、SD-14・15・16・17・18、甕棺墓1基、掘立柱建物2棟である。SD-14は中央部の約6mに出入口が設けられ両側に巡る環濠である。SD-16はSD-13の下層から検出したもので、二又・三又鍬や浮子等が出土した。

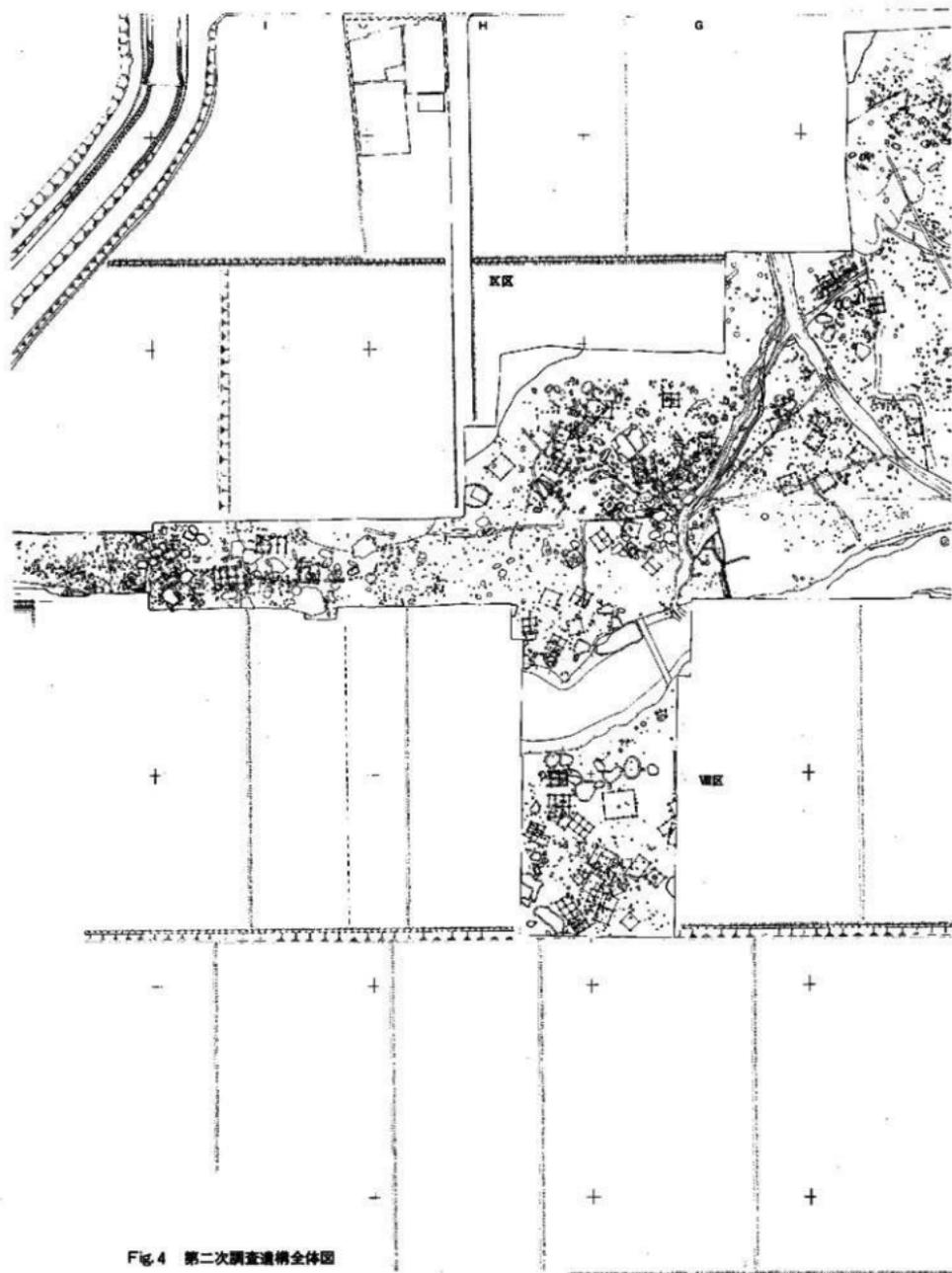
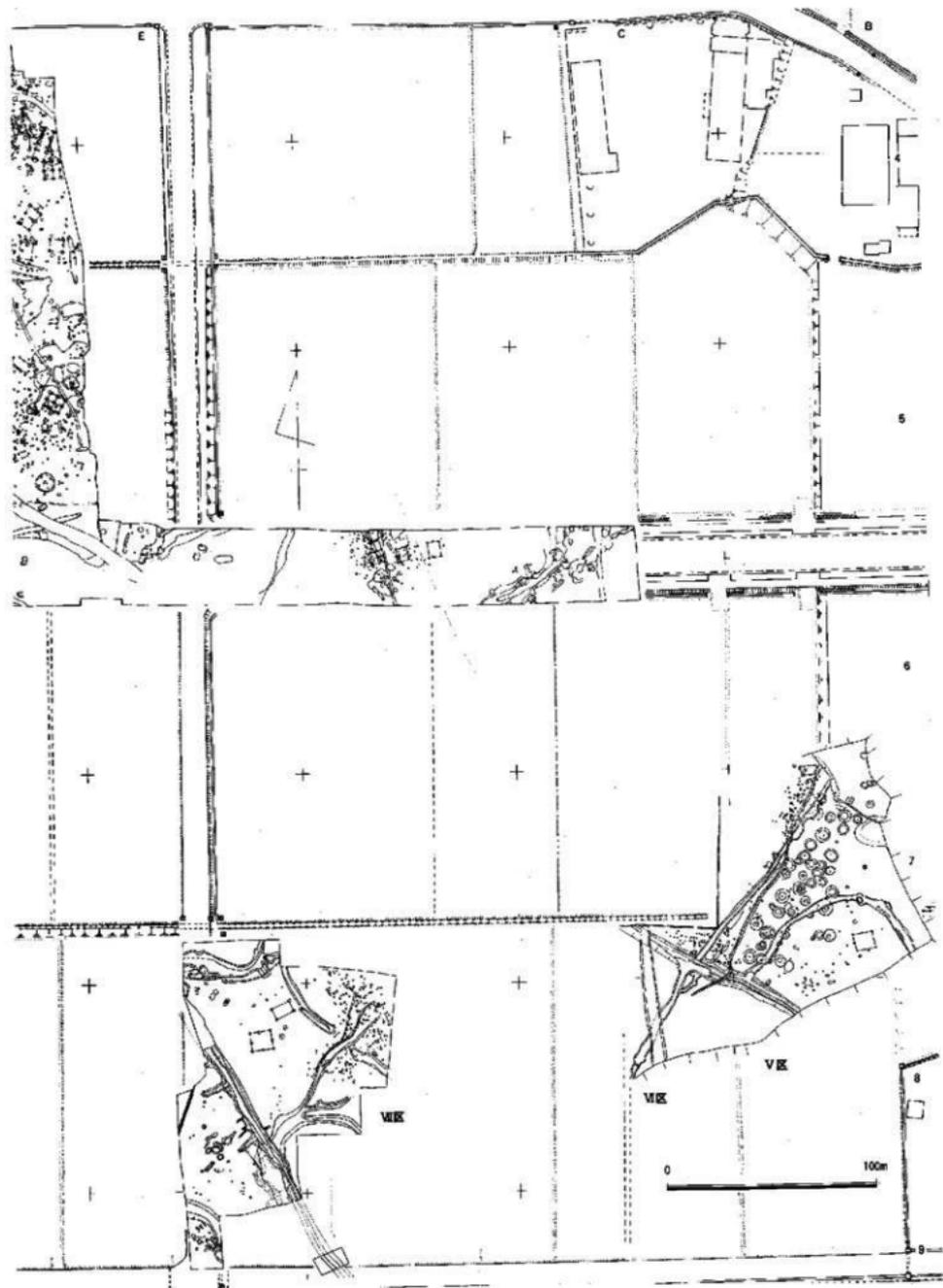


Fig.4 第二次調査遺構全体図



SD-15は台地の端部に作られたものであるが、両端に杭を打ち込み取水口状遺構としている。この中からスコップ状木器等が出土した。甕棺墓は1基だけ出土したが、殆ど削平され約1/4しか遺存していない。掘立柱建物はSD-14内から2棟検出した。

Ⅱ区の調査 (Fig. 4 付図-1)

Ⅱ区の調査で検出した遺構は旧河川SD-02と掘立柱建物33棟、不整形土壌状遺構32基、井戸状遺構1基を検出した。北側に位置し、東西に流れるSD-02は幅14~21mで台地を二分する。下層から出土する土器は城ノ越式土器が主である。ただこの旧河川の上面にあるSX-21、27から出土する土器は須恵器出現の初期段階のものであることからこの以前に埋まったことが明らかである。その他には弥生時代に属する遺構は見られない。古墳時代の掘立柱建物が旧河川を境にして北側は、古式土師器を主体とするのに対して、南側は須恵器を主体とした掘立柱建物群である。

Ⅲ区の調査 (Fig. 4 PL.24-38 付図-1)

Ⅲ区は7,100㎡を発掘調査した。Ⅲ区はSD-01 (旧河川; おそらく旧日向川及びその支流と思われる) SD-02 (SD-01と同様に旧河川) に挟まれた台地に弥生時代前期から古墳時代初期にかけての遺構が重複している。特に古墳時代初期の遺構はⅢ区全域に広がっている。この台地を三分する溝が四条 (SD-05~08) がある。この二つの溝は合流してSD-05となりSD-01に流れ込む。これによって台地が三分される。時期は弥生時代後期に形成されており、合流点には環状遺構が検出された。

SD-01は第一次調査のⅢ区から検出された旧河川の上流部分であり、時期はⅢ区の下層で出土した弥生時代前期から中期初頭と考えられる。

古墳時代の遺構は竪穴式住居址1軒、掘立柱建物18棟、溝状遺構20条等を検出した。

弥生時代の遺構 (Fig. 4 付図-1)

弥生時代の遺構としてSD-01~08の八条と円形住居址3軒、掘立柱建物40棟、甕棺墓1基を検出した。甕棺墓は北側隅に検出されているところから第一次調査のⅣ区からの続きで、時期も金海式甕棺墓であるところから弥生時代前期末に比定できる。

弥生時代中期に比定できる遺構は、SD-01~04の溝状遺構と円形住居址3軒、掘立柱建物19棟、甕棺墓1基であり、中央部には殆どなく、東西・北側に配置されている。

北側から検出された遺構の内、SD-03・04はSD-01に流れ込むものである。第一次調査のⅣ区の検出遺構はその殆どが弥生時代の前期から中期に比定でき、第2次調査のⅢ区とは道路幅5mを挟む距離でしかなく遺構的には同一時期の遺構が近接するものである。ただSD-01がその間にまたがる状態で検出されている。北側にある掘立柱建物12棟と第一次調査のⅣ区の方形住居址・円形住居址・甕棺墓との関連性で考えなければならず、SD-01を環濠として考え、住居址と掘立柱建物との区域の区別としてとらえることもできる。

南東の円形住居址と三棟の掘立柱建物はセットとして考えられる。SB-13はSC-75とのセットで考えられる。

西側には円形住居址1軒と4棟の掘立柱建物で構成される。住居址と掘立柱建物との距離が多少気にかかるが、建替等を考えた時、ほぼ妥当な数であろう。

弥生時代後期に比定できる遺構は、SD-05~08の溝状遺構と掘立柱建物21棟である。全体的に中央部から西側に位置し、溝によって三つに分けられる。溝はSD-05が中心で他はSD-05に流れ込む形状を呈している。又このSD-05はSD-01・02とを結ぶ溝であり、SD-01からの水をSD-02に引く水路である。掘立柱建物は北側に3棟、南側に6棟、西側に11棟、東側に1棟ある。

3. 第三次調査概要

第三次調査は、昭和58年9月から59年3月にかけて、圃場整備に伴う切土部分・新設道路・新設水路の25,000㎡を調査した。以下では調査成果を時代を追って概述することとする。

【弥生時代】

弥生時代の生活遺構は、後期前葉を主とする竪穴住居跡2軒、溝遺構4条などが調査区北西部にあたるM-9、などの地点でわずかに検出されている。

一方の墓地は、中期前葉～中期末の甕棺墓140基、箱式石棺墓・木棺墓・石蓋土墳墓各1基でなり、調査区東端部の南西から北東方向に長く形成されている。墓地の北端部は中期後半期の「墳丘墓」が営まれている。「墳丘墓」の南西側にのびる墳墓群は殆ど副葬品をもたない。

榎渡墳丘墓

榎渡前方後円墳の後円部墳丘下に検出された墳丘墓である。墳丘は、近世墓地の覆乱と昭和30年代の土取りによって北側を失っており、詳細は不明な部分もあるが、東西・南北土層断面によってほぼその規模を知ることができる。東西長は径23～24m、南北長はこれよりやや長く径24～25m程度と考えられる。また、墳高は当時の墳丘表面を示す黒色腐植土層から推定すると約2.5mとなる。墳丘は東側裾部で後期前半期のV字溝に切られており、墓地の廃絶と関連づけることができる。また、他に墳丘に伴う周溝などは検出されていない。

内部の埋葬施設は、甕棺墓が27基以上、石棺墓・木棺墓が各1基である。これらのうち甕棺墓は中期後半～中期末に、木棺墓がこれに続き、石棺墓は墳丘裾にあり、廃絶期の所産であろう。

埋葬施設は、墳丘埋土が黄褐色～暗黄褐色土であり、平面的に墓域の切断関係を相互に区別することが困難であったが、小型棺を除いた大型棺は墳丘の長軸に平行もしくは直交する位置に埋置されている。

また、細形銅剣や青銅鏡・鉄製武器などの副葬遺物をともなう埋葬施設はほぼ墳丘中央部にあり、使用された甕は製作技法や法量ともに優れた作りのものが多い。

墳丘墓で副葬遺物を出した埋葬施設は、甕棺墓6基（第5号、第61号、第62号、第64号、第75号、第77号）と木棺墓1基（第1号）である。これに単独発見のもの（甕棺墓）を加えると、細形銅剣3口、青銅製十字型把頭飾り1点、青銅鏡（重圈文星雲鏡一前漢代、面径8.3cm）、鉄剣3口、素環頭大刀1口、鉄鏃1点、素環頭刀子1口、碧玉製管玉14点、水晶製算盤玉2点、ガラス小玉36点などである。

このうち第62号甕棺墓（中期末）出土の前漢鏡は出土例が少なく、また鉄製大刀との共伴も注目される。また、第75号甕棺墓（中期後半）の細形銅剣と把頭飾りのセットは我国で数少ない例であり、第77号甕棺墓（中期後半）で出土した細形銅剣には国産と考えられる絹布が巻きつけられていた。更に、第1号木棺墓から出土した副葬玉類は、碧玉製管玉と共にこの時期としては非常に珍しい水晶製算盤玉が首飾りとして、手首の飾りにガラス小玉が使われている。

【古墳時代】

弥生時代に続く古墳時代では、扇状地上を南西から北東方向に平行して走る幾条かの旧河川の河岸一体に遺構が広がっている。

生活遺構では、5世紀前葉～中葉代の、何れも方形プランで主柱穴4本をもつ竪穴住居跡7軒、桁・梁間規模が2×2間あるいは3×2間を主とする掘立柱建物群（倉庫群）44棟やこの建物群周辺に重複する土壇群140基がある。土壇群は不整形で、断面が皿状をなし、埋土内部に焼土・木灰などが多く、廃棄坑と考えられる。この他に溝2条、旧河川9条、井戸跡3基、溝欄などが検出された。

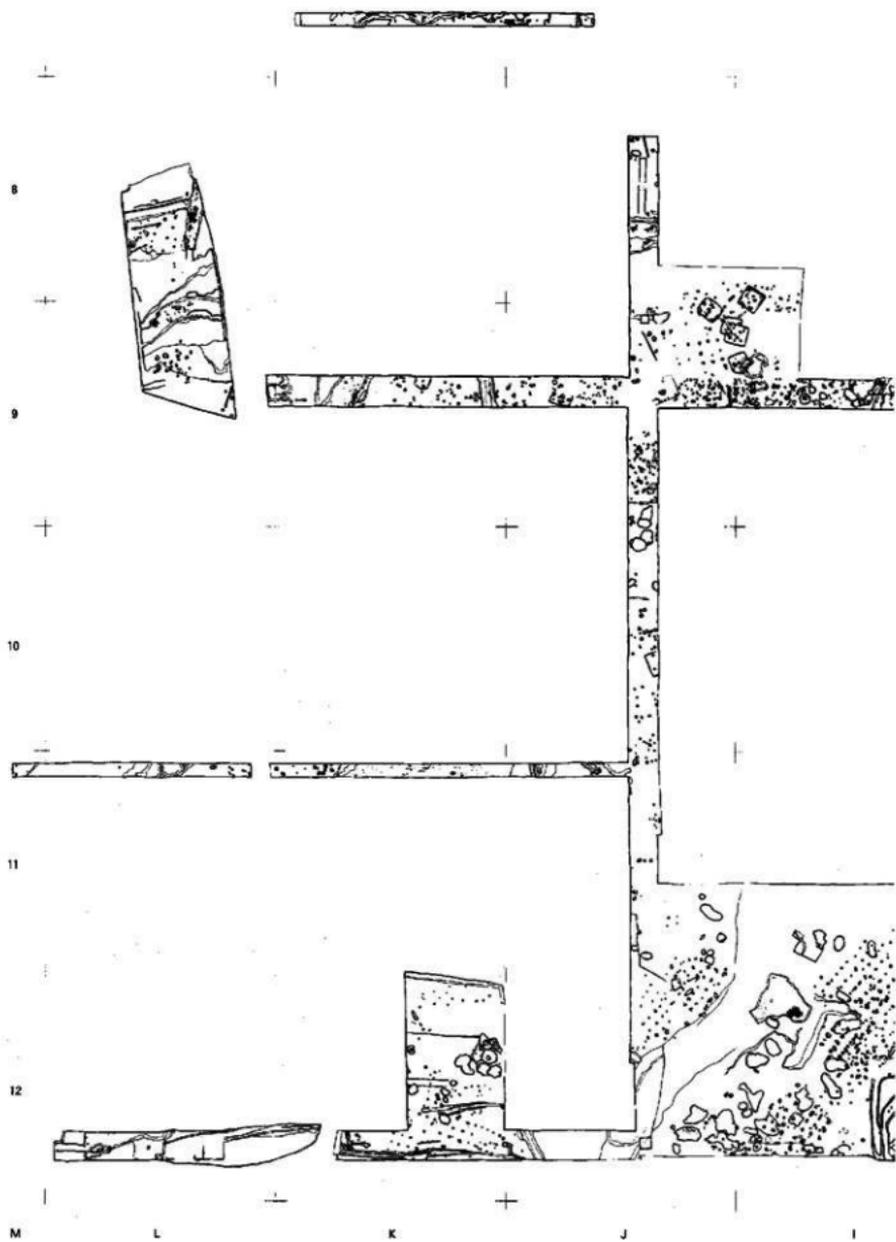


Fig. 5 第三次調査遺構全体図

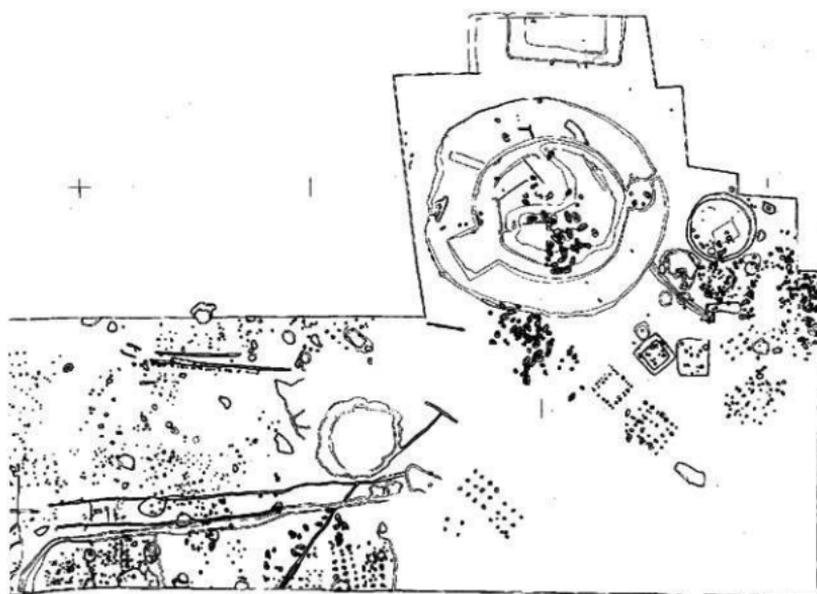
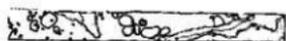
8

9

10

11

12



H

G

F

E

生活遺構のうち土壇群、溝、旧河川から多数の初期須恵器とともに韓国南部の伽耶地方産と考えられる陶質土器や特徴ある陶製紡錘車、滑石製祭祀遺物が出土した。

また、旧河川や溝からは木製遺物が豊富に出土し、三又鋸・スコップ・梯子・ねずみ返しなどの農具、琴、盤や槽などの容器、鞍、模造船等が見られる。

このうち木製模造船は、長さ58.5cmのもので、波避けの弦鋼板を作り出すなどの特徴から準構造船と考えられている。

つぎに墳墓であるが、扇状地の末端部に前方後円墳1基、方墳1基、円墳2基が見つかった。方墳および円墳は墳丘を失っている。

前方後円墳（橋渡古墳）は、後円部径33m、前方部長7m、前方部幅10mをはかる帆立貝式前方後円墳である。墳高は、ほぼ3mをはかる。周溝は浅く、墳形のごとくくびれない。

墳丘は、本来3段築成であったと考えられ、1段目から2段目葺石にうつる平坦面に小型の埴輪円筒および朝顔形埴輪を圍繞させている。また、家、短甲、盾などの形象埴輪もみられる。

内部主体は、原形をとどめないが墳丘内に丹の付着する割石が多く見られ、竪穴系石室と想定される。本古墳の造営は出土した埴輪円筒から5世紀前葉と考えられる。

また、本古墳に隣接する方墳は南辺長が17mをはかり、出土した朝顔形埴輪や埴輪円筒から5世紀中葉の所産と考えられる。この他の円墳2基は、墳丘径が14～15m程度と考えられ、6世紀後半～7世紀代かと考えられる。

【奈良時代】

奈良時代では、製鉄関連の土壇1基、掘立柱建物1棟、道路状遺構1条、溝1条などである。何れも調査範囲が狭く、全体像はよく見えない。

道路状遺構は、延長7m程度で、両側に小溝を伴い、方位が旧早良郡の復元条里の南北の基線がN-10°-Wに近いものである。

以上第三次調査について概述したが、弥生時代中期後半の橋渡墳丘墓や5世紀前葉～中葉の古墳群・集落跡とこれらから出土した多くの遺物は本調査の成果として特記される。このことにより早良平野における権力構造の変遷と歴史的特性を把握することが可能となった。

しかしながら、代償としてこれらを再検証するための遺跡の現状保全は残念ながらもなすことができなかったことは非常に悔やまれることであった。

4. 第四・五次調査概要

第四次調査は、昭和59年7月から60年3月にかけて、園場整備に伴う切土部分・新設道路・新設水路の36,000㎡を調査した。また第5次調査は、吉武高木壘棺墓地の範囲確認調査として昭和60年7月2日から同24日まで行い、470㎡を調査した。以下では調査成果を時代を追って概述することとする。

【弥生時代】

第四次調査では、中期前半～後半にかけての円形竪穴住居跡6軒、及び中期初頭～後期初頭にかけた掘立柱建物44棟などの生活遺構が検出された。

遺構群は、吉武馬場地の南にあり、南側には浅い解析谷がはいる位置にある。遺構の重複も著しく、また過去の水田化に伴う削平も受けており中央部では遺存もあまり良くない。このため竪穴住居跡などは散在的で、むしろ本調査では掘立柱建物群が目立っている。

建物群は、弥生中期前半～後期初頭において桁間×梁間規模が2×1間のものももっとも多く、中期初頭・中期後半のものに桁間が5間となる大型建物もあり、第一～二次調査の検出例と比較してやや規模の大きい建物が多いと考えられる。また建物群は東西に3～4群のグループを形成している。

つぎに墓地は、扇状地の南西から北東方向に帯状に分布する一群、青銅製武器などを多く副葬した一群（吉武壘棺墓地）およびこれの南西側一帯にあり前期末～中期前半を主体とする一群など前期末～後期初頭に至る壘棺墓・木棺墓・石蓋土壇など570基以上と中期後半を主とする墓地に伴う祭祀土壇50基が検出された。

吉武高木壘棺墓他

扇状地を東西に走る計画道路内の調査で約350㎡の範囲に墓地が検出された。墓域は、第五次確認調査によって更に北側に広がるのが分かっており、全体で約1,500㎡程度の規模と考えられる。道路部分での調査では、壘棺墓34基、木棺墓4基の埋葬施設が確認された。

このうち壘棺墓は、成人棺16基、小児棺18基であり、型的には金海式が殆どであるが一部に中期前半代に下る小児壘棺墓がある。また、木棺墓には花崗岩の大型角礫や扁平礫を墓壇上に標石として配置している。

更に、壘棺墓および木棺墓は墓壇の切りあいが少なく、主に木棺墓や成人壘棺墓は殆どのものが磁北から20～40度ほど東方向に中軸線をとって整然と配置されている。このためこれらの埋葬施設に限れば南北35m、東西30mの範囲に区画された観を与える。

ここで主要な埋葬施設について概述する。

第2号木棺墓

墓壇掘方の長・短辺長が4.5×3.0m、深さ0.7mをはかる木棺墓中最大の規模を有する。墓壇の南東側に標石の花崗岩角礫が残る。主体部の木棺は、長・短辺長が2.5×1.0mをはかり、底面の横断面は半円形となる。また、木棺の側辺部に接する墓壇長辺には棺を固定するため花崗岩角礫が密につめられている。被葬者の頭位は北で、副葬品は北小口近くで翡翠勾玉1、小形碧玉管玉95でなる首飾り1連、腰部付近に細形銅剣1と腕飾りと考えられる碧玉管玉40が出土した。また掘方北東隅に副葬小壺が出土した。中期初頭の所産である。

第3号木棺墓

墓地南端部に位置する。墓壇規模は、長・短辺長が3.7m×2.9m、深さ0.9mをはかる。主体部の木棺は、長・短辺長が2.6×0.8mの規模で小口板掘り方から組合せ式木棺と考えられる。

墓壇東辺部には標石の花崗岩大礫がのこり、本来は墓壇全体を覆ったものと判断できる。被葬者の

埋葬頭位は北で、小口部近くに翡翠勾玉1、碧玉管玉95でなる首飾り1連、更に遺体の右側辺と考えられる西側板側の腰部付近に細形銅矛、細形銅剣、多鈕細文鏡が重なって出土した。また、左側辺にあたる東側板側にも細形銅戈を内側に、細形銅剣を外側に並置しており何れも切先を足元にむける。銅戈は着柄のままでの副葬は考えにくい。また銅矛・銅戈の裏面には国産の絹布が付着している。北小口部の棺外に小壺の副葬があった。中期初頭の所産である。

第4号木棺墓

墓地東端部において、墓壇規模は長・短辺長が3.0×1.9m、深さ1m程度である。本木棺墓は標石に特徴があり、墓壇と同規模の範囲に扁平な玄武岩や花崗岩礫をすまなく敷きつめることである。内部主体の木棺は、長・短辺長が2.3×0.6mをはかり、底面の横断面は半円形をなす。木棺の西側辺部や南側小口には固定のための丁寧な詰め石がみられる。被葬者の埋葬頭位は北であると考えられ、

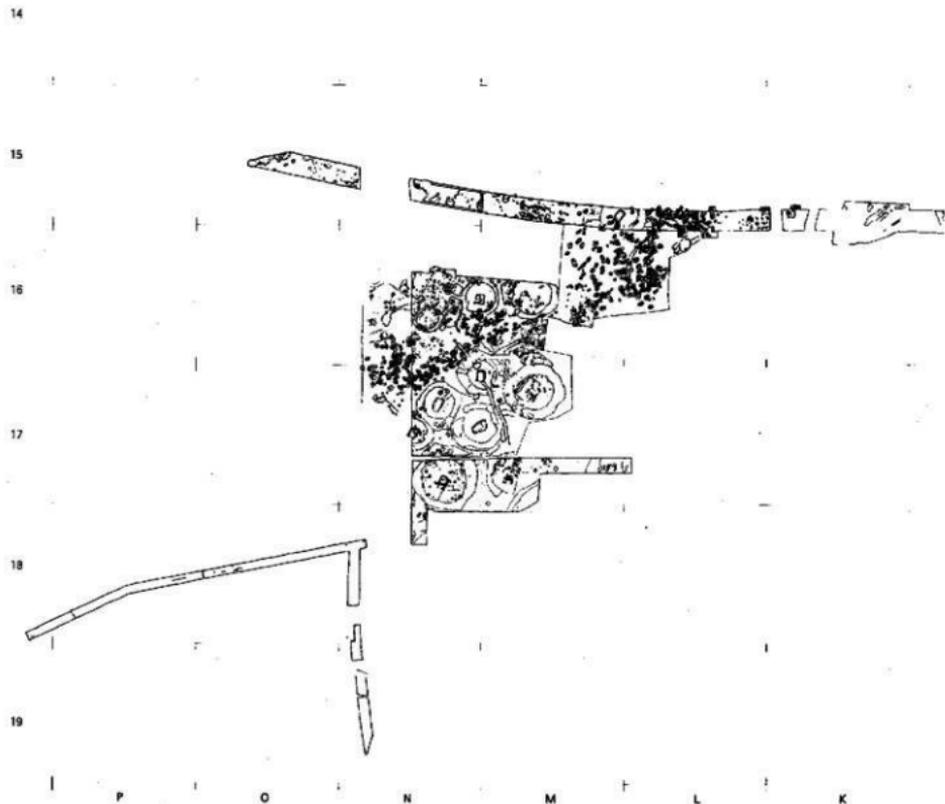


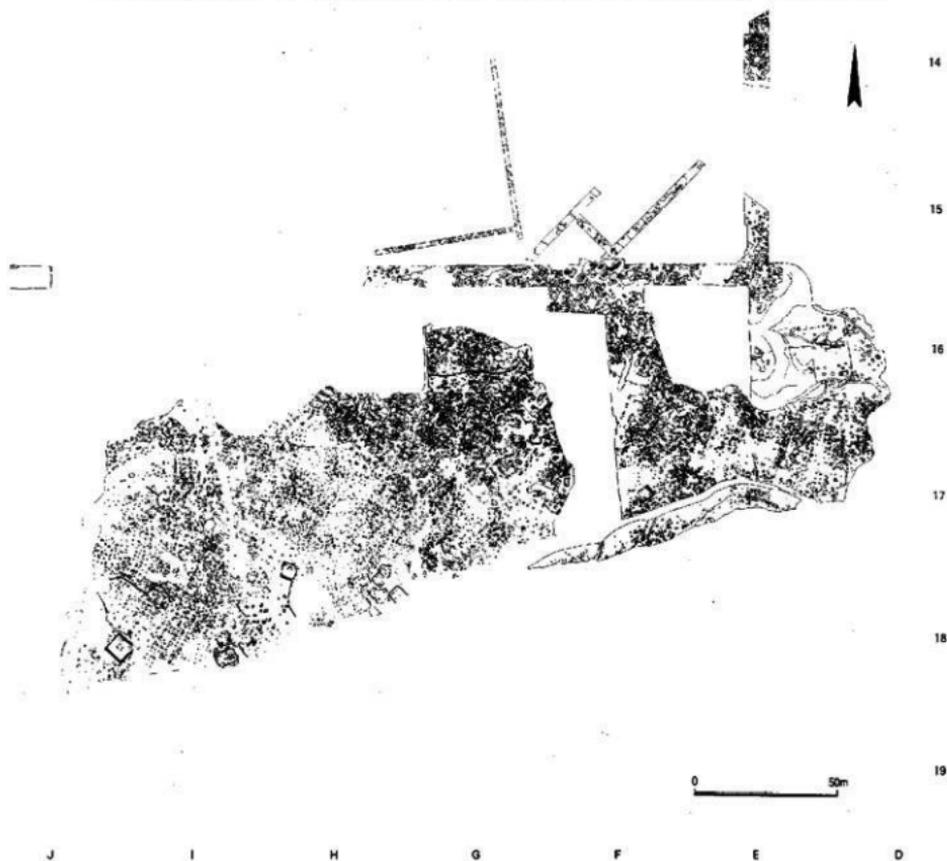
Fig.6 第四・五次調査遺構全体図

西側辺部に細形銅剣1と北小口部の棺外に小壺の副葬があった。中期初頭の所産である。

第117号木棺墓

調査区北端に検出した覆口式合口甕棺墓である。上甕には大形の金海式甕を使用する。墓壇は、長・短辺長が4.3×2.8mをはかり、さらにこの墓壇底面に長径2m程の土壌を掘り甕棺を埋置している。墓壇は上端部まで埋められた後に拳大の円礫をのせ、この上に扁平な花崗岩角礫が標石として置かれる。副葬品は上甕にあり、細形銅剣1、翡翠勾玉1・碧玉管玉42・ガラス小玉1よりなる首飾り1連が出土した。銅剣の出土位置はほかの例と比較して頭位にあり、特異である。前期末の所産である。

このように副葬遺物は、成人甕棺墓のうちの8基と木棺墓のすべてから出土した。総数では甕棺墓から細形銅剣4、碧玉管玉218、翡翠勾玉2、ガラス小玉1、銅剣2があり、木棺墓からは細形銅剣5、細形銅戈1、細形銅矛1、多鈕細玉鏡1、碧玉管玉250、翡翠勾玉2の出土となり、前述の通り甕棺



墓より木棺墓が新しい所産である。

【古墳時代】

生活遺構は、中期～後期の竪穴住居跡14軒、掘立柱建物群及び不整形土塊、井戸跡2基などがある。また、墳墓は、調査区西側を中心とした地区に古墳などが21基、ほかに木棺墓や土塊墓群が検出された。古墳群は、径が15m程度の円墳であるが封土を失っている。しかしながら石室内の遺物の遺存は良好である。石室は奥壁に向かってややバチ形に開く平面形を有し、腰石は一段までしか残さない。副葬遺物のなかには韓国南部の慶尚南道の玉田M三号墳などで類似の出土のある竜文素環頭太刀などの鉄製武器や金・金銅・碧玉・ガラス製装身具、該期の土器類など大陸との交渉を示す多くのものが出土した。

【古代～中世期】

古代から中世にかけても継続する遺構が検出された。

古代では、土塊や溝遺構から奈良末～平安初期と考えられる瓦当類（鴻臚館式が中心）、鬼面瓦、越州窯青磁、硯（大形円面硯や須恵器転用硯）などがまとめて出土し、同時期の寺院跡が存在したものと考えられる。また、小鍛冶に伴うと考えられる炉跡21基も検出された。

中世期は、13世紀を中心とする龍泉窯青磁類が旧河川の埋土内より比較的大量に出土するところから、中世集落跡は現在の集落とほぼ重複する位置にあったものと考えられる。

また、第五次調査では、吉武高木妻棺墓地の北側に3本のトレンチ調査を行い、妻棺墓16基を検出した。妻棺墓周辺は中期後半以降の生活遺構が確認された。



— 第3号木棺墓副葬品出土状況 —

5. 第六次調査概要

第六次調査は、園場整備の最終年にあたる昭和60年7月から昭和61年3月にかけて約28,000㎡を発掘した。前年度の吉武高木遺跡の発掘は、「最古の王墓」として全国的に注目を集めたこともあり、各方面から遺跡保存の関心が寄せられ、また地元園場整備組合の認識も高まり、できるだけ発掘による破壊を少なくするように検討を重ねた。その結果、切土を最小限度に止めるとともに、設計変更のできない新設水路などの部分に限って発掘を実施することになった。発掘地点は、2、3区と、新設道路に接する太田地区などの7か所である。ここでは2、3区と太田地区について時代を追ってその概略を記す。

〔2、3区〕

南北幅80m×東西300mが発掘対象地で、吉武扇状地のほぼ中央部にあたり、五次調査区の北側約100mに平行する位置にある。発掘区の中央を支線道路が南北に横切つるために、その西側を3区、東側を2区と呼び分けている。遺構面は東に向かって緩やかに傾斜し、3区西端と2区東端との比高差は約3mを測る。この全面にわたって弥生時代から古代、中世に至る各時代の遺構が密集して検出された。

旧石器時代 3区の西よりで、600点を超す旧石器時代の石器、削片が発見され、その出土状況から、工房跡と推測した。室見川左岸では、これまで表採や発掘で旧石器時代の石器が数点発見されているものの、石器組成などを考えることはできなかった。今回、層位的な発掘で群として把握できたことは、今後の検討・研究が大いに期待されるであろう。

弥生時代 弥生時代の遺構として、竪穴住居跡、墓、溝、そして多数の土壇などが検出された。吉武遺跡は、橋渡遺跡の弥生墳丘墓や高木遺跡から豊富な青銅器の副葬品が出土し、弥生時代の遺跡としてあまりにも有名であるが、同時期の竪穴住居跡はきわめて少ない。今回は弥生時代中期の竪穴住居跡を、わずかに1軒確認したにすぎない。この住居跡は直径7mの円形で、床面から西区今山遺跡の玄武岩で作った太型給刃磨製石斧が出土した。中期から後期にかけての弥生土器を出す土壇が多数点在していることから、集落跡も隣接していると思われるが、今回の発掘区では確認できなかった。

吉武遺跡では、十数地点で弥生時代の墓が確認されている。これらは弥生時代前期から始まり中期前半に終わるものと、中期中頃より始まるものとに大別できる。また、前期から始まった小規模のいくつかの墓が、中期後半まで連続と利用され、結果的に帯状の長大な墓地を形成しているものもある。この墓地は、最大幅約50mで南西のN-17区から北東のG-13区までのび、全長約500m以上の長さである。千基を越す甕棺墓を中心とする共同（集団）墓地で、ほとんど副葬品を持たない。高木遺跡や墳丘墓の橋渡遺跡と区別するために甕棺ロード（道）と呼んだ。六次調査では、その一部が2号支線道路部で見つかり、さらに延長部が小字名「大石」と呼ばれている2区西よりまでのびていることを確認した。この「大石」の南には竜谷川によってできた小さな開折谷があり、高木遺跡が対峙している。地元の言い伝えによると最近まで六畳敷ほどの大石があり、小字名の由来になったとか。また、室見川を挟んで東の油山と西の飯盛山が石を投げ合ったという「つぶて石伝説」も残されている。このような伝承や、高木遺跡の副葬品を出す墓墳の上には花崗岩の角礫や扁平礫が配置されていたことから、大石も同じ標石と推測し、副葬品の出土が期待された。またその場所が弥生時代中期後半の弥生墳丘墓の橋渡遺跡との中間にあることから、高木遺跡と橋渡遺跡とを時期的に繋ぐ墓地が眠っているものと推測された。



+



N

+

M

..

L

I

K

Fig. 7 第六次調査遺構全体図①



12



13

14



J

I

H

G

発掘調査によって約700㎡の範囲から200基を超す甕棺墓と木棺墓、土坑墓からなる共同墓地が発見された。予想に反して甕棺墓ロードの北東延長部にあたり、高木遺跡や橋渡遺跡のように単独の墓地ではない。また埋葬時期も前期末から中期後半まで長期間にわたり、弥生時代中期の一時期に営まれた墓地ではない。しかも、副葬品のあり方や墓域の形成とその展開は、従来の学説では理解できないことが多く、弥生時代の社会構造や階級分化を知る上で重要な資料を提供することになった。高木遺跡と比較すると次のような違いがある。大石遺跡は、高木遺跡と同じ前期末から始まり、金海式甕棺墓49基が埋葬されている。高木遺跡は、殆どが青銅器、装身具などを副葬しているが、大石では10基だけしか副葬品を持たず、厚葬墓的な特徴をもたない。これは全期間を通じて共通している。中期初頭には、城ノ越式甕棺墓13基と木棺墓4基が埋葬され、うち2基の木棺墓が青銅器を副葬している。次に中期前半になると、汲田式甕棺墓22基が、やや墓域を拡散して埋葬され、うち1基から銅戈と石剣切っ先4点が発見された。この後墓域は、中期後半まで分散、拡散を続けるが、副葬品を持つものはない。

このように高木遺跡とは、多くの点で様相を異にしている。まず、墓域であるが、細形銅剣1本、勾玉1個、管玉100個を副葬していた高木遺跡2号木棺墓は、長さ450cm、幅300cmを測り、一見して厚葬墓の風格がある。一方、大石遺跡の5号木棺墓は、細形銅剣1本を副葬していたが、長さ240cm幅150cmとごく普通の大きさである。次に副葬品の内容であるが、高木遺跡には、多鈕細文鏡や銅劍、

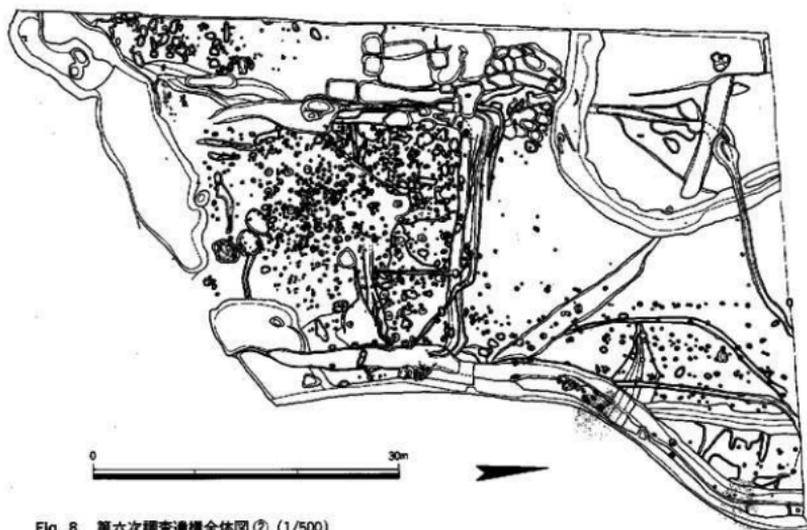


Fig. 8 第六次調査遺構全体図② (1/500)

勾玉、管玉などの装身具が豊富なものに対して、大石遺跡では、51号甕棺墓で管玉11個が出たにすぎない。また、45号甕棺墓の銅矛袋部には、木製の柄が残っており、5号木棺墓の細形銅剣は、木製鞘に装着されていた。さらに、71号甕棺墓から出土した縦に半載した管玉は、発見当時は用途不明であったが、佐賀県杣比本村遺跡で鞘飾りと判明した。このように大石遺跡の青銅器は、実用の武器としての性格が色濃い。これは殺傷の結果と思われる石鏃や折れた石剣切っ先の出土からも納得できる。とくに67号甕棺墓の銅矛は、切っ先と袋部を欠いており、戦闘の凄まじさを示すものであろう。これらの副葬品は分散して副葬されているのも特徴であろう。

大石遺跡は、高木遺跡の次期の厚葬墓ではなかったが、副葬品のあり方や内容の検討から、大石遺跡の被葬者たちの性格が浮かび上がってくる。弥生時代前期、早良平野の左岸を中心とする地域の有力者層の墓地が高木遺跡であり、その次の層が大石遺跡で、さらにその下部に甕棺ロードの多くの被葬者たちが支えていたものと考えられる。石鏃や折れた石剣を戦闘行為の結果とすれば、大石遺跡の被葬者たちこそ、前線で直接指揮をとった人達である。67号甕棺墓のように敵を殺傷した者もいれば、10号、53号、60号、81号甕棺墓のように戦死した者もある。このように高木遺跡と同時代の墓地が並んで発見されたことにより、弥生時代前期にすでに重層的な社会構造が出現したことを示し、それまで考えられていた弥生社会の階級分化が予想以上に急激に進んでいたことを明らかにした。

古墳時代 六次調査で検出した遺構では、古墳時代の遺構がもっとも多い。古墳1基、竪穴住居跡40



大石遺跡（発掘作業員が立っている所から副葬品が発見された）

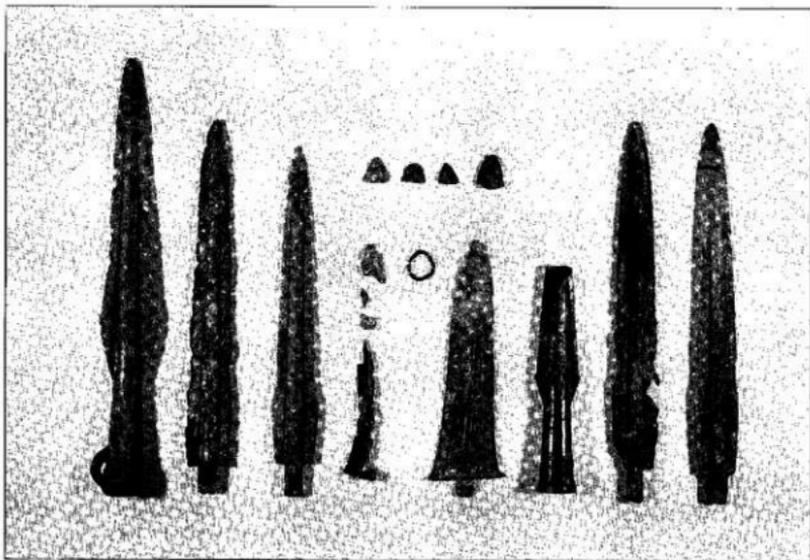
軒以上、掘立柱建物や土壇などである。古墳は、直径約14mの円墳で、墳土は失われているが、周溝と石室が残っている。石室は、幅3m、長さ5mで、床面から須恵器、鉄器、管玉などが発見された。腰石は1段が残るが、その大きさから判断して、何段も積み上げたとは考えがたい。竪穴住居跡は、3区に集中している。すべて方形プランで、床面や覆土から土師器や須恵器、陶質土器などが出土した。掘立柱建物からなる大集落が推測できる。

古代～中世期 五次調査では、土壇や溝から奈良時代末～平安時代初期と考えられる瓦類、越州窯青磁、円面硯などが出土し、寺院跡の存在が予測されていた。六次調査では、幅約8m、深さ1.5mの溝が見つかり、区画するようにL字形に曲がっている。この内部には掘立柱建物が並び、また、瓦類、中国製陶磁器、石帯、青銅製飾り玉、青銅製鈴、八稜鏡、「寺」、「月」などの墨書土器などが出土し、先の子測を裏付けた。

【太田遺跡】

太田遺跡は、3区から北に約400m離れた位置にある。弥生時代の溝、古墳時代の土壇、近世の井戸と溝、そして時期不明の掘立柱建物9棟などの遺構が発見された。弥生時代の溝は、断面U字形で、後期の土器や木製鏝などが出土した。近世の井戸は、石積みで直径1.5mを測る。溝で方形に区画された中にあり、現代に繋がる集落の一部をなしていたのであろう。

以上のように圃場整備に伴う本格的な調査は、六次調査で一応終了したが、大石遺跡は将来の史跡指定や環境整備を期して、水路の設計変更をするとともに、砂で遺構を保護してその上に水田耕作土を盛り上げた。これは地元の方々の熱い関心と協力によって実現したのである。なお、その後2か年にわたって排水施設の手直しや追加工事で、トレンチ調査を実施した。



大石遺跡の副葬品

第二節 第一次調査報告

1. 調査概要

第Ⅰ・Ⅱ区 弥生時代の遺構

第Ⅰ区 (Fig. 9 PL. 3 付図-1)

欄状遺構と考えられる遺構(西側が調査区外であったため掘立柱建物なのか欄状遺構なのかは不明) SA-01と掘立柱建物1棟を検出した。東側が削平され遺構の広がりは不明である。

第Ⅱ区 (Fig. 9 PL. 4-16 付図-1)

第Ⅱ区は削平される南側半分約4,000㎡を調査し、北側部分4,000㎡は遺構確認に留めた。そのため住居址、掘立柱建物等の実数は調査を完了したものとし、() 内には予測される数を記入した。ただし、甕棺墓に関しては、破壊される可能性が高いため調査を行った。

弥生時代前期の住居址はその殆どが後世の遺構により破壊されているため、その実態は把握できないが、現在する遺構は竪穴式住居址が3(5)軒、木棺墓1基、甕棺墓が44基検出され、その内の1基は倒置棺であった。成人棺の内、2基から棺外副葬品(板付Ⅱ式の壺、内1点は彩文土器)が出土した。甕棺墓の広がりはⅡ区の周辺部を取り囲むように南から北側方向に進み、それから西方向に10基前後の甕棺墓が二ないし三つのブロックを形成している。

弥生時代中期の円形住居址は20軒検出した。遺構の遺存状態は非常によく壁高が40-50cm程度残っているものも少なくない。弥生時代中期の甕棺墓は小児棺が2基検出しただけで、成人棺はⅡ区にはなくⅢ区北側部分に広がっている。

弥生時代中期に属する掘立柱建物は26棟検出された。

弥生時代後期に属する遺構は竪穴式住居址が8軒、土坑状遺構が1基、掘立柱建物が7棟であり、甕棺墓は検出されなかった。

第Ⅰ区の掘立柱建物 (Fig. 9・10 Tab. 2 PL. 3 付図-1)

第Ⅰ区の掘立柱建物はSB-01の2間×1間の1棟と二列に柱穴が並ぶ欄状遺構SA-01が検出された。

SB-01 (Fig. 9・10 Tab. 2 PL. 3)

SB-01はⅠ区の中央部に位置し、調査区東側断面に見られる欄状遺構の柱穴からも全体的に削平を受けていることが判断できるし、掘立柱建物の柱穴自体も16-32cm程度しかない。方位はN-47°-Eを持ち、標高16.30mを測る。桁行5.86m、梁行2.90mである。桁行柱穴1-2の計測は3.18m、2-3の計測2.68mを測り、4-5は2.96m、5-6は2.89mを測る。梁行の3-4は2.90m、6-1は2.90mを測る。床面積17.0㎡である。柱穴の形状は1・3・4・6が円形を呈し、2・5が楕円形を呈する。柱穴の大きさは最大が1.10m×1.0mを測り、最小は0.56m×0.50mを測る。柱穴から出土する遺物は、甕形土器の口縁部小片で図化に耐えるものはないが時期としては弥生時代中期に比定できる。

SA-01 (Fig. 9・10 Tab. 2 PL. 3)

SA-01は、ほぼ南北に検出された。一状(A列)は9個の柱穴(南側は調査区外)により構成されている。もう一状(B列)は東側断面に検出されたもので、7個の柱穴(南側は調査区外)により構成されている。方位はN-37°-Eを持ち、標高16.25mを測る。A列の柱間隔は、1-2が2.5m、2-3が1.55m、3-4が2.15m、4-5が2.23m、5-6が2.13m、6-7が2.23m、7-8が1.40m、8-9が2.08mで、B列の柱間隔は、9-10が2.79m、10-11が3.80m、11-12が2.96m、12-13が2.43m、13-14が1.27m、14-15が1.08m、15-16が0.90m、16と3の間隔が3.0mで9-10が2.79mとほぼ同じ間隔である。柱穴の形状はA列とB列とは異なりを示すが、これは上面を削平された部分と断面部分との差で、円形・楕円形の二種類がある。深さは最大で47cm、最小で13cmである。

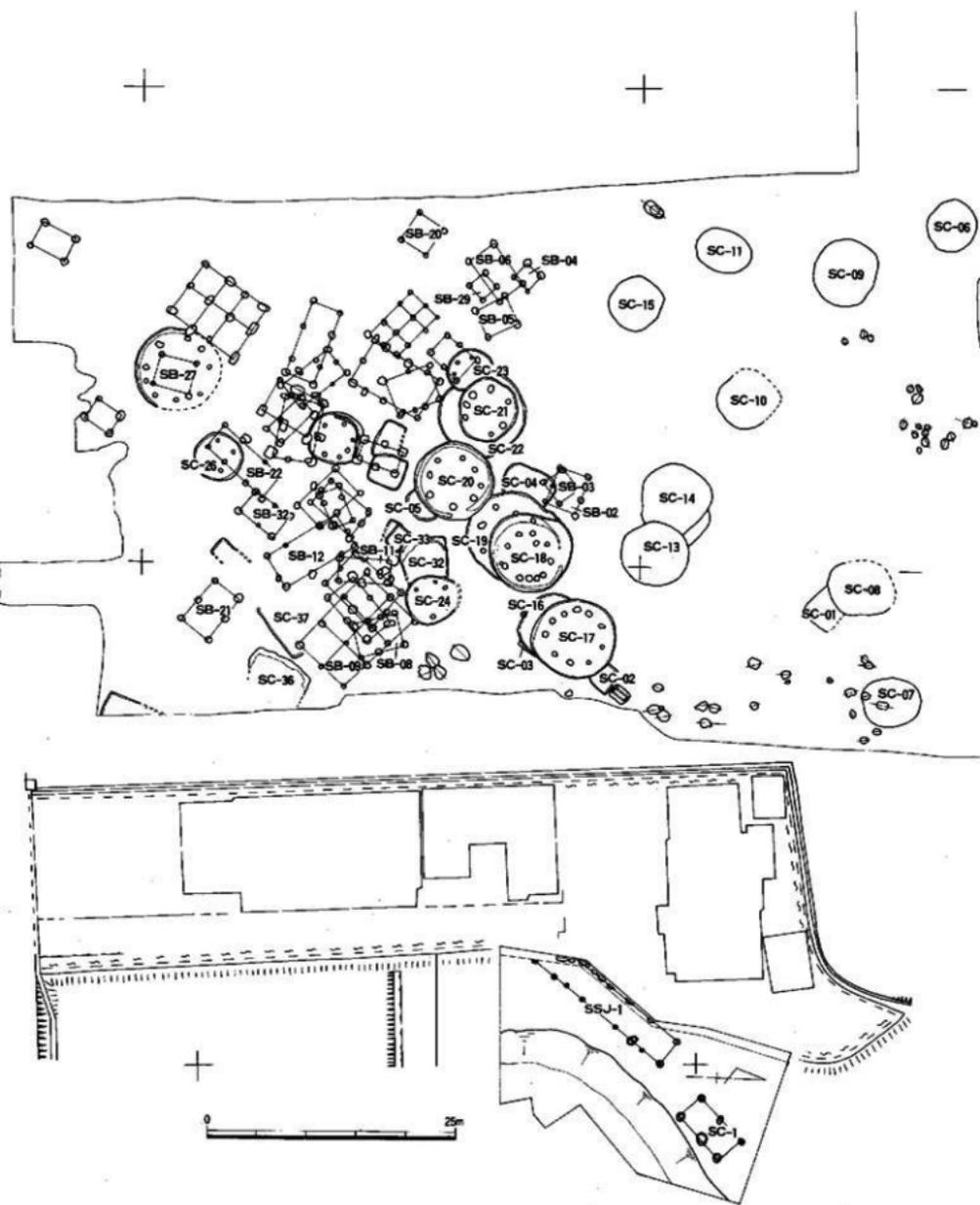


Fig. 9 第一次調査弥生時代遺構分布図(Ⅰ・Ⅱ区)(縮尺1/500)

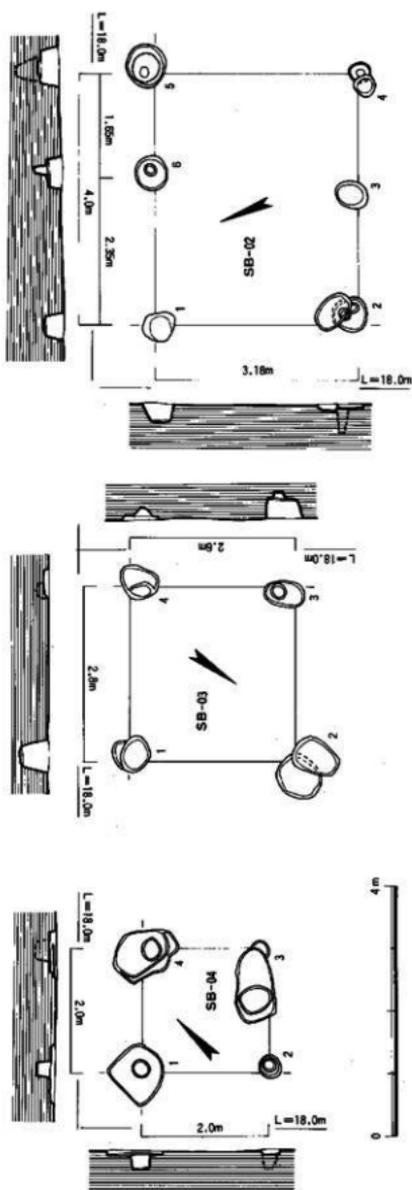


Fig. 11 SB02-03-04建築物檢出状況実測図(縮尺1/80)

Tab. 3 SB02-03-04 建築物計測表

建築物番号	地区名	建物方向	面積方位	面積(m ²)	延床面積(m ²)	高さ(m)	構造	形状	用途	用途	面積(m ²)	用途	建築物種別	
SB-02	一次市区	北西-南東	2 X 1	2.08	3.18	2.18	12.8	1	不要形	4.0	30.0	Pr-033	要形・壁土・土留壁	壁土留壁
								2	内廊形	34.0	48.0	Pr-034	要形・壁土・土留壁	壁土留壁
								3	内廊形	56.0	67.0	Pr-034	要形・壁土・土留壁	壁土留壁
								4	内廊形	34.0	28.0	Pr-035	要形・壁土・土留壁	壁土留壁
								5	内廊形	73.0	60.0	Pr-035	要形・壁土・土留壁	壁土留壁
								6	内廊形	52.0	42.0	Pr-035	要形・壁土・土留壁	壁土留壁
SB-03	一次市区	北西-南東	1 X 1	2.25	2.6	2.6	7.3	1	内廊形	60.0	56.0	Pr-036	要形・壁土・土留壁	壁土留壁
								2	内廊形	72.0	68.0	Pr-037	要形・壁土・土留壁	壁土留壁
								3	内廊形	60.0	60.0	Pr-033	要形・壁土・土留壁	壁土留壁
								4	不要形	60.0	50.0	Pr-036	要形・壁土・土留壁	壁土留壁
								5	内廊形	80.0	80.0	Pr-035	要形・壁土・土留壁	壁土留壁
SB-04	一次市区	北西-南東	1 X 1	2.0	2.0	2.0	4.0	1	内廊形	36.0	34.0	Pr-032	要形・壁土・土留壁	壁土留壁
								2	内廊形	135.0	56.0	Pr-034	要形・壁土・土留壁	壁土留壁
								3	不要形	110.0	80.0	Pr-038	要形・壁土・土留壁	壁土留壁
								4	不要形	110.0	80.0	Pr-038	要形・壁土・土留壁	壁土留壁

Fig. 13-1

2. 第Ⅱ区検出掘立柱建物

SB-02 (Fig. 9・11 Tab. 3)

SB-02はⅡ区の東中央部の第18・19円形住居址北西側に位置し、SB-03との切り合い関係を持つ。方位はN-66°-Wを持ち、標高17.52mを測る2間×1間の掘立柱建物である。桁行4.02m、梁行3.20mである。桁行柱穴2-3の計測は2.08m、3-4は計測1.94m、5-6は1.65m、6-1は計測2.35mを測る。梁行の1-2は3.18mを測り、4-5は3.20mを測る。床面積12.80㎡である。柱穴の形状は4・5・6が円形、2・3が楕円形、1が不整形を呈する。柱穴の大きさは最大が0.7m×0.6mを測り、最小は0.34m×0.28mを測る。柱穴から出土する遺物は、甕形土器・壺形土器の口縁部・胴部破片の小片で図化に耐えるものはないが、時期としては弥生時代中期に比定できる。

SB-03 (Fig. 9・11 Tab. 3)

SB-03はⅡ区の東中央部の第18・19円形住居址北西側に位置し、SB-02との切り合い関係を持つ。方位はN-35°-Wを持ち、標高17.52mを測る1間×1間の掘立柱建物である。桁行2.80m、梁行2.60mである。桁行柱穴2-3の計測は2.8m、4-1の計測2.8mを測る。梁行の1-2は2.60m、3-4は2.60mを測る。床面積7.30㎡である。柱穴の形状は1・3が楕円形、2が円形、4が不整形を呈する。柱穴の大きさは最大が0.72m×0.68mを測り、最小は0.6m×0.4mを測る。柱穴から出土する遺物は、甕形土器・壺形土器の胴部破片で図化に耐えるものはないが、時期としては弥生時代中期に比定できる。

SB-04 (Fig. 9・11・52 Tab. 3)

SB-04はⅡ区の西中央部の第21・23円形住居址西側に位置し、SB-06との切り合い関係を持つ。方位はN-45°-Wを持ち、標高17.63mを測る1間×1間の掘立柱建物である。桁行2.0m、梁行2.0mである。桁行柱穴2-3の計測は2.0m、4-1の計測2.0mを測る。梁行の1-2は2.0mを測り、3-4も2.0mを測る。床面積4.0㎡である。柱穴の形状は1が方形、2が円形、3が楕円形、4が不整形で形的には不揃いである。柱穴の大きさは最大が1.30m×0.56mを測り、最小は0.36m×0.34mを測る。柱穴から出土する遺物は、甕形土器・壺形土器の胴部破片と口縁部等であるが、図示した甕形土器の口縁部 (Fig. 52-1、Pit-695) から時期としては弥生時代中期に比定できる。

SB-05 (Fig. 9・12・52 Tab. 4)

SB-05はⅡ区の西中央部の第21・23円形住居址西側に位置し、SB-06との切り合い関係を持つ。方位はN-23°30'-Wを持ち、標高17.65mを測る1間×1間の掘立柱建物である。桁行3.42m、梁行3.00mである。桁行柱穴2-3の計測は3.4m、4-1の計測3.42mを測り、梁行の1-2は2.98mを測り、3-4は3.0mを測る。床面積10.20㎡である。柱穴の形状は1・3が方形、4が楕円形、2が不整形を呈する。柱穴の大きさは最大が0.85m×0.68mを測り、最小は0.50m×0.34mを測る。柱穴から出土する遺物は、甕形土器・壺形土器の胴部破片と口縁部等であるが、図示した壺形土器の胴部 (Fig. 52-2、Pit-732) 等から時期としては弥生時代中期に比定できる。

SB-06 (Fig. 9・12・52 Tab. 4)

SB-06はⅡ区の西中央部の第21・23円形住居址西側に位置し、SB-04・05・29との切り合い関係を持つ。方位はN-55°-Eを持ち、標高17.60mを測る2間×1間の掘立柱建物である。桁行5.13m、梁行3.16mである。桁行柱穴2-3の計測は2.64m、3-4は2.48m、5-6は2.58m、6-1は2.55mを測る。梁行の1-2は3.15mを測り、4-5は3.16mを測る。床面積16.2㎡である。柱穴の形状は4が円形、3・5が楕円形、1が方形を呈し、2・6が不整形を呈する。柱穴の大きさは最大が1.30m×0.86mを測り、最小は0.50m×0.44mを測る。柱穴から出土する遺物は、甕形土器・壺形土器の口縁部・胴部

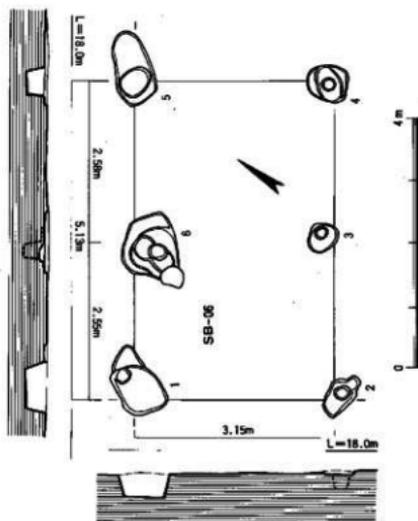
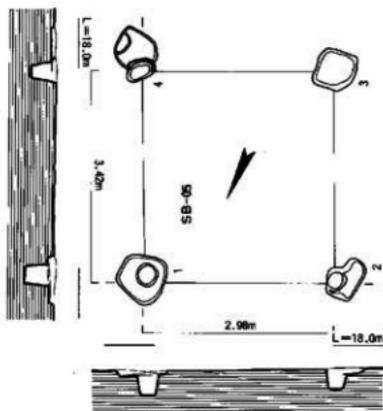


Fig. 12 SB05-06 廢物檢出狀況實測圖 (縮尺1/80)

Tab. 4 SB05-06 廢物統計列表

廢物編號	廢物名稱	數量	單位	總重量 (kg)	體積 (m ³)	廢物種類	備註	
SB-05	一次目檢出之廢物	1	方形	65.0	0.68	廢物-廢物	廢物	
		2	不規則形	72.0	59.0	32.0	Pt-709	廢物
		3	方形	64.0	62.0	34.0	Pt-702	廢物-廢物
		4	積屑	59.0	34.0	38.0	Pt-551	廢物-廢物
		5	積屑	80.0	68.0	35.0	Pt-717	廢物-廢物
		6	積屑	72.0	40.0	30.0	Pt-711	廢物
SB-06	一次目檢出之廢物	1	積屑	50.0	44.0	20.0	Pt-705	廢物
		2	積屑	64.0	62.0	30.0	Pt-706	廢物
		3	積屑	133.0	66.0	36.0	Pt-401	廢物
		4	積屑	130.0	66.0	40.0	Pt-709	廢物
		5	積屑	130.0	66.0	40.0	Pt-709	廢物

の破片であるが、図示した甕形土器の口縁部 (Fig.52-4、Pit-709) から時期としては、弥生時代中期に比定できる。

SB-07 (Fig. 9・13・52 Tab.5 PL.10-2)

SB-07はⅡ区の東中央部の第18・19円形住居址南東側に位置し、SC-24・SB-08-11との切り合い関係を持つ。方位はN-43°-Eを持ち、標高17.38mを測る2間×2間の掘立柱建物である。桁行6.48m、梁行4.56mである。桁行柱穴3-4の計測は3.88m、4-5は2.60m、7-8は3.20m、8-1は3.04mを測る。梁行の1-2は2.42m、2-3は2.14m、5-6は2.46m、6-7は2.10mを測る。床面積29.0㎡である。柱穴の形状は7が円形、2・3・4・6が楕円形、1が方形、5・8が不整形を呈する。柱穴の大きさは最大が1.40m×0.82mを測り、最小は0.50m×0.38mを測る。柱穴から出土する遺物は、甕形土器・壺形土器の口縁部と胴部破片等であるが、図示した甕形土器の口縁部 (Fig.52-3・5、Pit-142、183) から時期としては、弥生時代中期に比定できる。

SB-08 (Fig. 9・13 Tab.5 PL.10-1)

SB-08はⅡ区の東中央部の第18・19円形住居址南東側に位置し、SB-09・10との切り合い関係を持つ。方位はN-75°-Eを持ち、標高17.32mを測る2間×1間の掘立柱建物である。桁行4.61m、梁行3.41mである。桁行柱穴1-2の計測は1.92m、2-3は2.68m、4-5は1.46m、5-6は3.15mを測る。梁行の3-4は3.40mを測り、6-1は3.41mを測る。床面積15.7㎡である。柱穴の形状は1・2・4・5が円形、6が楕円形、3が不整形を呈する。柱穴の大きさは最大が1.0m×0.66mを測り、最小は0.46m×0.40mを測る。柱穴から出土する遺物は、甕形土器・壺形土器の口縁部・胴部破片の小片で図化に耐えるものはないが時期としては、弥生時代中期に比定できる。

SB-09 (Fig. 9・14・52 Tab.6 PL.10-1)

SB-09はⅡ区の東中央部の第18・19円形住居址南東側に位置し、SC-24、SB-07・08・10・11との切り合い関係を持つ。方位はN-44°-Wを持ち、標高17.35mを測る3間×2間の総柱の掘立柱建物である。桁行10.02m、梁行6.52mである。桁行柱穴3-4の計測は3.65m、4-5は3.32m、5-6は3.05m、8-9は3.30m、9-10は3.1m、10-1は3.6mを測る。梁行の1-2は3.34mを測り、2-3は3.18m、6-7は3.35m、7-8は3.11mを測る。床面積65.50㎡である。柱穴の形状は4・6・11が円形、1・3・5・7・9・10が楕円形、8が方形、2・12が不整形を呈する。柱穴の大きさは最大が0.88m×0.80mを測り、最小は0.40m×0.38mを測る。柱穴から出土する遺物は、甕形土器・壺形土器の口縁部と胴部破片口縁部等であるが、図示した甕形土器の底部 (Fig.52-9-11、Pit-234、1598) から時期としては弥生時代中期に比定できる。

SB-10 (Fig. 9・15 Tab.7 PL.10-2)

SB-10はⅡ区の東中央部の第18・19円形住居址南東側に位置し、SB-07・08・09・11との切り合い関係を持つ。方位はN-54°-Eを持ち、標高17.32mを測る2間×1間の掘立柱建物である。桁行6.0m、梁行3.3mである。桁行柱穴2-3の計測は3.08m、3-4は2.92m、5-6は3.26m、6-1は2.74mを測る。梁行の1-2は3.32mを測り、4-5は3.30mを測る。床面積19.90㎡である。柱穴の形状は2・4が円形、1・3・6が楕円形、5が方形を呈する。柱穴の大きさは最大が1.0m×0.54mを測り、最小は0.53m×0.50mを測る。柱穴から出土する遺物は、甕形土器・壺形土器の口縁部 (Fig.52-6-9) で、時期としては弥生時代中期に比定できる。

SB-11 (Fig. 9・15 Tab.7)

SB-11はⅡ区の中央部の第20円形住居址南側に位置し、SB-07-10との切り合い関係を持つ。方位はN-16°-Eを持ち、標高17.55mを測る2間×1間の掘立柱建物である。桁行5.20m、梁行2.30m

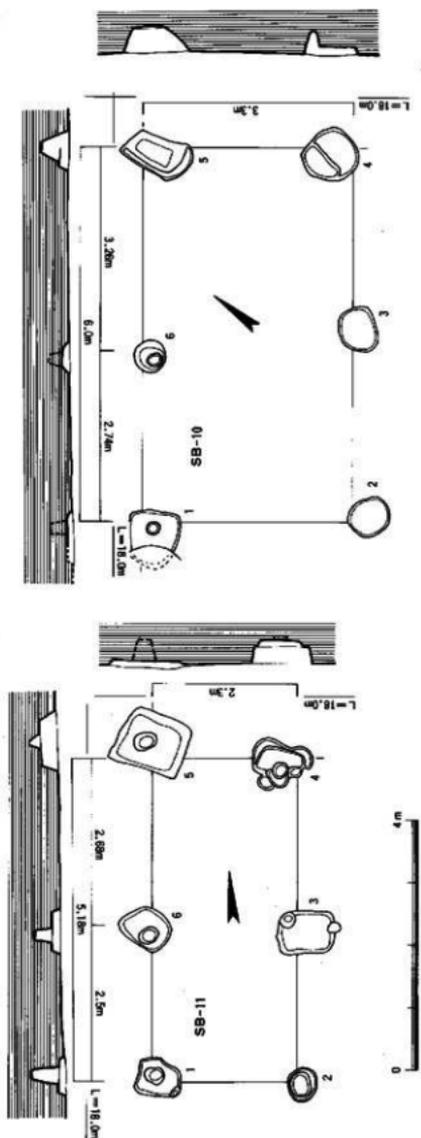


Fig. 15 SB10-11 建物検出状況実測図 (縮尺1/80)

Tab.7 SB10・11 建物設計測表

建物番号	地区名	用途区分	階数	延床面積 (㎡)	構造	基礎形式	基礎面積 (㎡)	基礎埋込深さ (m)	基礎土質	基礎調査項目	調査結果	調査日時	調査者
SB10-11	二次地区	住宅	2	1,721.46	RC	基礎	1,721.46	3.00	硬質粘土層	基礎調査項目	基礎土質調査	2010.05.14	佐藤 誠
											基礎調査項目	2010.05.14	佐藤 誠
SB10-11	二次地区	住宅	2	1,721.46	RC	基礎	1,721.46	3.00	硬質粘土層	基礎調査項目	基礎土質調査	2010.05.14	佐藤 誠
											基礎調査項目	2010.05.14	佐藤 誠
											基礎調査項目	2010.05.14	佐藤 誠
											基礎調査項目	2010.05.14	佐藤 誠
											基礎調査項目	2010.05.14	佐藤 誠
											基礎調査項目	2010.05.14	佐藤 誠
											基礎調査項目	2010.05.14	佐藤 誠
											基礎調査項目	2010.05.14	佐藤 誠
											基礎調査項目	2010.05.14	佐藤 誠
SB10-11	二次地区	住宅	2	1,721.46	RC	基礎	1,721.46	3.00	硬質粘土層	基礎調査項目	基礎土質調査	2010.05.14	佐藤 誠
											基礎調査項目	2010.05.14	佐藤 誠
											基礎調査項目	2010.05.14	佐藤 誠
											基礎調査項目	2010.05.14	佐藤 誠
											基礎調査項目	2010.05.14	佐藤 誠
											基礎調査項目	2010.05.14	佐藤 誠
SB10-11	二次地区	住宅	2	1,721.46	RC	基礎	1,721.46	3.00	硬質粘土層	基礎調査項目	基礎土質調査	2010.05.14	佐藤 誠
											基礎調査項目	2010.05.14	佐藤 誠
											基礎調査項目	2010.05.14	佐藤 誠
											基礎調査項目	2010.05.14	佐藤 誠
											基礎調査項目	2010.05.14	佐藤 誠
											基礎調査項目	2010.05.14	佐藤 誠

である。桁行柱穴2～3の計測は2.4m、3～4は2.8m、5～6は2.68m、6～1は2.5mを測る。梁行の1～2は2.28mを測り、4～5は2.30mを測る。床面積11.9㎡である。柱穴の形状は2が円形、6が楕円形、1・3・4が不整形、5が方形を呈する。柱穴の大きさは最大が1.06m×0.94mを測り、最小は0.52m×0.46mを測る。柱穴から出土する遺物は、甕形土器の口縁部小片で図化に耐えるものはないが時期としては弥生時代中期に比定できる。

SB-12 (Fig. 9・16 Tab. 8 Pl. 9-2・12-1)

SB-12はⅡ区の中央部の第20円形住居址南側に位置し、SB-11・13・14との切り合い関係を持つ。方位はN-31°-Eを持ち、標高17.50mを測る3間×2間の掘立柱建物である。桁行8.02m、梁行3.78mである。桁行柱穴3～4の計測は1.88m、4～5は3.9m、5～6は2.2m、8～9は3.02m、9～10の計測は3.3m、10～11の計測1.7mを測る。梁行の1～2は1.6m、2～3は2.18m、6～7は2.45m、7～8は1.33mを測る。床面積30.3㎡である。柱穴の形状は2・6が円形、4・5・7・8・9が楕円形、1・3が不整形、10が方形を呈する。柱穴の大きさは最大が1.06m×0.8mを測り、最小は0.34m×0.3mを測る。柱穴から出土する遺物は、甕形土器の胴部破片で図化に耐えるものはないが、時期としては弥生時代中期に比定できる。

SB-13 (Fig. 9・16・52 Tab. 8)

SB-13はⅡ区の中央部の第20円形住居址南側に位置し、SB-11・12・14との切り合い関係を持つ。方位はN-73°-Eを持ち、標高17.5mを測る2間×1間の掘立柱建物である。桁行3.85m、梁行2.3mである。桁行柱穴2～3の計測は2.7m、3～4は1.15m、5～6は1.1m、6～7は2.74mを測る。梁行の1～2は2.29mを測り、4～5は2.3mを測る。床面積8.80㎡である。柱穴の形状は3・5・6が不整形、1・2・4が楕円形を呈する。柱穴の大きさは最大が0.76m×0.64mを測り、最小は0.4m×0.36mを測る。柱穴から出土する遺物は、甕形土器・壺形土器の口縁部・胴部破片等であるが、図示した甕形土器の口縁部 (Fig. 52-12・13 Pit-1402) から時期としては弥生時代中期に比定できる。

SB-14 (Fig. 9・16・52 Tab. 8)

SB-14はⅡ区の中央部の第20円形住居址南側に位置し、SB-11・12・13との切り合い関係を持つ。方位はN-41°30'-Eを持ち、標高17.45mを測る2間×2間の掘立柱建物である。桁行5.22m、梁行3.2mである。桁行柱穴3～4の計測は2.4m、4～5は2.82m、7～8は2.68m、8～1は2.53mを測る。梁行の1～2は1.5m、2～3は1.7m、5～6は1.88m、6～7は1.32mを測る。床面積16.7㎡である。柱穴の形状は1・8が円形を呈し、2・4・7が楕円形、3・5・6が不整形を呈する。柱穴の大きさは最大が0.84m×0.64mを測り、最小は0.4m×0.4mを測る。柱穴から出土する遺物は、甕形土器・壺形土器の口縁部・胴部破片等であるが、図示した甕形土器の口縁部 (Fig. 52-14 Pit-1632) から時期としては弥生時代中期に比定できる。

SB-15 (Fig. 9・17 Tab. 9)

SB-15はⅡ区の中央部の第20円形住居址南側に位置し、SC-25との切り合い関係を持つ。方位はN-25°30'-Eを持ち、標高17.40mを測る2間×1間の掘立柱建物である。桁行4.25m、梁行2.21mである。桁行柱穴2～3の計測は2.14m、3～4は2.11m、5～6は2.0m、6～1は2.25mを測る。梁行の1～2は2.21mを測り、4～5は2.21mを測る。床面積9.4㎡である。柱穴の形状は3が円形、4が楕円形、1・5・6が方形、2が不整形を呈する。柱穴の大きさは最大が0.94m×0.88mを測り、最小は0.6m×0.6mを測る。柱穴から出土する遺物は、甕形土器・壺形土器の口縁部・胴部破片等の小片で図化に耐えるものはないが、時期としては弥生時代中期に比定できる。

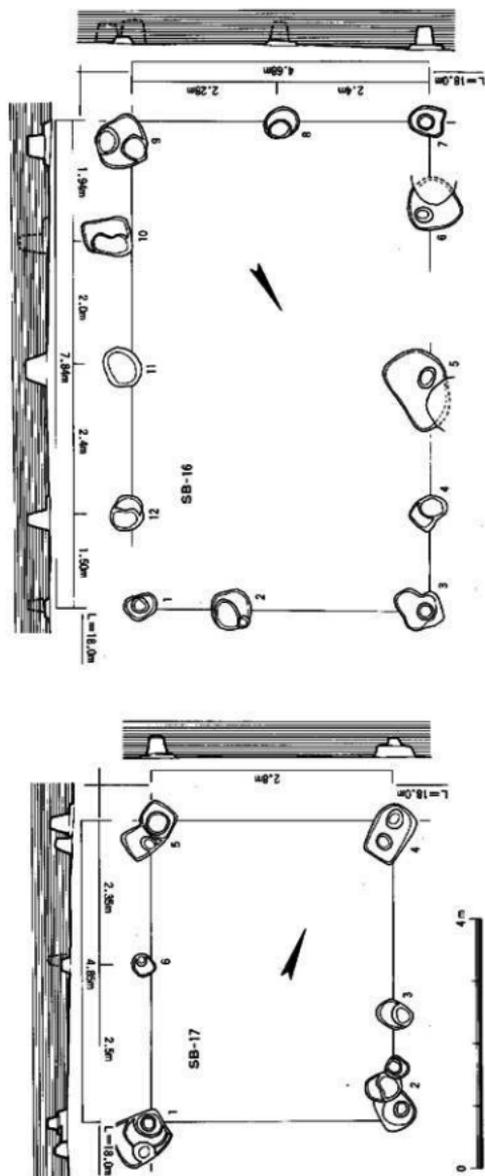


Fig. 18 SB16-17 建物検出状況実測図(縮尺1/80)

Tab.10 SB16-17 建物計測表

建物番号	構造名称	方位	面積	形状	計測	用途	材料	形状	高さ	用途	材料	形状	高さ	用途	材料	形状	高さ	用途	材料									
SB-16	一次居住区	北東-南西	47 x 2	7.85	4.69	36.8	1	1	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50							
							2	1	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50				
							3	1	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50			
							4	1	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50		
							5	1	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50		
							6	1	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	
							7	1	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	
							8	1	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50
							9	1	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50
							10	1	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50
							11	1	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50
							12	1	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50
SB-17	一次居住区	北東-南西	2 x 1	4.85	3.1	1.75	1	1	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50						
							2	1	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50				
							3	1	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50		
							4	1	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	
							5	1	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	
							6	1	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50

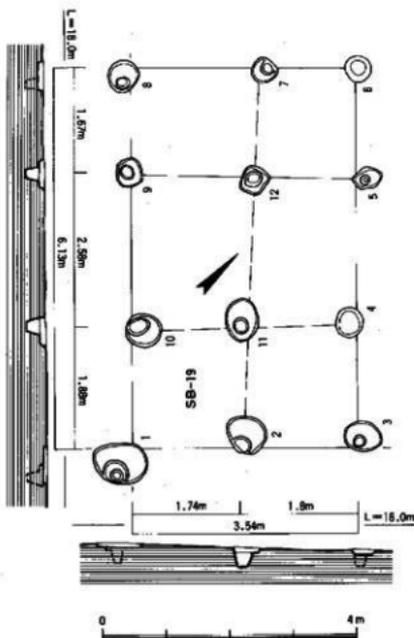
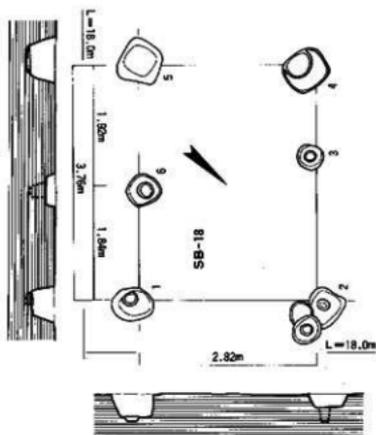


Fig. 19 SB18·19建築物檢出状況実測図(縮尺1/80)

Tab.11 SB18・19 震物檢計測表

震物番号	検出位置	震動方向	震動種類	震動時刻	震動時間	震動回数	震動幅	震動速度	震動加速度	震動変位	震動経路	震動原因	補注					
SB-18	1次目区画	北東-南西	N-07'	2 × 1	1	3.77	1.65	2.39	2.82	2.82	10.6	1	振出部	4.0	52.0	44.0	Pr-523	震動土留止
					2	3.77	1.65	2.39	2.82	2.82	10.6	1	振出部	4.0	54.0	45.0	Pr-525	震動土留止
					3	3.77	1.65	2.39	2.82	2.82	10.6	1	振出部	4.0	48.0	35.0	Pr-521	震動土留止
					4	3.77	1.65	2.39	2.82	2.82	10.6	1	振出部	4.0	62.0	35.0	Pr-525	震動土留止
					5	3.77	1.65	2.39	2.82	2.82	10.6	1	振出部	4.0	62.0	45.0	Pr-525	震動土留止
					6	3.77	1.65	2.39	2.82	2.82	10.6	1	振出部	4.0	52.0	45.0	Pr-523	震動土留止
					7	3.77	1.65	2.39	2.82	2.82	10.6	1	振出部	4.0	42.0	30.0	Pr-523	震動土留止
					8	3.77	1.65	2.39	2.82	2.82	10.6	1	振出部	4.0	42.0	30.0	Pr-523	震動土留止
					9	3.77	1.65	2.39	2.82	2.82	10.6	1	振出部	4.0	42.0	30.0	Pr-523	震動土留止
					10	3.77	1.65	2.39	2.82	2.82	10.6	1	振出部	4.0	42.0	30.0	Pr-523	震動土留止
					11	3.77	1.65	2.39	2.82	2.82	10.6	1	振出部	4.0	42.0	30.0	Pr-523	震動土留止
					12	3.77	1.65	2.39	2.82	2.82	10.6	1	振出部	4.0	42.0	30.0	Pr-523	震動土留止
SB-19	2次目区画	北東-南西	N-05'・W	3 × 2	1	3.76	1.84	1.92	3.54	1.74	21.7	1	振出部	12.0	42.0	30.0	Pr-523	震動土留止
					2	3.76	1.84	1.92	3.54	1.8	1.8	2	振出部	12.0	42.0	30.0	Pr-523	震動土留止
					3	3.76	1.84	1.92	3.54	1.8	1.8	2	振出部	12.0	44.0	34.0	Pr-525	震動土留止
					4	3.76	1.84	1.92	3.54	1.8	1.8	2	振出部	12.0	44.0	34.0	Pr-525	震動土留止
					5	3.76	1.84	1.92	3.54	1.8	1.8	2	振出部	12.0	36.0	30.0	Pr-525	震動土留止
					6	3.76	1.84	1.92	3.54	1.8	1.8	2	振出部	12.0	36.0	30.0	Pr-525	震動土留止
					7	3.76	1.84	1.92	3.54	1.8	1.8	2	振出部	12.0	40.0	30.0	Pr-525	震動土留止
					8	3.76	1.84	1.92	3.54	1.8	1.8	2	振出部	12.0	40.0	30.0	Pr-525	震動土留止
					9	3.76	1.84	1.92	3.54	1.8	1.8	2	振出部	12.0	40.0	30.0	Pr-525	震動土留止
					10	3.76	1.84	1.92	3.54	1.8	1.8	2	振出部	12.0	40.0	30.0	Pr-525	震動土留止
					11	3.76	1.84	1.92	3.54	1.8	1.8	2	振出部	12.0	40.0	30.0	Pr-525	震動土留止
					12	3.76	1.84	1.92	3.54	1.8	1.8	2	振出部	12.0	40.0	30.0	Pr-525	震動土留止

SB-16 (Fig. 9・18 Tab.10 PL. 8-1)

SB-16はⅡ区の西中央部のSC-21円形住居址南側に位置し、SC-22、SB-17・19との切り合い関係を持つ。方位はN-31°-Eを持ち、標高17.53mを測る4間×2間の掘立柱建物である。桁行7.85m、梁行4.69mである。桁行柱穴3-4の計測は1.67m、4-5は2.08m、5-6は2.76m、6-7は1.34m、9-10は1.94m、10-11は2.0m、11-12は2.4m、12-1は1.5mを測る。梁行の1-2は1.49m、2-3は3.2m、7-8は2.4m、8-9は2.28mを測る。床面積36.8㎡である。柱穴の形状は2・9・10が方形、1・4・6・7・8・11・12が楕円形、3・5が不整形を呈する。柱穴の大きさは最大が1.26m×0.86mを測り、最小は0.50m×0.40mを測る。柱穴から出土する遺物は、甕形土器・壺形土器の口縁部・胴部破片等で辛うじて図示できたものはFig.52-15-18 (Pit-609・596・1160) で時期としては弥生時代中期に比定できる。

SB-17 (Fig. 9・18・52 Tab.10 PL. 8-1・19-2)

SB-17はⅡ区の西中央部のSC-21円形住居址南側に位置し、SC-22、SB-16・19との切り合い関係を持つ。方位はN-20°-Eを持ち、標高17.57mを測る2間×1間の掘立柱建物である。桁行4.85m、梁行3.8mである。桁行柱穴2-3の計測は1.73m、3-4は3.1m、5-6は2.35m、6-1は2.5mを測る。梁行の1-2は3.8m、4-5も3.8mを測る。床面積18.4㎡である。柱穴の形状は1・6が円形、2・3が楕円形、4・5が方形を呈する。柱穴の大きさは最大が0.92m×0.62mを測り、最小は0.34m×0.32mを測る。柱穴から出土する遺物は、甕形土器の口縁部等で、辛うじて図示できたものはFig.53-19-20 (Pit-603) で、時期としては弥生時代中期に比定できる。

SB-18 (Fig. 9・19 Tab.11 PL. 8-1)

SB-18はⅡ区の西中央部のSC-21円形住居址南西側に位置し、SC-23との切り合い関係を持つ。方位はN-47°-Eを持ち、標高17.57mを測る2間×1間の掘立柱建物である。桁行3.77m、梁行2.82mである。桁行柱穴2-3の計測は2.32m、3-4は1.45m、5-6は1.92m、6-1は1.84mを測る。梁行の1-2は2.82mを測り、4-5は2.8mを測る。床面積10.6㎡である。柱穴の形状は3が円形、1・6が楕円形、2が不整形、4・5が方形を呈する。柱穴の大きさは最大が0.70m×0.69mを測り、最小は0.40m×0.40mを測る。柱穴から出土する遺物は、甕形土器の胴部破片で図化に耐えるものはないが、時期としては弥生時代中期に比定できる。

SB-19 (Fig. 9・19 Tab.11)

SB-19はⅡ区の西中央部のSC-21・23円形住居址南西側に位置し、SB-16との切り合い関係を持つ。方位はN-45°-Wを持ち、標高17.67mを測る3間×2間の総柱の掘立柱建物である。桁行6.13m、梁行3.55mである。桁行柱穴3-4の計測は2.0m、4-5は2.34m、5-6は1.78m、8-9は1.67m、9-10は2.58m、10-1は1.88mを測る。梁行の1-2は1.74mを測り、2-3は1.8m、6-7は1.4m、7-8は2.15mを測る。床面積21.7㎡である。柱穴の形状は6・8・10が円形、1-4・9・11が楕円形、5・7が不整形、12が方形を早する。柱穴の大きさは最大が0.80m×0.62mを測り、最小は0.42m×0.36mを測る。柱穴から出土する遺物は、甕形土器の底部等で、辛うじて図示できたものはFig.53-21 (Pit-850) で、時期としては弥生時代中期に比定できる。

SB-20 (Fig. 9・20 Tab.12)

SB-20はⅡ区の中央部西側に位置し、切り合い関係は無い。方位はN-54°30'-Eを持ち、標高17.50mを測る1間×1間の掘立柱建物である。桁行3.26m、梁行3.06mである。桁行柱穴2-3の計測は3.26m、4-1の計測3.2mを測る。梁行の1-2は3.04mを測り、3-4は3.06mを測る。床面積9.8㎡である。柱穴の形状は4が不整形を呈し、1・2・3が楕円形を呈する。柱穴の大きさは最大が0.60m×0.56mを測り、最小は0.32m×0.30mを測る。

柱穴から出土する遺物は、甕形土器・壺形土器の口縁部・胴部破片で図化に耐えるものはないが、時期としては弥生時代中期に比定できる。

SB-21 (Fig. 9・20・53 Tab.12 PL.9-1)

SB-21はⅡ区の南東部隅に位置し、切り合い関係は無い。方位はN-50°-Wを持ち、標高17.38mを測る2間×1間の掘立柱建物である。桁行5.22m、梁行3.44mである。桁行柱穴2-3の計測は2.64m、3-4は2.58m、5-6は2.7m、6-1は2.5mを測る。梁行の1-2は3.44mを測り、4-5は3.42mを測る。床面積17.8㎡である。柱穴の形状は2が円形、3が楕円形、1・6が方形、4・5が不整形を呈する。柱穴の大きさは最大が1.24m×1.20mを測り、最小は0.58m×0.48mを測る。柱穴から出土する遺物は、甕形土器の口縁部と胴部・底部破片であるが、図示したのは、Fig.53-22-25 (Pit-71・88)の甕形土器の口縁部・底部で、時期としては弥生時代中期に比定できる。

SB-22 (Fig. 9・21 Tab.13)

SB-22はⅡ区の中央の南側に位置し、SC-26との切り合い関係を持つ。方位はN-43°-Eを持ち、標高17.54mを測る3間×1間の掘立柱建物である。桁行7.78m、梁行2.92mである。桁行柱穴1-2の計測は2.28m、2-3は2.98m、3-4は2.5m、5-6は2.62m、6-7は2.96m、7-8は2.2mを測る。梁行の4-5は2.92mを測り、8-1は2.92mを測る。床面積22.7㎡である。柱穴の形状は1・4が円形、2・5・6・7が楕円形、3が不整形、8が方形を呈する。柱穴の大きさは最大が0.70m×0.54mを測り、最小は0.32m×0.26mを測る。柱穴から出土する遺物は、甕形土器・壺形土器の口縁部と胴部の破片で図化に耐えるものはないが、時期としては弥生時代中期に比定できる。

SB-23 (Fig. 9・21 Tab.13)

SB-23はⅡ区の中央南側のSC-26・27円形住居址北側に位置し、SB-23・28・34との切り合い関係を持つ。方位はN-40°30'-Wを持ち、標高17.40mを測る2間×1間の掘立柱建物である。桁行4.76m、梁行2.58mである。桁行柱穴1-2の計測は1.70m、2-3は3.06m、4-5は2.10m、5-6は2.66mを測る。梁行の3-4は2.58mを測り、6-1は2.44mを測る。床面積11.9㎡である。柱穴の形状は4が不整形、1・2・3・5が楕円形、6が方形を呈する。柱穴の大きさは最大が0.90m×0.58mを測り、最小は0.44m×0.40mを測る。柱穴から出土する遺物は、甕形土器・壺形土器の口縁部や胴部破片で図化に耐えるものはないが、時期としては弥生時代中期に比定できる。

SB-24 (Fig. 9・21・53 Tab.13)

SB-24はⅡ区の中央南側のSC-26・27円形住居址北側に位置し、SC-25、SB-23・28との切り合い関係を持つ。方位はN-28°-Eを持ち、標高17.55mを測る2間×1間の掘立柱建物である。桁行5.20m、梁行3.84mである。桁行柱穴1-2の計測は2.7m、2-3は2.48m、4-5は2.70m、5-6は2.5mを測る。梁行の3-4は3.84mを測り、6-1は3.64mを測る。床面積19.5㎡である。柱穴の形状は3が円形、2・4・6が楕円形、1が方形、5が隅丸方形を呈する。柱穴の大きさは最大が1.14m×0.7mを測り、最小は0.6m×0.58mを測る。柱穴から出土する遺物は、甕形土器・壺形土器の口縁部・胴部破片でFig.53-26-28 (Pit-1279・1514・1383)を図示したが、時期としては弥生時代中期に比定できる。

SB-25 (Fig. 9・22・53 Tab.14 PL.6-2)

SB-25はⅡ区の南東部のSC-25・26円形住居址南東側に位置し、SC-27との切り合い関係を持つ。方位はN-38°-Eを持ち、標高17.74mを測る3間×2間の総柱の掘立柱建物である。桁行7.74m、梁行6.10mである。桁行柱穴3-4の計測は2.84m、4-5は2.06m、5-6は2.84m、8-9は2.8m、9-10は2.6m、10-1は2.3mを測る。梁行の1-2は2.8mを測り、2-3は3.3m、6-7は3.28m、7-8は2.8mを測る。床面積47.0㎡である。柱穴の形状は1・10・11が不整形、3-9が楕円形、2・

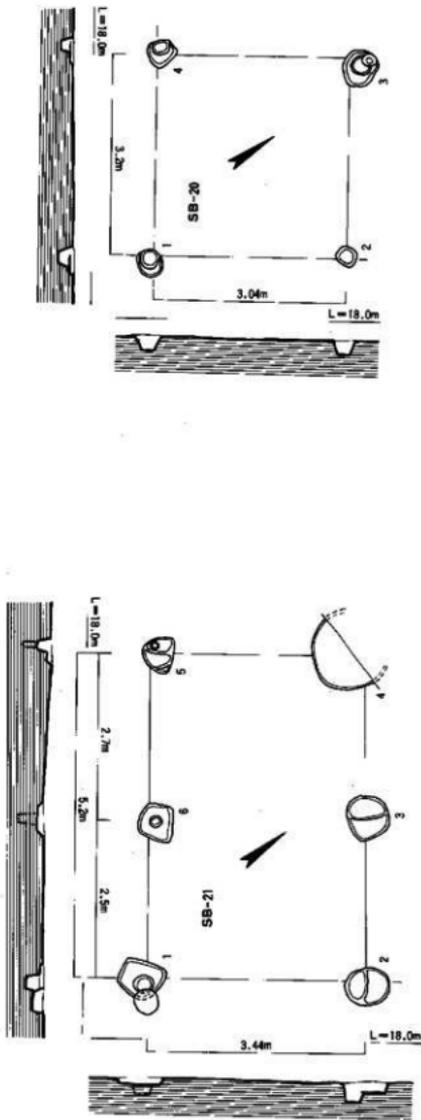


Fig. 20 SB20-21 遺物出土狀況實測圖 (縮尺1/80)

Tab.12 SB20-21 遺物出土測定表

遺物番号	種別名称	発見位置	層位	層高	深さ	面積	形状	材質	目録番号	出土層位	出土層位	
SB-20	一次器具区	鉢一燗炭	中火室	1 X 1	3.25	3.25	1 輪内蓋	44.0	36.0	Pw-021	主要な泥土遺物	陶器片
					3.26	3.26	2 輪内蓋	25.0	30.0	Pw-024	要部土器破片	陶器片
					3.06	3.06	3 輪内蓋	60.0	56.0	Pw-757	要部土器破片	陶器片
					3.2	3.2	4 小香	44.0	40.0	Pw-013	要部土器破片	陶器片
SB-21	一次器具区	鉢一燗炭	2 X 1	3.44	3.44	1 刀	70.0	64.0	Pw-179	要部土器破片	陶器片	
				5.22	2.68	2 刀	72.0	62.0	Pw-179	要部土器破片	陶器片	
				5.22	2.68	3 刀	124.0	120.0	Pw-085	要部土器破片	陶器片	
				5.2	3.42	4 小香	124.0	120.0	Pw-085	要部土器破片	陶器片	
				5.2	3.7	5 木蓋	106.0	104.0	Pw-76	要部土器破片	陶器片	
				5.2	2.5	6 刀	106.0	104.0	Pw-44	要部土器破片	陶器片	

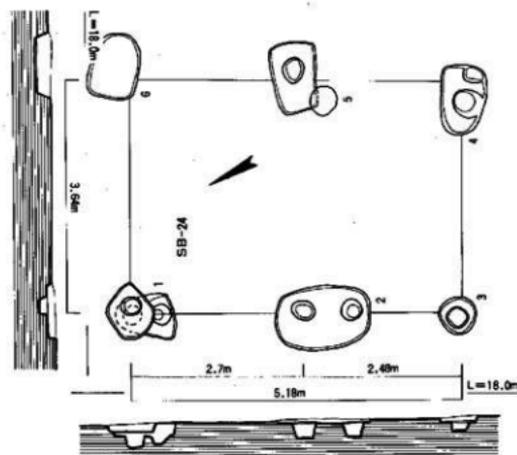
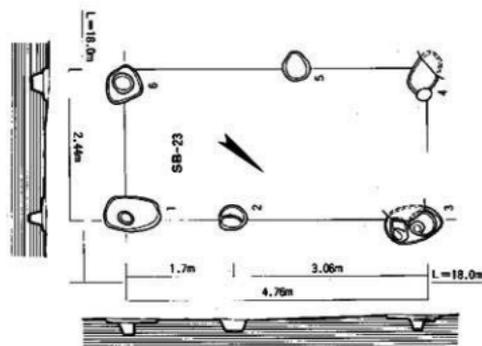
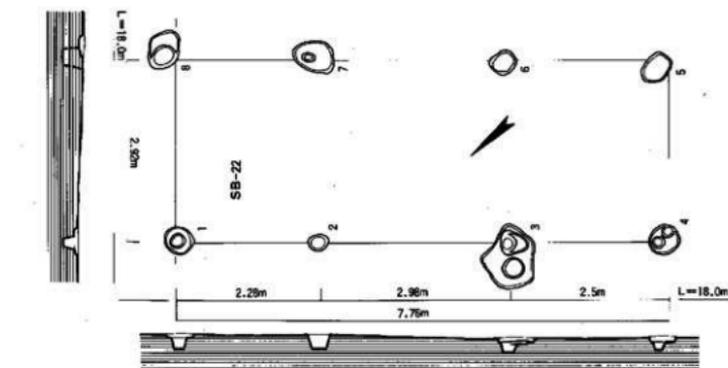


Fig. 21 SB22·23·24 建筑物出土状况实测图(缩尺1/80)

Tab.13 SB22·23·24 建筑物计划表

建筑物号	地区名	次层区	具体方位	面积(㎡)	层数	材料	形状	长(m)	宽(m)	出露高度(m)	出露部分	出土物	说明	
SB-22	一次层区	N-10°-E	3 X 1	2.28	2.28	2.28	1	1	4.50	2.50	21.0	Pr-13501	比萨(伊)瓦片	图例符号
				2.50	2.50	2.50	2	1	4.50	2.50	21.0	Pr-13502	比萨(伊)瓦片	图例符号
				2.5	2.5	2.5	3	1	4.50	2.50	21.0	Pr-13503	比萨(伊)瓦片	图例符号
				2.62	2.62	2.62	4	1	4.50	2.50	21.0	Pr-13504	比萨(伊)瓦片	图例符号
				2.2	2.2	2.2	5	1	4.50	2.50	21.0	Pr-13505	比萨(伊)瓦片	图例符号
				2.76	2.76	2.76	6	1	4.50	2.50	21.0	Pr-13506	比萨(伊)瓦片	图例符号
SB-23	一次层区	N-10°-E	2 X 1	1.70	1.70	1.70	1	1	7.00	3.00	25.0	Pr-1407	文士(伊)十数片	图例符号
				2.06	2.06	2.06	2	1	7.00	3.00	25.0	Pr-1408	文士(伊)十数片	图例符号
				2.2	2.2	2.2	3	1	7.00	3.00	25.0	Pr-1409	文士(伊)十数片	图例符号
				3.06	3.06	3.06	4	1	7.00	3.00	25.0	Pr-1410	文士(伊)十数片	图例符号
SB-24	一次层区	N-20°-E	2 X 1	2.1	2.1	2.1	1	1	11.0	3.00	27.0	Pr-1390	比萨(伊)瓦片	图例符号
				2.66	2.66	2.66	2	1	11.0	3.00	27.0	Pr-1391	比萨(伊)瓦片	图例符号
				3.44	3.44	3.44	3	1	11.0	3.00	27.0	Pr-1392	比萨(伊)瓦片	图例符号
SB-24	一次层区	N-20°-E	2 X 1	2.7	2.7	2.7	1	1	146.0	100.0	74.0	Pr-1379	比萨(伊)瓦片	图例符号
				2.48	2.48	2.48	2	1	146.0	100.0	74.0	Pr-1380	比萨(伊)瓦片	图例符号
				3.64	3.64	3.64	3	1	146.0	100.0	74.0	Pr-1381	比萨(伊)瓦片	图例符号
				2.7	2.7	2.7	4	1	146.0	100.0	74.0	Pr-1382	比萨(伊)瓦片	图例符号
				2.5	2.5	2.5	5	1	146.0	100.0	74.0	Pr-1383	比萨(伊)瓦片	图例符号

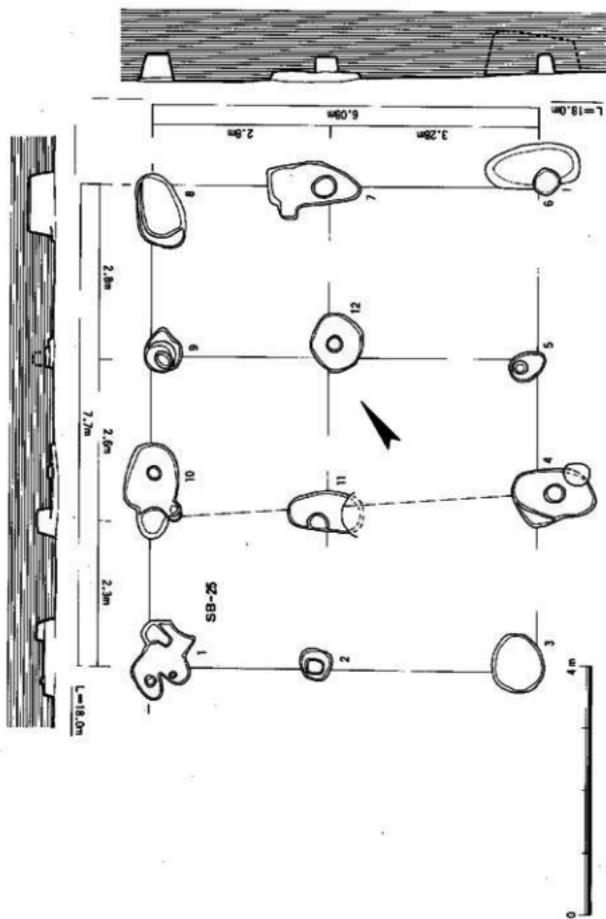


Fig. 22 SB25 建物検出状況実測図 (縮尺1/80)

Tab.14 SB25 遺物検計測表

遺物番号	検出区	一次区	二次区	遺物名	検出方向	探検小砂	探検方法	探検日時	探検者	探検時間	探検場所	探検深度	附録番号	遺物種類	検出層										
SB-25	一次区	N	3 X 2					2.8	2.8	2.8	2.8	2.8	118.0	不審形	118.0	118.0	20.0	Pr-1027	土器上層片	赤土中層					
								2.8	2.8	2.8	2.8	2.8	50.0	刀	50.0	56.0	36.0	Pr-1041	土器上層片	赤土中層					
								2.8	2.8	2.8	2.8	2.8	96.0	門形	96.0	84.0	33.0	Pr-1115	土器上層片	赤土中層					
								7.7	7.7	7.7	7.7	7.7	126.0	門形	126.0	96.0	36.0	Pr-1109	土器上層片	赤土中層					
								2.8	2.8	2.8	2.8	2.8	56.0	門形	56.0	44.0	29.0	Pr-1105	土器上層片	赤土中層					
								6.08	6.08	6.08	6.08	6.08	146.0	門形	146.0	74.0	70.0	Pr-1306	土器上層片	赤土中層					
								2.8	2.8	2.8	2.8	2.8	144.0	門形	144.0	96.0	36.0	Pr-1094	土器上層片	赤土中層					
								7.7	7.7	7.7	7.7	7.7	124.0	門形	124.0	74.0	44.0	Pr-1089	土器上層片	赤土中層					
								2.8	2.8	2.8	2.8	2.8	48.0	門形	48.0	36.0	32.0	Pr-1092	土器上層片	赤土中層					
								2.8	2.8	2.8	2.8	2.8	154.0	門形	154.0	84.0	28.0								
								2.48	2.48	2.48	2.48	2.48	108.0	不審形	108.0	63.0	27.0	Pr-1032	土器上層片	赤土中層					
								7.7	7.7	7.7	7.7	7.7	24.0	刀	24.0	24.0	31.0	Pr-1096	土器上層片	赤土中層					
2.8	2.8	2.8	2.8	2.8																					

12が方形を呈する。柱穴の大きさは最大が1.54m×0.84mを測り、最小は0.50m×0.50mを測る。柱穴から出土する遺物は、甕形土器・壺形土器の口縁部・胴部破片でFig.53-29 (Pit-998)を図示したが、時期としては弥生時代中期に比定できる。

SB-26 (Fig. 9・23 Tab.15)

SB-26はⅡ区の西中央部の第25円形住居址西側に位置し、切り合い関係は無い。方位はN-68°-Wを持ち、標高17.70mを測る3間×1間の掘立柱建物である。桁行8.44m、梁行3.0mである。桁行柱穴2-3の計測は3.38m、3-4は3.44m、4-5は1.62m、6-7は1.80m、7-8は3.4m、8-1は3.20mを測る。梁行の1-2は3.0mを測り、5-6も3.0mを測る。床面積25.3㎡である。柱穴の形状は1・3・4が円形を呈し、2が楕円形、5・6・7・8が不整形を呈する。柱穴の大きさは最大が0.85m×0.75mを測り、最小は0.31m×0.30mを測る。柱穴の遺物は甕形土器・壺形土器の口縁部・胴部の破片で図化に耐えるものはないが、時期としては弥生時代中期に比定できる。

SB-27 (Fig. 9・23 Tab.15 PL.6-2)

SB-27はⅡ区の最も南に位置するSC-27の円形住居址内にあり、SC-27との切り合い関係を持つ。方位はN-17°-Eを持ち、標高17.59mを測る1間×1間の掘立柱建物である。桁行3.69m、梁行3.2mである。桁行柱穴1-2の計測は3.69m、3-4の計測3.60mを測る。梁行の2-3は3.2mを測り、4-5は3.16mを測る。床面積11.6㎡である。柱穴の形状は1が円形、2・3・4が楕円形を呈する。柱穴の大きさは最大が0.68m×0.50mを測り、最小は0.44m×0.42mを測る。柱穴から出土する遺物は、甕形土器・壺形土器の口縁部・胴部の破片で図化に耐えるものはないが、時期としては弥生時代中期に比定できる。

弥生時代後期の掘立柱建物

弥生時代後期の掘立柱建物は7棟検出した。

SB-28 (Fig. 9・24・53 Tab.16)

SB-28はⅡ区の南中央部のSC-26円形住居址北側に位置し、切り合い関係は無い。方位はN-76°-Wを持ち、標高17.43mを測る2間×2間の掘立柱建物である。桁行6.17m、梁行3.93mである。桁行柱穴3-4の計測は2.46m、4-5は3.71m、7-8は2.65m、8-1は3.32mを測る。梁行の1-2は2.29mを測り、2-3は1.64m、5-6は1.61m、6-7は2.31mを測る。床面積23.8㎡である。柱穴の形状は2・4が円形、3・6が楕円形、1・5・7・8が不整形を呈する。柱穴の大きさは最大が1.26m×1.18mを測り、最小は0.40m×0.40mを測る。柱穴から出土する遺物は、甕形土器・壺形土器の口縁部・胴部の破片でFig.53-30-33 (Pit-1625・1456・1430)が図示できたが、時期としてはFig.53-30より弥生時代後期に比定できる。

SB-29 (Fig. 9・24 Tab.16)

SB-29はⅡ区の東中央部のSC-21円形住居址西側に位置し、切り合い関係は無い。方位はN-40°-Eを持ち、標高17.63mを測る1間×1間の掘立柱建物である。桁行2.04m、梁行2.0mである。桁行柱穴2-3の計測は2.0m、4-1の計測2.04mを測る。梁行の1-2は2.0mを測り、3-4は2.0mを測る。床面積4.0㎡である。柱穴の形状は1・3が円形を呈し、2・4が楕円形を呈する。柱穴の大きさは最大が0.75m×0.70mを測り、最小は0.54m×0.50mを測る。柱穴から出土する遺物は、甕形土器・壺形土器の口縁部の小片で図化に耐えるものはないが、時期としては弥生時代後期に比定できる。

SB-30 (Fig. 9・25・53 Tab.17)

SB-30は南西隅に1棟だけあり、北東から南西の方向に建物配置をもつ。方位はN-27°30'-E

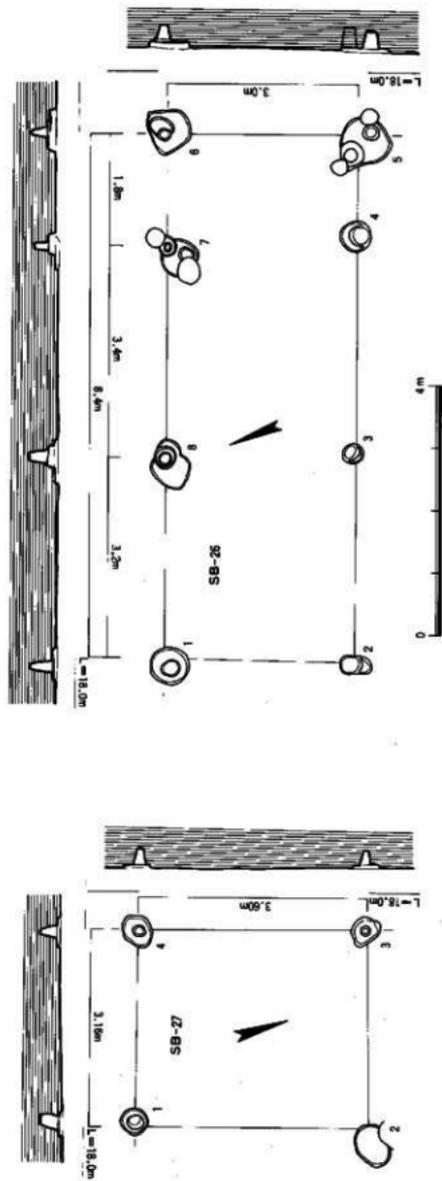


Fig. 23 SB26・27 建物検出状況実測図 (縮尺1/80)

Tab.15 SB26・27 建物跡計測表

建物番号	地名	区域	地番	方位	面積	形状	形式	用途	構造	材料	層高	面積	用途	保存状況
SB-26	1	円形	1.0	土	46.0	46.0	46.0	46.0	土層含外土遺物	現存
					2	円形	44.0	25.0	39.0	44.0	44.0	土層含外土遺物	現存	
					3	円形	21.0	30.0	39.0	44.0	44.0	土層含外土遺物	現存	
					4	円形	50.0	49.0	31.0	44.0	44.0	土層含外土遺物	現存	
					5	小正方形	66.0	75.0	40.0	44.0	44.0	土層含外土遺物	現存	
					6	小正方形	79.0	36.0	38.0	44.0	44.0	土層含外土遺物	現存	
					7	不規則形	82.0	65.0	44.0	44.0	44.0	土層含外土遺物	現存	
					8	不規則形	44.0	42.0	36.0	44.0	44.0	土層含外土遺物	現存	
SB-27	1	円形	1.0	土	68.0	68.0	68.0	土層含外土遺物	現存	
					2	円形	36.0	40.0	29.0	44.0	44.0	土層含外土遺物	現存	
					3	円形	46.0	40.0	29.0	44.0	44.0	土層含外土遺物	現存	
					4	円形	46.0	40.0	29.0	44.0	44.0	土層含外土遺物	現存	

を持ち、標高17.83mを測る1間×1間の掘立柱建物である。桁行3.62m、梁行2.6mである。桁行柱穴1～2の計測は3.62m、3～4は3.6mを測る。梁行の2～3は2.6mを測り、4～1は2.6mを測る。床面積9.4m²である。柱穴の形状は1・3が円形、2が方形、4が不整形を呈する。柱穴の大きさは最大が0.72m×0.68mを測り、最小は0.44m×0.44mを測る。柱穴から出土する遺物は、甕形土器・壺形土器の口縁部・胴部破片で図化したものは、Fig.53-34～36 (Pit-1138・1134・1132)の3点であるが、Fig.53-36から時期としては弥生時代後期に比定できる。

SB-31 (Fig. 9・25・53 Tab.17)

SB-31はSC-25の東に位置し、北西から南東の方向に建物配置をもつ。方位はN-39°-Eを持ち、標高17.55mを測る2間×2間の総柱掘立柱建物である。桁行5.38m、梁行3.44mである。桁行柱穴3～4の計測は2.56m、4～5は2.8m、7～8は2.98m、8～1は2.4mを測る。梁行の1～2は1.4mを測り、2～3は1.98m、5～6は1.66m、6～7は1.78mを測る。床面積18.3m²である。柱穴の形状は4・5・8が方形、1・2・3・7が楕円形、6が不整形を呈する。柱穴の大きさは最大が0.82m×0.56mを測り、最小は0.52m×0.40mを測る。図化できた柱穴から出土する遺物は、壺形土器の口縁部でFig.53-37 (Pit-1460) 1点のみの出土であるため時期を決定するにはいたらなかったが、遺物が中期のものであることから時期としては弥生時代中期から後期に比定できる。

SB-32 (Fig. 9・26 Tab.18)

SB-32はSC-26の北東に位置し、北東から南西の方向に建物配置をもつ。方位はN-41°-Eを持ち、標高17.49mを測る2間×1間の掘立柱建物である。桁行4.32m、梁行2.74mである。桁行柱穴1～2の計測は2.24m、2～3は2.08m、4～5は1.92m、5～6は2.4mを測る。梁行の3～4は2.74mを測り、6～1は2.70mを測る。床面積11.8m²である。柱穴の形状は3が円形、2・5が楕円形、1・4・6が不整形を呈する。柱穴の大きさは最大が0.74m×0.70mを測り、最小は0.56m×0.42mを測る。柱穴から出土する遺物は、甕形土器・壺形土器の口縁部・胴部の破片で図化に耐えるものはないが、時期としては弥生時代後期に比定できる。

SB-33 (Fig. 9・26 Tab.18 PL.7-2)

SB-33は中央部南隅に位置し、北東から南西の方向に建物配置をもつ。方位はN-36°-Eを持ち、標高17.70mを測る1間×1間の掘立柱建物である。桁行3.0m、梁行2.4mである。桁行柱穴2～3の計測は3.0m、4～1の計測2.96mを測る。梁行の1～2は2.4mを測り、3～4は2.32mを測る。床面積7.00m²である。柱穴の形状は1が円形を呈し、4が楕円形、2・3が不整形を呈する。柱穴の大きさは最大が1.26m×0.70mを測り、最小は0.52m×0.46mを測る。柱穴から出土する遺物は、甕形土器・壺形土器の口縁部・胴部の破片で図化に耐えるものはないが、時期としては弥生時代後期に比定できる。

SB-34 (Fig. 9・26 Tab.18)

SB-34は中央部よりやや西のSC-25円形住居址南西側に位置し、SB-28との切り合い関係を持つ。方位はN-38°-Wを持ち、標高17.67mを測る3間×2間の掘立柱建物である。桁行5.84m、梁行3.21mである。桁行柱穴1～2の計測は2.38m、2～3は1.72m、3～4は1.74m、6～7は1.44m、7～8は2.10m、8～9は2.30mを測る。梁行の4～5は1.56mを測り、5～6は1.65m、9～10は1.54m、10～11は1.64mを測る。床面積18.7m²である。柱穴の形状は1・10が円形、2・3・5・6・9が楕円形、4が方形、7・8が不整形を呈する。柱穴の大きさは最大が0.92m×0.50mを測り、最小は0.28m×0.26mを測る。柱穴から出土する遺物は、甕形土器・壺形土器の胴部破片だけで図化に耐えるものはないが、時期としては弥生時代後期に比定できる。

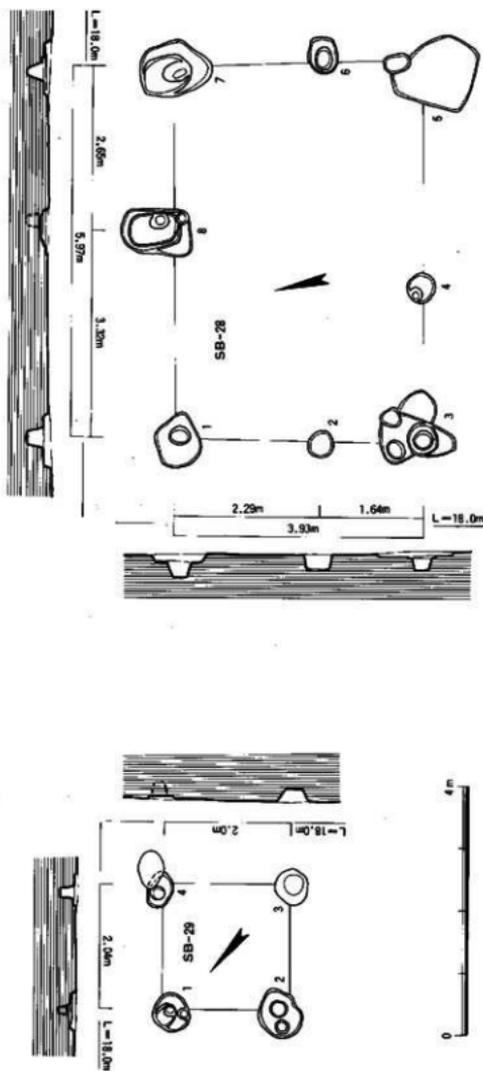


Fig. 24 SB28・29 遺物検出状況実測図(縮尺1/80)

Tab.16 SB28・29 遺物設計調査

遺物番号	検出位置	埋藏深(1/4幅以内)	埋藏深(1/4幅以外)	実埋深	埋藏深(1/4幅以内)	埋藏深(1/4幅以外)	実埋深	形状	容積	層	遺物	数量	注目品	出土層	遺物種類	検出年代	
SB28	一次注目区	埋藏深 1.70' 容 2 × 2			2.59	23.8		1 不審形	88.0	70.0	36.0	Pt-1262		埋藏土層片	埋藏土層片		
				3.53	1.64		2 円形	45.0	40.0	27.0	Pt-1261		埋藏土層片	埋藏土層片			
							3 横円形	74.0	56.0	30.0	Pt-1264		埋藏土層片	埋藏土層片			
							4 円形	46.0	40.0	36.0	Pt-1263		埋藏土層片	埋藏土層片			
							5 不審形	126.0	118.0	34.0	Pt-1267		埋藏土層片	埋藏土層片			
							6 横円形	56.0	44.0	28.0	Pt-1265		埋藏土層片	埋藏土層片			
SB29	一次注目区	埋藏深 1.40' 容 1 × 1			2.65	2.81		7 不審形	106.0	70.0	31.0	Pt-1450		埋藏土層片	埋藏土層片		
							8 不審形	62.0	58.0	38.0	Pt-723		埋藏土層片	埋藏土層片			
							3 横円形	75.0	70.0	36.0	Pt-725		埋藏土層片	埋藏土層片			
							4 横円形	58.0	40.0	27.0	Pt-727		埋藏土層片	埋藏土層片			

3. 第三・IV区の調査

第三区の調査 (Fig.27 PL.17-1)

III区全体で表土排除作業を行った面積は、4,000 m^2 であるが、検出した遺構は甕棺墓14基と台地を切断する幅12~20mの旧河川である。この旧河川は断面調査の結果、両岸に杭列が検出され、底面付近から弥生時代前期末から中期の土器が出土した。杭列等の検出により旧河川は人工的に使用した可能性が高い。また、人工的に手を加え使用した時期は底面付近から出土した弥生時代前期末から中期の時期と考えられる。

第四区の調査 (Fig.28-31 Tab.19-21 PL.17-2, 18-23)

IV区 調査対象面積は、6,000 m^2 で表土排除作業4,500 m^2 である。検出した遺構は、弥生時代前期末の甕棺墓23基(金海式甕棺墓)・堅穴式住居址17軒・溝1条、弥生時代中期初頭~後半にかけての竪穴式住居址6軒・甕棺墓126基・井戸1基・掘立柱建物6棟を検出した。

IV区の掘立柱建物

SB-35 (Fig.28・29 Tab.19)

SB-35はIV区の中央部北側のSC-50・51の方形住居址南側に位置し、SC-66との切り合い関係を持つ。方位は $N-9^{\circ}-W$ を持ち、標高18.85mを測る3間 \times 1間の掘立柱建物である。桁行5.5m、梁行2.4mである。桁行柱穴2-3の計測は1.72m、3-4の計測1.7mを測り、4-5は2.08m、6-7は2.04mを測る。梁行の1-2は2.18mを測り、5-6は2.40mを測る。床面積12.5 m^2 である。柱穴の形状は1・2・4・8が円形を呈し、3・5・6・7が楕円形を呈する。柱穴の大きさは最大が0.64m \times 0.54mを測り、最小は0.38m \times 0.32mを測る。柱穴から出土する遺物は、甕形土器・壺形土器の口縁部・胴部破片で図化に耐えるものはないが、時期としては弥生時代中期に比定できる。

SB-36 (Fig.28・29 Tab.19)

SB-36はIV区の西隅に位置し、北西から南東に建物方向をもつ。SC-60-62、69との切り合い関係を持つ。方位は $N-70^{\circ}-W$ を持ち、標高19.05mを測る1間 \times 1間の掘立柱建物である。桁行3.5m、梁行2.62mである。桁行柱穴2-3の計測は3.54m、4-1の計測3.5mを測る。梁行の1-2は2.62mを測り、3-4は2.52mを測る。床面積9.04 m^2 である。柱穴の形状は1が円形を呈し、2・3が楕円形、4が隅丸方形を呈する。柱穴の大きさは最大が0.48m \times 0.30mを測り、最小は0.30m \times 0.30mを測る。柱穴から出土する遺物は、甕形土器・壺形土器の胴部破片で図化に耐えるものはないが、時期としては弥生時代前期末に比定できる。

SB-37 (Fig.28・30 Tab.20)

SB-37はIV区の西隅に位置し、北東-南西に建物方向を有し、SC-69・70・SB-39との切り合い関係を持つ。方位は $N-70^{\circ}-E$ を持ち、標高19.05mを測る1間 \times 1間の掘立柱建物である。桁行2.28m、梁行1.86mである。桁行柱穴1-2の計測は2.88m、3-4は3.0mを測る。梁行の2-3は1.9mを測り、4-1は1.86mを測る。床面積5.5 m^2 である。柱穴の形状は2・3が円形を呈し、1・4が楕円形を呈する。柱穴の大きさは最大が0.60m \times 0.50mを測り、最小は0.50m \times 0.43mを測る。柱穴から出土する遺物は、甕形土器・壺形土器の胴部破片と口縁部の小片で図化に耐えるものはないが、時期としては弥生時代前期末に比定できる。

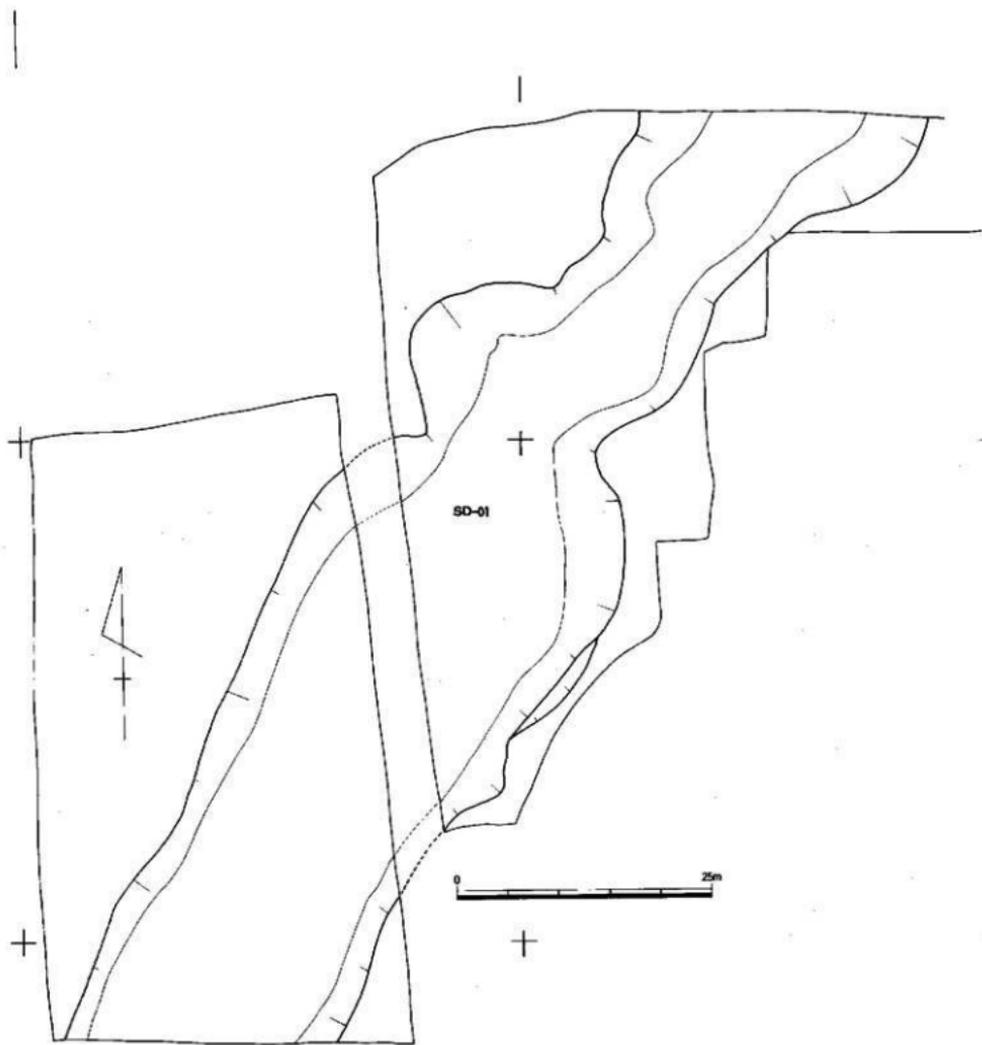


Fig.27 第一次調查新生時代地層分布圖(重慶) (縮尺1/500)



Fig.28 第一次調査弥生時代遺構分布図(N区)(縮尺1/300)

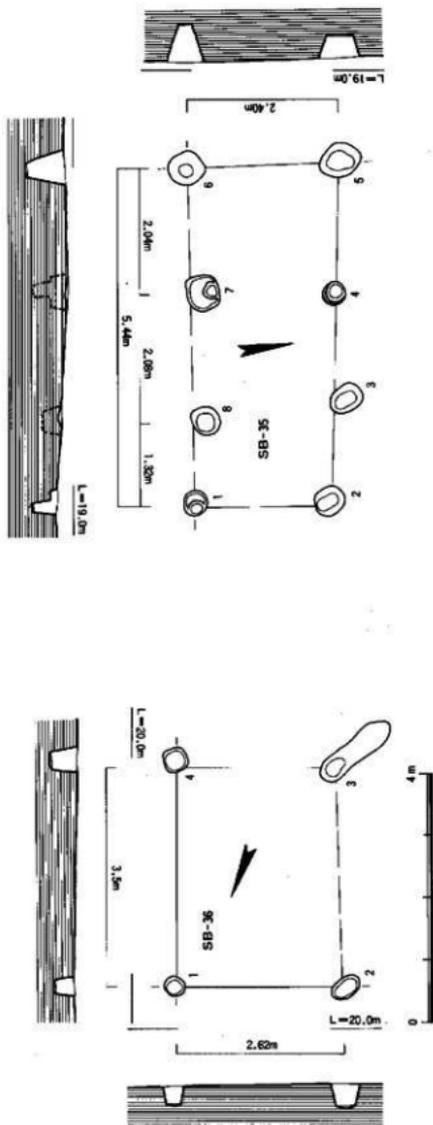


Fig. 29 SB35・36 塵物檢出状況測定器 (縮尺1/80)

Tab.19 SB35・36 塵物設計測定

塵物番号	捕集名	捕集方向	捕集位置	捕集面積 (cm ²)	捕集時間 (分)	捕集量 (g)	捕集率 (%)	捕集回数 (回)	捕集場所	捕集時期	捕集者	目録番号		捕集場所	捕集時期	捕集者	
												目録番号	目録番号				
SB-35	吹集式	吹集式	吹集式	3 × 1	12.5	2.19	2.19	12.5	3	1	吹集式	吹集式	吹集式	吹集式	吹集式	吹集式	吹集式
					1.72												
				0.5	1.7												
					2.08												
					2.00												
					2.08												
					1.32												
					2.02												
SB-36	吹集式	吹集式	吹集式	1 × 1	9.04	2.82	2.82	9.04	2	1	吹集式	吹集式	吹集式	吹集式	吹集式	吹集式	吹集式
					3.54												
					3.54												
					2.82												
					3.5												

SB-38 (Fig. 28・30 Tab.20)

SB-38はⅣ区西隅のSC-71の下層から検出された遺構で、SC-63・64の竪穴式住居址との関連が考えられる。方位はN-63°-Eを持ち、標高19.05mを測る2間×1間の掘立柱建物である。桁行4.11m、梁行2.32mである。桁行柱穴1-2の計測は1.46m、2-3の計測2.65mを測り、4-5は2.62m、5-6は1.48mを測る。梁行の3-4は2.32mを測り、6-1は2.28mを測る。床面積9.4㎡である。柱穴の形状は1・4が円形を呈し、2・3・5・6が楕円形を呈する。柱穴の大きさは最大が0.72m×0.70mを測り、最小は0.40m×0.38mを測る。柱穴から出土する遺物は、甕形土器の口縁部小片で図化に耐えるものはないが、時期としては弥生時代前期末に比定できる。

SB-39 (Fig. 28・30 Tab.20)

SB-39はⅣ区西隅のSC-69・70の下層から検出された遺構で、SC-60-64の前期末の竪穴式住居址との関連が窺える。方位はN-9°30'-Wを持ち、標高19.06mを測る2間×1間の掘立柱建物である。桁行4.16m、梁行2.62mである。桁行柱穴1-2の計測は2.64m、2-3の計測1.5mを測り、4-5は1.22m、5-6は2.94mを測る。梁行の3-4は2.62mを測り、6-1は2.6mを測る。床面積13.8㎡である。柱穴の形状は2・3・5・6が楕円形、1が不整形を呈し、4が隅丸方形を呈する。柱穴の大きさは最大が0.94m×0.70mを測り、最小は0.42m×0.36mを測る。柱穴から出土する遺物は、甕形土器・壺形土器の口縁部・胴部破片で図化に耐えるものはないが、時期としては弥生時代前期末に比定できる。

SB-40 (Fig. 28・31 Tab.21)

SB-40はⅣ区西隅住居址の一群に位置し、北西から南東の建物方向を有する。SC-69・70、SB-39との切り合い関係を持つ。方位はN-73°-Wを持ち、標高19.06mを測る2間×1間の掘立柱建物である。桁行4.36m、梁行2.64mである。桁行柱穴2-3の計測は2.46m、3-4の計測1.9mを測り、5-6は1.98m、6-1は2.32mを測る。梁行の1-2は2.64mを測り、4-5は2.56mを測る。床面積11.3㎡である。柱穴の形状は4が円形を呈し、2が楕円形を呈し、1・3・5が不整形を呈し、6が隅丸方形を呈する。柱穴の大きさは最大が0.70m×0.66mを測り、最小は0.36m×0.32mを測る。柱穴から出土する遺物は、甕形土器の口縁部破片で図化に耐えるものはないが、時期としては弥生時代中期に比定できる。

SB-41 (Fig. 28・31 Tab.21)

SB-41はⅣ区西隅住居址の一群に位置し、SC-60・69との切り合い関係を持ち、北西から南西への建物方向を有する。方位はN-60°-Wを持ち、標高19.04mを測る1間×1間の掘立柱建物である。桁行3.62m、梁行2.92mである。桁行柱穴2-3の計測は3.6m、4-1の計測3.62mを測る。梁行の1-2は2.92mを測り、3-4は2.92mを測る。床面積10.5㎡である。柱穴の形状は1・4が円形を呈し、2が楕円形を呈し、3が隅丸方形を呈する。柱穴の大きさは最大が0.64m×0.30mを測り、最小は0.42m×0.40mを測る。柱穴から出土する遺物は、甕形土器・壺形土器の胴部破片で図化に耐えるものはないが、時期としては弥生時代中期に比定できる。

4. 第一次調査小結

第Ⅰ・Ⅱ区の掘立柱建物

第Ⅰ・Ⅱ区の掘立柱建物は、34棟と構状遺構1条を検出した。しかしながらⅠとⅡ区の間には約300mの距離があり、その間の遺構の実態は不明であるが、Ⅰ区の状態からⅡ区と同様の遺構が遺存しているものと考えられる。

第Ⅱ区の弥生時代前期の住居址はその殆どが後世の遺構により破壊されているため、その実態は把握できないが、現存する遺構は竪穴式住居址が3(5)軒、木棺墓1基、甕棺墓が44基検出され、その内の1基は倒置棺であった。成人棺の内、2基から棺外副葬品(板付Ⅱ式の壺、内1点は彩文土器)が出土した。甕棺墓の広がりにはⅡ区の周辺部を取り囲むように南から北側方向に進み、それから西方方向に10基前後の甕棺墓が二ないし三つのブロックを形成している。

弥生時代中期の円形住居址は21軒検出した。遺構の遺存状態は非常によく壁高が40~50cm程度残っているものも少なくない。弥生時代中期の甕棺墓は小児棺が2基検出しただけで、成人棺はⅡ区にはなくⅢ区北側部分に広がっている。

弥生時代中期に属する掘立柱建物は26棟検出された。切り合い関係が多く、かなりの建替を行なったことが判明した。竪穴式円形住居址もかなりの建替が行われている。特にSC-03・16・17やSC-04・18・19・SC-21~23等同じ弥生時代中期の範疇にあっても切り合い関係があり、1軒の存続期間が問題となる。

整理作業が現在進行中であるため、住居址自体の切り合い関係・時期区分・一時期に何軒の住居址があるのか、掘立柱建物が何棟あるのかの検討が終了していない。

この段階で考察を加えるのは非常に無謀としかいえないが、あえて考察を加えることにする。

住居址1軒に対して掘立柱建物数が不確定であるが、おおよその数と建替られた可能性のある掘立柱建物を検討すると、SB-02と03、SB-04と05・06、SB-07と09・12、SB-08と10・11、SB-13と14・15、SB-16と19、SB-17と18、SB-22と24、SB-23と26とが考えられる。建物の規模は1間×1間が02・03・04・05・06・18・20・27の8棟、2間×1間が08・10・11・13・14・15・17・21・23・24の10棟、3間×1間が22・26の2棟、2間×2間はなく、3間×2間が07・09・12・19・25の6棟である。

住居址の切り合い関係から3~4時期に区分できるものと思われるが、今回は3時期に区分をする。一番新しい住居址はSC-17・18・20・21の4軒で、これに付随する掘立柱建物は、SB-05・08・09・11・15・18・22・23・27の10棟である。次にSC-23・24・25・26の4軒で掘立柱建物は、02・03・06・10・12・13・17・25・26の9棟である。最も古い時期と考えられる住居址は、SC-03・19・22・27の4軒で掘立柱建物は04・07・14・19・20・21・24の7棟である。これの平均を出すと、1軒あたり2棟前後の掘立柱建物を有することになる。特に3間×2間は、各時期に2~3軒を持つ。

住居址の形態から、第1段階(古い時期)には、大型の円形住居址であり、第2段階には小型の円形住居址が考えられ、第3段階ではやや中間の大きさとなる。これはSC-21・22・23の切合い及び、SC-18・19の切合い関係で明らかで、SC-22の後にSC-23が作られ、その後にSC-21が作られたものである(SC-02・04・05、SC-32・33は前期の時期)。

弥生時代後期では、竪穴住居址で5軒、掘立柱建物7軒が検出された。時期的には2時期を限定することができ、SC-35・37の古い段階の竪穴住居址とSB-16・29・31・34の掘立柱建物とSC-34・36・38の住居址とSB-30・32・33の掘立柱建物である。

第Ⅳ区の掘立柱建物

第Ⅳ区の掘立柱建物は7棟検出した。竪穴式住居址は弥生時代前期の方形住居址が17軒、弥生時代中期の円形住居址が6軒検出された。掘立柱建物の内4棟(SB-36・37・38・39)が弥生時代前期に比定でき、中期の掘立柱建物はSB-35・40・41の3棟である。

弥生時代前期の竪穴式住居址(SC-50~58)は北東側に位置するものと、南西側に位置(SC-59~64)するものと、南側に位置(SC-65)するものとに別れる。前期・中期の掘立柱建物は西側・南側に有するものと考えられ、第二次調査のⅢ区から検出された掘立柱建物がそれに当るものと思われる。

第三節 第二次調査報告

1. 調査概要

V・VI区が3,400㎡、VII区が3,300㎡、VIII区が2,800㎡、IX区が7,100㎡、X区及び道路・水路部分の調査で4,168㎡、計20,768㎡を調査した。

V・VI区の調査

検出された主な遺構は、縄文時代後期初頭の貯蔵穴、弥生時代中期の溝・掘立柱建物と奈良時代の溝である。

縄文時代後期の遺構

貯蔵穴を47基検出した。中央部に柱・柱痕を残すものが約半数ある。最大のものはST-16で径3.9m、深さ1.6mである。最小のものはST-38で、径1.9m、深さ1.8mである。形状は楕円形やわずかに袋状を呈するもの、ほぼ垂直に落ちるものの三種類に大別できる。出土遺物は土器のほか種子（ドングリ等）が約半数の貯蔵穴から出土した。土器形式は後期初頭に出土する鐘崎式・北久根式土器を中心に出土している。早良平野で縄文後期初頭の遺構が発見されたのは有田遺跡について2例目である。

弥生時代中期の遺構

三条の溝と掘立柱建物1棟を検出した。溝は台地を北西から南東に切断するSD-10にSD-11・12が流れ込む状態で検出された。SD-10の南東端は台地が段落ちする部分まで続く形状を呈するが、台地が削平されているため全体の形状は不明である。SD-11は環濠状を呈するものと考えられ再度SD-10に流れ込むものと思われる。現存する深さは50cm程度しかなく底面に近い部分であったが、土器は多量に出土した。特に祭祀用に使用された丹塗りの高杯形土器・甕形土器・壺形土器が多く出土した。

SD-10は幅3m、深さ1.5mの大溝であり、溝内より多量の土器と共に三叉鉄・平鉄の柄・用途不明の木器が出土した。SD-11が幅1.9m、深さ0.4m、SD-12は幅2.5m、深さ0.7mである。

掘立柱建物は2間×2間の建物でSD-11に囲まれた中に検出した。

VII区の調査

弥生時代中期の遺構と中世の遺構を検出した。

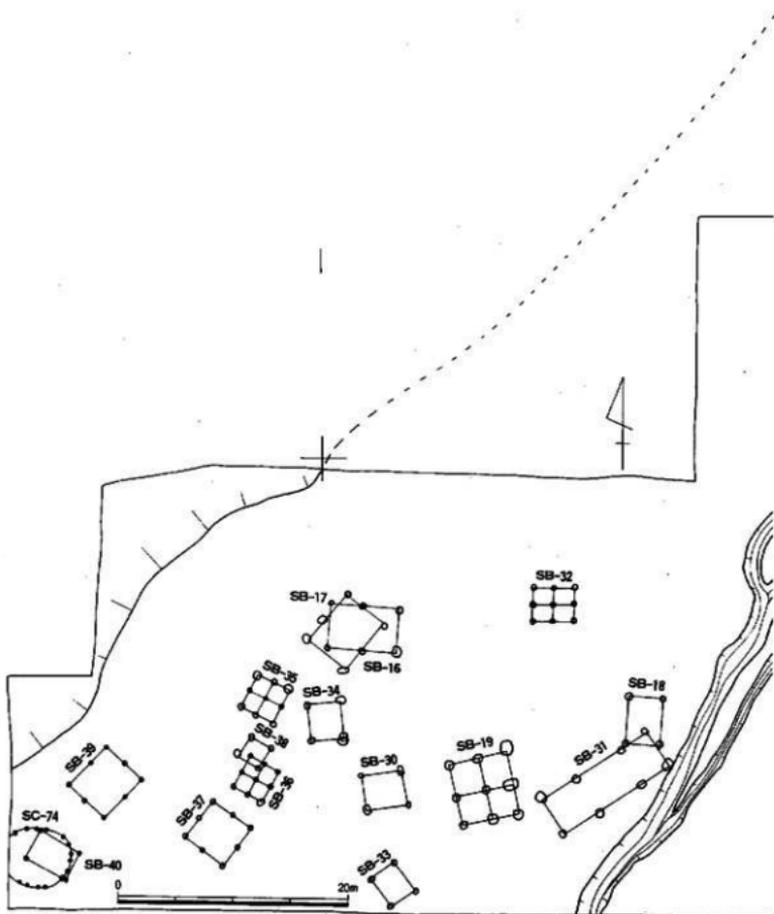
弥生時代の遺構

VII区の調査で溝七条・甕棺墓1基・掘立柱建物2棟・ピット多数を検出した。この中で弥生時代に属するものは、SD-14・15・16・17・18、甕棺墓1基、掘立柱建物2棟である。SD-14は中央部の約6mに出入口が設けられ両側に巡る環濠である。SD-16はSD-13の下層から検出したもので、二又・三又鉄や浮子等が出土した。

SD-15は台地の端部に作られたものであるが、両端に杭を打ち込み取水口状遺構としている。この中からスコップ状木器等が出土した。甕棺墓は1基だけ出土したが、殆ど削平され約1/4しか遺存していない。掘立柱建物はSD-14内から2棟検出した。

VIII区の調査

VIII区の調査で検出した遺構は旧河川SD-02と掘立柱建物33棟、不整形土壌状遺構32基、井戸状遺構1基を検出した。北側に位置し、東西に流れるSD-02は幅14～21mで台地を二分する。下層から出土する土器は城ノ越式土器が主である。ただこの旧河川の上面にあるSX-21・27から出土する土器は須恵器出現の初期段階のものであることからこの以前に埋まったことが明らかである。この他には弥生時代に属する遺構は見られない。古墳時代の掘立柱建物が旧河川を境にして北側は、古式土師器を主体とするのに対して、南側は須恵器を主体とした掘立柱建物群である。



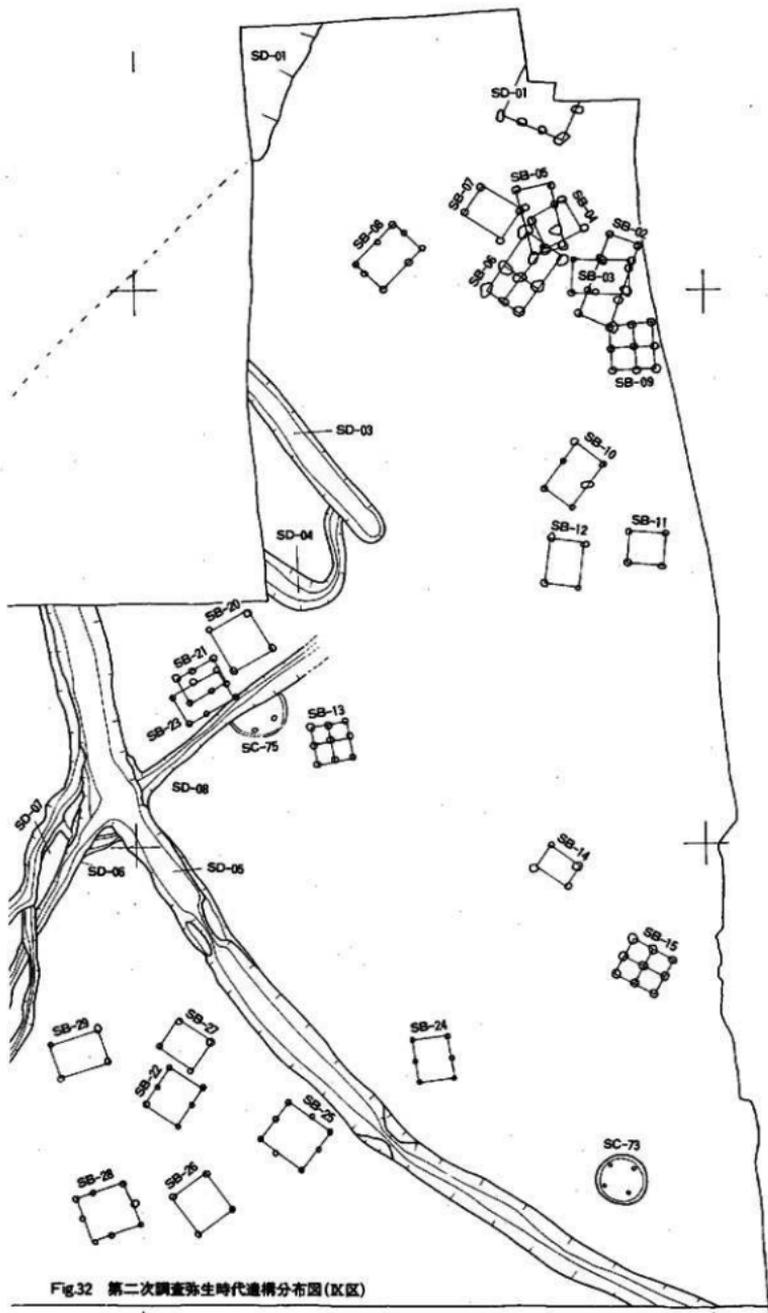


Fig.32 第二次調查發見時代遺構分布圖(B區)

Ⅹ区の調査

Ⅹ区は7,100㎡を発掘調査した。Ⅹ区はSD-01（旧河川：おそらく旧日向川及びその支流と思われる）SD-02（SD-01と同様に旧河川）に挟まれた台地に弥生時代前期から古墳時代初期にかけての遺構が重複している。特に弥生時代の遺構はⅩ区全域に広がっている。この台地を三分する溝が四条（SD-05～08）がある。この四つの溝は合流してSD-05となりSD-01に流れ込む。これによって台地が三分される。時期は弥生時代後期に形成されており、合流点には堰状遺構が検出された。

SD-01は第1次調査のⅢ区から検出された旧河川の上流部分であり、時期はⅢ区の下層で出土した土器から弥生時代前期から中期初頭と考えられる。

古墳時代の遺構は竪穴式住居址1軒、掘立柱建物18棟、溝状遺構20条等を検出した。

弥生時代の遺構

弥生時代の遺構としてSD-01～08の八条の溝と円形住居址3軒、掘立柱建物40棟、甕棺墓1基を検出した。甕棺墓は北側隅に検出されているところから第一次調査のⅣ区からの続きで、時期も金海式甕棺墓であるところから弥生時代前期末に比定できる。

弥生時代中期に比定できる遺構は、SD-01～04の溝状遺構と円形住居址3軒、掘立柱建物19棟、甕棺墓1基であり、中央部には殆どなく、東西・北側に配置されている。

北側から検出された遺構の内、SD-03・04はSD-01に流れ込むものである。

第一次調査のⅣ区の検出遺構はその殆どが弥生時代の前期から中期に比定でき、第二次調査のⅩ区とは道路幅15mを挟む距離しなく遺構的には同一時期の遺構が近接するものである。ただSD-01がその間にまたがる状態で検出されている。北側にある掘立柱建物12棟と第一次調査のⅣ区の方形住居址・円形住居址・甕棺墓との関連性で考えなければならず、SD-01を環濠として考え、住居址と掘立柱建物との区域を区別としてとらえることもできる。

南東の円形住居址と三棟の掘立柱建物はセットとして考えられるが、SB-13はあまりにも離れ過ぎていて、むしろSC-75とのセットとして考えられる。

西側には円形住居址1軒と4棟の掘立柱建物で構成される。住居址と掘立柱建物との距離が多少気にかかるが、建替等を考えた時、ほぼ妥当な数であろう。

弥生時代後期に比定できる遺構は、SD-13・18～20の溝状遺構と掘立柱建物19棟である。全体的に中央部から西側に位置し、溝によって三つに分けられる。溝はSD-18が中心で、他はSD-18に流れ込む形状を呈している。又このSD-18はSD-01・02とを結ぶ溝であり、堰状遺構からSD-01からの水をSD-02に引く水路である。掘立柱建物は北側に3棟、南側に6棟、西側に9棟あるが、このうちSD-31の3間×2間の掘立柱建物は規模・広さとも他の掘立柱建物をしのぐものである。

Ⅹ区の調査

Ⅹ区は調査区の西側隅に南北に長く市道田・飯盛線の南側に位置し、幅4m、長さ105mの調査区を調査した。

検出された遺構は溝状遺構1条・柱穴・掘立柱建物と考えられる遺構が存在したが、調査区が狭いためその確認はできなかった。時期は、弥生時代後期から古墳時代にかけての遺物が出土している。溝状遺構は古墳時代に属するものであった。

2. 検出掘立柱建物

第Ⅰ区の掘立柱建物 (Fig.32-48 Tab.22-37)

第Ⅰ区の掘立柱建物は弥生時代中期に属する建物が19棟で北側に12棟、中央部に3棟、西側に4棟である。また竪穴式円形住居址が3軒検出された。

弥生時代後期に属する建物が21棟検出され、溝四条によって区分けられている。SD-05・08によって区切られた北側に3棟、南側に6棟、西側に11棟、東側に1棟である。

SB-01 (Fig.32-33 Tab.22 PL.27-1・2)

SB-01はⅠ区の北側に位置し、北側半分は調査区外であったため、その規模は明らかではないが、北西から南東の方向に建物配置があるものと思われる。方位は $N-71^{\circ}-W$ を持ち、標高19.2mを測る3間×1間+@の掘立柱建物である。桁行6.0m、梁行2.58m+@である。桁行柱穴3-4の計測は1.8m、4-5の計測2.0mを測り、5-1は2.2mを測る。梁行の1-2は2.58m+@を測る。床面積15.5m²+@である。柱穴の形状は1が不整形、4が隅丸方形を呈し、2・3・5が楕円形を呈する。柱穴の大きさは最大が1.34m×0.76mを測り、最小は0.58m×0.58mを測る。柱穴から出土する遺物は、甕形土器の口縁部の小片で図化に耐えるものはないが、時期としては弥生時代中期に比定できる。

SB-02 (Fig.32-33 Tab.22 PL.27-1・2、28-1)

SB-02はⅠ区の北東隅に位置し、北東から南西の建物配置を持つ。SB-03-09との切り合い関係を持つ。方位は $N-20^{\circ}-E$ を持ち、標高19.38mを測る3間×1間の掘立柱建物である。桁行7.74m、梁行3.02mである。桁行柱穴2-3の計測は2.26m、3-4の計測3.18mを測り、4-5は2.3m、6-7は2.6m、7-8は2.9m、8-1は2.24mを測る。梁行の1-2は3.02mを測り、5-6は3.02mを測る。床面積23.4m²である。柱穴の形状は2・4・5・7・8が楕円形を呈し、1・3・6が隅丸方形を呈する。柱穴の大きさは最大が0.96m×0.48mを測り、最小は0.40m×0.32mを測る。柱穴から出土する遺物は、甕形土器の口縁部破片で図化に耐えるものはないが、時期としては弥生時代中期に比定できる。

SB-03 (Fig.32-34 Tab.23 PL.27-1・2、28-1)

SB-03はⅠ区の北東隅に位置し、東から西の建物配置を有する。SB-02との切り合い関係を持つ。方位は $N-90^{\circ}-W$ を持ち、標高19.26mを測る2間×1間の掘立柱建物である。桁行5.66m、梁行3.18mである。桁行柱穴2-3の計測は3.06m、3-4の計測2.6mを測り、5-6は2.0m、6-1は3.54mを測る。梁行の1-2は2.98mを測り、4-1は3.18mを測る。床面積17.2m²である。柱穴の形状は2が不整形、1・3-6が隅丸方形を呈する。柱穴の大きさは最大が0.78m×0.58mを測り、最小は0.44m×0.36mを測る。柱穴から出土する遺物は、甕形土器の口縁部・胴部小片で図化に耐えるものはないが、時期としては弥生時代中期に比定できる。

SB-04 (Fig.32-34 Tab.23 PL.27-1・2、28-1)

SB-04はⅠ区の北東隅に位置し、SB-05-06との切り合い関係を持ち、北東から南西への建物配置を有する。方位は $N-58^{\circ}30'-E$ を持ち、標高19.24mを測る1間×1間の掘立柱建物である。桁行3.36m、梁行3.36mである。桁行柱穴1-2の計測は3.36m、3-4の計測3.66mを測る。梁行の2-3は3.18mを測り、4-1は3.36mを測る。床面積11.5m²である。柱穴の形状は1が隅丸方形、2が円形、3・4が楕円形を呈する。柱穴の大きさは最大が1.00m×0.94mを測り、最小は0.60m×0.56mを測る。柱穴から出土する遺物は、甕形土器・壺形土器の口縁部・胴部・底部破片で図化に耐えるものはないが、時期としては弥生時代中期に比定できる。

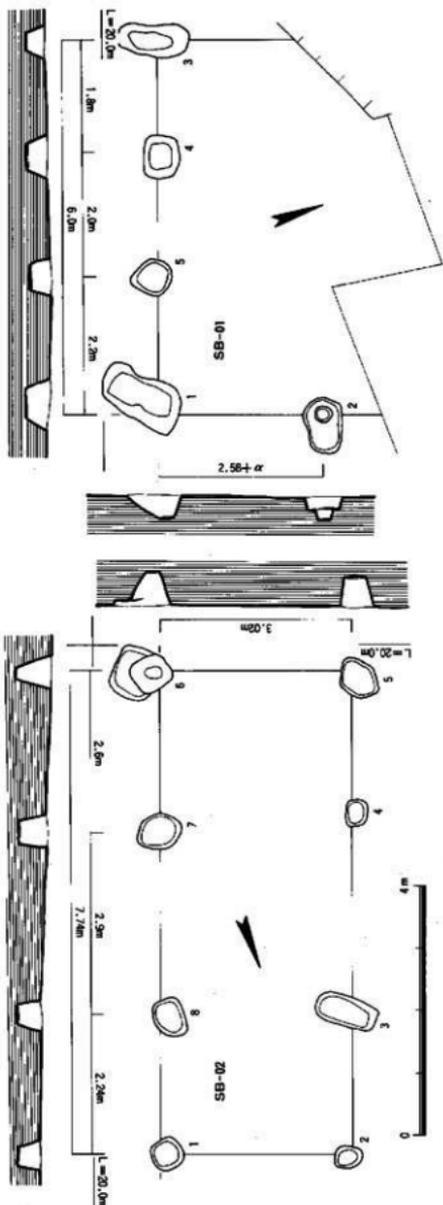
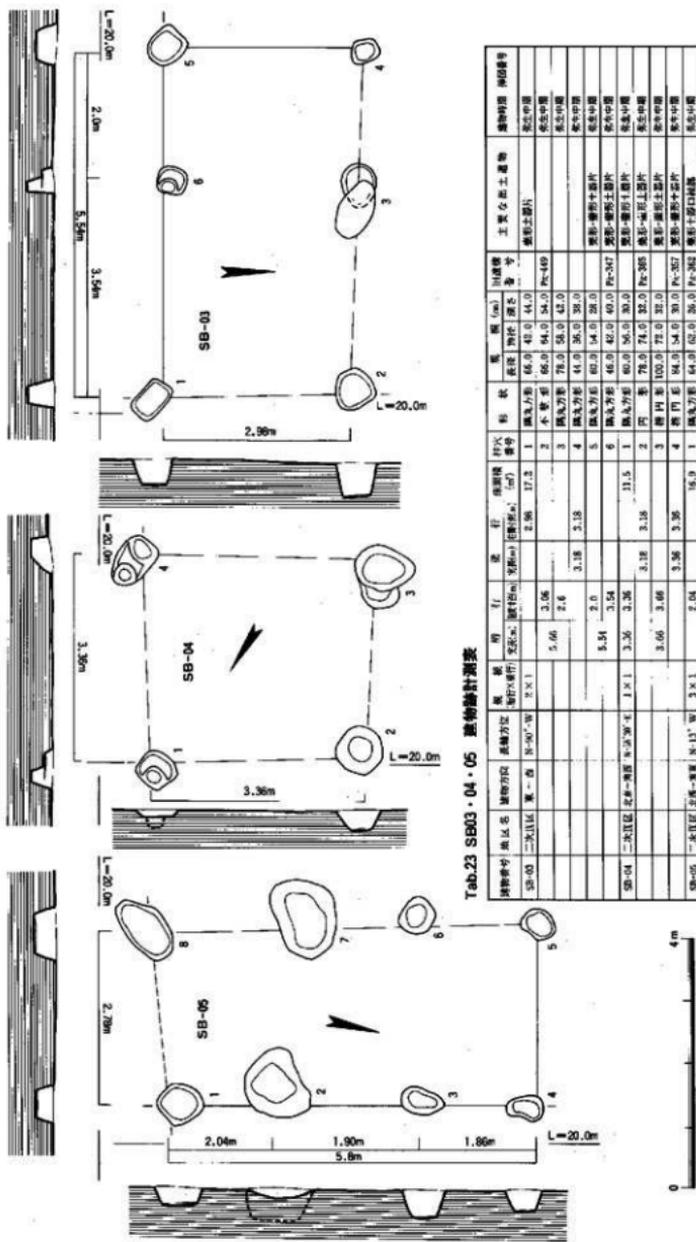


Fig. 33 SB01·02 遺物検出状況実測図 (縮尺1/80)

Tab.22 第二次調査 SB01・02 遺物検出調査表

検出番号	検出位置	層位	面積 (m ²)	形状	長 (m)	幅 (m)	埋藏深度 (m)	埋藏層	遺物種類	検出条件
SB01-02	一次調査	2.00m±0.2	1.8	1	1.2	0.36	0.36	7N-430	磁器土器片	磁器土器片
	二次調査	2.00m±0.2	1.8	1	1.2	0.36	0.36	7N-432	磁器土器片	磁器土器片
	一次調査	2.00m±0.2	2.2	5	0.99	0.50	0.30	7N-433	磁器土器片	磁器土器片
	二次調査	2.00m±0.2	2.2	5	0.99	0.50	0.30	7N-435	磁器土器片	磁器土器片
	一次調査	2.00m±0.2	2.2	5	0.99	0.50	0.30	7N-437	磁器土器片	磁器土器片
SB02-02	一次調査	3.02	1.8	1	1.4	0.40	0.40	7N-548	磁器土器片	磁器土器片
	二次調査	3.02	1.8	1	1.4	0.40	0.40	7N-549	磁器土器片	磁器土器片
	一次調査	3.02	2.9	2	1.48	0.60	0.50	7N-541	磁器土器片	磁器土器片
	二次調査	3.02	2.9	2	1.48	0.60	0.50	7N-542	磁器土器片	磁器土器片
	一次調査	3.02	2.9	2	1.48	0.60	0.50	7N-543	磁器土器片	磁器土器片



Tab.23 SB03・04・05 遺物計測表

測物番号	地区名	遺物方位	長編方式	原 標	用 行	定 行	遺物規模	形式	形 狀	尺 寸	面 積	出 土 層	測物時期	測物番号
SB-03	二次瓦丘	東-西	3-30・30	2 × 1	3.06	2.98	17.2	1	溝ノ形	6.0 × 41.0	24.0	表土層	新瓦中層	
					5.66	2.6		2	木管	66.0 × 64.0	42.0		新瓦中層	
						3.18	3.18	4	溝ノ形	78.0 × 58.0	42.0		新瓦中層	
					5.51	2.0		5	溝ノ形	60.0 × 60.0	36.0		新瓦中層	
					3.36	3.36	31.5	6	溝ノ形	60.0 × 60.0	36.0		新瓦中層	
						3.18		2	門	78.0 × 74.0	57.0		新瓦中層	
					3.66	3.66		3	門	100.0 × 75.0	75.0		新瓦中層	
						3.36	3.36	4	溝ノ形	84.0 × 54.0	45.0		新瓦中層	
					2.04		16.9	1	溝ノ形	64.0 × 60.0	38.0		新瓦中層	
					5.8	1.80		2	木管	110.0 × 100.0	110.0		新瓦中層	
						1.86		3	溝ノ形	68.0 × 48.0	42.0		新瓦中層	
						2.9		4	木管	56.0 × 42.0	24.0		新瓦中層	
						1.86		5	溝ノ形	54.0 × 42.0	23.0		新瓦中層	
					6.06	1.8		6	溝ノ形	78.0 × 78.0	60.0		新瓦中層	
						2.32		7	溝ノ形	122.0 × 94.0	114.0		新瓦中層	
						2.78	2.78	8	溝ノ形	110.0 × 64.0	70.0		新瓦中層	

Fig. 34 SB03・04・05遺物検出状況実測図(縮尺1/80)

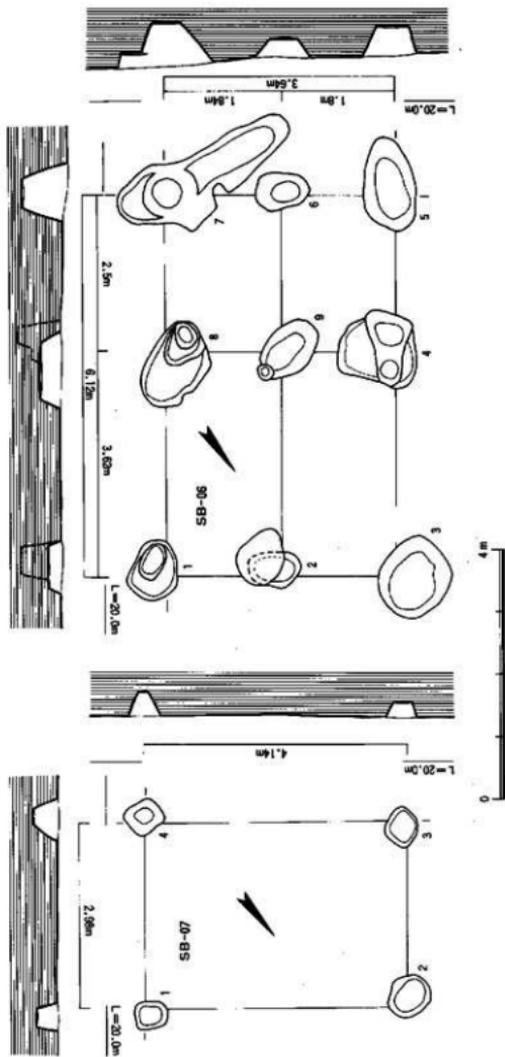


Fig. 35 SB06·07 遺物検出状況実測図 (縮尺1/80)

Tab.24 SB06·07 遺物検出調査表

遺物番号	地区名	検出方向	検出方位	遺物形状	長さ	幅	深さ	検出層	検出層の層番号	遺物種別	検出深度	
SB-06	二次官區	北東-南西	N-35°-E	1	横片形	10.0	7.0	3.0	10.0	1	土器片	10.0
				2	小壺形	40.0	40.0	43.0	10.0	2	土器片	40.0
				3	小壺形	120.0	111.0	49.0	10.0	3	土器片	120.0
				4	小壺形	124.0	114.0	39.0	10.0	4	土器片	124.0
				5	横片形	152.0	86.0	49.0	10.0	5	土器片	152.0
				6	横片形	44.0	35.0	36.0	10.0	6	土器片	44.0
				7	小壺形	154.0	131.0	66.0	10.0	7	土器片	154.0
				8	小壺形	144.0	95.0	66.0	10.0	8	土器片	144.0
				9	横片形	102.0	75.0	47.0	10.0	9	土器片	102.0
SB-07	二次官區	北東-南西	N-51°-W	1	横片形	52.0	44.0	34.0	12.5	1	土器片	52.0
				2	横片形	76.0	60.0	38.0	10.0	2	土器片	76.0
				3	横片形	54.0	50.0	32.0	10.0	3	土器片	54.0
				4	横片形	54.0	50.0	40.0	10.0	4	土器片	54.0

SB-05 (Fig.32・34・54 Tab.23 PL.27-1・2, 28-1)

SB-05はⅠ区の北隅に位置し、SB-04・06との切り合い関係を持ち、北西から南東への建物配置を有する。方位はN-13°-Wを持ち、標高19.2mを測る3間×1間の掘立柱建物である。桁行6.08m、梁行2.9mである。桁行柱穴1～2の計測は2.04m、2～3の計測1.90mを測り、3～4は1.86m、5～6は1.86m、6～7は1.9m、7～8は2.32mを測る。梁行の4～5は2.9mを測り、8～1は2.78mを測る。床面積16.9㎡である。柱穴の形状は1・6が隅丸方形を呈し、2・4が不整形、3・5・7・8が楕円形を呈する。柱穴の大きさは最大が1.32m×0.94mを測り、最小は0.54m×0.42mを測る。出土遺物は、甕形土器の底部だけであるが、Fig.54-38・39 (Pit-361) から時期としては弥生時代中期に比定できる。

SB-06 (Fig.32・35・54 Tab.24 PL.27-1・2, 28-1)

SB-06はⅠ区の北隅に位置し、SB-04・05との切り合い関係を持ち、北東から南西への建物配置を有する。方位はN-36°-Eを持ち、標高19.2mを測る2間×2間の総柱掘立柱建物である。桁行6.12m、梁行3.64mである。桁行柱穴3～4の計測は3.58m、4～5の計測2.5mを測り、7～8は2.5m、8～1は3.62mを測る。梁行の1～2は1.8mを測り、2～3は1.8mを測り、5～6は1.8mを測り、6～7は1.84mを測る。床面積22.1㎡である。柱穴の形状は1・3・5・6・9が楕円形を呈し、2・4・7・8が不整形を呈する。柱穴の大きさは最大が1.54m×1.10mを測り、最小は0.84m×0.58mを測る。柱穴から出土する遺物は、甕形土器・壺形土器の口縁部・胴部・底部Fig.54-40-46 (Pit-378・382・383) で、時期としては弥生時代中期に比定できる。

SB-07 (Fig.32・35・54 Tab.24 PL.27-1・2, 28-1)

SB-07はⅠ区の北隅に位置し、SK-01に近接し、北西から南東への建物配置を有する。方位はN-51°30'-Wを持ち、標高19.28mを測る1間×1間の掘立柱建物である。桁行4.14m、梁行3.0mである。桁行柱穴1～2の計測は4.12m、3～4の計測4.14mを測る。梁行の2～3は3.0mを測り、4～1は2.98mを測る。床面積12.3㎡である。柱穴の形状は1・4が隅丸方形を呈し、2が楕円形を呈し、3が不整形を呈する。柱穴の大きさは最大が0.70m×0.60m、最小は0.52m×0.44mを測る。柱穴から出土する遺物は、Fig.54-47・48 (Pit-370) に図示したもので、時期としては弥生時代中期に比定できる。

SB-08 (Fig.32・36 Tab.25 PL.27-1・2)

SB-08はⅠ区の北側中央部に1棟だけある。北東から南西への建物配置を有し、切り合い関係は無い。方位はN-40°30'-Eを持ち、標高19.32mを測る2間×2間の掘立柱建物である。桁行5.0m、梁行3.42mである。桁行柱穴3～4の計測は2.94m、4～5の計測2.06mを測り、7～8は2.12m、8～1は2.86mを測る。梁行の1～2は1.1mを測り、2～3は2.3mを測り、5～6は1.86mを測り、6～1は1.56mを測る。床面積17.0㎡である。柱穴の形状は1が円形を呈し、2・5が隅丸方形を呈し、3・8が不整形を呈し、4・6・7が楕円形を呈する。柱穴の大きさは最大が0.60m×0.48mを測り、最小は0.34m×0.28mを測る。出土遺物は、甕形土器の口縁部小片で、時期は弥生時代中期に比定できる。

SB-09 (Fig.32・36・54 Tab.25 PL.27-1・2)

SB-09はⅠ区の北東隅に位置し、SB-02との切り合い関係を持つ。北から南への建物配置を有する。方位はN-6°-Wを持ち、標高20.36mを測る2間×2間の総柱掘立柱建物である。桁行4.1m、梁行3.94mである。桁行柱穴3～4の計測は2.0m、4～5は2.0m、7～8は2.1m、8～1は2.0mを測る。梁行の1～2は1.88mを測り、2～3は1.94m、5～6は2.06m、6～1は1.88mを測る。床面積15.7㎡である。柱穴の形状は3～5・8・9が円形、1・2・6・7が楕円形を呈する。柱穴の大き

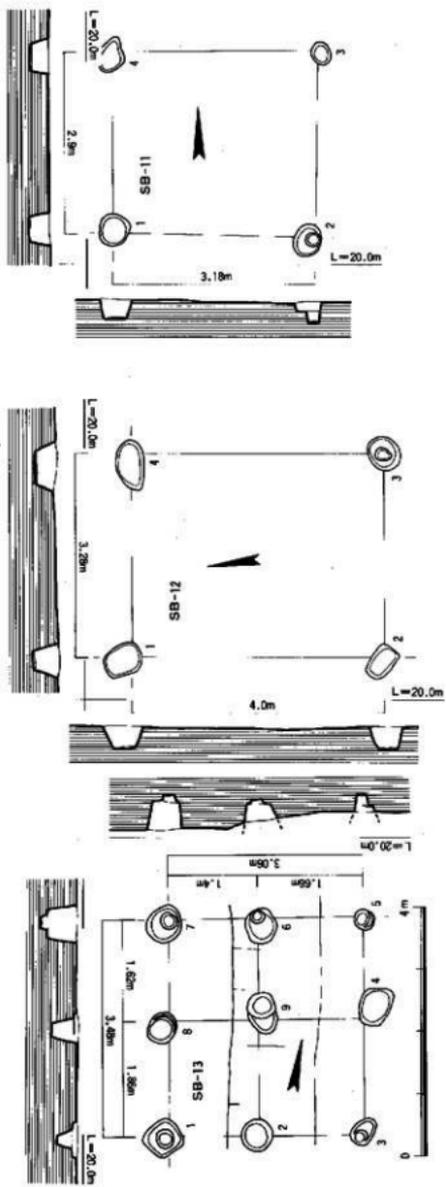


Fig. 37 SB11-12-13 建物検出状況実測図(縮尺1/80)

Tab.26 SB11・12・13 建物設計測表

建物番号	形式名	階数	方位	風向	面積	延床面積	柱式	形状	風向	風速	相対湿度	工務会社上巻物	建物用途	測測部分
SB-11	二次区画	1	長	N-10°-W	1 × 1	3.18	3.18	1	円形	52.0	46.0	FR-294	事務所	全土中層
								2	円形	54.0	48.0	FR-297	事務所	全土中層
								3	円形	38.0	38.0	FR-296	事務所	全土中層
SB-12	二次区画	1	長	N-73°-W	1 × 1	4.0	13.3	1	不規則形	59.0	42.0	FR-296	事務所	全土中層
								2	扇形	60.0	36.0	FR-333	事務所	全土中層
								3	円形	57.0	46.0	FR-296	事務所	全土中層
SB-13	二次区画	2	長	N-10°-W	2 × 2	3.06	1.96	1	扇形	66.0	48.0	FR-290	事務所	全土中層
								2	扇形	52.0	48.0	FR-290	事務所	全土中層
								3	扇形	44.0	20.0	FR-313	事務所	全土中層
								4	扇形	64.0	48.0	FR-290	事務所	全土中層
								5	円形	33.0	30.0	FR-261	事務所	全土中層
								6	扇形	54.0	50.0	FR-260	事務所	全土中層
								7	扇形	72.0	54.0	FR-259	事務所	全土中層
								8	扇形	20.0	40.0	FR-264	事務所	全土中層
								9	扇形	66.0	44.0	FR-282	事務所	全土中層

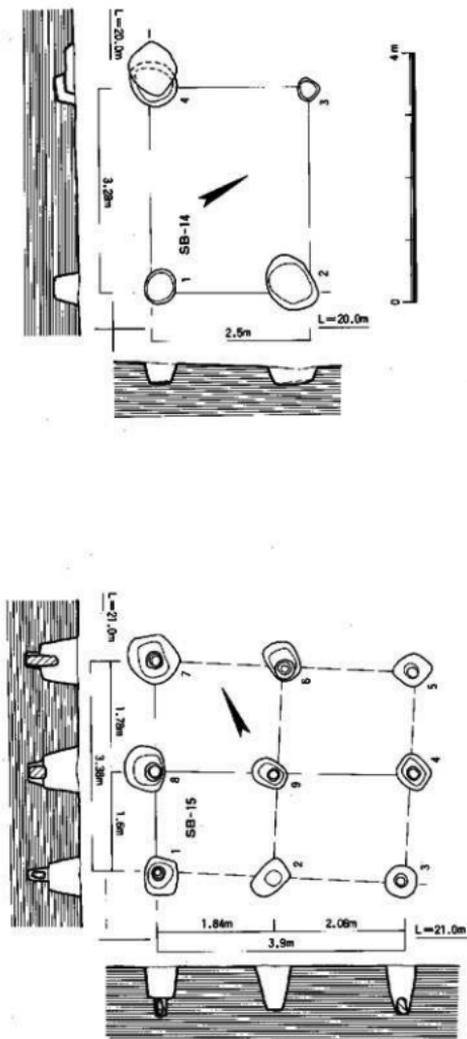


Fig. 38 SB14・15 建物検出状況実測図(縮尺1/80)

Tab.27 SB14・15 建物設計表

建物番号	地区名	二区画区画番号	建築方向	構造方式	基礎	柱	柱径	柱間隔	柱数	形状	高さ	面積	容積	用途	用途区分	柱番号	柱径	
SB-14	二区画区画	10-09-W	1×1	RC造	基礎	柱	1.0	2.5	8.2	1.0	RC	50.0	50.0	30.0	Pr-213	RC造	1.0	
SB-15	二区画区画	10-09-W	2×2	RC造	基礎	柱	1	1.0	2.5	8.2	1.0	RC	50.0	50.0	30.0	Pr-213	RC造	1.0
							2	1.0	2.5	8.2	1.0	RC	50.0	50.0	30.0	Pr-213	RC造	1.0
							3	1.0	2.5	8.2	1.0	RC	50.0	50.0	30.0	Pr-213	RC造	1.0
							4	1.0	2.5	8.2	1.0	RC	50.0	50.0	30.0	Pr-213	RC造	1.0
							5	1.0	2.5	8.2	1.0	RC	50.0	50.0	30.0	Pr-213	RC造	1.0
							6	1.0	2.5	8.2	1.0	RC	50.0	50.0	30.0	Pr-213	RC造	1.0
							7	1.0	2.5	8.2	1.0	RC	50.0	50.0	30.0	Pr-213	RC造	1.0
							8	1.0	2.5	8.2	1.0	RC	50.0	50.0	30.0	Pr-213	RC造	1.0
							9	1.0	2.5	8.2	1.0	RC	50.0	50.0	30.0	Pr-213	RC造	1.0

さは最大が0.74m×0.62mを測り、最小は0.48m×0.44mを測る。柱穴から出土する遺物は、Fig.54-49~51 (Pit-442-443) の3点を図示したが、時期としては弥生時代中期に比定できる。

SB-10 (Fig.32-36 Tab.25 PL.24-2, 25-2, 27-1・2, 28-2)

SB-10はⅨ区の北隅東側に位置し、北東から南西への建物配置を有する。方位はN-37°-Eを持ち、標高19.38mを測る2間×1間の掘立柱建物である。桁行4.6m、梁行3.06mである。桁行柱穴1~2の計測は1.8m、2~3は2.8m、4~5は2.3m、5~6は2.3mを測る。梁行の3~4は3.06mを測り、6~1は3.06mを測る。床面積14.1m²である。柱穴の形状は6が隅丸方形を呈し、2・5が楕円形を呈し、1・3・4が円形を呈する。柱穴の大きさは最大が1.04m×0.52mを測り、最小は0.30m×0.26mを測る。遺物は壺形土器の胴部破片だけであるが、時期としては弥生時代中期に比定できる。

SB-11 (Fig.32-37 Tab.26 PL.24-2, 27-1・2)

SB-11はⅨ区の東隅に位置し、東から西への建物配置を有する。方位はN-89°-Wを持ち、標高19.38mを測る1間×1間の掘立柱建物である。桁行3.2m、梁行3.0mである。桁行柱穴1~2の計測は3.18m、3~4の計測3.2mを測る。梁行の2~3は3.0mを測り、4~1は2.9mを測る。床面積9.4m²である。柱穴の形状は1~3が円形を呈し、4が不整形を呈する。柱穴の大きさは最大が0.58m×0.42mを測り、最小は0.38m×0.30mを測る。柱穴から出土する遺物は壺形土器の胴部破片で、図化に耐えるものはないが、時期としては弥生時代中期に比定できる。

SB-12 (Fig.32-37-54 Tab.26 PL.24-2, 25-2, 27-1・2)

SB-12はⅨ区の東隅に位置し、SB-11から約5mの距離を持ち、北東から南西の建物配置を有する。方位はN-9°30'-Eを持ち、標高19.56mを測る1間×1間の掘立柱建物である。桁行4.0m、梁行3.28mである。桁行柱穴1~2の計測は4.0m、3~4の計測4.0mを測る。梁行2~3は3.28mを測り、4~1は3.28mを測る。床面積13.1m²である。柱穴の形状は1が不整形を呈し、2が隅丸方形を呈し、3が円形を呈し、4が楕円形を呈する。柱穴の大きさは最大が0.80m×0.46mを測り、最小は0.52m×0.48mを測る。柱穴から出土する遺物は、壺形土器の口縁部Fig.54-52 (Pit-333) で、時期としては弥生時代中期に比定できる。

SB-13 (Fig.32-37 Tab.26 PL.24-2, 25-2, 30-1・2)

SB-13はⅨ区中央部SD-04の南側に位置し、北西から南東の建物配置を有する。方位はN-10°-Wを持ち、標高19.86mを測る2間×2間の総柱掘立柱建物である。桁行3.5m、梁行3.06mである。桁行柱穴3~4の計測は1.86m、4~5は1.64m、7~8は1.62m、8~1は1.86mを測る。梁行の1~2は1.4m、2~3は1.66m、5~6は1.66m、6~7は1.4mを測る。床面積10.7m²である。柱穴の形状は1が隅丸方形、2・5が円形、3・4・6・7・8・9が楕円形を呈する。柱穴の大きさは最大が0.72m×0.54mを測り、最小は0.32m×0.30mを測る。柱穴から出土する遺物は、壺形土器の口縁部・底部の小片で図化に耐えるものはないが、時期としては弥生時代中期に比定できる。

SB-14 (Fig.32-38 Tab.27 PL.26-2, 30-2)

SB-14はⅨ区の中央部東側よりやや南に下った所で、SB-15の北西側に当り、北西から南東の建物配置を有する。方位はN-59°-Wを持ち、標高19.4mを測る1間×1間の掘立柱建物である。桁行3.28m、梁行2.5mである。桁行柱穴2~3の計測は3.28m、4~1の計測は3.28mを測る。梁行の1~2は2.5mを測り、3~4は2.5mを測る。床面積8.2m²である。柱穴の形状は1が円形を呈し、2・3が楕円形を呈し、4が隅丸方形を呈する。柱穴の大きさは最大が1.0m×0.7mを測り、最小は0.32m×0.32mを測る。柱穴から出土する遺物は、壺形土器口縁部の小片で図化に耐えるものはないが、時期としては弥生時代中期に比定できる。

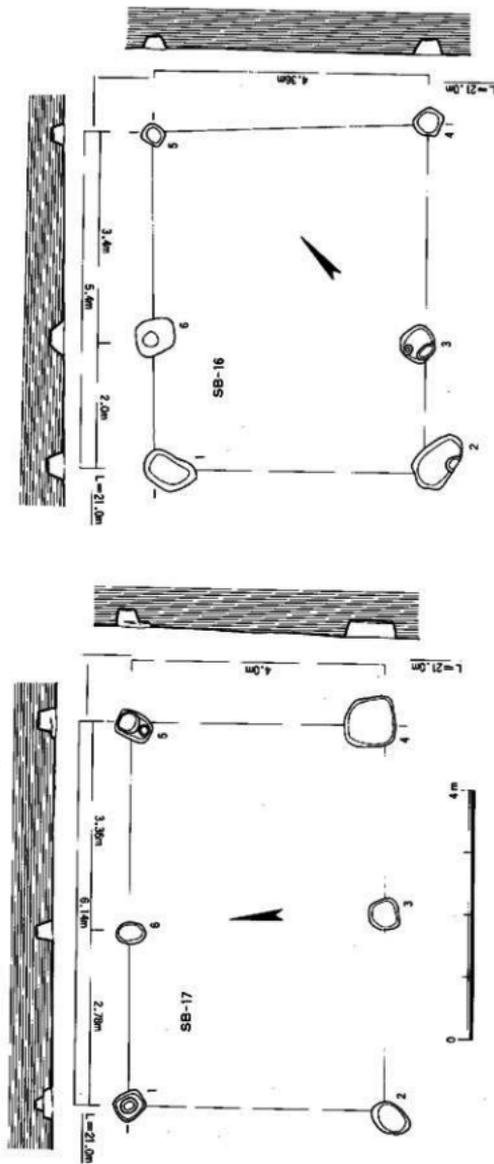


Fig. 39 SB16-17建築物検出状況実測図(縮尺1/80)

Tab.28 SB16・17 遺物統計表

遺物番号	検出位置	層位	形状	数量	面積(m ²)	埋没深さ(m)	出土層	出土層	出土層	出土層	出土層	出土層
SB-16	一次区	遺物層	1 角形	4.28	4.28	23.8	1	角形	8.6	60.0	24.0	角形
			2 不整形	100.0	60.0	23.0	2	不整形	40.0	5.0	29.0	角形
			3 円形	40.0	5.0	29.0	3	円形	50.0	46.0	24.0	角形
			4 不整形	50.0	46.0	24.0	4	不整形	40.0	34.0	20.0	角形
			5 角形	40.0	34.0	20.0	5	角形	62.0	60.0	22.0	角形
			6 角形	62.0	60.0	22.0	6	角形	60.0	44.0	13.0	角形
SB-17	一次区	遺物層	1 角形	4.02	4.02	24.7	1	角形	80.0	40.0	20.0	角形
			2 角形	6.06	4.0	4.0	2	角形	80.0	40.0	20.0	角形
			3 角形	4.0	4.0	4.0	3	角形	50.0	41.0	20.0	角形
			4 角形	3.56	2.72	6.14	4	角形	50.0	34.0	26.0	角形
			5 角形	2.72	2.72	6.14	5	角形	50.0	34.0	26.0	角形
			6 角形	6.14	2.72	6.14	6	角形	50.0	34.0	26.0	角形

SB-15 (Fig.32-38-54 Tab.27 PL.25-1,26-2,33-1)

SB-15は調査区の南東隅に位置し、SC-73との関連が強く、北西から南東に建物配置を持つ。方位はN-62°-Wを持ち、標高20.55mを測る2間×2間の総柱掘立柱建物である。桁行4.1m、梁行3.38mである。桁行柱穴1-2の計測は1.84m、2-3は2.06m、5-6は2.1m、6-7は2.0mを測る。梁行の3-4は1.8m、4-5は1.58m、7-8は1.78m、8-9は1.6mを測る。床面積13.5m²である。柱穴の形状は1・2・4-6・9が隅丸方形、3が円形、7が不整形、8が楕円形を呈する。柱穴の大きさは最大が0.82m×0.70mを測り、最小は0.50m×0.48mを測る。柱穴から出土する遺物は、甕形土器の口縁部Fig.54-53-55 (Pit-279)を図示したが、時期としては弥生時代中期に比定できる。

SB-16 (Fig.32-39 Tab.28 PL.31-2)

SB-16は調査区西側SC-74との関連が考えられSD-01の東側に位置し、東西に建物配置を有し、SB-17との切り合い関係を持つ。方位はN-44°-Eを持ち、標高25.6mを測る2間×1間の掘立柱建物である。桁行5.6m、梁行4.36mである。桁行柱穴2-3の計測は2.1m、3-4は3.5m、5-6は3.4m、6-1は2.0mを測る。梁行の1-2は4.28m、4-5は4.36mを測る。床面積23.8m²である。柱穴の形状は1が楕円形、2・4が不整形、3が円形、5・6が隅丸方形を呈する。柱穴の大きさは最大が1.0m×0.60mを測り、最小は0.40m×0.34mを測る。柱穴から出土する遺物は、甕形土器・壺形土器の胴部破片で図化に耐えるものはないが、時期としては弥生時代中期に比定できる。

SB-17 (Fig.32-39 Tab.28 PL.31-2)

SB-17はSB-16との切り合い関係を持つ建物で、北西から南東の建物配置を有し、方位はN-85°-Wを持ち、標高20.56mを測る2間×1間の掘立柱建物である。桁行6.16m、梁行4.02mである。桁行柱穴2-3の計測は3.1m、3-4は3.06m、5-6は3.36m、6-1は2.78mを測る。梁行の1-2は4.02mを測り、4-5は4.0mを測る。床面積24.7m²である。柱穴の形状は1・5が隅丸方形、2・3・4・6が楕円形を呈する。柱穴の大きさは最大が0.80m×0.80mを測り、最小は0.50m×0.34mを測る。柱穴から出土する遺物は、甕形土器・壺形土器の胴部破片と口縁部の小片で図化に耐えるものはないが、時期としては弥生時代中期に比定できる。

SB-18 (Fig.32-40-54 Tab.29 PL.32-2,36-2)

SB-18は調査区中央部の南側に位置し、北から南の建物配置を有し、方位はN-2°-Eを持ち、標高20.5mを測る2間×1間の掘立柱建物である。桁行4.24m、梁行3.26mである。桁行柱穴2-3の計測は1.84m、3-4は2.4m、5-6は2.5m、6-1は1.74mを測る。梁行の1-2は3.24m、4-5は3.26mを測る。床面積13.8m²である。柱穴の形状は1・4・6が不整形、3が楕円形、2・5が隅丸方形を呈する。柱穴の大きさは最大が0.72m×0.70mを測り、最小は0.24m×0.14mを測る。柱穴から出土する遺物は、甕形土器の口縁部でFig.54-56 (Pit-117)を図示したが、時期としては弥生時代中期に比定できる。

SB-19 (Fig.32-40 Tab.29 PL.31-2,32-2)

SB-19はSC-74と同時期の総柱建物で、北西から南東の建物配置を有し、方位はN-14°-Wを持ち、標高20.68mを測る2間×2間の総柱掘立柱建物である。桁行5.92m、梁行5.22mである。桁行柱穴3-4の計測は2.9m、4-5は2.45m、7-8は2.16m、8-1は3.76mを測る。梁行の1-2は2.56m、2-3は2.66m、5-6は2.66m、6-7は2.46mを測る。床面積29.4m²である。柱穴の形状は1・6・7が不整形、2・3が円形、4・5・8が楕円形、9が隅丸方形を呈する。柱穴の大きさは最大が1.28m×0.82mを測り、最小は0.36m×0.30mを測る。柱穴から出土する遺物は、甕形土器・壺形土器の胴部破片で図化に耐えるものはないが、時期としては弥生時代中期に比定できる。

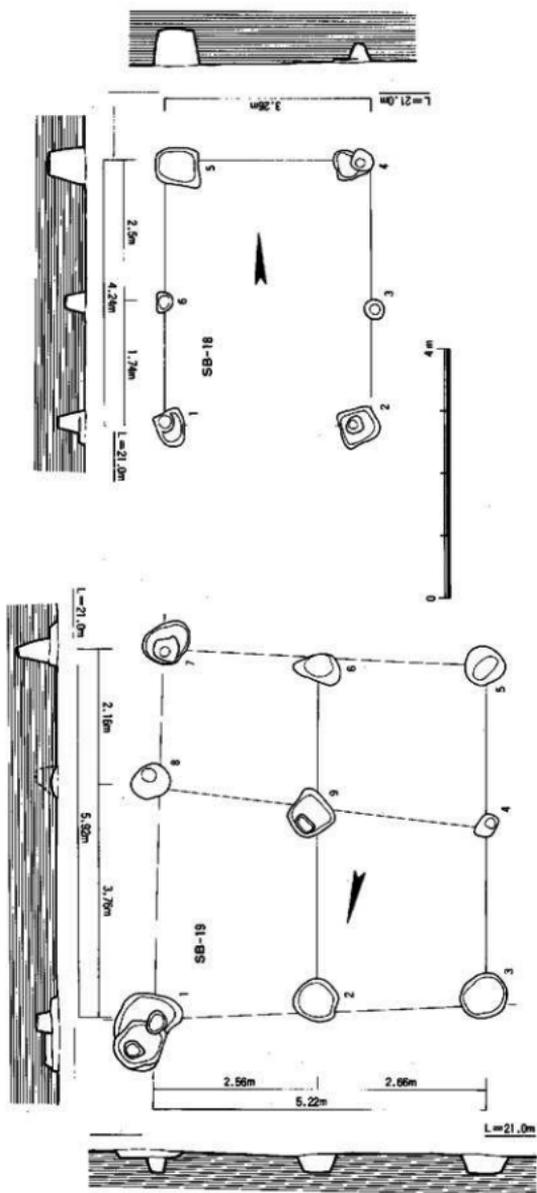


Fig. 40 SB18·19遺物検出状況実測図(縮尺1/80)

Tab.29 SB18・19 遺物検出調査表

遺物検出位置	遺物検出内容	検出時期	検出者	検出回数	検出場所	検出位置	検出高さ	検出状況	検出結果	検出場所	検出位置	検出高さ	検出状況	検出結果
SB18-1	土器片	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
SB18-2	土器片	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
SB18-3	土器片	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
SB18-4	土器片	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
SB18-5	土器片	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
SB19-1	土器片	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
SB19-2	土器片	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
SB19-3	土器片	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
SB19-4	土器片	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
SB19-5	土器片	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

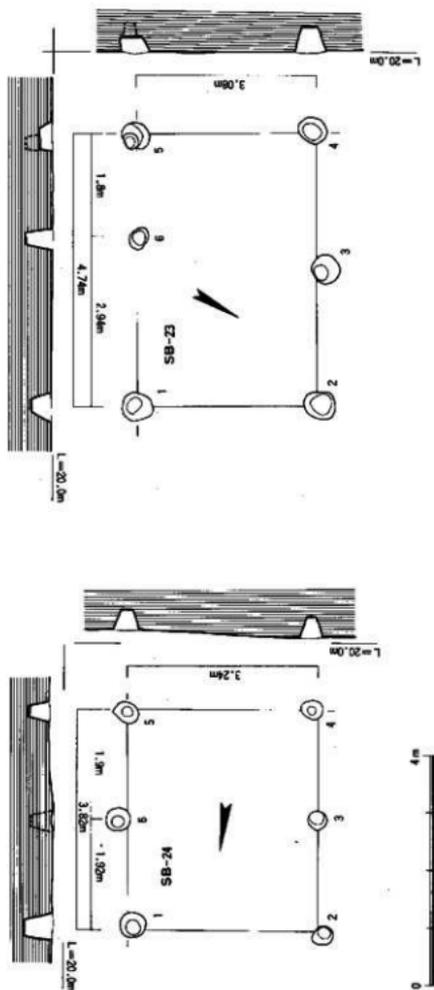


Fig. 42 SB23-24 建築物出狀況實測圖 (縮尺1/80)

Tab.31 SB23・24 建築物計測表

建物番号	地区名	地区区	道路方向	長短方向	面積(㎡)	層数	階数	高さ	用途	用途種別	用途種別番号	用途面積	建物用途
SB-23	二宮区	東一丁目	N-W	2×1	3.00	3.00	14.6	1	積戸建	住宅	Pc-221	住宅	土管台上建物
					4.74	2.4	2.24	2	積戸建	住宅		土管台上建物	
					3.00	3.00	3.00	3	積戸建	住宅		土管台上建物	
					4.74	1.8	1.8	4	積戸建	住宅		土管台上建物	
					3.04	1.98	1.98	5	積戸建	住宅		土管台上建物	
					3.24	1.8	1.8	6	積戸建	住宅		土管台上建物	
SB-24	二宮区	東一丁目	N-W	2×1	3.04	3.04	12.4	1	積戸建	住宅	Pc-201	住宅	土管台上建物
					3.04	3.04	3.24	2	積戸建	住宅		土管台上建物	
					3.04	3.24	3.24	3	積戸建	住宅		土管台上建物	
					3.04	3.24	3.24	4	積戸建	住宅		土管台上建物	
					3.04	3.24	3.24	5	積戸建	住宅		土管台上建物	
					3.04	3.24	3.24	6	積戸建	住宅		土管台上建物	

弥生時代後期の掘立柱建物

SB-20 (Fig.32-41 Tab.30 PL.30-1)

SB-20は後期の溝SD-05-08が交差する北側に位置し、北北西から南南東の建物配置を持つ。方位はN-37°-Wを持ち、標高19.76mを測る1間×1間の掘立柱建物である。桁行3.6m、梁行3.56mである。桁行柱穴2-3の計測は3.6m、4-1は3.6mを測る。梁行の1-2は3.56m、3-4は3.56mを測る。床面積12.8㎡である。柱穴の形状は1・3が不整形、2・4が円形を呈する。柱穴の大きさは最大が1.06m×0.80mを測り、最小は0.24m×0.18mを測る。柱穴から出土する遺物は、甕形土器・壺形土器の胴部破片で図化に耐えるものはないが、時期としては弥生時代後期に比定できる。

SB-21 (Fig.32-41 Tab.30 PL.30-1,33-2)

SB-21はSB-20の西側に位置し、SB-23との切り合い関係を持つ。建物は北東から南西の配置を有し、方位はN-67°-Eを持ち、標高19.88mを測る2間×1間の掘立柱建物である。桁行3.7m、梁行2.94mである。桁行柱穴1-2の計測は2.1m、2-3は1.6m、4-5は2.3m、5-6は1.4mを測る。梁行の3-4は2.94m、6-1は2.94mを測る。床面積10.9㎡である。柱穴の形状は1・4が楕円形、2・3・6が円形、5が隅丸方形を呈する。柱穴の大きさは最大が0.60m×0.46mを測り、最小は0.40m×0.32mを測る。柱穴から出土する遺物は、甕形土器の口縁部小片で図化に耐えるものはないが、時期としては弥生時代後期に比定できる。

SB-22 (Fig.32-41 Tab.30 PL.29-2,33-2)

SB-22は溝が区画する南側に位置し、北東から南西の建物配置を有し、方位はN-54°-Eを持ち、標高20.22mを測る2間×1間の掘立柱建物である。桁行4.1m、梁行3.4mである。桁行柱穴2-3の計測は2.1m、3-4は2.0m、5-6は2.26m、6-1は1.84mを測る。梁行の1-2は3.4m、4-5は3.4mを測る。床面積13.9㎡である。柱穴の形状は1-3・5が楕円形、4が円形、6が不整形を呈する。柱穴の大きさは最大が0.48m×0.38mを測り、最小は0.30m×0.24mを測る。柱穴から出土する遺物は、甕形土器の口縁部小片で図化に耐えるものはないが、時期としては弥生時代後期に比定できる。

SB-23 (Fig.32-42 Tab.31 PL.30-1,33-2)

SB-23はSB-21との切り合い関係を持ち、北東から南西の建物配置を有する。方位はN-60°-Eを持ち、標高20.0mを測る2間×1間の掘立柱建物である。桁行4.74m、梁行3.08mである。桁行柱穴2-3の計測は2.34m、3-4は2.4m、5-6は1.8m、6-1は2.94mを測る。梁行の1-2は3.08m、4-5は3.08mを測る。床面積14.6㎡である。柱穴の形状は1・6が楕円形、2・3が隅丸方形、4が不整形、5が円形を呈する。柱穴の大きさは最大が0.54m×0.48mを測り、最小は0.38m×0.28mを測る。柱穴から出土する遺物は、甕形土器・壺形土器の胴部破片で図化に耐えるものはないが、時期としては弥生時代後期に比定できる。

SB-24 (Fig.32-42 Tab.31 PL.29-2)

SB-24はSD-05の東側に位置し、北から南の建物配置を有し、方位はN-7°-Wを持ち、標高19.9mを測る2間×1間の掘立柱建物である。桁行3.84m、梁行3.24mである。桁行柱穴2-3の計測は1.96m、3-4は1.88m、5-6は1.9m、6-1は1.92mを測る。梁行の1-2は3.24m、4-5は3.24mを測る。床面積12.4㎡である。柱穴の形状は1・3・6が円形、2・4・5が楕円形を呈する。柱穴の大きさは最大が0.44m×0.44mを測り、最小は0.30m×0.30mを測る。柱穴から出土する遺物は、甕形土器の口縁部と胴部破片で図化に耐えるものはないが、時期としては弥生時代後期に比定できる。

SB-25 (Fig.32-43 Tab.32 PL.29-2)

SB-25はSD-05の南東側に位置し、溝が狭くなる(SD-05には狭くなる部分が二ヶ所あり、南側

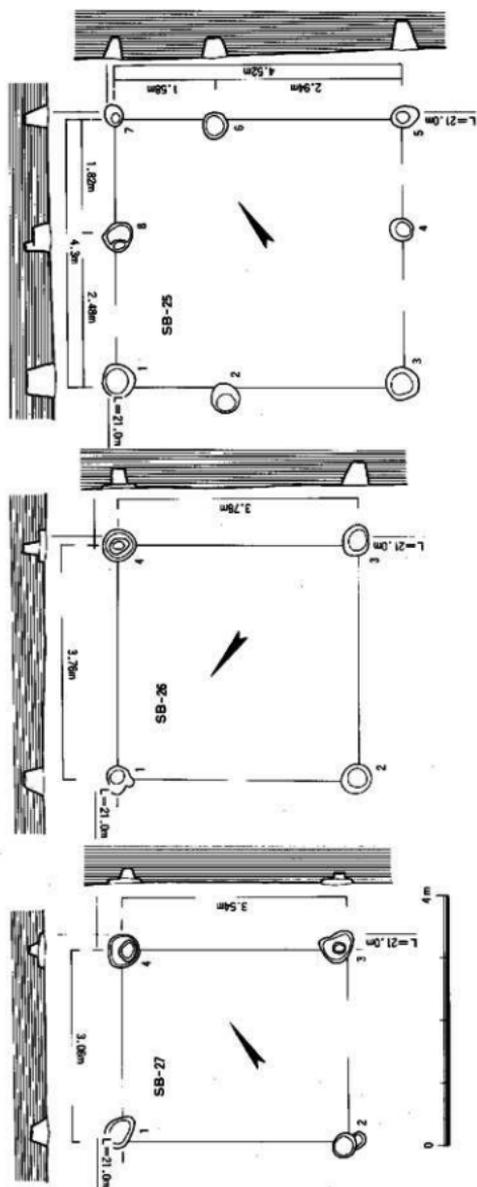


Fig. 43 SB25·26·27 建筑物出状実測图 (縮尺1/80)

Tab.32 SB25·26·27 建筑物計畫表

建物番号	地区名	二次地区	地区名称	用途区分	具体用途	面積 (m ²)	形状	種別	種別番号	種別名称	種別記号
SB-25	二次地区	SB-25	SB-25	住宅	1	19.4	内形	住宅	1	住宅	住宅
					2	4.3	内形	住宅	2	住宅	住宅
					3	2.5	内形	住宅	3	住宅	住宅
					4	1.8	内形	住宅	4	住宅	住宅
					5	4.3	内形	住宅	5	住宅	住宅
SB-26	二次地区	SB-26	SB-26	住宅	1	1.82	内形	住宅	1	住宅	住宅
					2	2.48	内形	住宅	2	住宅	住宅
					3	3.76	内形	住宅	3	住宅	住宅
					4	3.76	内形	住宅	4	住宅	住宅
					5	3.06	内形	住宅	5	住宅	住宅
SB-27	二次地区	SB-27	SB-27	住宅	1	3.06	内形	住宅	1	住宅	住宅
					2	3.54	内形	住宅	2	住宅	住宅
					3	3.54	内形	住宅	3	住宅	住宅
					4	3.06	内形	住宅	4	住宅	住宅
					5	3.06	内形	住宅	5	住宅	住宅

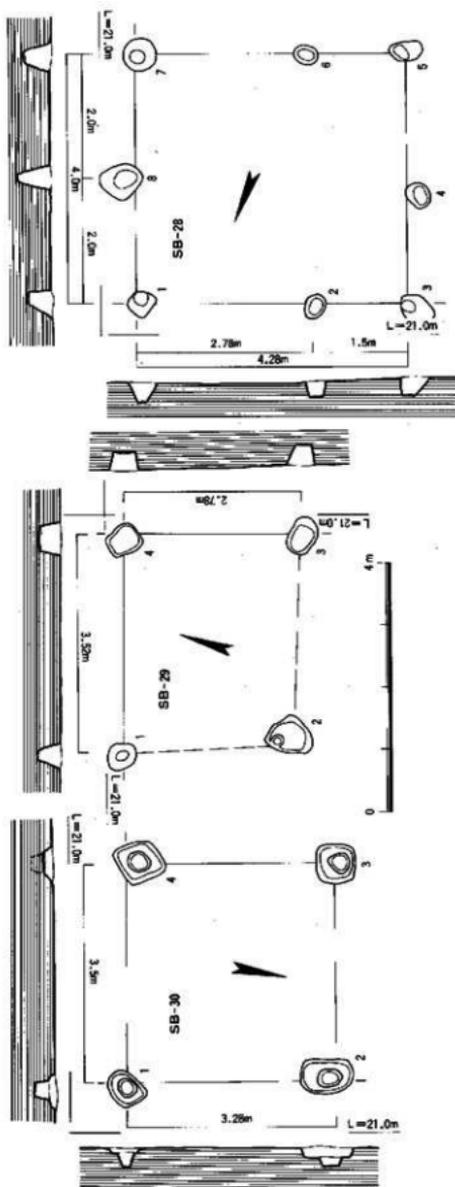


Fig. 44 SB28·29·30建築物出狀況實測圖(縮尺1/80)

Tab.33 SB28·29·30 建築物計測表

建築物号	棟名	棟号	長短方向	長短方位	面積(m ²)	容積(m ³)	容積率(%)	柱数	柱高(m)	柱間距(m)	主要構造土質	基礎形式			
SB-28	二層瓦葺 住宅用	N-27-E	2 × 2	2 × 2	4.28	2.78	11.9	17	1.7	1.7	1.7	基礎: 砂土+砂	基礎: 砂土+砂		
					4.28	2.78	11.9	17	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	基礎: 砂土+砂	基礎: 砂土+砂
					4.28	2.78	11.9	17	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	基礎: 砂土+砂	基礎: 砂土+砂
					4.28	2.78	11.9	17	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	基礎: 砂土+砂	基礎: 砂土+砂
					4.28	2.78	11.9	17	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	基礎: 砂土+砂	基礎: 砂土+砂
					4.28	2.78	11.9	17	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	基礎: 砂土+砂	基礎: 砂土+砂
SB-29	二層瓦葺 住宅用	N-27-B	1 × 1	1 × 1	2.68	2.68	7.2	17	1.7	1.7	1.7	基礎: 砂土+砂	基礎: 砂土+砂		
					2.68	2.68	7.2	17	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	基礎: 砂土+砂	基礎: 砂土+砂
					2.68	2.68	7.2	17	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	基礎: 砂土+砂	基礎: 砂土+砂
					2.68	2.68	7.2	17	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	基礎: 砂土+砂	基礎: 砂土+砂
					2.68	2.68	7.2	17	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	基礎: 砂土+砂	基礎: 砂土+砂
					2.68	2.68	7.2	17	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	基礎: 砂土+砂	基礎: 砂土+砂
SB-30	二層瓦葺 住宅用	N-27-D	1 × 1	1 × 1	3.28	3.28	10.8	17	1.7	1.7	1.7	基礎: 砂土+砂	基礎: 砂土+砂		
					3.28	3.28	10.8	17	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	基礎: 砂土+砂	基礎: 砂土+砂
					3.28	3.28	10.8	17	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	基礎: 砂土+砂	基礎: 砂土+砂
					3.28	3.28	10.8	17	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	基礎: 砂土+砂	基礎: 砂土+砂
					3.28	3.28	10.8	17	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	基礎: 砂土+砂	基礎: 砂土+砂
					3.28	3.28	10.8	17	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	基礎: 砂土+砂	基礎: 砂土+砂

部分にSB-25は位置する) 部分に位置し、建物配置は北西から南東方向を持つ。方位はN-54°-Wを持ち、標高20.12mを測る2間×2間の掘立柱建物である。桁行4.52m、梁行4.3mである。桁行柱穴1-2の計測は1.74m、2-3は2.78m、5-6は2.94m、6-7は1.58mを測る。梁行の3-4は2.5m、4-5は1.8m、7-8は1.82m、8-1は2.48mを測る。床面積19.4m²である。柱穴の形状は1-4・6が円形、5・7・8が楕円形を呈する。柱穴の大きさは最大が0.54m×0.52mを測り、最小は0.36m×0.26mを測る。柱穴から出土する遺物は、壺形土器の胴部破片で図化に耐えるものはないが、時期としては弥生時代後期に比定できる。

SB-26 (Fig.32-43 Tab.32 PL.29-2)

SB-26はSD-05-07に囲まれた範囲の南側に位置し、切り合い関係は無い。方位はN-54°-Eを持ち、標高20.18mを測る1間×1間の掘立柱建物である。桁行3.78m、梁行3.76mである。桁行柱穴1-2の計測は3.78m、3-4は3.78mを測る。梁行の2-3は3.76m、4-1は3.76mを測る。床面積14.21m²である。柱穴の形状は1が不整形、2・4が円形、3が楕円形を呈する。柱穴の大きさは最大が0.50m×0.50mを測り、最小は0.44m×0.42mを測る。柱穴から出土する遺物は、壺形土器・壺形土器の胴部破片で図化に耐えるものはないが、時期としては弥生時代後期に比定できる。

SB-27 (Fig.32-43 Tab.32 PL.29-2,33-2)

SB-27もSD-05-07に囲まれた範囲の南側に位置し、SB-22の北側にあり、北西から南東の建物配置を有し、切り合い関係は無い。方位はN-54°-Wを持ち、標高20.16mを測る1間×1間の掘立柱建物である。桁行3.54m、梁行3.06mである。桁行柱穴1-2の計測は3.54m、3-4は3.54mを測る。梁行の2-3は3.06m、4-1は3.06mを測る。床面積10.8m²である。柱穴の形状は2・4が円形、3が不整形を呈し、1が楕円形を呈する。柱穴の大きさは最大が0.56m×0.40mを測り、最小は0.38m×0.34mを測る。柱穴から出土する遺物は、壺形土器の口縁部で図化に耐えるものはないが、時期としては弥生時代後期に比定できる。

SB-28 (Fig.32-44 Tab.33 PL.29-2)

SB-28はSB-26の西側に位置し、北東から南西の建物配置を有し、切り合い関係は無い。方位はN-70°-Eを持ち、標高20.22mを測る2間×2間の掘立柱建物である。桁行4.28m、梁行4.0mである。桁行柱穴1-2の計測は2.78m、2-3は1.5m、5-6は1.58m、6-7は2.68mを測る。梁行の3-4は1.7m、4-5は3.3m、7-8は2.0m、8-1は2.0mを測る。床面積は、17.1m²である。柱穴の形状は1が隅丸方形、2-6・8が楕円形、7が円形を呈する。柱穴の大きさは最大が0.70m×0.60mを測り、最小は0.28m×0.16mを測る。柱穴から出土する遺物は、壺形土器の胴部破片で図化に耐えるものはないが、時期としては弥生時代後期に比定できる。

SB-29 (Fig.32-44 Tab.33 PL.29-2,33-2)

SB-29もSD-05-07に囲まれた範囲の南側に位置し、北東から南西の建物配置を有する。切り合い関係は無い。方位はN-72°30'-Eを持ち、標高20.2mを測る1間×1間の掘立柱建物である。桁行3.52m、梁行2.78mである。桁行柱穴2-3の計測は3.4m、4-1は3.52mを測る。梁行の1-2は2.68m、3-4は2.78mを測る。床面積9.4m²である。柱穴の形状は1・3が楕円形、2が不整形、4が隅丸方形を呈する。柱穴の大きさは最大が0.74m×0.60mを測り、最小は0.48m×0.42mを測る。柱穴から出土する遺物は、壺形土器の胴部破片で図化に耐えるものはないが、時期としては弥生時代後期に比定できる。

SB-30 (Fig.32-44 Tab.33)

SB-30はSD-07の西側中央部に位置し、北西から南東の建物配置を有する。切り合い関係は無い。

方位はN-77°30'-Eを持ち、標高20.76mを測る1間×1間の掘立柱建物である。桁行3.5m、梁行3.28mである。桁行柱穴2～3の計測は3.5m、4～1は3.5mを測る。梁行の1～2は3.28m、3～4は3.28mを測る。床面積11.5m²である。柱穴の形状は1～4が隅丸方形を呈する。柱穴の大きさは最大が0.82m×0.56mを測り、最小は0.60m×0.50mを測る。柱穴から出土する遺物は、甕形土器の口縁部・胴部破片で図化に耐えるものはないが、時期としては弥生時代後期に比定できる。

SB-31 (Fig.32-45-54 Tab.34 PL.32-2,36-2)

SB-31はSD-07に隣接し、北東から南西の建物配置を有する。Ⅲ区の弥生時代後期の中で最も最大の建物である。切り合い関係は無い。方位はN-58°-Eを持ち、標高20.58mを測る3間×1間の掘立柱建物である。桁行10.24m、梁行3.9mである。桁行柱穴2～3の計測は3.74m、3～4は2.2m、4～5は4.26m、6～7は3.3m、7～8は3.4m、8～9は3.54mを測る。梁行の1～2は3.88m、5～6は3.9mを測る。床面積39.8m²である。柱穴の形状は2・4が円形、3・6・8が隅丸方形、1・5・7が楕円形を呈する。柱穴の大きさは最大が1.0m×0.80mを測り、最小は0.46m×0.40mを測る。柱穴から出土する遺物は、甕形土器の底部を図示 (Fig.54-57 (Pit-110)) したが、この他に口縁部破片があり、時期としては弥生時代後期に比定できる。

SB-32 (Fig.32-46-54 Tab.35 PL.31-2,36-2)

SB-32はSD-07西側北部に位置し、東から西の建物配置を有し、切り合い関係は無い。方位はN-89°-Wを持ち、標高20.5mを測る2間×2間の総柱掘立柱建物である。桁行3.68m、梁行3.0mである。桁行柱穴3～4の計測は1.78m、4～5は1.9m、7～8は1.9m、8～1は1.78mを測る。梁行の1～2は1.6m、2～3は1.4m、5～6は1.52m、6～7は1.46mを測る。床面積11.0m²である。柱穴の形状は6・8が円形、1～5・9が隅丸方形、7が楕円形を呈する。柱穴の大きさは最大が0.50m×0.42mを測り、最小は0.34m×0.34mを測る。柱穴から出土する遺物は、甕形土器の口縁部を図示 (Fig.54-58 (Pit-86)) したが、この他に胴部・底部破片があり、時期としては弥生時代後期に比定できる。

SB-33 (Fig.32-46 Tab.35)

SB-33はSD-07の西側台地の中央部南側に位置し、切り合い関係は無い。北西から南東の建物配置を有し、方位はN-35°30'-Wを持ち、標高20.74mを測る1間×1間の掘立柱建物である。桁行3.12m、梁行2.68mである。桁行柱穴2～3の計測は3.12m、4～1は3.12mを測る。梁行の1～2は2.68m、3～4は2.66mを測る。床面積8.3m²である。柱穴の形状は1・4が楕円形、2が円形、3が隅丸方形を呈する。柱穴の大きさは最大が0.50m×0.40mを測り、最小は0.32m×0.32mを測る。柱穴から出土する遺物は、甕形土器の胴部破片で図化に耐えるものはないが、時期としては弥生時代後期に比定できる。

SB-34 (Fig.32-46 Tab.35 PL.31-2,37-2)

SB-34はSD-07の西側台地のほぼ中央部に位置し、切り合い関係は無く、北西から南東の建物配置を有する。方位はN-9°30'-Wを持ち、標高20.72mを測る1間×1間の掘立柱建物である。桁行3.2m、梁行2.88mである。桁行柱穴2～3の計測は3.2m、4～1は3.2mを測る。梁行の1～2は2.88m、3～4は2.88mを測る。床面積9.2m²である。柱穴の形状は1・2・3が楕円形、4が隅丸方形を呈する。柱穴の大きさは最大が0.80m×0.80mを測り、最小は0.60m×0.46mを測る。柱穴から出土する遺物は、甕形土器・壺形土器の胴部破片で図化に耐えるものはないが、時期としては弥生時代後期に比定できる。

SB-35 (Fig.32-47 Tab.36 PL.31-2,37-2)

SB-35もSB-34と同様にSD-07の西側台地のほぼ中央部に位置し、切り合い関係は無い。方位はN-25°30'-Eを持ち、標高20.66mを測る2間×2間の総柱掘立柱建物である。桁行3.32m、梁行

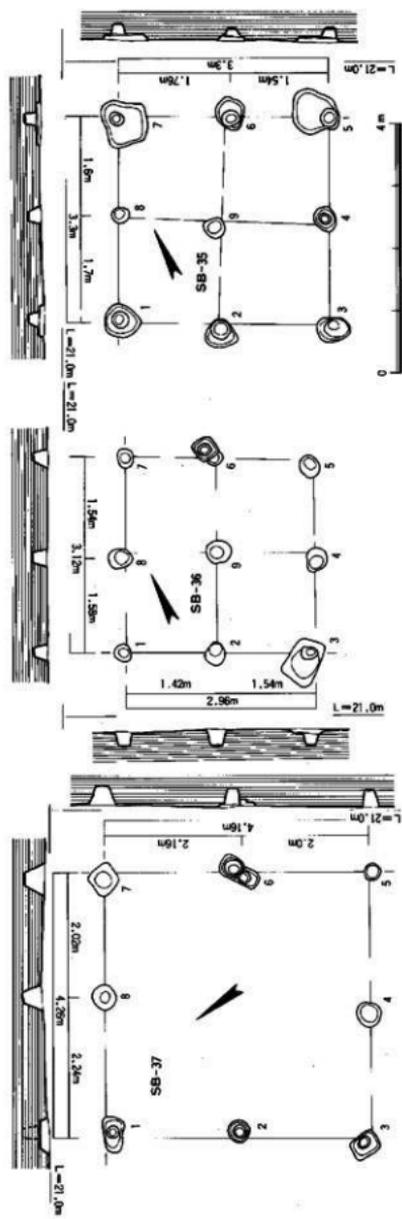


Fig. 47 SB35·36·37 建物檢出狀況実測図 (縮尺1/80)

Tab.36 SB35·36·37 建物檢計測表

建物番号	地区名	建物方向	層数	柱間位置	断面	柱径	梁径	梁高	柱心	梁心	断面形状	材料種別	柱径	梁径	梁高	柱心	梁心	断面形状	材料種別	検出番号
SB-35	二次地区	北東-南西	2×2	R-27'30"	2×2	1	1.6	10.9	1	円形	150	300	240	鋼筋コンクリート	60号コンクリート					
						2	1.66	10.9	2	六角形	140	140	137	RC-28	鉄筋コンクリート	60号コンクリート				
						3	1.72	10.9	3	六角形	104	104	22.8	RC-28	鉄筋コンクリート	60号コンクリート				
						4	1.6	10.9	4	円形	104	360	219	RC-28	鉄筋コンクリート	60号コンクリート				
						5	1.64	10.9	5	六角形	74.0	300	20.0	RC-31	鋼筋コンクリート	60号コンクリート				
						6	1.76	10.9	6	六角形	125.0	140	140	RC-31	鋼筋コンクリート	60号コンクリート				
						7	1.6	10.9	7	六角形	74.0	300	24.0	RC-32	鋼筋コンクリート	60号コンクリート				
						8	1.7	10.9	8	円形	200	240	270	RC-32	鋼筋コンクリート	60号コンクリート				
SB-36	二次地区	北東-南西	2×2	R-27'30"	2×2	1	1.42	9.2	1	円形	300	360	220	鉄筋コンクリート	60号コンクリート					
						2	1.44	9.2	2	六角形	280	300	260	RC-23	鋼筋コンクリート	60号コンクリート				
						3	1.48	9.2	3	六角形	300	300	260	RC-23	鋼筋コンクリート	60号コンクリート				
						4	1.44	9.2	4	六角形	260	300	276	RC-22	鋼筋コンクリート	60号コンクリート				
						5	1.54	9.2	5	円形	260	300	248	RC-22	鋼筋コンクリート	60号コンクリート				
						6	1.4	9.2	6	六角形	240	220	281	RC-22	鋼筋コンクリート	60号コンクリート				
						7	1.54	9.2	7	六角形	200	220	240	RC-22	鋼筋コンクリート	60号コンクリート				
						8	1.58	9.2	8	円形	380	300	240	RC-22	鋼筋コンクリート	60号コンクリート				
SB-37	二次地区	北東-南西	2×2	R-27'30"	2×2	1	1.52	17.8	1	六角形	140	300	420	鋼筋コンクリート	60号コンクリート					
						2	1.66	17.8	2	円形	240	340	462	RC-27	鋼筋コンクリート	60号コンクリート				
						3	1.72	17.8	3	六角形	140	380	471	RC-27	鋼筋コンクリート	60号コンクリート				
						4	1.68	17.8	4	円形	400	380	469	RC-27	鋼筋コンクリート	60号コンクリート				
						5	1.72	17.8	5	六角形	280	240	260	RC-27	鋼筋コンクリート	60号コンクリート				
						6	1.6	17.8	6	円形	400	380	200	RC-27	鋼筋コンクリート	60号コンクリート				
						7	1.62	17.8	7	六角形	320	460	200	RC-27	鋼筋コンクリート	60号コンクリート				
						8	1.74	17.8	8	円形	400	380	200	RC-27	鋼筋コンクリート	60号コンクリート				

3.3mである。桁行柱穴3～4の計測は1.72m、4～5は1.6m、7～8は1.6m、8～1は1.7mを測る。梁行の1～2は1.6m、2～3は1.68m、5～6は1.54m、6～7は1.76mを測る。床面積10.9㎡である。柱穴の形状は1・4・6・8・9が円形、2・5が不整形、3が楕円形、7が隅丸方形を呈する。柱穴の大きさは最大が0.74m×0.70mを測り、最小は0.30m×0.24mを測る。柱穴から出土する遺物は、甕形土器・壺形土器の口縁部・胴部破片で図化に耐えるものはないが、時期としては弥生時代後期に比定できる。

SB-36 (Fig.32・47 Tab.36 PL.37-2)

SB-36もSB-35の南側に位置し、SB-38との切り合い関係を持つ。北東から南西の建物配置を有し、方位はN-27°-Eを持ち、標高20.76mを測る2間×2間の総柱掘立柱建物である。桁行3.12m、梁行2.96mである。桁行柱穴3～4の計測は1.62m、4～5は1.48m、7～8は1.54m、8～1は1.58mを測る。梁行の1～2は1.42m、2～3は1.54m、5～6は1.54m、6～7は1.4mを測る。床面積9.2㎡である。柱穴の形状は1・5・6・8・9が円形、2・4・7が楕円形、3が隅丸方形を呈する。柱穴の大きさは最大が0.80m×0.50mを測り、最小は0.24m×0.22mを測る。柱穴から出土する遺物は、甕形土器・壺形土器の胴部・底部破片で図化に耐えるものはないが、時期としては弥生時代後期に比定できる。

SB-37 (Fig.32・47 Tab.36 PL.37-1・2)

SB-37はSB-36の南側に位置し、北東から南西に建物配置を有し、切り合い関係は無い。方位はN-52°30'-Wを持ち、標高20.9mを測る2間×2間の掘立柱建物である。桁行4.28m、梁行4.16mである。桁行柱穴3～4の計測は2.0m、4～5は2.28m、7～8は2.02m、8～1は2.24mを測る。梁行の1～2は2.1m、2～3は2.06m、5～6は2.0m、6～7は2.16mを測る。床面積17.8㎡である。柱穴の形状は3・7が隅丸方形、2・4・6・8が円形、5が不整形を呈し、1が楕円形を呈する。柱穴の大きさは最大が0.54m×0.30mを測り、最小は0.26m×0.24mを測る。柱穴から出土する遺物は、甕形土器・壺形土器の胴部破片で図化に耐えるものはないが、時期としては弥生時代後期に比定できる。

SB-38 (Fig.32・48・54 Tab.37 PL.37-2)

SB-38はSB-37の北側に位置し、SB-36との切り合い関係を持つ。建物方向は北東から南西に配置され、方位はN-55°30'-Wを持ち、標高20.72mを測る1間×1間の掘立柱建物である。桁行2.14m、梁行2.02mである。桁行柱穴1～2の計測は2.14m、3～4は2.14mを測る。梁行の2～3は2.02m、4～1は2.0mを測る。床面積4.3㎡である。柱穴の形状は1・2・4が隅丸方形、3が円形を呈する。柱穴の大きさは最大が0.66m×0.50mを測り、最小は0.40m×0.38mを測る。柱穴から出土する遺物は、壺形土器の底部を図示 (Fig.54-59 (Pit-17)) したが、この他に甕形土器の胴部があり、時期としては弥生時代後期に比定できる。

SB-39 (Fig.32・48 Tab.37 PL.37-1)

SB-39はSD-01 (旧河川) の東側に位置し、切り合い関係は無い。建物方向は北西から南東に配置され、方位はN-45°-Eを持ち、標高20.72mを測る2間×2間の掘立柱建物である。桁行4.80m、梁行4.34mである。桁行柱穴3～4の計測は2.72m、4～5は2.08m、7～8は2.0m、8～1は2.8mを測る。梁行の1～2は2.0m、2～3は2.32m、5～6は2.16m、6～7は2.18mを測り床面積20.8㎡である。柱穴の形状は2・4～6が楕円形、3が不整形、1・7・8が円形を呈する。柱穴の大きさは最大が0.40m×0.32mを測り、最小は0.24m×0.20mを測る。柱穴から出土する遺物は、甕形土器・壺形土器の胴部破片で図化に耐えるものはないが、時期としては弥生時代後期に比定できる。

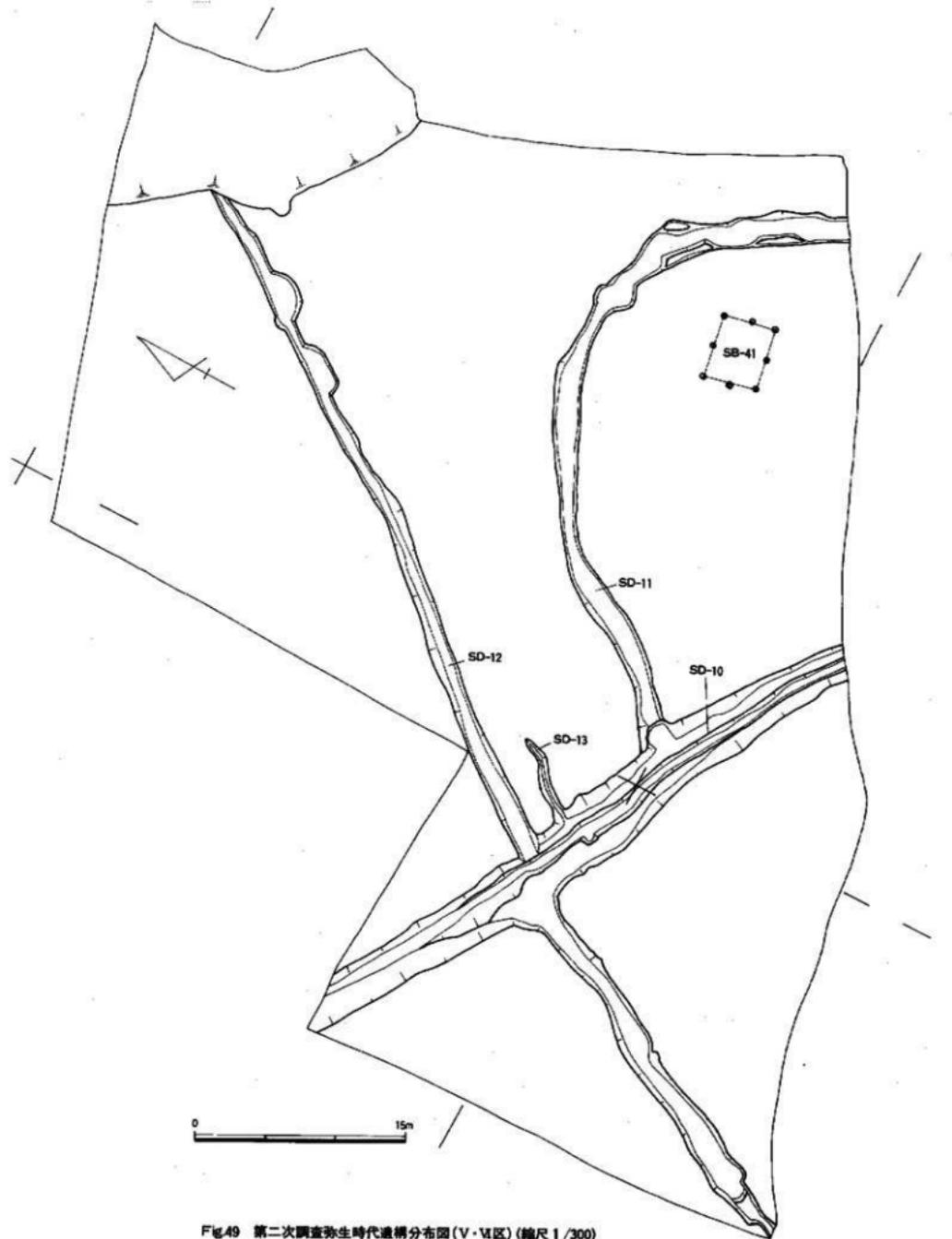


Fig.49 第二次調査弥生時代遺構分布図(V・VI区)(縮尺1/300)

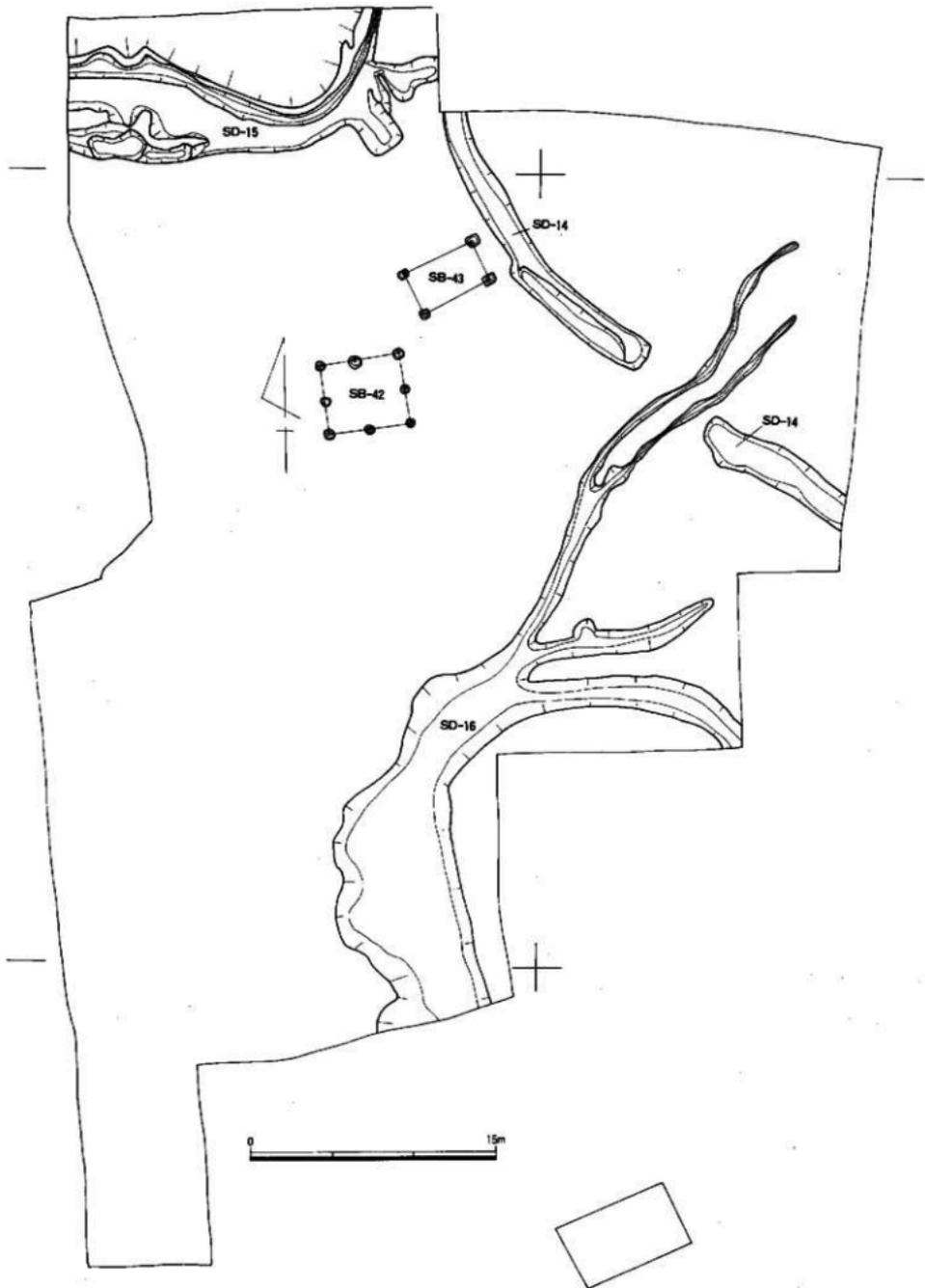


Fig.50 第二次調査弥生時代遺構分布図(Ⅷ区) (縮尺1/300)

SB-40 (Fig.32-48 Tab.37 PL.38-1)

SB-40は中期住居址SC-74が埋没した後に、建てられたもので、切り合い関係は無く、建物方向は北西から南東に配置され、方位は $N-60^{\circ}-W$ を持ち、標高20.88mを測る1間×1間の掘立柱建物である。桁行4.08m、梁行2.74mである。桁立柱穴1～2の計測は4.06m、3～4の計測4.08mを測る。梁行の2～3は2.70mを測り、4～1は2.74mを測る。床面積11.1 m^2 である。柱穴の形状は2～4が円形を呈し、1が楕円形を呈する。柱穴の大きさは最大が0.42m×0.40mを測り、最小は0.40m×0.38mを測る。柱穴から出土する遺物は、壘形土器の胴部破片で図化に耐えるものはないが、時期としては弥生時代後期に比定できる。

第V・Ⅵ区の掘立柱建物 (Fig.49-51 Tab.38 PL.39 付図-1)

SB-41 (Fig.49-51 Tab.38 PL.39-1)

SB-41はⅣ区のSD-10・11に囲まれた北側に位置し、切り合い関係は無い。建物方向は東から西に配置され、方位は $N-76^{\circ}30'-E$ を持ち、標高20.82mを測る2間×2間の掘立柱建物である。桁行4.54m、梁行3.8mである。桁立柱穴1～2の計測は2.24m、2～3は2.28m、5～6は2.24m、6～7は2.3mを測る。梁行の3～4は1.94m、4～5は1.86m、7～8は1.6m、8～1は2.18mを測る。床面積17.2 m^2 である。柱穴の形状は1～5が円形、6～8が楕円形を呈する。柱穴の大きさは最大が0.42m×0.38mを測り、最小は0.30m×0.28mを測る。柱穴から出土する遺物は、壘形土器の口縁部小片で図化に耐えるものはないが、時期としては弥生時代中期に比定できる。

第Ⅶ区の掘立柱建物 (Fig.49-51 Tab.38 PL.40-42 付図-1)

SB-42 (Fig.49-51 Tab.38 PL.41-2,42-2)

SB-42はⅦ区SD-14西側から検出されたもので、ほぼ中央部に位置し、切り合い関係は無い。建物方向は東から西に配置され、方位は $N-83^{\circ}-W$ を持ち、標高20.4mを測る2間×2間の掘立柱建物である。桁行5.14m、梁行4.90mである。桁立柱穴1～2の計測は2.24m、2～3は2.72m、5～6は2.96m、6～7は2.18mを測る。梁行の3～4は2.44m、4～5は2.46m、7～8は2.72m、8～1は2.04mを測る。床面積24.4 m^2 である。柱穴の形状は2が円形、1・3～8が隅丸方形を呈する。柱穴の大きさは最大が0.66m×0.54mを測り、最小は0.46m×0.44mを測る。柱穴から出土する遺物は、壘形土器の胴部・底部破片で図化に耐えるものはないが、時期としては弥生時代中期に比定できる。

SB-43 (Fig.49-51 Tab.38 PL.41-2)

SB-43はⅦ区SD-14西側近接地から検出されたもので、切り合い関係は無い。建物方向は北東から南西に配置され、四柱穴とも柱が遺存していた。方位は $N-25^{\circ}-E$ を持ち、標高20.3mを測る1間×1間の掘立柱建物である。桁行4.6m、梁行2.6mである。桁立柱穴1～2の計測は4.6m、3～4の計測4.5mを測る。梁行の2～3は2.6m、4～1は2.54mを測る。床面積11.7 m^2 である。柱穴の形状は1～4が隅丸方形を呈する。柱穴の大きさは最大が0.70m×0.56mを測り、最小は0.52m×0.50mを測る。柱の大きさは第1柱穴が径20cm、遺存する高さが30cm、第2柱穴が径18cm、遺存する高さが30cm、第3柱穴が径16cm、遺存する高さが24cm、第4柱穴が径18cm、遺存する高さが34cmを測る。柱穴から出土する遺物は、壘形土器の口縁部・胴部の細片で図化に耐えるものはないが、時期としては弥生時代中期に比定できる。

このほかに柱が残っている掘立柱建物にⅧ区のSB-09 (Fig.36) とSB-15 (Fig.38) があるが、柱の直径は20cm内外で、最大のものでSB-09の第9柱穴の28cm、最小でSB-09の第7柱穴とSB-15の第3柱穴の14cmである。

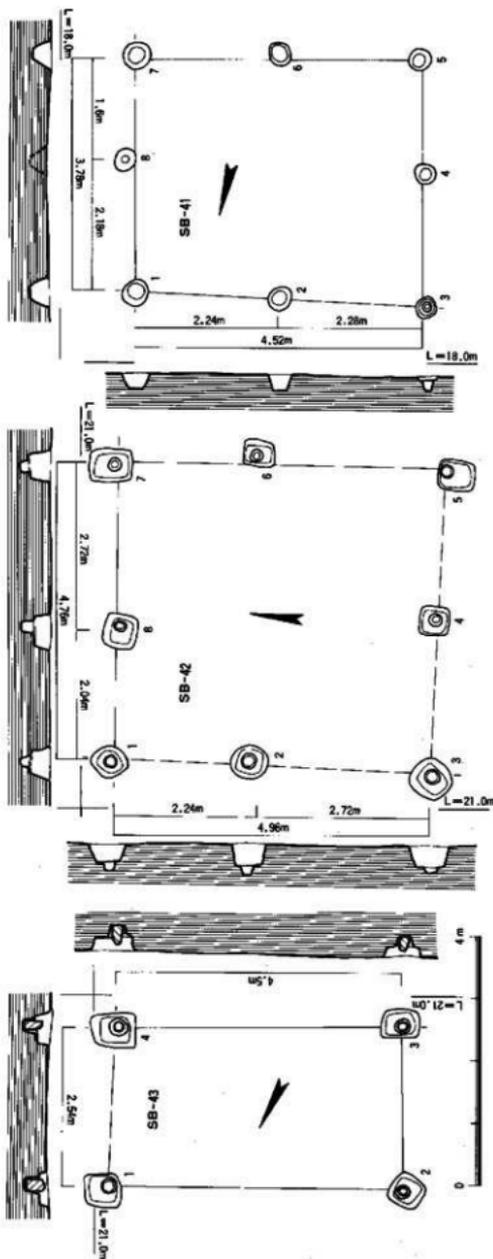


Fig. 51 SB41・42・43 建築物出土状況実測図 (縮尺1/80)

Tab.38 SB41・42・43 建築物計測表

建物番号	構造名	構造方位	構造形状	構造寸法	構造材料	構造状態	構造年代	構造用途	構造位置	構造高さ	構造面積	構造体積	構造重量	構造強度	構造番号	構造図				
																	構造形状	構造寸法	構造材料	構造状態
SB-41	二層瓦葺	東-西	2×2	1	瓦葺	1.7	1.7	1.7	瓦葺	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7			
				2	瓦葺	2.24	2.24	2.24	瓦葺	2.24	2.24	2.24	2.24	2.24	2.24	2.24	2.24	2.24		
				3	瓦葺	3.8	3.8	3.8	瓦葺	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	
				4	瓦葺	4.54	4.54	4.54	瓦葺	4.54	4.54	4.54	4.54	4.54	4.54	4.54	4.54	4.54	4.54	
				5	瓦葺	2.3	2.3	2.3	瓦葺	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3
				6	瓦葺	2.78	2.78	2.78	瓦葺	2.78	2.78	2.78	2.78	2.78	2.78	2.78	2.78	2.78	2.78	2.78
SB-42	二層瓦葺	東-西	2×2	1	瓦葺	2.28	2.28	2.28	瓦葺	2.28	2.28	2.28	2.28	2.28	2.28	2.28	2.28	2.28		
				2	瓦葺	2.72	2.72	2.72	瓦葺	2.72	2.72	2.72	2.72	2.72	2.72	2.72	2.72	2.72	2.72	
				3	瓦葺	2.46	2.46	2.46	瓦葺	2.46	2.46	2.46	2.46	2.46	2.46	2.46	2.46	2.46	2.46	
				4	瓦葺	4.30	4.30	4.30	瓦葺	4.30	4.30	4.30	4.30	4.30	4.30	4.30	4.30	4.30	4.30	
				5	瓦葺	5.14	5.14	5.14	瓦葺	5.14	5.14	5.14	5.14	5.14	5.14	5.14	5.14	5.14	5.14	5.14
				6	瓦葺	2.72	2.72	2.72	瓦葺	2.72	2.72	2.72	2.72	2.72	2.72	2.72	2.72	2.72	2.72	2.72
SB-43	二層瓦葺	東-西	1×1	1	瓦葺	4.6	4.6	4.6	瓦葺	4.6	4.6	4.6	4.6	4.6	4.6	4.6	4.6	4.6		
				2	瓦葺	2.6	2.6	2.6	瓦葺	2.6	2.6	2.6	2.6	2.6	2.6	2.6	2.6	2.6	2.6	
				3	瓦葺	3.8	3.8	3.8	瓦葺	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	
				4	瓦葺	4.9	4.9	4.9	瓦葺	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	
				5	瓦葺	2.54	2.54	2.54	瓦葺	2.54	2.54	2.54	2.54	2.54	2.54	2.54	2.54	2.54	2.54	2.54
				6	瓦葺	2.54	2.54	2.54	瓦葺	2.54	2.54	2.54	2.54	2.54	2.54	2.54	2.54	2.54	2.54	2.54

3. 掘立柱建物内出土遺物

第一次調査・Ⅰ区の掘立柱建物出土遺物

掘立柱建物の柱穴から出土した遺物をFig.52～54までで図示した。出土遺物は、柱穴掘方内から出土したもの、柱痕内から出土した遺物がある。図示したものはすべて、柱穴掘方内より出土したもので、その時期を示すものではなく、あくまでもそれより新しい時期として考える必要がある。最大限に時期を設定しても同時期であり、それより遡ることはない。

Fig.52・53は第1次調査の第Ⅱ区から検出した掘立柱建物の遺物で、Fig.54は第2次調査の第Ⅳ区から検出された掘立柱建物の遺物である。

1はSB-04、Pit-695から出土した甕形土器の口縁部である。口縁部がわずかに「L」字状を呈し、端部は丸くおさめる。最大径は胴部にある。口径28cmを測る。2はSB-05、Pit-732から出土した甕形土器の胴部である。胴部上位に一条の凸帯を巡らし、帯目の背に刻目を入れるもので、表面は細かな刷毛目を施している。3はSB-07、Pit-142から出土した甕形土器の口縁部である。口縁部が「L」字状を呈し、端部がやや下がりがみで、口径31.2cmを測る中型の甕形土器である。4はSB-06、Pit-709から出土した口縁部の剥片で、口唇部の端部を欠損するが、「L」字状の口縁である。

5も口縁部の剥片で、SB-07、Pit-183から出土した。口唇部がやや下がりがみであるが、3ほど下がるものではない。6は口径26.2cmを測る。「L」字状を呈する甕形土器である。SB-10、Pit-160から出土したものである。7もSB-10、Pit-160から出土した甕形土器の口縁部で、口径24.4cmを測る。如意形に広く口縁で内外面に丹を塗る丹塗甕である。8もSB-10、Pit-160から出土した甕形土器の口縁部で、胴部からの、立上りはやや内湾しながら立上り、頸部がやや下がりがみで、「L」字状口縁よりさらに口縁部が平坦面を呈する甕で、口径23cmを測り、内外面とも縦方向の刷毛目を施している。9はSB-09、Pit-234から出土した甕形土器の底部で、底径6.4cmを測る。10もSB-09、Pit-1598から出土した甕形土器の底部である。復元底径は7.8cmを測る。11もSB-09、Pit-1598から出土した底部片である。12はSB-13、Pit-1402から出土した甕形土器の口縁部である。「L」字状口縁で、最大径が口縁部にあり、胴部は張ることなく底部に達するタイプである。やや口縁部端が内側に入るがまだ「T」字状口縁までは達していない。口径33.6cmを測る。13もSB-13、Pit-1402から出土した甕形土器の口縁部で、口径32cmを測る「L」字状口縁の甕形土器である。14はSB-14、Pit-1632から出土した甕形土器で、「T」字状口縁を呈する口径23.4cmを測る。15～18はSB-16、Pit-609・596・1160から出土した甕形土器、鉢形土器の口縁部片である。復元できるものはない。

19、20はSB-17、Pit-603から出土した甕形土器口縁部の2片である。19は頸部の短い「L」字状口縁部で、端部に斜めの刻目を巡らし、外面は荒い刷毛目、内面は指おさえの後ナデで仕上げている。口径24.2cmを測る。21はSB-19、Pit-850から出土した甕形土器の口縁部と底部で、底径9.6cmを測る。22～25はSB-21、Pit-71・88から出土した甕形土器の口縁部と底部である。22～23は口縁部で、「L」字状口縁を呈するものである。26～28は、SB-24、Pit-1279・1383・1514から出土した甕形土器、甕形土器の口縁部である。26は口径36.8cmの甕形土器口縁部で、口縁部の形から胴部がかなり締ったものである。27は中期にみられる「L」字状口縁と三角突帯を有する口縁部である。28は口唇部がかなり下がるタイプの土器である。29はSB-25、Pit-998から出土した甕形土器口縁部であるやや「T」字状口縁に近い形状を持つ。30～33は、SB-28、Pit-1430・1456・1625から出土した甕形土器、甕形土器の口縁部である。30は口径24.2cmを測る甕形土器の口縁部で、口縁端部に刻目を巡らすタイプである。31～33は中期にみられる土器で口縁部が「L」字及びそれに近い形状を呈するが、30が中期末

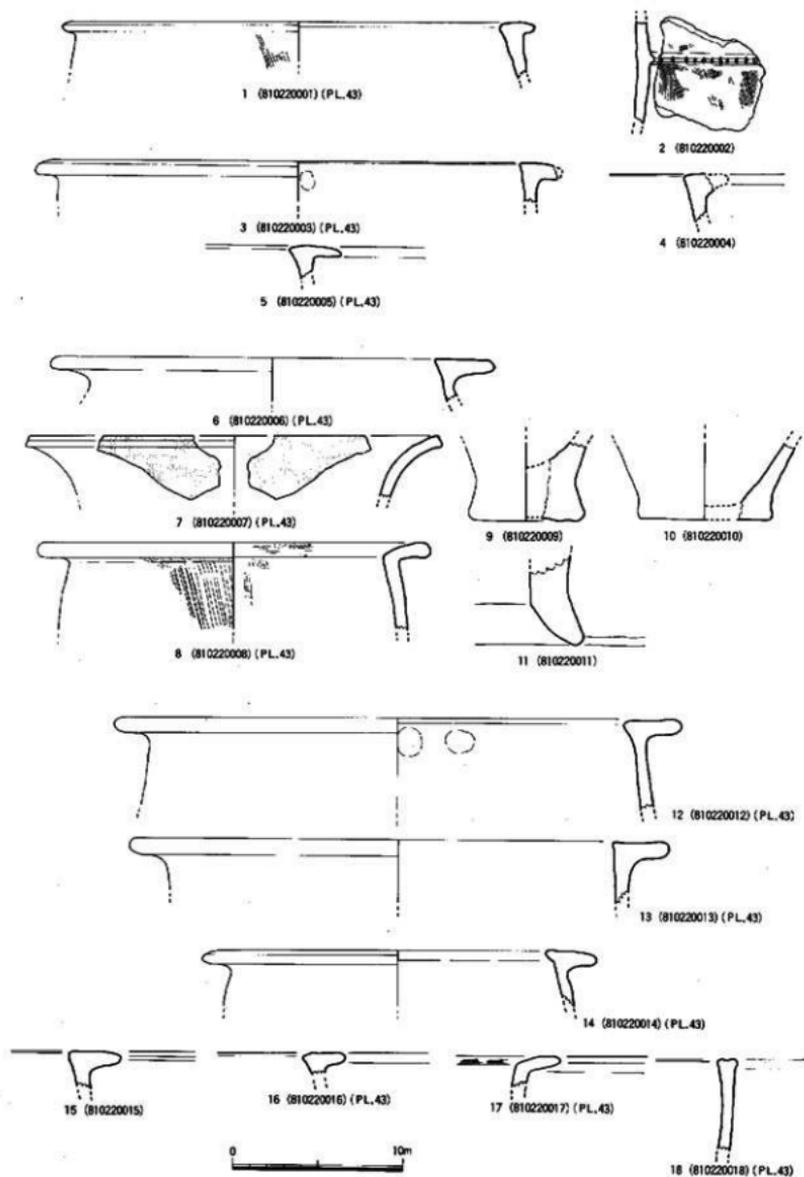


Fig. 52 第一次調査出土土器実測図(1) (縮尺1/3)

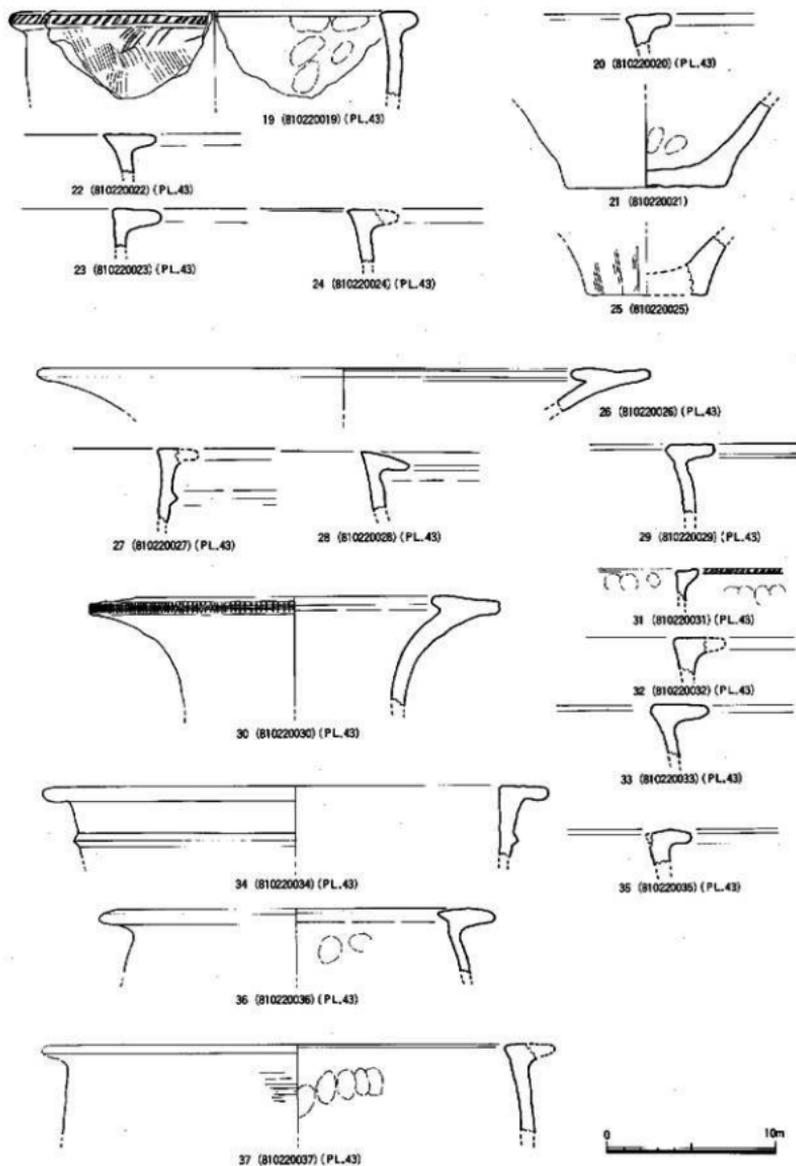


Fig. 53 第一次調査出土土器実測図(2) (縮尺1/3)

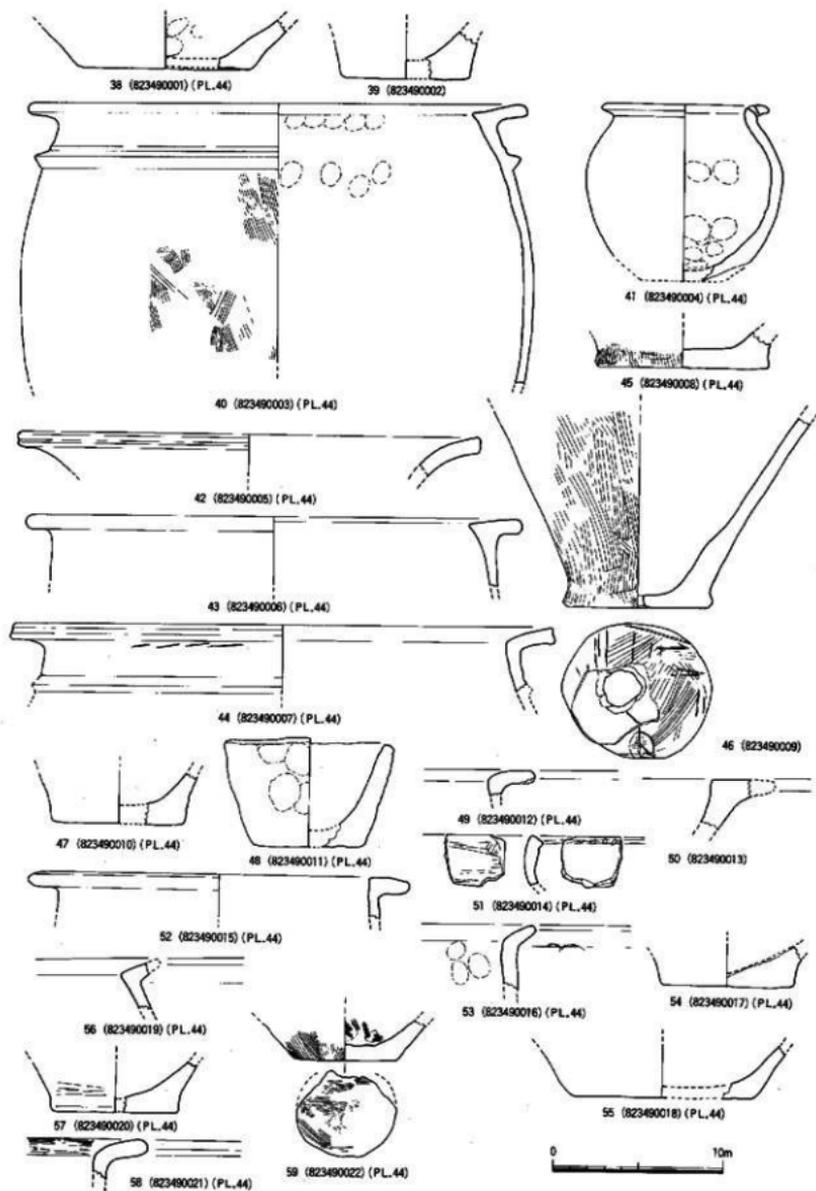


Fig. 54 第二次調査出土土器実測図(3) (縮尺1/3)

から後期に比定される時期であり、建物自体はこの時期に設定して後期に位置付けられる。

34～36はSB-30、Pit-1132・1134・1138から出土した甕形土器の口縁部であるが、このほかにも弥生時代後期の時期を示す甕形土器の口縁部が出土しているが、図化に耐えるものではなくSB-30からはこの3点を図示した。

34、35は中期にみられる甕形土器で、34は口径29.8cmを測る「L」字状口縁で、胴部上位に三角突帯が巡るものである。36は「T」字状口縁部で口径23.2cmを測る。SB-31からは37と後期の甕形土器片が出土したが、甕形土器は図化にたえず、37を図示した。37はPit-1460から出土した甕形土器の口縁部であり、「L」字状口縁を呈し、口径30.2cmを測る。

以上が第1次調査Ⅱ区の掘立柱建物出土の遺物である。第Ⅰ区とⅣ区の遺物は、土器片が胴部だけであったり、口縁部でも破片で図化にたえるものはなかった。掘立柱建物の時期は、前章でも述べた時期である。

第二次調査・K区の掘立柱建物出土遺物 (Fig. 54 PL. 44)

第二次調査のⅤ区・Ⅵ区・Ⅶ区の掘立柱建物からは、弥生時代中期の甕形土器胴部片しか出ていないため図示していない。時期の設定は、土器によるが、出土した土器の一番新しい時期を上限として考えた。

38はSB-05、Pit-361から出土した甕形土器の底部で、復原底径10.2cmを測る。39も同じSB-05、Pit-361から出土した甕形土器の底部である。底径7.6cmを測る。

SB-06からは7点図示した。40はPit-382から出土した甕形土器である。底部は欠損しているが、口径29.4cm、最大径30.2cmを測る。口縁部は「L」字状口縁で、胴部上位に三角突帯を1条巡らす。41は底部が欠損しているが、口径10cm、推定底径5cm、器高10.6cm、最大径11cmを測る甕形土器でPit-382から出土し、口縁部に有孔が2ヶ所あるところから蓋付きの甕形土器と考えられる。42は同じPit-382から出土した口径17.2cmを測る甕形土器の口縁部で如意形に広く、43はPit-383から出土した甕形土器の口縁部で、「L」字状口縁を有し、口径29.2cmを測る。44はPit-378より出土した口径31.8cmの甕形土器である。口径はやや頸部が下がり「L」字に近い形状を呈するが、胴部上位に一条の三角突帯を有する。45は底径10.4cmを測る甕形土器の底部である。45・46はPit-382より出土した。46は甕形土器の底部であるが、径8.2cmの底部に径2.2cmの孔を明け、甕としている。孔は焼成後にあけられたもので、中心部からはずれている。内面はナデによる仕上げが行なわれ、外面は底部まで刷毛目が施されている。47・48はSB-07、Pit-370から出土したもので、47は甕形土器の底部で底径7.6cmを測る。48は手捏土器で、口径10cm、器高6.6cm、底径6.2cmである。49～51はSB-09、Pit-442・443から出土した甕形土器、甕形土器片である。49は「く」字状口縁を呈するところから弥生時代後期に属する。52はSB-12、Pit-333から出土した甕形土器の口縁部で、「L」字状口縁を呈し、口径22.4cmを測る。53～55はSB-15、Pit-279から出土した甕形土器、甕形土器の口縁部・底部である。53の口縁部は「く」字状を呈する土器である。56はSB-18、Pit-117から出土した甕形土器で「く」字状口縁を呈する。57はSB-31、Pit-110から出土した甕形土器の底部である。58はSB-32、Pit-86から出土した甕形土器の口縁部である。59はSB-38、Pit-17から出土した甕形土器の底部で、底径6cmを測る。

4. 第二次調査小結

V・VI区

V・VI区の弥生時代の遺構は、SD-10・12の十字に交差する溝とSD-10から枝分かれしたSD-11が通り、東側台地が削平され集落となっているためその実態は不明であるが、おそらく環濠となると思われる。その環濠内よりSB-41の1棟だけが検出された。溝のレベルを測ると、40~50cm程度の深さしかないので、かなりの削平を受けている。本来、環濠内に遺構があったと考えられる。

VI区

VI区の弥生時代の遺構は中期に属する溝、SD-14・15、掘立柱建物2棟、2/3以上削平された甕棺墓1基が検出された。弥生時代後期の溝一条が検出された。このVI区も削平された痕跡が高く遺存状態もかなり悪い。おそらく、50cm以上の削平を受けているものと考えられる。

SD-14は中央部に陸橋をもち、両側に弧状に広がっているが、これもおそらく環濠状になるものと思われ、出入口のための陸橋であったと思われる。この陸橋の付近にSB-43が検出され、1間×1間、のすべての柱穴に柱が残っており、現存する柱の径は20~23cmである。

削平を受けているため他の遺構の検出は認められなかったが、おそらく、住居址、掘立柱建物等が環濠内に遺存していたものと思われる。

SD-15からは、木製品が出土した。スコップ状木製品、勾玉状木製品が出土した。

中央部にある2間×2間の掘立柱建物(SB-42)と1間×1間の掘立柱建物(SB-43)の2棟だけが遺存するだけである。

弥生時代後期には、溝状遺構1条が検出されたにとどまった。

K区

K区の弥生時代の遺構は、弥生時代中期の竪穴式住居址が3軒、溝状遺構が4条、甕棺墓1基、掘立柱建物19棟を検出した。弥生時代後期の溝状遺構は5条、掘立柱建物21棟を検出した。

弥生時代中期の遺構の内、竪穴式住居址に伴う掘立柱建物はSC-73の円形住居址に対して、SB-14、SC-75の住居址に対してSB-13、SC-74に対してSB-16~19(建替も含む)がある。掘立柱建物だけの配置として北側の一群があり、SB-01~12までである。切合い関係のあるもの、単独のもの等があり、3つに区分できる。ほぼ北から南への建物方向をもつSB-05・11・12がA群で、北東から南西への建物方向を有するSB-01・02・06・08・10のB群とその他のC群SB-03・04・07に分けられる。時期的区分は困難をきわめたが、ほぼ中期の範囲の中におさまる。A群はSC-75とほぼ同時期の中期中葉、B群は中期初頭、C群は中期後葉におさまる。

弥生時代後期の遺構はSD-05~08の溝によって区割りされている。SD-05は、SD-01と02とを結ぶ溝で(SD-01は中期初頭から古墳時代初期まで使用されたもの)SD-06・07もSD-02へ流れ込む様相を示している。SD-05とSD-07・08が交差する部分には塚がもうけられていた。

溝によって区別された掘立柱建物は、建替はあるにせよ、その範囲内でのことであり、溝を巡らされた倉庫群の感が強い。SD-05・07に囲まれた南側において、SB-29・28・26・25・27が一時期のものと考えられ、SB-22は建替によるものかもしれない。また西側台地において、切合い関係のある建物はSB-36と38だけで他は単独である。配置からして2期ぐらいに区分できるかもしれない。A群は、31・33・35・36・37・39の6棟、B群は30・32・34・38・40の5棟である。

第四節 第四・五次調査報告

調査概要 第四次調査で検出された弥生時代建物は、総数44棟（S B01～S B44）を数える。その分布は東西に長い調査区のうち、主に東半部にあたるE-14～J-18地区に集中しており、特に豊富な副葬品を伴う弥生時代前期末～中期初頭の吉武高木弥生墓地の東側50mで検出されたS B02大型建物の南側一帯と西側におおく分布している。

また、建物群の規模は、桁行・梁行が1×1間建物4棟、2×1間建物35棟、3×1間建物1棟、3×3間建物1棟、5×2間建物1棟、5×3間建物1棟、5×4間建物1棟の構成である。これら建物群は、旧日向川の自然営力によって形成された扇状地の裾部付近におおく営まれているが、遺構の遺存のうえでは過去から現在までの、特に水田開発を主とする開発による削平などをかなり受けている。以下では各建物について説明を加えることとする。

検出独立柱建物 (Fig.56～63、65～80、PL.1・2、47～54)

S B01建物 (Fig.56, Tab.39)

S B01建物は、第4号支線道路調査区北東隅に検出された東西棟建物であり、長軸をN-62°-Eにとる。その規模は、桁行2間以上、梁行1間と考えられ、東辺が調査区外となる。

また、建物の桁行実長は、調査部分で3.8mであり、柱間寸法は柱穴掘方1-2の間で1.4m、柱穴掘方2-3の間で2.4mをはかり、柱間規模には変移が見られる。また、梁行実長は、2.5mである。さらに、調査された範囲での床面積は9.5㎡をはかる。

調査で検出された側柱の掘方は、全体で5本分である。形状は円形～不整な円形を呈するものが多く、長・短の径が60×60cmのものから100×76cmまでのものが見られる。また、掘方の残存する深さは、掘方2を除けば20cm内外である。

出土物では、柱穴掘方の3・4内から弥生時代中期前半期の甕、壺の細片が少量出土している。

出土物 (Fig.81) 001 は、甕である。柱穴掘方4出土。

S B03建物 (Fig.56, Tab.39)

S B03建物は、第4号支線道路調査区北東隅に検出された東西棟建物であり、長軸をN-62°-Wにとる。その規模は、桁行2間、梁行1間と考えられ、北側が削平により残存しない。

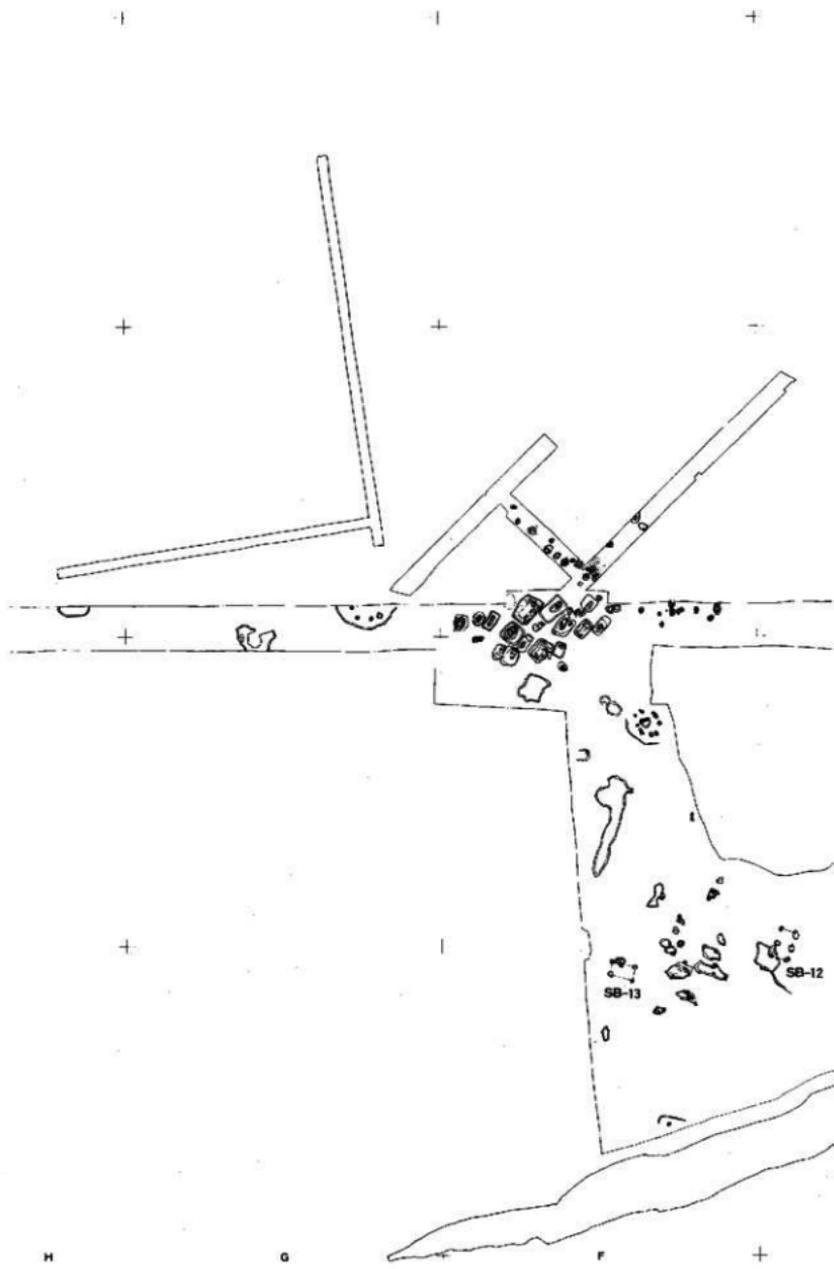
また、建物の桁行実長は、調査部分で5.9mであり、柱間寸法は柱穴掘方1-2の間で2.8m、柱穴掘方2-3の間で3.1mをはかり、柱間規模には変移が見られる。また、梁行実長は、3.7mである。さらに、調査された範囲での床面積は21.8㎡をはかる。

調査で検出された側柱の掘方は、全体で4本分である。形状は円形～不整な円形、隅丸方形を呈する。長・短の径は66×64cmのものから100×70cmまでのものが見られる。また、掘方の残存する深さは、掘方3を除けば35cm内外である。

出土物では、柱穴掘方の3内から弥生式土器の細片が少量出土している。

S B02建物 (Fig.57, PL.2, Tab.40)

S B02建物は、第4号支線道路調査区と第1号幹線道路の交差点で検出された南北棟建物であり、



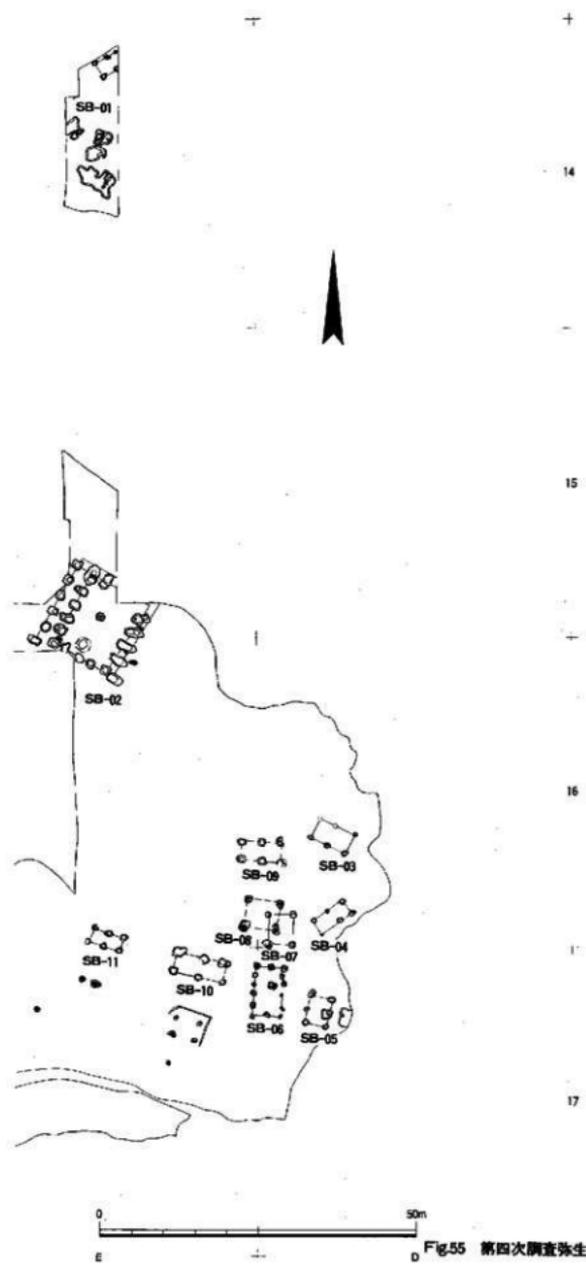


Fig.55 第四次調査弥生時代遺構分布図(Ⅰ)

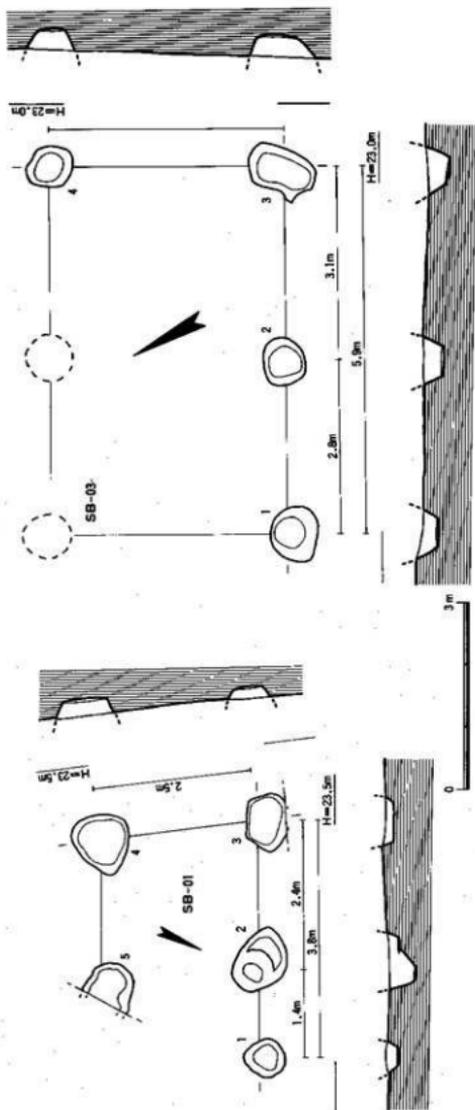


Fig. 56 SB01-03遺物出土状況測定図(1/80)

Tab.39 第四次調査 SB01-03 遺物計測表

遺物番号	地区名	方位	長×幅	面積	層	層行	行	空	行	始層	材次	形状	形式	風	面積	田圃	主要な出土遺物	植物種	植物番号	
SB-03	F-14	東西	N-62°E	3.8 × 2.4	3.8	1.4 × 2.4	2.5	2.5	9.5	1	1	円形	1	50.0	60.0	15.2	1-50	---	中層磁土	
										2	2	円形	2	100.0	76.0	47.7	1-50	---		
										3	3	円形	3	50.0	44.0	19.2	1-50/8	灰土式土器片		
										4	4	円形	4	50.0	80.0	23.2	1-50/16	灰土式土器片-器底		
										5	5	円形	5	50.0	42.0	10.5	1-50	---		
SB-03	D-16	東西	N-62°W	2.8 × 1	5.9	2.8 × 3.1	3.7	3.7	21.8	1	1	円形	1	50.0	72.0	36.6	6-50/5	---	灰土	Fig.81-1
										2	2	円形	2	50.0	70.0	35.0	6-50/5	---		
										3	3	円形	3	100.0	70.0	46.0	6-50/4	灰土式土器片		
										4	4	円形	4	50.0	44.0	34.5	6-50	---		

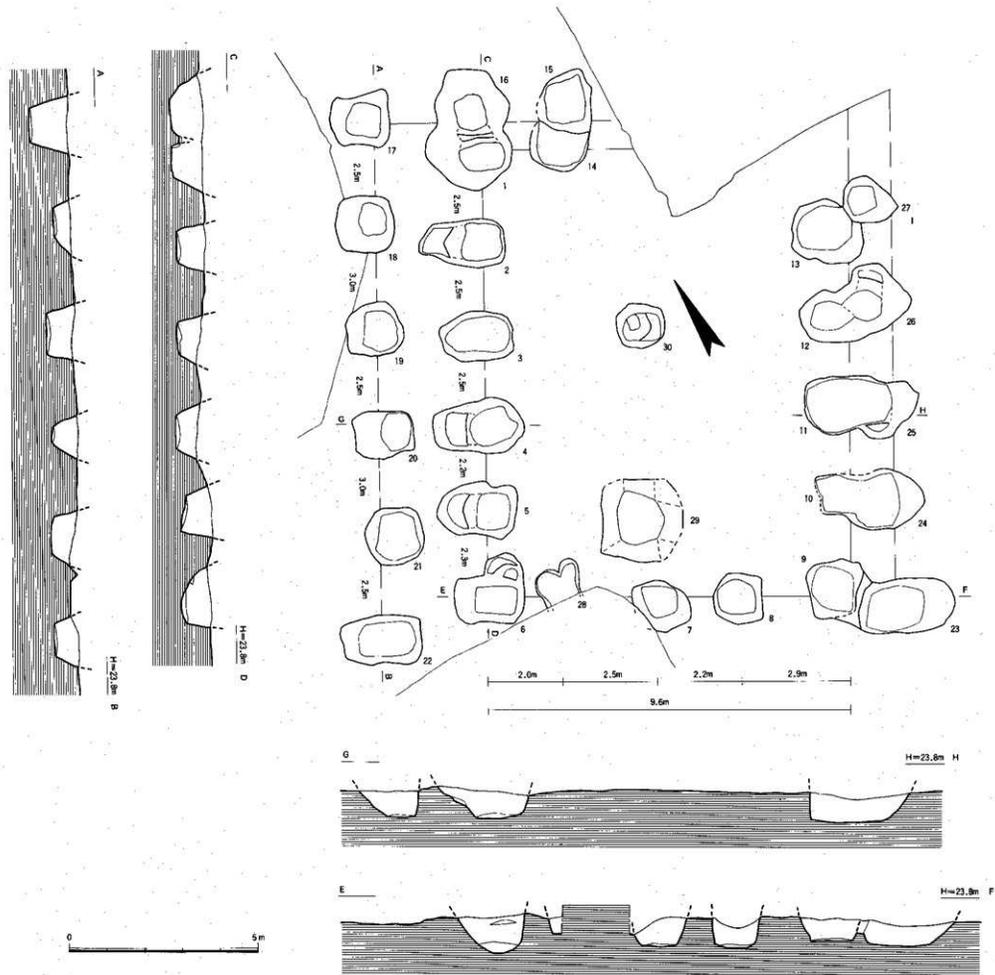


Fig.57 SB02遺物跡出土状況実測図(1/100)

長軸をN-30°-Eにとる。その規模は、桁行5間、梁行4間と考えられ、北隅と南隅は未調査で、確認できていない。

また、建物の桁行実長は、調査部分で12.0mであり、柱間寸法は柱穴掘方1-2の間で2.5m、柱穴掘方2-3の間で2.5mをはかり、柱間規模には変移が見られる。また、梁行実長は、9.6mである。さらに、床面積は115.2㎡をはかる。

また、桁・梁間が5×4間の身舎の外側には西側で最も幅広く2.8m、北側で幅1.0m、東側で幅1.0m、南側で最も狭く幅1.0mの庇あるいは回廊状の施設かと考えられる掘方（壺掘り）が付属する。

調査で検出された側柱の掘方は二段掘りとなるものが多く、検出されたものは全体で16本分である。形状は方形～長方形を呈する。長・短の径は140×120cmのものから240×140cmまでのものが見られる。また、掘方の残存する深さは、62～91cm内外である。

出土遺物では、柱穴掘方のほとんどから弥生中期初頭の土器片が出土している。

出土遺物 (Fig.81) 002は、丹塗無頸壺蓋である。柱穴掘方1出土。003は、有軸羽状文壺である。004は、甕口縁である。何れも柱穴掘方4出土。005は、無頸壺である。柱穴掘方9出土。006は、無頸壺である。007は、脚付鉢である。何れも柱穴掘方17出土。008は、甕口縁である。009は、袋状口縁壺である。何れも柱穴掘方18出土。010は、甕口縁である。柱穴掘方19出土。011は、壺である。012は、甕である。013は、樽形土器である。何れも柱穴掘方30出土。

S B04建物 (Fig.58, Tab.41)

S B04建物は、調査区南側に検出された東西棟建物であり、長軸をN-53°-Eにとる。その規模は、桁行2間、梁行1間と考えられ、南隅が削平が著しい。

また、建物の桁行実長は、調査部分で5.4mであり、柱間寸法は柱穴掘方2-3の間で2.7m、柱穴掘方3-4の間で2.7mをはかるが、柱間規模には変移が見られる。また、梁行実長は、2.3mである。さらに、調査された範囲での床面積は12.4㎡をはかる。

調査で検出された側柱の掘方は、全体で6本分である。形状は円形～不整な円形を呈するものが多く、長・短の径が30×30cmのものから130×86cmまでのものが見られる。また、掘方の残存する深さは、掘方5を除けば30～50cm内外である。

出土遺物では、柱穴掘方の2内から弥生時代中期前葉の甕、壺、器台の破片が少量出土している。

出土遺物 (Fig.81) 014は甕である。柱穴掘方2出土。

S B05建物 (Fig.58, Tab.41)

S B05建物は、調査区南側に検出された南北棟建物であり、長軸をN-12°-Eにとる。その規模は、桁行2間、梁行1間と考えられ、やや桁行の短い建物である。

また、建物の桁行実長は、調査部分で4.6mであり、柱間寸法は柱穴掘方2-3の間で2.3m、柱穴掘方3-4の間で2.3mをはかるが、柱間規模はほぼ同一であり、柱筋がどおる。また、梁行実長は、3.4mである。さらに、調査された範囲での床面積は15.6㎡をはかる。

調査で検出された側柱の掘方は、全体で6本分である。形状は隅丸方形～長方形を呈するものが多く、長・短の径が70×64cmのものから160×136cmまでのものが見られる。また、掘方の残存する深さは、掘方1を除けば46～60cm内外である。

出土遺物では、柱穴掘方の1・2・3・4・5・6内から弥生時代中期の甕、壺、鉢、高坏の破片が少量出土している。

出土遺物 (Fig.81) 015は甕である。柱穴掘方6出土。

S B06建物 (Fig.59, Tab.42)

S B06建物は、調査区南側に検出された南北棟建物であり、長軸をN-45°-Eにとる。その規模は、桁行5間、梁行2間と考えられ、柱間の小さい建物である。

また、建物の桁行実長は、調査部分で8.2mであり、柱間寸法は柱穴掘方10-11の間で1.3m、柱穴掘方11-12の間で1.5m、柱穴掘方12-13の間で1.5m、柱穴掘方13-14の間で2.0m、柱穴掘方14-1の間で1.9mをはかり、柱間の規模は、やや不規則である。また、梁行実長は、4.3mであり、柱間寸法は柱穴掘方8-9の間は2.0m、柱穴掘方9-10の間は2.3mをはかる。建物の床面積は35.3㎡をはかる。

また、建物の桁行中央には棟持ち柱に相当すると考えられる柱穴掘方1個が見られる。

調査で検出された側柱の掘方は、全体で14本分である。形状は隅丸方形~方形を呈するものが多く、長・短の径が60×50cmのものから136×90cmまでのものが見られる。また、掘方の残存する深さは、掘方1を除けば50-88cm内外である。

出土遺物では、柱穴掘方の1を除く掘方内から弥生時代中期後半の甕、壺、鉢、高坏の破片が出土している。

出土遺物 (Fig.81) 016は、甕底部である。柱穴掘方3出土。017は、無文土器底部か。柱穴掘方6出土。018は、壺である。柱穴掘方9出土。

S B07建物 (Fig.60, Tab.43)

S B07建物は、調査区東辺に検出された南北棟建物である。長軸をN-Sにとる。その規模は、桁行1間、梁行1間と考えられる建物である。

また、建物の桁行実長は、4.9mであり、柱間寸法は柱穴掘方2-3の間で4.9m、柱穴掘方1-4の間でも4.9mをはかり、柱間の規模は、規則的である。また、梁行実長は、3.8mであり、柱間寸法は柱穴掘方3-4の間で3.8m、柱穴掘方1-2の間でも3.8mをはかる。建物の床面積は18.6㎡をはかる。

調査で検出された側柱の掘方は、全体で4本分である。形状は楕円形~方形を呈するものが多く、長・短の径が80×80cmのものから160×110cmまでのものが見られる。また、掘方の残存する深さは、掘方4を除けば92-105cm内外である。

出土遺物では、柱穴掘方の2・3・4内から弥生時代中期後半の甕、壺、鉢、高坏、器台の破片が出土している。

出土遺物 (Fig.81) 019は、筒形器台である。020は、壺である。何れも柱穴掘方3出土。

S B08建物 (Fig.60, Tab.43)

S B08建物は、調査区東辺に検出された南北棟建物であり、S B07建物と重複している。長軸をN-81°-Wにとる。その規模は、桁行1間、梁行1間と考えられる建物である。

また、建物の桁行実長は、5.4mであり、柱間寸法は柱穴掘方1-2の間で5.4m、柱穴掘方3-4の間でも5.4mをはかり、柱間の規模は、規則的である。また梁行実長は、4.7mであり、柱間寸法は

柱穴掘方2-3の間で4.7m、柱穴掘方1-4の間でも4.7mをはかる。建物の床面積は25.9㎡をはかる。

調査で検出された隅柱の掘方は、全体で4本分である。形状は長方形-方形を呈するものが多く、長・短の径が106×106cmのものから190×106cmまでのものが見られる。また、掘方の残存する深さは、掘方2を除けば97~112cm内外である。

出土建物では、柱穴掘方の1・2・3・4内から弥生時代中期後半の甕、壺、鉢、高坏、器台の破片が出土している。

出土遺物 (Fig.81) 021は、甕である。柱穴掘方3出土。**022**も、甕である。柱穴掘方4出土。

S B09建物 (Fig.61, Tab.44)

S B09建物は、調査区東辺に検出された東西棟建物であり、S B08建物の北側に隣接している。長軸をN-86°-Wにとる。その規模は、桁行2間、梁行1間と考えられる建物である。

また、建物の桁行実長は、6.0mであり、柱間寸法は柱穴掘方1-2の間で2.8m、柱穴掘方2-3の間で3.2mをはかり、柱間の規模は、やや不規則である。また、梁行実長は、3.2mであり、柱間寸法は柱穴掘方3-4の間で3.2m、柱穴掘方6-1の間でも3.2mをはかる。建物の床面積は19.2㎡をはかる。

調査で検出された隅柱の掘方は、全体で6本分である。形状は長方形-方形を呈するものが多く、長・短の径が100×90cmのものから150×100cmまでのものが見られる。また、掘方の残存する深さは、掘方3を除けば45cm内外である。

出土遺物では、柱穴掘方の1・2・3・5・6内から弥生時代中期後半の甕、壺、脚付鉢の破片が出土している。

出土遺物 (Fig.81) 023は、甕である。柱穴掘方1出土。**024**は、高坏脚破片である。柱穴掘方2出土。**025**は、ミニチュア鉢である。柱穴掘方5出土。**026**は、甕である。柱穴掘方6出土。

S B10建物 (Fig.61, Tab.44)

S B10建物は、調査区東辺南側に検出された東西棟建物であり、S B08建物の西側に隣接しており、後代の布掘り建物と重複している。長軸をN-75°-Wにとる。その規模は、桁行2間、梁行1間と考えられる建物である。

また、建物の桁行実長は、7.9mであり、柱間寸法は柱穴掘方1-2の間で4.0m、柱穴掘方2-3の間で3.9mをはかり、柱間の規模は、やや不規則である。また、梁行実長は、3.0mであり、柱間寸法は柱穴掘方3-4の間で3.0mをはかる。建物の床面積は23.7㎡をはかる。

調査で検出された隅柱の掘方は、全体で6本分である。形状は不整長方形-方形を呈するものが多く、長・短の径が90×90cmのものから200×144cmまでのものが見られる。また、掘方の残存する深さは、掘方1を除けば40~61cm内外である。

出土建物では、柱穴掘方の1・2・3・4・5内から弥生時代中期中葉の甕、壺、器台の破片が出土している。

出土遺物 (Fig.81) 027は、甕である。**028**は、甕である。何れも柱穴掘方2出土。

S B11建物 (Fig.62, Tab.45)

S B11建物は、調査区東辺南側に検出された東西棟建物であり、S B10建物の西側に隣接して

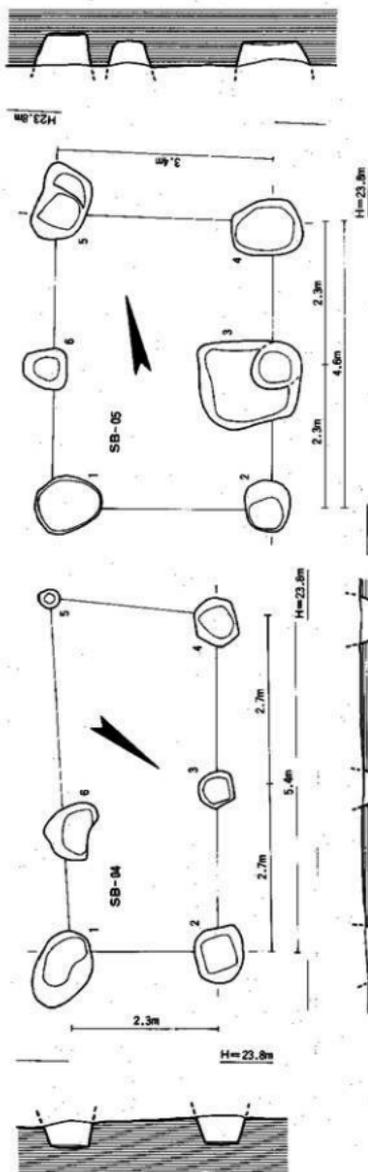


Fig. 58 SB04-05 廢物輸出土狀況實測圖 (1/80)



Tab.41 SB04-05 廢物設計列表

編號	位置	方向	面積	深度	容積	材料	形狀	邊長	埋深	土質	備註			
SB-04	D-16	N-S°-E	2 X 1	5.4	2.7 X 2.7	2.3	1	1	100.0	130.0	86.0	59.0	6-SP23	中細砂土
								2	100.0	80.0	53.0	6-SP20		
								3	110.0	80.0	56.0	30.0	6-SP17	
								4	80.0	66.0	31.0	6-SP21		
								5	80.0	30.0	30.0	11.5	6-SP--	
								6	不規則形	94.0	64.0	51.0	6-SP75	
SB-05	D-17	N-S°-E	2 X 1	4.6	2.3 X 2.3	3.4	1	100.0	90.0	19.0	6-SP25	中細砂土		
								2	80.0	70.0	58.0		6-SP22	
								3	180.0	138.0	67.0		6-SP41	
								4	114.0	90.0	47.0		6-SP69	
								5	130.0	80.0	46.0		6-SP109	
								6	104.0	70.0	44.0		60.0	6-SP20

いる。長軸をN-68°-Wにとる。その規模は、桁行2間、梁行1間と考えられる建物である。

また、建物の桁行実長は、4.7mであり、柱間寸法は柱穴掘方2-3の間で2.5m、柱穴掘方3-4の間で2.2mをはかり、柱間の規模は、やや不規則である。また、梁行実長は、2.3mであり、柱間寸法は柱穴掘方1-2の間で2.3mをはかる。建物の床面積は10.8㎡をはかる。

調査で検出された側柱の掘方は、全体で6本分である。形状は長方形-方形を呈するものが多く、長・短の径が90×72cmのものから120×90cmまでのものが見られる。また、掘方の残存する深さは、掘方5を除けば43-51cm内外である。

出土遺物では、柱穴掘方の1・2・3・4・5・6内から弥生時代中期後葉の甕、壺、器台、鉢、蓋の破片が出土している。

出土遺物 (Fig.82) 029は、器台である。柱穴掘方1出土。030は、甕である。031も甕である。何れも柱穴掘方2出土。032は、甕である。033も、甕である。何れも柱穴掘方3出土。

SB12建物 (Fig.62, Tab.45)

SB12建物は、調査区東辺に検出された南北棟建物であり、SB11建物の西側に隣接している。長軸をN-20°-Eにとる。その規模は、桁行2間、梁行1間と考えられる建物である。

また、建物の桁行実長は、4.8mであり、柱間寸法は柱穴掘方2-3の間で2.2m、柱穴掘方3-4の間で2.6mをはかり、柱間の規模は、ほぼ規則的である。また、梁行実長は、2.7mであり、柱間寸法は柱穴掘方1-2の間で2.7mをはかる。建物の床面積は13.0㎡をはかる。

調査で検出された側柱の掘方は、全体で6本分である。形状は長方形-方形を呈するものが多く、長・短の径が60×46cmのものから138×88cmまでのものが見られる。また、掘方の残存する深さは、掘方1を除けば36-41cm内外である。

出土遺物では、柱穴掘方の1・2・3・4・5・6内から弥生時代中期後葉の甕、壺、高杯の破片が出土している。

出土遺物 (Fig.82) 034は、丹塗壺である。柱穴掘方4出土。035は、甕である。柱穴掘方5出土。

SB13建物 (Fig.63, Tab.46)

SB13建物は、調査区東辺西側に検出された東西棟建物であり、SB12建物の西側に隣接している。長軸をN-75°-Wにとる。その規模は、桁行1間、梁行1間と考えられる建物である。

また、建物の桁行実長は、3.5mであり、柱間寸法は柱穴掘方2-3の間で3.5mをはかり、柱間の規模は規則的である。また梁行実長は、2.3mであり、柱間寸法は柱穴掘方3-4の間で2.3mをはかる。建物の床面積は8.1㎡をはかる。

調査で検出された側柱の掘方は、全体で4本分である。形状は不整形-方形を呈するものが多く、長・短の径が60×52cmのものから86×46cmまでのものが見られる。また、掘方の残存する深さは、掘方1を除けば19-30cm内外である。

出土遺物では、柱穴掘方の1・2・4内から弥生時代中期中葉の甕、壺、器台の破片が出土している。

出土遺物 (Fig.82) 036は、甕である。柱穴掘方2出土。

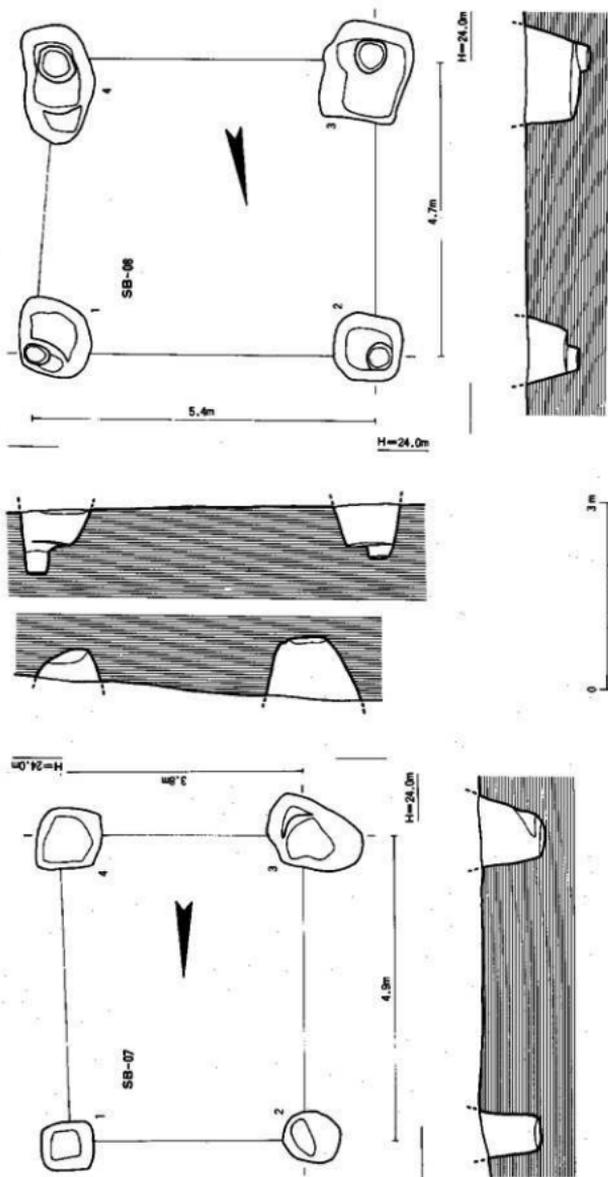


Fig. 60 SB07・08 遺物出土状況実測図 (1/90)

Tab.43 SB07・08 遺物設計測図

遺物番号	地区名	遺物方向	長	幅	厚	積層層数	積層層番号	形状	底径	底厚	出露層高	主要な出土遺物	遺物番号
SB-07	D-17	南 北	1 X 1	4.9	4.9	3.8	3.6	1 方形	80.0	80.0	106.9	6-5242	中国磁器
								2 内 形	140.0	116.0	103.8	6-5243	中国磁器
								3 内 形	84.0	106.0	47.8	6-5249	唐代土器一部分
								4 方 形	120.0	116.0	100.0	6-5244	唐代土器一部分
SB-08	D-18	東 西	N-01・W	1 X 1	5.4	5.1	4.7	2 方 形	106.0	106.0	83.0	6-5211	中国磁器
								3 方 形	160.0	130.0	97.0	6-5213	唐代土器一部分
								4 長 方形	150.0	106.0	112.0	6-5242	唐代土器一部分

SB14建物 (Fig.63, Tab.46)

SB14建物は、調査区中央東側に検出された南北棟建物であり、SB15建物と重複する。長軸をN-34°-Eにとる。その規模は、桁行2間、梁行1間と考えられる建物である。

また、建物の桁行実長は、3.7mであり、柱間寸法は柱穴掘方2-3の間で1.6m、柱穴掘方3-4の間で2.1mをはかり、柱間の規模は、やや不規則である。また、梁行実長は、3.1mであり、柱間寸法は柱穴掘方1-2の間で3.1mをはかる。建物の床面積は11.5㎡をはかる。

調査で検出された側柱の掘方は、全体で6本分である。形状は不整形～長方形を呈するものが多く、長・短の径が46×44cmのものから80×60cmまでのものが見られる。また、掘方の残存する深さは、掘方2-3を除けば23～30cm内外である。

出土遺物では、柱穴掘方の5・6内から弥生時代中期中葉の甕、壺の破片が出土している。

SB15建物 (Fig.65, PL.48, Tab.47)

SB15建物は、調査区中央東側に検出された南北棟建物であり、SB14建物と重複する。長軸をN-42°-Eにとる。その規模は、桁行2間、梁行1間と考えられる建物である。

また、建物の桁行実長は、5.8mであり、柱間寸法は柱穴掘方2-3の間で2.8m、柱穴掘方3-4の間で3.0mをはかり、柱間の規模は、ほぼ規則的である。また、梁行実長は、2.7mであり、柱間寸法は柱穴掘方1-2の間で2.7mをはかる。建物の床面積は15.7㎡をはかる。

調査で検出された側柱の掘方は、全体で6本分である。形状は方形を呈するものが多く、長・短の径が90×86cmのものから114×104cmまでのものが見られる。また、掘方の残存する深さは、掘方3を除けば52～61cm内外である。

出土遺物では、柱穴掘方の1・2・3・4・5・6内から弥生時代中期後半の甕、壺、高杯、器台、蓋の破片が出土している。

出土遺物 (Fig.82) 037は甕である。038は、甕である。何れも柱穴掘方2出土。039は、甕である。柱穴掘方3出土。040は、無頸壺蓋である。柱穴掘方5出土。

SB16建物 (Fig.65, PL.48, Tab.47)

SB16建物は、調査区中央東端に検出された東西棟建物であり、SB17建物の東側に隣接する。長軸をN-78°-Wにとる。その規模は、桁行2間以上、梁行1間と考えられる建物である。

また、建物の桁行実長は、調査範囲で5.7mであり、柱間寸法は柱穴掘方2-3の間で3.0m、柱穴掘方3-4の間で2.7mをはかり、柱間の規模は、ほぼ規則的である。また、梁行実長は、2.7mであり、柱間寸法は柱穴掘方1-2の間で2.7mをはかる。建物の床面積は調査範囲で15.4㎡以上かと考えられる。

調査で検出された側柱の掘方は、全体で4本分である。形状は方形～長方形を呈するものが多く、長・短の径が62×58cmのものから114×110cmまでのものが見られる。また、掘方の残存する深さは、掘方4を除けば39～61cm内外である。

出土遺物では、柱穴掘方の1・2・3内から弥生時代中期の甕、壺、鉢、器台の破片が出土している。

出土遺物 (Fig.82) 041は、壺である。柱穴掘方2出土。

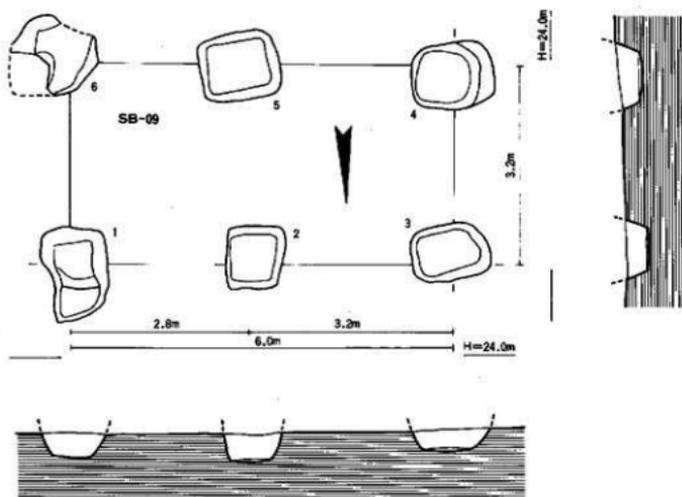
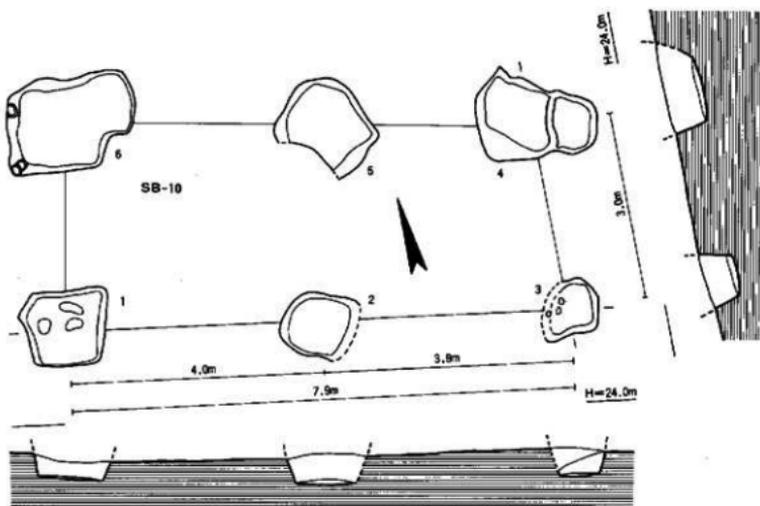


Fig. 61 SB09-10重物跡出土状況実測図(1/80)

S B17建物 (Fig.66, PL.48, Tab.48)

S B17建物は、調査区中央東端に検出された南北棟建物であり、S B16建物の北側に隣接する。長軸をN-39°-Wにとる。その規模は、桁行2間、梁行1間と考えられる建物である。

また、建物の桁行実長は、調査範囲で4.4mであり、柱間寸法は柱穴掘方2-3の間で2.4m、柱穴掘方3-4の間で2.0mをはかり、柱間の規模は、やや不規則である。また、梁行実長は、2.8mであり、柱間寸法は柱穴掘方1-2の間で2.8mをはかる。建物の床面積は調査範囲で12.3㎡をはかる。

調査で検出された側柱の掘方は、全体で5本分である。形状は円形~長方形を呈するものが多く、長・短の径が70×70cmのものから106×90cmまでのものが見られる。また、掘方の残存する深さは、掘方5を除けば35-46cm内外である。

出土遺物では、柱穴掘方の1・3・4内から弥生時代中期前葉の甕、壺、鉢、器台の破片が出土している。

出土遺物 (Fig.82) 042は、甕である。柱穴掘方1出土。

S B18建物 (Fig.66, PL.48, Tab.48)

S B18建物は、調査区中央北端に検出された南北棟建物であり、S B29建物の南東側に位置する。長軸をN-35°-Eにとる。その規模は、桁行2間、梁行1間と考えられる建物である。

また、建物の桁行実長は、5.4mであり、柱間寸法は柱穴掘方2-3の間で2.7m、柱穴掘方3-4の間で2.7mをはかり、柱間の規模は、規則的である。また、梁行実長は、3.1mであり、柱間寸法は柱穴掘方1-2の間で3.1mをはかる。建物の床面積は、16.7㎡をはかる。

調査で検出された側柱の掘方は、全体で6本分である。形状は方形~長方形を呈するものが多く、長・短の径が50×44cmのものから110×80cmまでのものが見られる。また、掘方の残存する深さは、掘方2・4を除けば31-41cm内外である。

出土遺物では、柱穴掘方の1・2・3・6内から弥生時代中期前葉の甕、高杯、蓋の破片が出土している。

Tab.44 SB09・10 遺物設計測量

遺物番号	遺物名	規格	長径	短径	底面形状	底面寸法	底面面積	埋没深さ	埋没層	出土層	出土位置	出土状況	出土時期	備考	
															規格
SB-09	D-16	Ⅲ	N 36°-W	2 × 1	長径44	短径31	19.7	1	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明
								2	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明
								3	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明
								4	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明
								5	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明
								6	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明
SB-10	B-17	Ⅲ	N 35°-E	2 × 1	長径80	短径50	23.7	1	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明
								2	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明
								3	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明
								4	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明
								5	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明
								6	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明

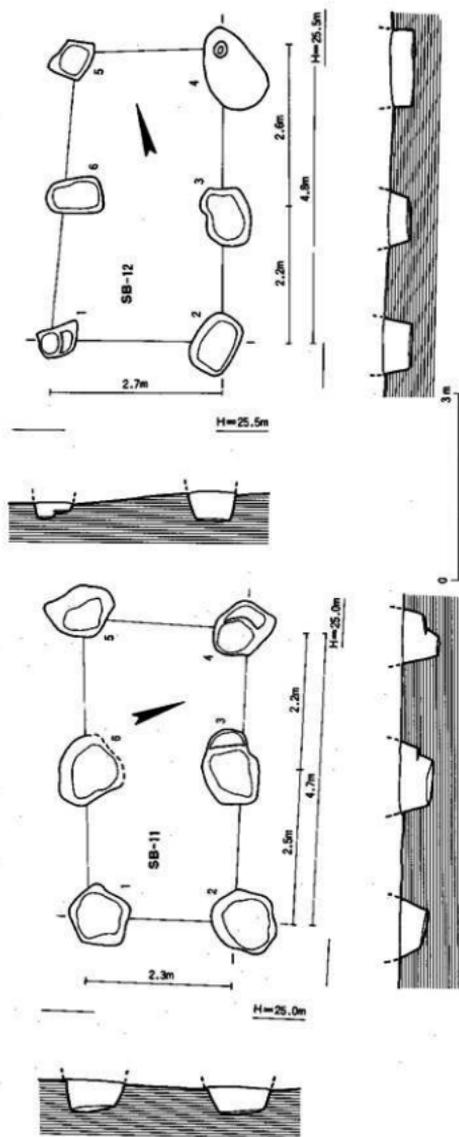


Fig. 62 SB11·12墓葬出土状况平面图(1/80)

Tab.45 SB11·12 墓葬统计列表

墓葬序号	地区名	墓葬方向	长(米)	宽(米)	墓室长(米)	墓室宽(米)	墓室面积(平方米)	墓室容积(立方米)	坑数	坑形	坑尺寸(长×宽)	坑面积(平方米)	坑容积(立方米)	土质	土质层号	土质层名称	出土物	图例编号	附注
SB-11	E-16	西	N-60°-W	2 X 1	4.7	2.3 X 2.2	2.3	10.8	2	不规则形	110.0 X 96.0	106.0	41.0	1-57145	新式土质-青灰土	新式土质-青灰土	新式土质-青灰土	Fig. 62-29	中晚商
									3	长方形	120.0 X 90.0	108.0	48.0	5-5715	新式土质-青灰土	新式土质-青灰土	新式土质-青灰土	Fig. 62-31	中晚商
									4	方形	80.0 X 72.0	57.6	21.6	6-5716	新式土质-青灰土	新式土质-青灰土	新式土质-青灰土	Fig. 62-32	中晚商
									5	不规则形	106.0 X 83.0	88.1	32.0	6-5717	新式土质-青灰土	新式土质-青灰土	新式土质-青灰土	Fig. 62-33	中晚商
									6	不规则形	106.0 X 96.0	101.8	36.0	6-5718	新式土质-青灰土	新式土质-青灰土	新式土质-青灰土	Fig. 62-34	中晚商
SB-12	E-17	南	N-20°-E	2 X 1	4.8	2.3 X 2.6	2.7	13.0	1	方形	80.0 X 40.0	32.0	12.0	6-5719	新式土质-青灰土	新式土质-青灰土	新式土质-青灰土	Fig. 62-35	中晚商
									2	长方形	100.0 X 70.0	70.0	25.0	6-5720	新式土质-青灰土	新式土质-青灰土	新式土质-青灰土	Fig. 62-36	中晚商
									3	不规则形	100.0 X 70.0	70.0	25.0	6-5721	新式土质-青灰土	新式土质-青灰土	新式土质-青灰土	Fig. 62-37	中晚商
									4	长方形	138.0 X 88.0	121.4	43.0	6-5722	新式土质-青灰土	新式土质-青灰土	新式土质-青灰土	Fig. 62-38	中晚商
									5	方形	80.0 X 50.0	40.0	15.0	6-5723	新式土质-青灰土	新式土质-青灰土	新式土质-青灰土	Fig. 62-39	中晚商
									6	长方形	80.0 X 56.0	44.8	16.5	6-5724	新式土质-青灰土	新式土质-青灰土	新式土质-青灰土	Fig. 62-40	中晚商

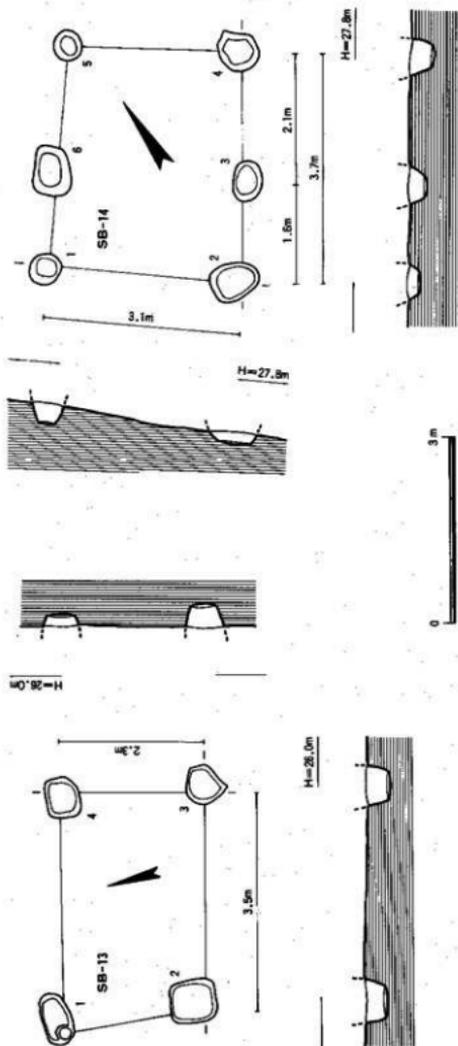


Fig. 63 SB13-14 遺物出土状況実測図 (1/80)

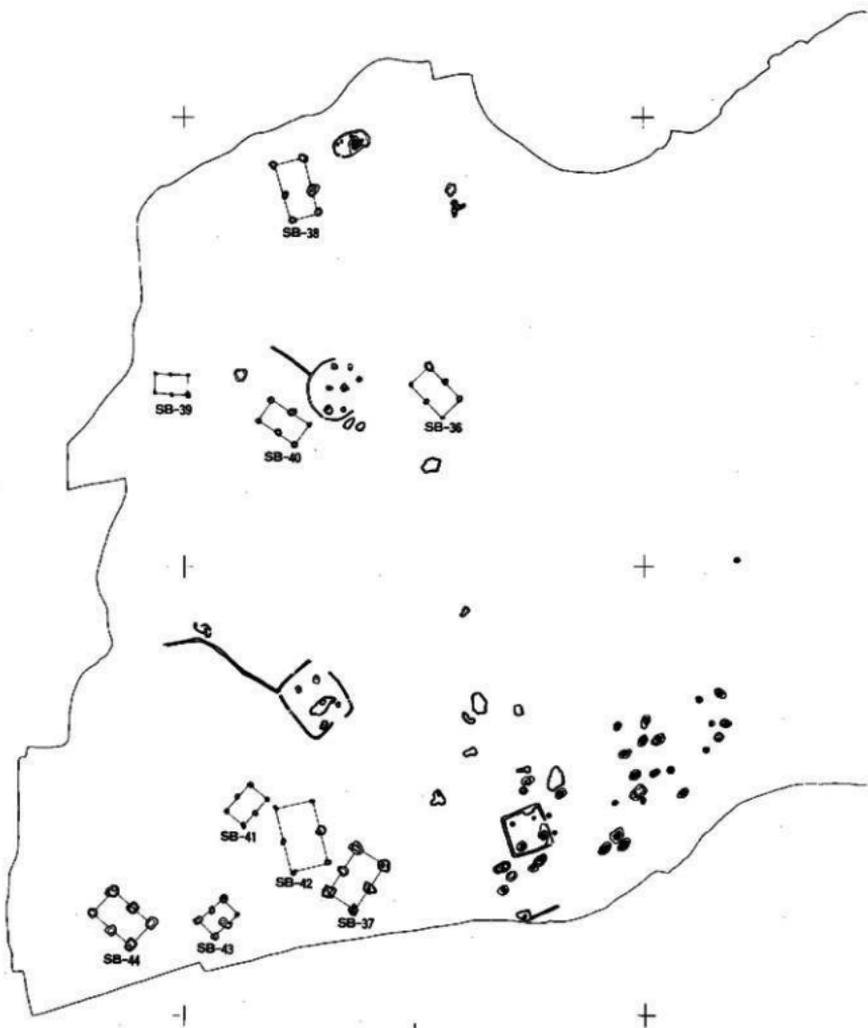
Tab.46 SB13・14 遺物計測表

遺物番号	地区名	遺跡名	発掘方向	位置	形状	面積 (m ²)	容積 (m ³)	土層	土層番号	土系名	土層層	遺物種類	種別			
SB-13	F-17	溝	N-25-W	1 × 1	3.5	3.5	2.3	2.3	2.1	1	1	灰方形	9-2920	土系名土層層	中国産	Fig.63
										2	2	方形	9-2911	土系名土層層		
										3	3	不整形	9-2911	土系名土層層		
										4	4	方形	9-2911	土系名土層層		
SB-14	F-17	溝	N-24-E	2 × 1	3.7	1.6 × 1.1	3.1	11.5	1	1	1	灰方形	9-2920	土系名土層層	中国産	Fig.63
										2	2	方形	9-2920	土系名土層層		
										3	3	不整形	9-2920	土系名土層層		
										4	4	不整形	9-2920	土系名土層層		
										5	5	不整形	9-2920	土系名土層層		
										6	6	不整形	9-2920	土系名土層層		

16

17

18



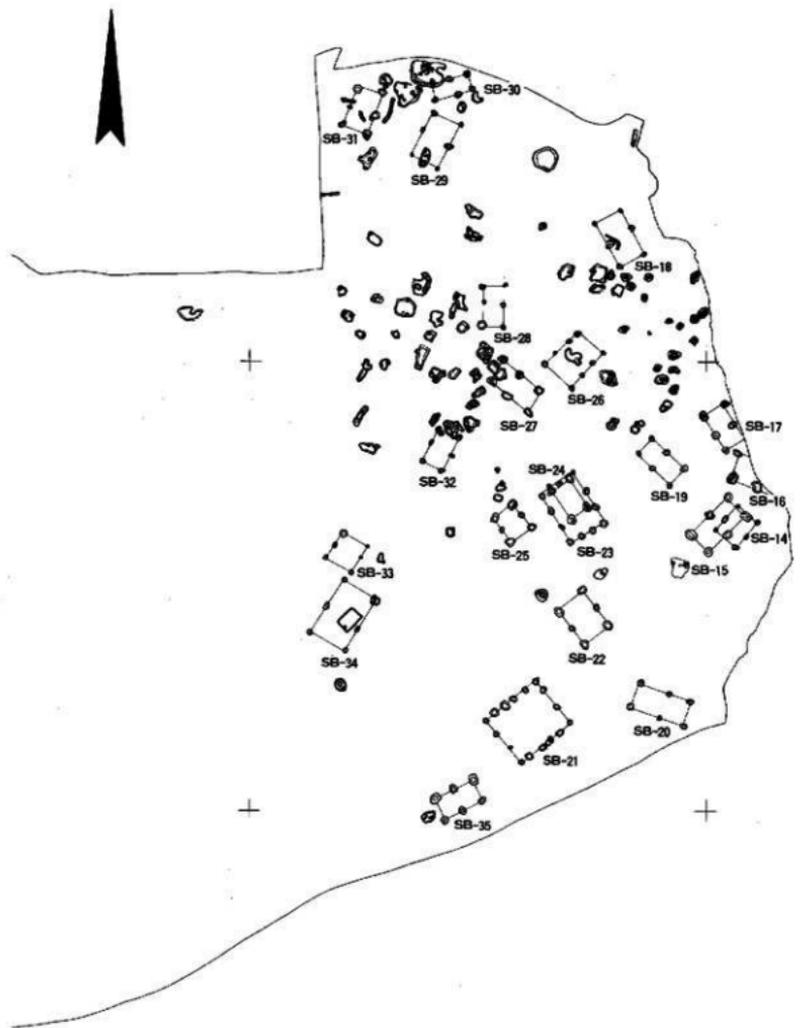


Fig.64 第四次調査弥生時代遺構分布図(2)



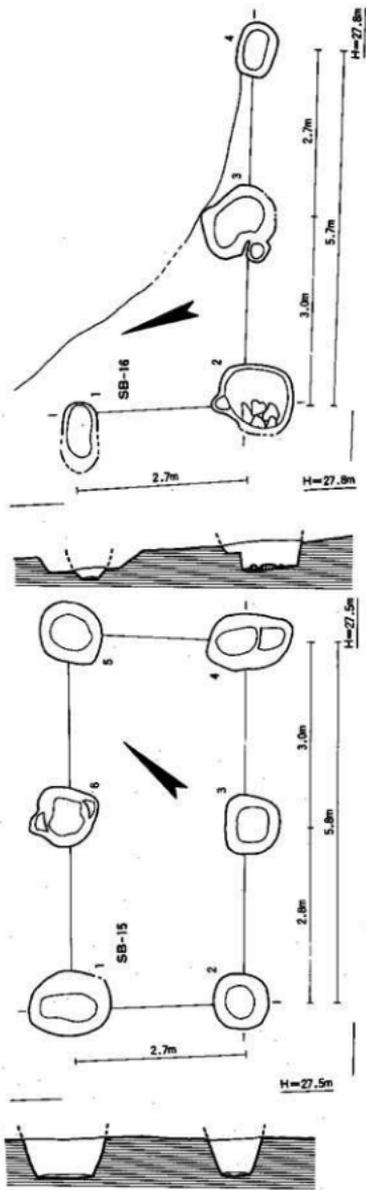


Fig. 65 SB15・16 遺物出土状況実測図(1/80)

Tab.47 SB15・16 遺物計測表

遺物番号	地区名	遺物方向	方位	規模	断面	断面	断面	断面	柱穴	形状	風	風	用途	遺物	調査	
				形状(長x短)	東西(m)	南北(m)	高さ(m)	面積(m ²)	番号		速(%)	速(%)	番号	種類	調査	
SB-15	F-17	南	N-42°E	2×1	5.8	2.8	2.0	2.7	15.7	1 椭圆形	114.0	124.0	41.0	4905	土器(土器-1層-瓦片)	Fig.65-15
									2 方形	90.0	96.0	36.0	13-5916	土器(土器-2層-瓦片)		
									3 方形	92.0	96.0	36.0	13-5925	土器(土器-2層-瓦片)		
									4 椭圆形	120.0	96.0	32.0	13-5911	土器(土器-1層)		
									5 方形	84.0	96.0	41.0	13-5926	土器(土器-2層-瓦片)		
									6 方形	84.0	90.0	35.0	13-5923	土器(土器-2層-瓦片)		
SB-16	F-17	南	N-78°W	2×1	5.7	3.0	2.7	2.7	15.421	1 椭圆形	110.0	144.0	36.0	13-5955	土器(土器-1層-瓦片)	Fig.65-16
									2 方形	114.0	100.0	41.0	13-5948	土器(土器-1層-瓦片)		
									3 方形	120.0	100.0	41.0	13-5302	土器(土器-1層-瓦片)		
									4 椭圆形	62.0	36.0	36.0	13-59-	土器(土器-1層-瓦片)		



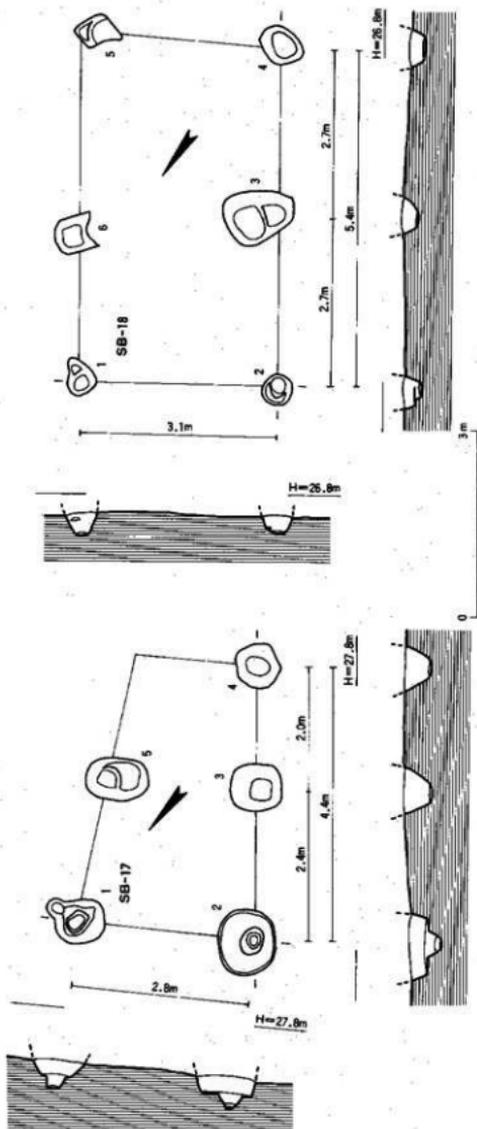


Fig. 66 SB17・18 遺物出土状況実測図 (1/80)

Tab.48 SB17・18 遺物計測表

遺物番号	地区名	遺跡方向	真方位	風向	幅	長さ	容積	埋没深さ (cm)	埋没率 (%)	柱状番号	形状	口径	高さ	土質	土層	土層番号	土層名	土層説明	土層厚さ (cm)	土層色	土層構造	土層記号	
SB-17	P-17	南	N-20°W	2 X 1	5.4	2.8 X 2.0	2.8	2.8	12.3	1	不整形	75.0	75.0	66.0	53-200	赤褐色土層-層	赤褐色土層-層	赤褐色土層-層	赤褐色土層-層	赤褐色土層-層	赤褐色土層-層	赤褐色土層-層	P.62-42
										2	円形	106.0	90.0	45.0	53-20	赤褐色土層-層	赤褐色土層-層	赤褐色土層-層	赤褐色土層-層	赤褐色土層-層	赤褐色土層-層	赤褐色土層-層	
										3	円形	85.0	75.0	40.0	53-200	赤褐色土層-層	赤褐色土層-層	赤褐色土層-層	赤褐色土層-層	赤褐色土層-層	赤褐色土層-層	赤褐色土層-層	
										4	円形	75.0	75.0	38.0	53-204	赤褐色土層-層	赤褐色土層-層	赤褐色土層-層	赤褐色土層-層	赤褐色土層-層	赤褐色土層-層	赤褐色土層-層	
										5	長方形	96.0	68.0	50.0	53-20	赤褐色土層-層	赤褐色土層-層	赤褐色土層-層	赤褐色土層-層	赤褐色土層-層	赤褐色土層-層	赤褐色土層-層	
SB-18	G-16	南	N-35°E	2 X 1	5.4	2.7 X 2.7	3.1	3.1	16.7	2	円形	50.0	44.0	24.0	44-203	赤褐色土層-層	赤褐色土層-層	赤褐色土層-層	赤褐色土層-層	赤褐色土層-層	赤褐色土層-層	赤褐色土層-層	
										3	不整形	110.0	80.0	31.0	47-202	赤褐色土層-層	赤褐色土層-層	赤褐色土層-層	赤褐色土層-層	赤褐色土層-層	赤褐色土層-層	赤褐色土層-層	
										4	圓形	66.0	54.0	23.0	47-203	赤褐色土層-層	赤褐色土層-層	赤褐色土層-層	赤褐色土層-層	赤褐色土層-層	赤褐色土層-層	赤褐色土層-層	
										5	円形	54.0	42.0	46.0	47-202	赤褐色土層-層	赤褐色土層-層	赤褐色土層-層	赤褐色土層-層	赤褐色土層-層	赤褐色土層-層	赤褐色土層-層	
										6	円形	56.0	52.0	35.0	47-204	赤褐色土層-層	赤褐色土層-層	赤褐色土層-層	赤褐色土層-層	赤褐色土層-層	赤褐色土層-層	赤褐色土層-層	

出土遺物 (Fig.82) 043は、甕である。柱穴掘方6出土。

S B19建物 (Fig.67, PL.48, Tab.49)

S B19建物は、調査区中央南端に検出された東西棟建物であり、S B15建物の北側に位置する。長軸をN-49°-Wにとる。その規模は、桁行2間、梁行1間と考えられる建物である。

また、建物の桁行実長は、4.7mであり、柱間寸法は柱穴掘方2-3の間で2.6m、柱穴掘方3-4の間で2.1mをはかり、柱間の規模は、やや不規則である。また、梁行実長は、2.4mであり、柱間寸法は柱穴掘方1-2の間で2.4mをはかる。建物の床面積は、11.3m²をはかる。

調査で検出された側柱の掘方は、全体で6本分である。形状は円形-楕円形を呈するものが多く、長・短の径が64×60cmのものから80×72cmまでのものが見られる。また、掘方の残存する深さは、掘方5を除けば20-30cm内外である。

出土遺物では、柱穴掘方の1・2・3・4・6内から弥生時代中期後半の甕、壺、高杯の破片が出土している。

出土遺物 (Fig.82) 044は、甕である。柱穴掘方2出土。045は、壺である。柱穴掘方3出土。046は、甕である。柱穴掘方6出土。

S B20建物 (Fig.67, PL.48, Tab.49)

S B20建物は、調査区中央南端に検出された東西棟建物であり、S B22建物の南側に位置する。長軸をN-72°-Wにとる。その規模は、桁行2間、梁行1間と考えられる建物である。

また、建物の桁行実長は、5.7mであり、柱間寸法は柱穴掘方2-3の間で2.4m、柱穴掘方3-4の間で3.3mをはかり、柱間の規模は、やや不規則である。また、梁行実長は、2.7mであり、柱間寸法は柱穴掘方1-2の間で2.7mをはかる。建物の床面積は、15.4m²をはかる。

調査で検出された側柱の掘方は、全体で6本分である。形状は円形-方形を呈するものが多く、長・短の径が52×50cmのものから78×60cmまでのものが見られる。また、掘方の残存する深さは、掘方6を除けば19-50cm内外である。

出土遺物では、柱穴掘方の1・2・3・4・5内から弥生時代中期の甕、壺、鉢、器台の破片が出土している。

出土遺物 (Fig.82) 047は、甕である。柱穴掘方2出土。

S B21建物 (Fig.68, PL.49, Tab.50)

S B21建物は、調査区中央南端に検出された南北棟建物であり、S B20建物の西側に位置する。長軸をN-45°-Eにとる。その規模は、桁行5間、梁行3間と考えられる建物である。

また、建物の桁行実長は、7.0mであり、柱間寸法は柱穴掘方4-5の間で1.5m、柱穴掘方5-6の間で1.6m、柱穴掘方6-7の間で1.2m、柱穴掘方7-8の間で1.3m、柱穴掘方8-9の間で1.4m、をはかり、柱間の規模は、ほぼ規則的である。また、梁行実長は、5.8mであり、柱間寸法は柱穴掘方1-2の間で2.2m、柱穴掘方2-3の間で2.3m、柱穴掘方3-4の間で1.3mをはかる。

建物の床面積は、40.6m²をはかる。

調査で検出された側柱の掘方は、全体で16本分である。形状は不整形-方形を呈するものが多く、

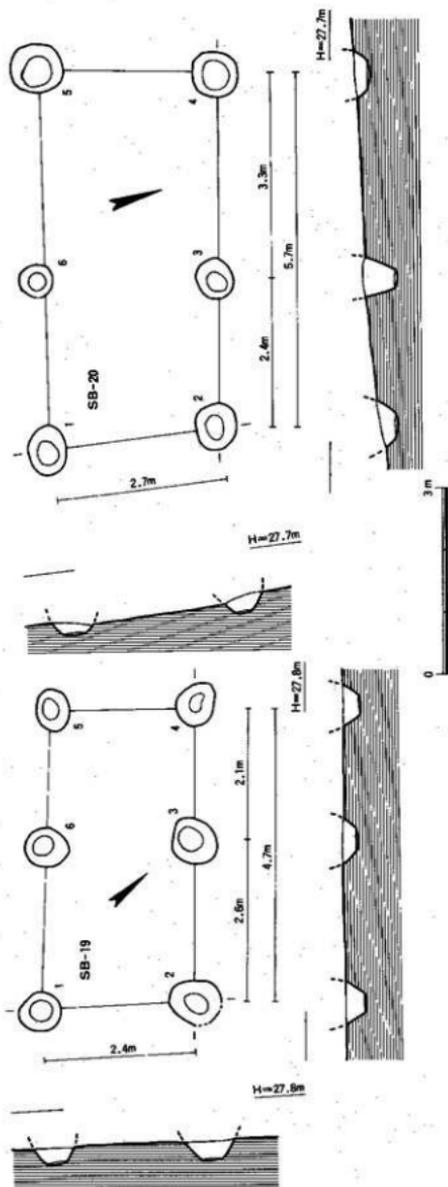


Fig. 67 SB19・20建築物出土状況実測図 (1/80)

Tab.49 SB19・20 建築物計測表

建物番号	構造形式	建築方向	基礎形状	基礎寸法 (前)×(横)	面積	配筋	断面	行	要	行	基礎面積 (㎡)	柱断面 (㎡)	柱高	基礎		基礎層 層番号	基礎構造	土質	土質	基礎	基礎	基礎	
														幅	高さ								幅
SB-19	G-17	東西	N-45°-W	2×1	4.7	2.4×3.1	2.4	2.4	11.3	1	円形	φ6.0	69.0	24.0	18-50/28	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎
										2	円形	φ6.0	72.0	30.0	18-50/27	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎
										3	円形	φ7.0	79.0	38.0	18-50/27	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎
										4	楕円形	φ7.0	98.0	38.0	18-50/29	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎
										5	楕円形	φ6.0	50.0	11.0	18-52	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎
										6	円形	φ6.0	62.0	27.0	18-49/17	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎
SB-20	G-17	東西	N-72°-W	2×1	5.7	2.4×3.3	2.7	2.7	15.4	1	楕円形	φ7.0	69.0	23.0	18-50/27	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎
										2	円形	φ6.0	64.0	35.0	18-50/21	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎
										3	円形	φ6.0	56.0	50.0	18-50/29	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎
										4	方形	φ7.0	70.0	19.0	18-50/29	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎
										5	方形	φ7.0	76.0	32.0	18-50/26	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎
										6	円形	φ6.0	65.0	7.0	18-50/26	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎	既設土壁—基礎

長・短の径が40×40cmのものから104×54cmまでのものが見られる。また、掘方の残存する深さは、掘方11を除けば7～31cm内外である。

出土遺物では、柱穴掘方の6・11を除く掘方内から弥生時代中期後半の甕、壺、鉢、器台の破片が出土している。

出土遺物 (Fig.82) 048は、器台である。柱穴掘方3出土。049は、器台である。柱穴掘方13出土。050は、陶質土器か。柱穴掘方16出土。

SB22建物 (Fig.69, PL.49, Tab.51)

SB22建物は、調査区中央南端に検出された南北棟建物であり、SB21建物の北東側に位置する。長軸をN-40°-Wにとる。その規模は、桁行2間、梁行1間と考えられる建物である。

また、建物の桁行実長は、5.0mであり、柱間寸法は、柱穴掘方2-3の間で2.4m柱穴掘方3-4の間で2.6mをはかり、柱間の規模は、ほぼ規則的である。また、梁行実長は、3.4mであり、柱間寸法は柱穴掘方1-2の間で3.4mをはかる。建物の床面積は、17.0㎡をはかる。

調査で検出された側柱の掘方は、全体で6本分である。形状は不整形を呈するものが多く、長・短の径が60×54cmのものから116×94cmまでのものが見られる。また、掘方の残存する深さは、掘方3・6を除けば21～41cm内外である。

出土遺物では、柱穴掘方の5を除く掘方内から弥生時代中期前半の甕などの破片が出土している。

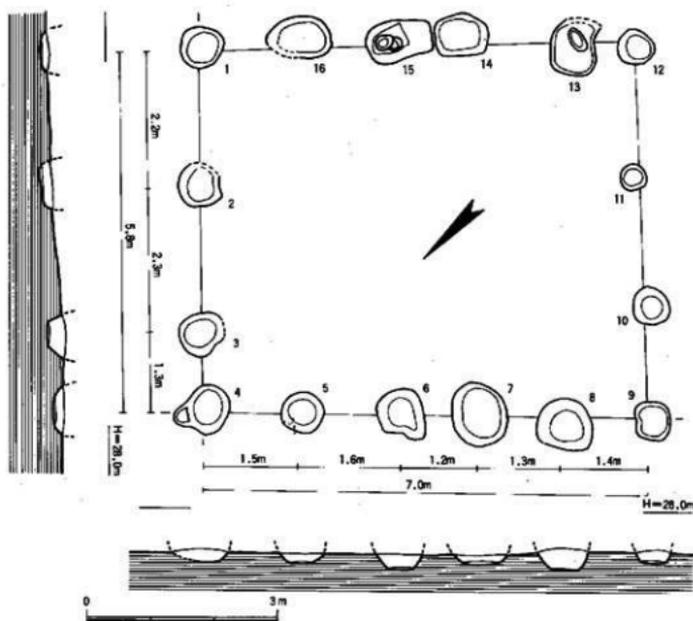


Fig. 68 SB21建物掘方出土状況実測図 (1/80)

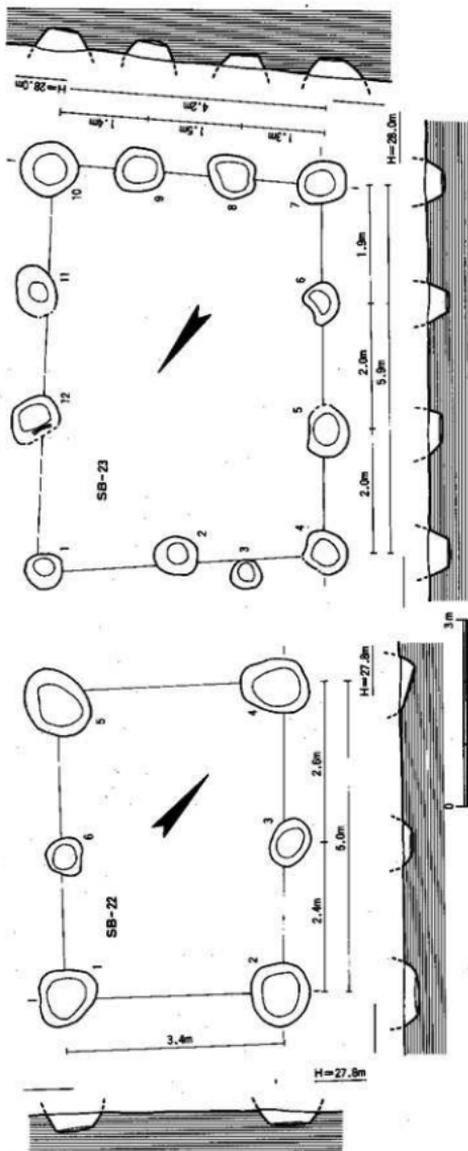


Fig. 09 SB22-23 建筑物出土状况观测图 (1/80)

Tab.51 SB22-23 建筑物计算表

建筑物号	楼层号	楼层名称	面积 (m ²)	体积 (m ³)	材料	形状	高度 (m)	出露层数	主要出土物	植物名称	楼层号						
SB22	G-17	H=27.9m	1	5.0	2.4725	3.4	2.4	17.0	1	不整土层	40.0	90.0	42.0	43-5209	原始土层—基	中陶器土	Fig.03-11
			2	2.4	1.16	1.5	1.5	1.5	13.0	43-5209	原始土层—基						
			3	2.4	1.16	1.5	1.5	1.5	13.0	43-5209	原始土层—基						
			4	2.4	1.16	1.5	1.5	1.5	13.0	43-5209	原始土层—基						
			5	2.4	1.16	1.5	1.5	1.5	13.0	43-5209	原始土层—基						
SB23	G-17	H=28.0m	1	5.9	2.8256	4.2	3.5	24.8	1	不整土层	40.0	94.0	41.0	43-5209	原始土层—基	中陶器土	Fig.03-12
			2	2.0	0.95	1.2	1.2	1.2	13.0	43-5209	原始土层—基						
			3	2.0	0.95	1.2	1.2	1.2	13.0	43-5209	原始土层—基						
			4	2.0	0.95	1.2	1.2	1.2	13.0	43-5209	原始土层—基						
			5	2.0	0.95	1.2	1.2	1.2	13.0	43-5209	原始土层—基						
			6	2.0	0.95	1.2	1.2	1.2	13.0	43-5209	原始土层—基						
			7	2.0	0.95	1.2	1.2	1.2	13.0	43-5209	原始土层—基						
			8	2.0	0.95	1.2	1.2	1.2	13.0	43-5209	原始土层—基						
			9	2.0	0.95	1.2	1.2	1.2	13.0	43-5209	原始土层—基						
			10	2.0	0.95	1.2	1.2	1.2	13.0	43-5209	原始土层—基						
			11	2.0	0.95	1.2	1.2	1.2	13.0	43-5209	原始土层—基						
			12	2.0	0.95	1.2	1.2	1.2	13.0	43-5209	原始土层—基						

の規模は、規則的である。また、梁行実長は、2.7mであり、柱間寸法は柱穴掘方1-2の間で2.7mをはかる。建物の床面積は、9.7㎡をはかる。

調査で検出された側柱の掘方は、全体で4本分である。形状は不整形～不整形長方形を呈するものが多く、長・短の径が94×74cmのものから110×100cmまでのものが見られる。また、掘方の残存する深さは、掘方4を除けば45～60cm内外である。

出土遺物では、柱穴掘方の1を除く掘方内から弥生時代中期中葉の甕、壺、器台、鉢などの破片が出土している。

出土遺物 (Fig.82) 057は、甕口縁である。柱穴掘方3出土。

S B25建物 (Fig.70, PL.50, Tab.52)

S B25建物は、調査区中央南端に検出された南北棟建物であり、S B24建物の西側に隣接する。長軸をN-41°-Wにとる。その規模は、桁行2間、梁行1間と考えられる建物である。

また、建物の桁行実長は、3.0mであり、柱間寸法は、柱穴掘方2-3の間で1.4m、柱穴掘方3-4の間で1.6mをはかり、柱間の規模は、規則的である。また、梁行実長は、2.7mであり、柱間寸法は柱穴掘方4-5の間で2.7mをはかる。建物の床面積は、8.1㎡をはかる。

調査で検出された側柱の掘方は、全体で6本分であるが、桁行中間の柱3・6は比較的の小規模のものである。形状は不整形～円形を呈するものが多く、長・短の径が50×44cmのものから100×90cmまでのものが見られる。また、掘方の残存する深さは、掘方4を除けば14～30cm内外である。

出土遺物では、柱穴掘方の4を除く掘方内から弥生時代中期後半の甕、壺、器台、鉢などの破片が出土している。

出土遺物 (Fig.82) 058は、甕である。柱穴掘方5出土。

S B26建物 (Fig.71, PL.50, Tab.53)

S B26建物は、調査中央部に検出された南北棟建物であり、S B24建物の北側に位置する。長軸をN-40°-Eにとる。その規模は、桁行3間、梁行1間と考えられる建物である。

また、建物の桁行実長は、5.3mであり、柱間寸法は、柱穴掘方2-3の間で1.9m、柱穴掘方3-4の間で1.8m、柱穴掘方4-5の間で1.6mをはかり、柱間の規模は、ほぼ規則的である。また、梁行実長は、3.9mであり、柱間寸法は柱穴掘方1-2の間で3.9mをはかる。建物の床面積は、20.7㎡をはかる。

調査で検出された側柱の掘方は、全体で8本分である。形状は、楕円形～円形を呈するものが多く、長・短の径が50×42cmのものから80×62cmまでのものが見られる。また、掘方の残存する深さは、掘方2・5・8を除けば37～54cm内外である。

出土遺物では、柱穴掘方の5を除く掘方内から弥生時代中期後葉の甕、高杯、器台、鉢などの破片が出土している。

出土遺物 (Fig.82) 059は、甕である。**060**は、丹塗壺である。何れも柱穴掘方1出土。**061**は、甕である。柱穴掘方2出土。**062**は、器台である。柱穴掘方3出土。**063**は、鉢である。**064**は甕である。**065**は、器台である。何れも柱穴掘方4出土

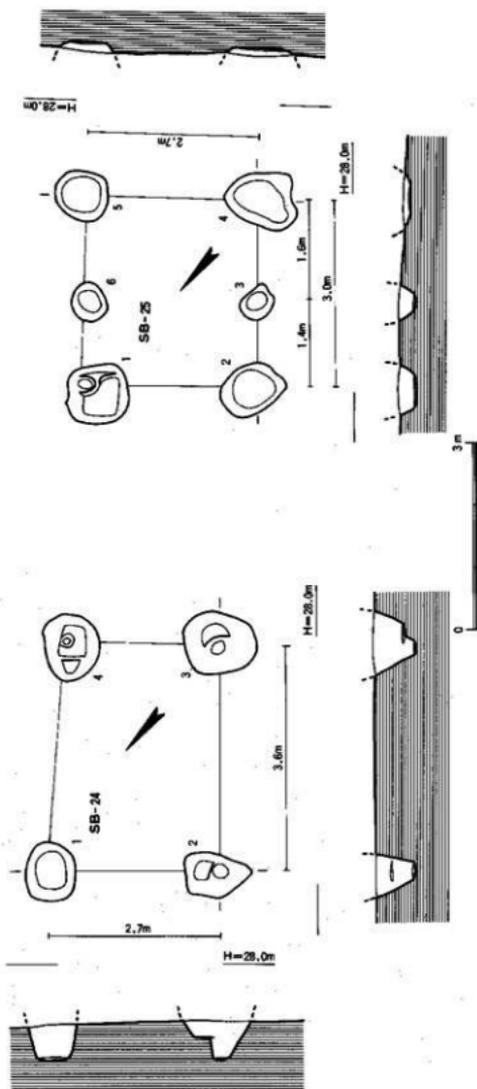


Fig. 70 SB24・25遺物出土状況実測図(1/80)

Tab.52 SB24・25 遺物設計表

遺物番号	地区名	遺物方向	規模	面積	面行	面行	深行	深行	坑底積	坑穴	形状	面積	周長	埋深	埋深	層号	下部台所用土遺物	遺物種類	検出部分
SB-24	G-17	南北	N-41°-3'	1×1	3.6	3.6	2.7	2.7	0.7	1	不规则形	104.0	66.0	55.0	43-52	—	—	—	—
										2	不规则形	110.0	100.0	45.0	43-52(3)	赤土式土器	—	—	—
										3	不规则形	106.0	96.0	45.0	43-52(3)	赤土式土器	—	—	—
										4	不规则形	106.0	96.0	45.0	43-52(3)	赤土式土器	—	—	—
SB-25	G-17	南北	N-41°-3'	2×1	3.0	1.8×1.6	2.7	2.7	0.3	1	方形	84.0	74.0	24.0	38-52(4)	赤土式土器	—	—	—
										2	长方形	84.0	74.0	24.0	38-52(4)	赤土式土器	—	—	—
										3	不规则形	50.0	44.0	21.0	38-52(4)	赤土式土器	—	—	—
										4	不规则形	100.0	90.0	—	38-52(4)	—	—	—	—
										5	方形	80.0	70.0	14.0	42-52(4)	赤土式土器	—	—	—
										6	円形	80.0	52.0	30.0	43-52(5)	赤土式土器	—	—	—

SB27建物 (Fig.71, PL.50, Tab.53)

SB27建物は、調査区中央部に検出された東西棟建物であり、長軸をN-52°-Wにとる。その規模は、桁行2間、梁行1間と考えられる。

また、建物の桁行実長は、調査部分で5.4mであり、柱間寸法は柱穴掘方5-6の間で2.5m、柱穴掘方6-1の間で2.9mをはかり、柱間規模にはやや変移が見られる。また、梁行実長は、2.7mである。さらに、床面積は14.9㎡をはかる。

調査で検出された側柱の掘方は、全体で6本分である。形状は円形～不整形を呈するものが多く、長・短の径が80×80cmのものから126×56cmまでのものが見られる。また、掘方の残存する深さは、掘方1を除けば39-53cm内外である。

出土遺物では、柱穴掘方内のすべてから弥生時代中期前半期の甕、壺、器台の細片が少量出土している。

出土遺物 (Fig.82-83) 066は、甕である。柱穴掘方5出土。067は、甕である。068は、壺である。何れも柱穴掘方6出土。

SB28建物 (Fig.72, Tab.54)

SB28建物は、調査区中央部に検出された南北棟建物であり、SB27建物の北側に位置する。建物は、ほぼ長軸をN-Sにとる。その規模は、桁行2間、梁行1間と考えられる。

また、建物の桁行実長は、4.8mであり、柱間寸法は柱穴掘方2-3の間で2.5m、柱穴掘方3-4の間で2.3mをはかり、柱間規模にはやや変移が見られる。また、梁行実長は、2.5mである。さらに、床面積は12.0㎡をはかる。

調査で検出された側柱の掘方は、全体で6本分である。形状は楕円形～方形を呈するものが多く、長・短の径が44×40cmのものから90×88cmまでのものが見られる。また、掘方の残存する深さは、掘方1を除けば22-51cm内外である。

出土遺物では、柱穴掘方内のすべてから弥生時代中期前半の甕、壺、鉢、器台の細片が少量出土している。

出土遺物 (Fig.83) 069は、甕である。柱穴掘方1出土。070は、甕である。柱穴掘方2出土。

SB29建物 (Fig.72, Tab.54)

SB29建物は、調査区中央部北端に検出された南北棟建物であり、SB28建物北側に位置する。建物は、ほぼ長軸をN-24°-Eにとる。その規模は、桁行2間、梁行1間と考えられる。

また、建物の桁行実長は、5.4mであり、柱間寸法は柱穴掘方2-3の間で2.7m、柱穴掘方3-4の間で2.7mをはかり、柱間規模にはやや変移が見られる。また、梁行実長は、3.4mである。さらに、床面積は18.4㎡をはかる。

調査で検出された側柱の掘方は、全体で6本分である。形状は楕円形～円形を呈するものが多く、長・短の径が42×40cmのものから114×58cmまでのものが見られる。また、掘方の残存する深さは、掘方4・5を除けば33-45cm内外である。

出土遺物では、柱穴掘方内のすべてから弥生時代中期後半の甕、壺、鉢、器台の細片が少量出土している。

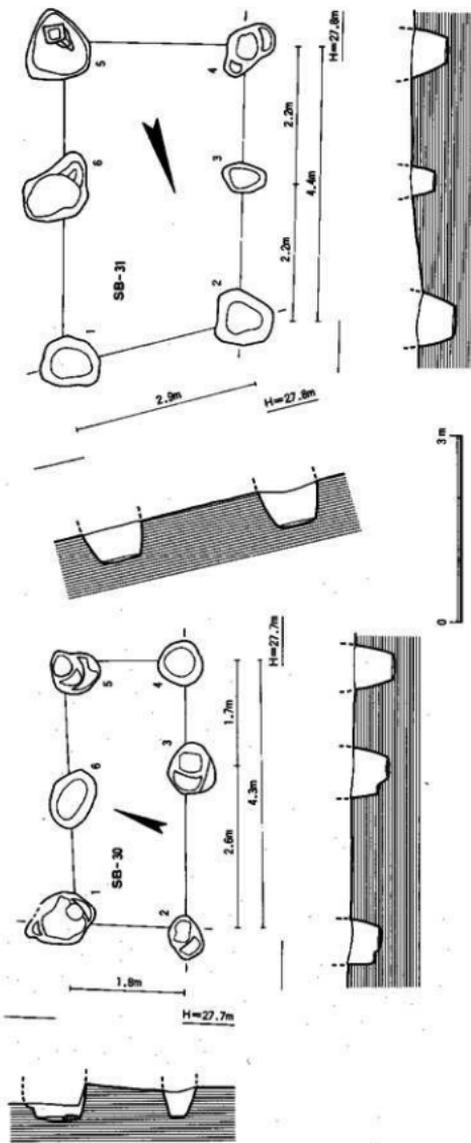


Fig.73 SB30・31 遺物出土状況実測図(1/80)

Tab.55 SB30・31 遺物計測表

遺物番号	地区名	遺物方向	長(単位)	幅(単位)	厚(単位)	面積(㎡)	容積(㎤)	積層層番号	形状	断面形状	断面長(㎤)	断面幅(㎤)	断面積(㎤)	主要出土遺物	遺物種類	詳細番号	
SB-30	G-16	N-70°-E	2 X 1	4.3	2.8 X 1.7	1.8	1.8	7.7	1	不整形片	80.0	80.0	21.0	36-50	---	中国土器	Figs.74 Figs.75 Figs.76 Figs.77 Figs.78
									2	不整形片	65.0	50.0	50.0	36-50	---	中国土器	
									3	不整形片	75.0	72.0	56.0	36-50	烧土土器-器-片	中国土器	
									4	円形	75.0	68.0	41.0	36-50	烧土土器-器	中国土器	
									5	不整形片	72.0	70.0	52.0	36-50	烧土土器-器	中国土器	
									6	不整形片	80.0	66.0	40.0	36-50	烧土土器-器	中国土器	
SB-31	G-16	N-20°-E	2 X 1	4.4	2.3 X 1.2	2.9	13.2	13.2	1	不整形片	80.0	80.0	22.0	35-50	烧土土器-器	中国土器	Figs.74 Figs.75 Figs.76 Figs.77 Figs.78
									2	不整形片	80.0	80.0	46.0	35-50	烧土土器-器	中国土器	
									3	不整形片	60.0	50.0	35.0	35-50	烧土土器-器-片	中国土器	
									4	不整形片	90.0	54.0	33.0	35-50	烧土土器-器	中国土器	
									5	不整形片	110.0	94.0	66.0	35-50	烧土土器-器	中国土器	
									6	不整形片	110.0	80.0	64.0	35-50	烧土土器-器-器-片	中国土器	

出土遺物 (Fig.83) 071は、甕である。柱穴掘方3出土。072は、甕である。073も甕である。何れも柱穴掘方5出土。

S B30建物 (Fig.73, PL.50, Tab.55)

S B30建物は、調査区中央部北端に検出された東西棟建物であり、S B29建物北側に隣接する。建物は、長軸をN-70°-Eにとる。その規模は、桁行2間、梁行1間と考えられる。

また、建物の桁行実長は、4.3mであり、柱間寸法は柱穴掘方2-3の間で2.6m、柱穴掘方3-4の間で1.7mをはかり、柱間規模にはやや変移が見られる。また、梁行実長は、1.8mである。さらに、床面積は7.7㎡をはかる。

調査で検出された側柱の掘方は、全体で6本分である。形状は不整形を呈するものが多く、長・短の径が62×50cmのものから90×66cmまでのものが見られる。また、掘方の残存する深さは、掘方1を除けば40-61cm内外である。

出土遺物では、柱穴掘方の3・4・5から弥生時代中期中葉の甕、器台の細片が少量出土している。

出土遺物 (Fig.83) 074は、甕である。柱穴掘方3出土。075も、甕である。柱穴掘方4出土。

S B31建物 (Fig.73, PL.51, Tab.55)

S B31建物は、調査区中央部北端に検出された南北棟建物であり、S B29建物の西側に隣接する。建物は、長軸をN-20°-Eにとる。その規模は、桁行2間、梁行1間と考えられる。

また、建物の桁行実長は、4.4mであり、柱間寸法は柱穴掘方2-3の間で2.2m、柱穴掘方3-4の間で2.2mをはかり、柱間規模は規則的である。また、梁行実長は、2.9mである。さらに床面積は13.2㎡をはかる。

調査で検出された側柱の掘方は、全体で6本分である。形状は不整形～不整形を呈するものが多く、長・短の径が60×50cmのものから110×94cmまでのものが見られる。また、掘方の残存する深さは、掘方3を除けば52-66cm内外である。

出土遺物では、柱穴掘方の1・2・3・4・6内から弥生時代中期後半の甕、壺、器台、鉢の細片が少量出土している。

出土遺物 (Fig.83) 076は、壺底部である。柱穴掘方2出土。077は、甕である。柱穴掘方4出土。078は、甕である。柱穴掘方6出土。

S B32建物 (Fig.74, PL.51, Tab.56)

S B32建物は、調査区中央部中央に検出された南北棟建物があり、S B27建物の西側に隣接する。建物は、長軸をN-23°-Eにとる。その規模は、桁行2間、梁行1間と考えられる。

また、建物の桁行実長は、4.0mであり、柱間寸法は柱穴掘方5-6の間で1.6m、柱穴掘方6-1の間で2.4mをはかり、柱間規模はやや不規則である。また、梁行実長は、2.5mである。さらに、床面積は10.5㎡をはかる。

調査で検出された側柱の掘方は、全体で6本分である。形状は不整形～不整形を呈するものが多く、長・短の径が54×40cmのものから70×56cmまでのものが見られる。また、掘方の残存する深

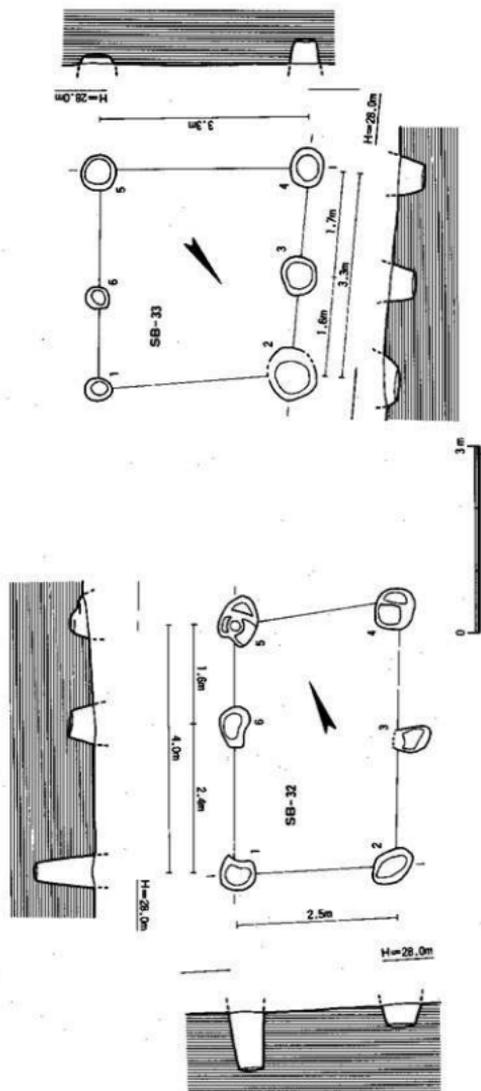


Fig. 74 SB 32-33 植物出土状況実測図 (1/80)

Tab.56 SB32・33 遺物跡計画表

遺物番号	跡地名	植物方向	植物方向	面積(m ²)	面積(m ²)	面積(m ²)	面積(m ²)	形状	形状	形状	形状	面積(m ²)	面積(m ²)	植物種類	植物種類	
SB-32	G-17	南北	N-23°E	2×1	4.0	1.6×1.4	2.5	2.5	10.5	1. 方形	54.0	46.0	89.0	23°40'	植物種類	植物種類
										2. 椭圆形	70.0	48.0	38.0	28°44'	植物種類	植物種類
										3. 不規則形	54.0	43.0	32.0	28°40'	植物種類	植物種類
										4. 方形	66.0	60.0	38.0	28°40'	植物種類	植物種類
										5. 不規則形	70.0	56.0	32.0	28°40'	植物種類	植物種類
										6. 不規則形	60.0	40.0	36.0	28°40'	植物種類	植物種類
SB-33	G-17	南北	N-41°E	2×1	3.3	1.6×1.7	3.3	3.3	10.9	1. 円形	42.0	36.0	18.0	23°07'	植物種類	植物種類
										2. 椭圆形	80.0	70.0	25.0	22°09'	植物種類	植物種類
										3. 椭圆形	60.0	50.0	36.0	22°09'	植物種類	植物種類
										4. 椭圆形	62.0	52.0	40.0	28°40'	植物種類	植物種類
										5. 円形	56.0	52.0	14.0	22°08'	植物種類	植物種類
										6. 円形	26.0	24.0	21.0	22°08'	植物種類	植物種類

さは、掘方1を除けば32~38cm内外である。

出土遺物では、柱穴掘方の3を除く掘方内から弥生時代中期前半の甕、壺、器台、鉢、高杯の細片が少量出土している。

出土遺物 (Fig.83) 079は、器台である。柱穴掘方1出土。080は、鉢である。柱穴掘方2出土。081は、甕である。柱穴掘方5出土。

S B33建物 (Fig.74, PL.52, Tab.56)

S B33建物は、調査区中央部中央に検出された南北棟建物であり、S B32建物の南側に隣接する。建物は、長軸をN-41°-Eにとる。その規模は、桁行2間、梁行1間と考えられる。

また、建物の桁行実長は、3.3mであり、柱間寸法は柱穴掘方2-3の間で1.6m、柱穴掘方3-4の間で1.7mをはかり、柱間規模は規則的である。また、梁行実長は、3.3mである。さらに、床面積は10.9㎡をはかる。

調査で検出された側柱の掘方は、全体で6本分である。形状は隅丸方形~円形を呈するものが多く、長・短の径が36×34cmのものから80×70cmまでのものが見られる。また、掘方の残存する深さは、掘方5を除けば16~40cm内外である。

出土遺物では、柱穴掘方の4・6を除く掘方内から弥生時代中期半ばの甕、壺、器台の細片が少量出土している。

出土遺物 (Fig.83) 082は、鉢である。柱穴掘方5出土。

S B34建物 (Fig.75, PL.52, Tab.57)

S B34建物は、調査区中央部南側に検出された南北棟建物であり、S B33建物の南側に隣接する。建物は、長軸をN-30°-Eにとる。その規模は、桁行2間、梁行1間と考えられる。

また、建物の桁行実長は、7.1mであり、柱間寸法は柱穴掘方2-3の間で3.5m、柱穴掘方3-4の間で3.6mをはかり、柱間規模は規則的である。また、梁行実長は、4.1mである。さらに、床面積は29.1㎡をはかる。

調査で検出された側柱の掘方は、全体で6本分である。形状は隅丸方形~円形を呈するものが多く、長・短の径が56×52cmのものから112×108cmまでのものが見られる。また、掘方の残存する深さは、掘方2・4を除けば32~36cm内外である。

出土遺物では、柱穴掘方の2・3・4を除く掘方内から弥生時代後期初頭の甕、袋状口縁壺の細片が少量出土している。

出土遺物 (Fig.83) 083は、壺である。柱穴掘方5出土。

S B35建物 (Fig.75, PL.51, Tab.57)

S B35建物は、調査区中央部南端に検出された東西棟建物であり、S B34建物の南東側に隣接する。建物は、長軸をN-59°-Eにとる。その規模は、桁行2間、梁行1間と考えられる。

また、建物の桁行実長は、4.8mであり、柱間寸法は柱穴掘方2-3の間で2.5m、柱穴掘方3-4の間で2.3mをはかり、柱間規模は規則的である。また、梁行実長は、2.6mである。さらに、床面積は12.5㎡をはかる。

調査で検出された側柱の掘方は、全体で6本分である。形状は不整長方形~円形を呈するものが多

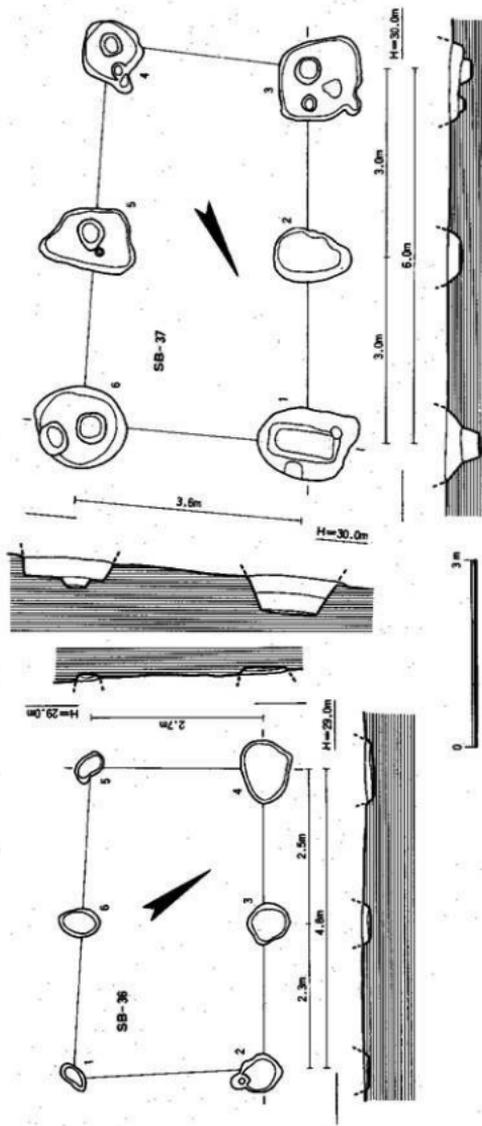


Fig. 76 SB36·37 遺物出土状況断面図 (1/80)

Tab.56 SB36・37 遺物出土調査表

遺物番号	発見名	遺物方向	規格寸法	量	計量	計量	材料	用途	長さ	幅	厚さ	重量	埋藏層	出土位置	遺物種類	詳細番号	
SB-36	1-17	東西	3×1	4.8	2.3×1.5	2.7	13.0	土	1	横円形	4.0	36.0	6.0	79-2074	高床式土器—器	中国磁器	Fig.37-36
									2	円形	4.0	58.0	9.0	72-2094	高床式土器—器		
									3	円形	4.0	58.0	9.0	72-2094	高床式土器—器		
									4	円形	4.0	58.0	9.0	72-2094	高床式土器—器		
									5	円形	4.0	58.0	9.0	72-2094	高床式土器—器		
									6	円形	4.0	42.0	9.0	72-2094	高床式土器—器		
SB-37	1-18	南北	3×1	6.0	3.0×1.0	3.8	21.6	土	1	横長円形	14.0	114.0	15.0	69-3977	高床式土器—器	中国磁器	Fig.37-37
									2	円形	12.0	58.0	20.0	69-3977	高床式土器—器		
									3	円形	12.0	128.0	21.0	69-3978	高床式土器—器		
									4	円形	16.0	160.0	20.0	69-3979	高床式土器—器		
									5	円形	14.0	186.0	20.0	69-3980	高床式土器—器		
									6	円形	13.0	132.0	21.0	69-3981	高床式土器—器		

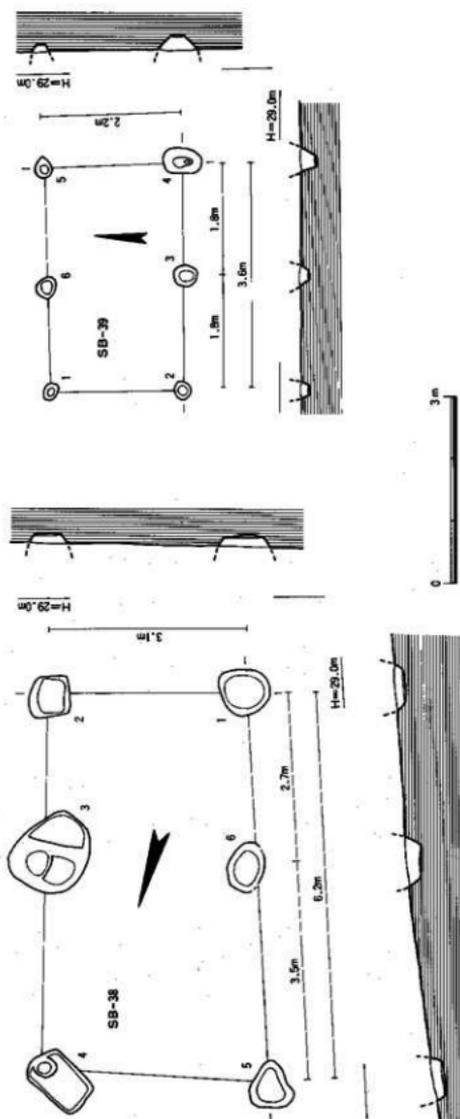


Fig. 77 SB 38·39 建筑物出土状况平面图 (1/80)

Tab.59 SB38·39 建筑物测量表

测物编号	地区名	测物方位	面积	长	宽	行	列	行距	列距	行号	列号	形状	层数	高度 (m)	主要名目土质物	测物编号
SB-38	1-17	南-北	N-17-39	2 X 1	6.2	3.5	3.1	3.1	19.2	1	1	1	1	1.0	70-2004	Fig.63-68 P.63-68 P.63-68
										2	1	2	1	1.0	70-2004	
										3	1	3	1	1.0	70-2004	
										4	1	4	1	1.0	70-2004	
										5	1	5	1	1.0	70-2004	
										6	1	6	1	1.0	70-2004	
SB-39	1-17	南-北	N-17-39	2 X 1	3.6	1.8	2.2	2.2	7.9	1	1	1	1.0	70-2004	Fig.63-68 P.63-68 P.63-68	
									2	1	2	1	1.0	70-2004		
									3	1	3	1	1.0	70-2004		
									4	1	4	1	1.0	70-2004		
									5	1	5	1	1.0	70-2004		
									6	1	6	1	1.0	70-2004		

く、長・短の径が78×70cmのものから110×96cmまでのものが見られる。また、掘方の残存する深さは、掘方4・5を除けば39-51cm内外である。

出土遺物では、柱穴掘方の4を除く掘方内から弥生時代中期前半の甕、壺、鉢、無頸壺の細片が少量出土している。

出土遺物 (Fig.83) 084は、鉢である。085は、甕である。何れも柱穴掘方6出土。

S B36建物 (Fig.76, Tab.58)

S B36建物は、調査区西部中央に検出された東西棟建物であり、S B38建物の南東側に隣接する。建物は、長軸をN-56°-Wにとる。その規模は、桁行2間、梁行1間と考えられる。

また、建物の桁行実長は、4.8mであり、柱間寸法は柱穴掘方2-3の間で2.3m、柱穴掘方3-4の間で2.5mをはかり、柱間規模は規則的である。また、梁行実長は、2.7mである。さらに、床面積は13.0m²をはかる。

調査で検出された側柱の掘方は、全体で6本分である。形状は不整形長方形～楕円形を呈するものが多く、長・短の径が48×26cmのものから98×82cmまでのものが見られる。また、掘方の残存する深さは10cm内外である。

出土遺物では、柱穴掘方の3を除く掘方内から弥生時代中期後半の甕、壺、器台の細片が少量出土している。

出土遺物 (Fig.83) 086は、甕である。柱穴掘方2出土。

S B37建物 (Fig.76, Tab.58)

S B37建物は、調査区西部南端に検出された南北棟建物であり、S B42建物の南東側に隣接する。建物は、長軸をN-26°-Eにとる。その規模は、桁行2間、梁行1間と考えられる。

また、建物の桁行実長は、6.0mであり、柱間寸法は柱穴掘方1-2の間で3.0m、柱穴掘方2-3の間で3.0mをはかり、柱間規模は規則的である。また、梁行実長は、3.6mである。さらに、床面積は21.6m²をはかる。

調査で、検出された側柱の掘方は、全体で6本分である。形状は不整形長方形～方形を呈するものが多く、長・短の径が96×90cmのものから148×98cmまでのものが見られる。また、掘方の残存する深さは、掘方1・4を除けば30-41cm内外である。

出土遺物では、柱穴掘方の2を除き弥生時代中期半ばの甕、壺の細片が少量出土している。

出土遺物 (Fig.83) 087は、甕である。柱穴掘方1出土。

S B38建物 (Fig.77, PL.54, Tab.59)

S B38建物は、調査区西部北端に検出された南北棟建物であり、S B39建物の北東側に位置する。建物は、長軸をN-17°-Wにとる。その規模は、桁行2間、梁行1間と考えられる。

また、建物の桁行実長は、6.2mであり、柱間寸法は柱穴掘方5-6の間で3.5m、柱穴掘方6-1の間で2.7mをはかり、柱間規模はやや不規則である。また、梁行実長は、3.1mである。さらに、床面積は19.2m²をはかる。

調査で検出された側柱の掘方は、全体で6本分である。形状は不整形長方形～方形を呈するものが多く、長・短の径が64×62cmのものから128×106cmまでのものが見られる。また、掘方の残存する深さは、掘方3・5を除けば15cm内外である。

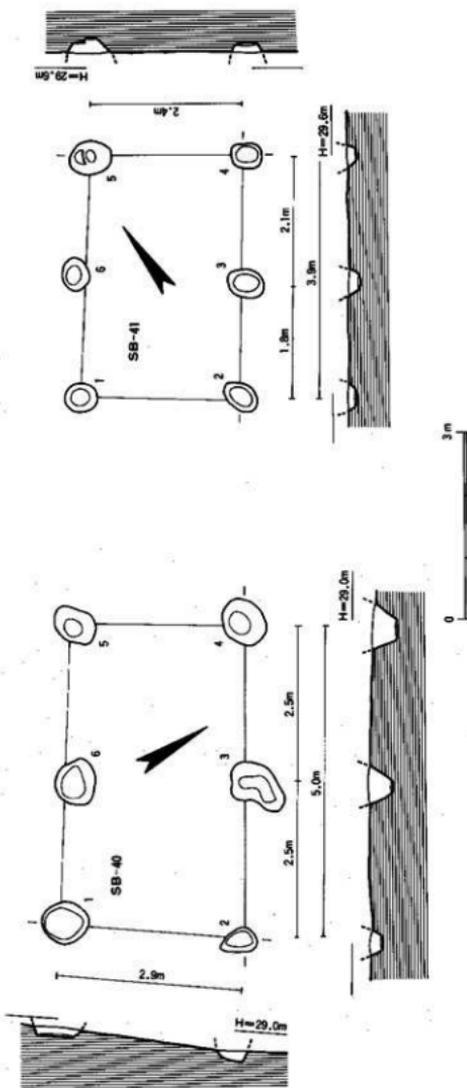


Fig. 78 SB40-41 遺物出土状況調査図 (1/80)

Tab.60 SB40・41 遺物設計測定

遺物番号	地区名	遺物方向	風向方位 (指針方位)	風速 (m/s)	風行 距離(m)	風行 時間(m)	風行 速度(m/s)	風行 距離(m)	風行 時間(m)	風行 速度(m/s)	形状	重量 (kg)		目録簿 番号	主要な出土遺物	調査時期	調査者	
												質量	容積					
SB-40	1-17	東西	N-41°-W	2 x 1	5.0	1.5 x 1.5	2.9	14.5	1	方形	42.0	42.0	12.0	69-070	既成式土器一壺	Fig.82-84	Fig.85-88	中国産
									2	楕円形	54.0	38.0	18.0	69-041	既成式土器一壺			
									3	平盤形	54.0	56.0	37.0	69-078	既成式土器一壺			
									4	円形	36.0	44.0	35.0	69-076	既成式土器一壺			
									5	小壺形	64.0	52.0	—	69-074	既成式土器一壺			
									6	小壺形	70.0	60.0	—	69-072	既成式土器一壺			
SB-41	1-18	南北	N-36°-E	2 x 1	3.9	1.8 x 1.1	2.4	9.4	1	円形	48.0	46.0	9.0	64-018	既成式土器片	—	—	—
									2	楕円形	58.0	40.0	15.0	64-09	—			
									3	平盤形	54.0	42.0	15.0	64-017	既成式土器片			
									4	扇形	48.0	38.0	13.0	64-014	既成式土器片			
									5	楕円形	64.0	50.0	21.0	64-013	既成式土器一壺			
									6	楕円形	62.0	46.0	14.0	64-012	既成式土器一壺			

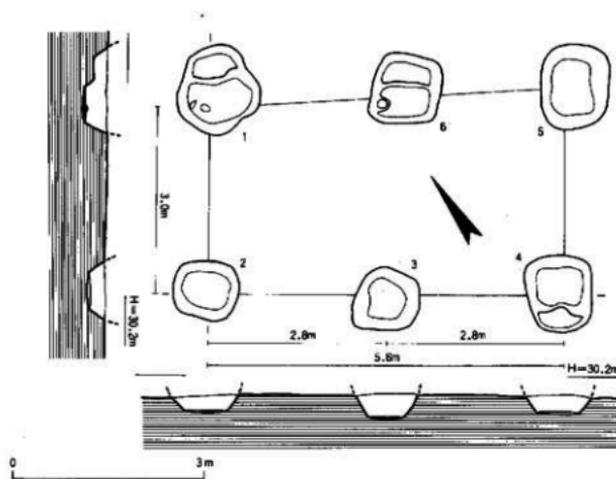


Fig. 80 SB44建物跡出土状況実測図 (1/80)

出土遺物では、柱穴掘方の全ての掘方内から弥生時代中期後半の
甕の細片が少量出土している。

出土遺物 (Fig.83) 088は、甕である。柱穴掘方1出土。08
9は、鉢である。090は、甕である。何れも柱穴掘方2出土。

S B 39建物 (Fig.77, PL.54, Tab.59)

S B 39建物は、調査区西部端に検出された東西棟建物であり、S
B 40建物の西側に位置する。建物は、長軸をN-87°-Eにとる。
その規模は、桁行2間、梁行1間と考えられる。

また、建物の桁行実長は、3.6mであり、柱間寸法は柱穴掘方2
-3の間で1.8m、柱穴掘方3-4の間で1.8mをはかり、柱間規模
は規則的である。また、梁行実長は、2.2mである。さらに、床面
積は7.9m²をはかる。

調査で検出された側柱の掘方は、全体で6本分である。形状は不
整長方形～円形を呈するものが多く、長・短の径が24×24cmのもの
から60×40cmまでのものが見られる。また、掘方の残存する深さは、
掘方4を除けば10cm内外である。

出土遺物では、柱穴掘方2・3・4・6の掘方内から弥生時代後
期初めの甕、壺の細片が少量出土している。

出土遺物 (Fig.83) 091は、甕である。柱穴掘方2出土。

Tab.62 SB44 建物跡発掘調査計画表

建物番号	地区名	掘方名	掘方方向	掘方位置	掘方形状	掘方寸法	掘方深さ	掘方時期	柱穴掘方	柱穴掘方寸法	柱穴掘方深さ	柱穴掘方時期	出土遺物		備考	
													種類	数量		
SB-44	J-18	東西	東西	N-87°-E	2x1	3.0	2.2	18.5	1	1.8x1.8	30.0	弥生時代中期後半	弥生時代中期後半	弥生時代中期後半	弥生時代中期後半	Fig.83(9)
									2	1.8x1.8	30.0	弥生時代中期後半	弥生時代中期後半	弥生時代中期後半	弥生時代中期後半	Fig.83(9)
									3	1.8x1.8	30.0	弥生時代中期後半	弥生時代中期後半	弥生時代中期後半	弥生時代中期後半	Fig.83(9)
									4	1.8x1.8	30.0	弥生時代中期後半	弥生時代中期後半	弥生時代中期後半	弥生時代中期後半	Fig.83(9)
									5	1.8x1.8	30.0	弥生時代中期後半	弥生時代中期後半	弥生時代中期後半	弥生時代中期後半	Fig.83(9)
									6	1.8x1.8	30.0	弥生時代中期後半	弥生時代中期後半	弥生時代中期後半	弥生時代中期後半	Fig.83(9)

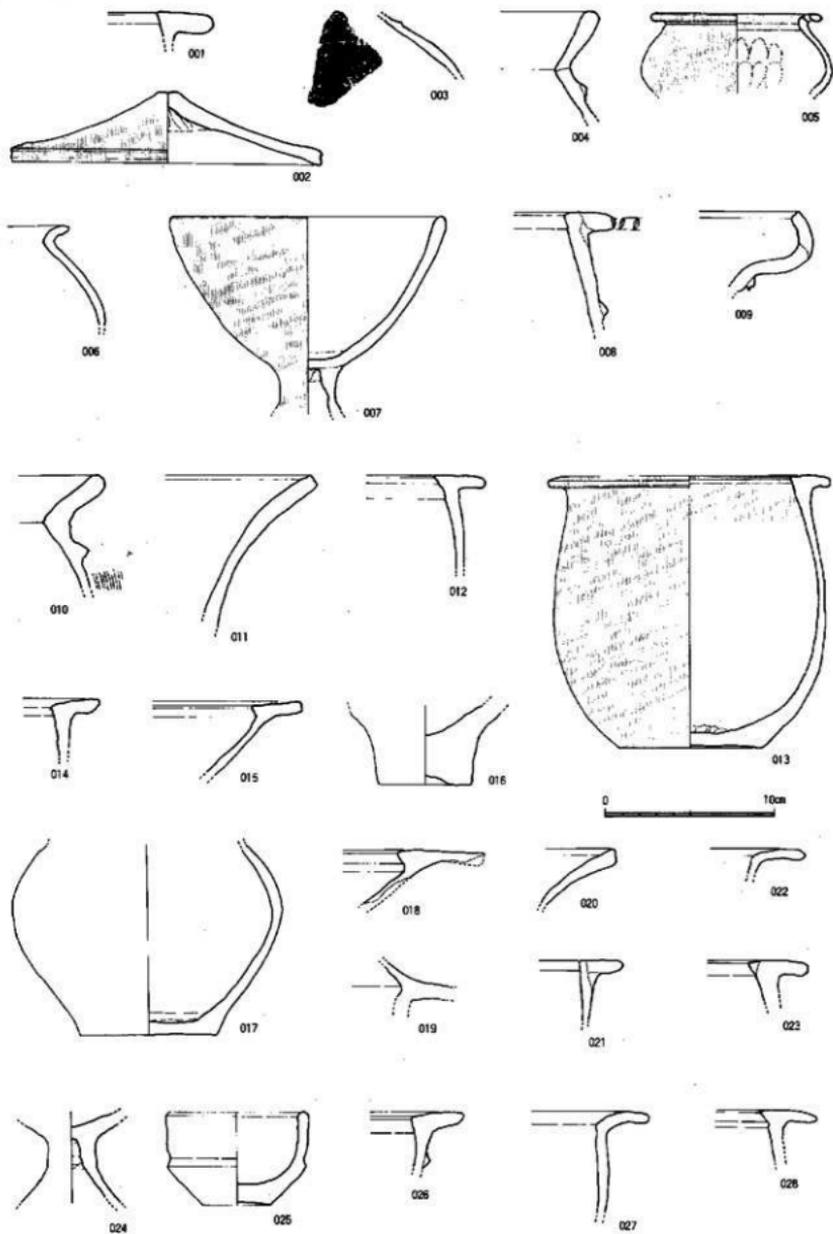


Fig.81 第四次調査遺物出土土器実測図(1)(1/3)

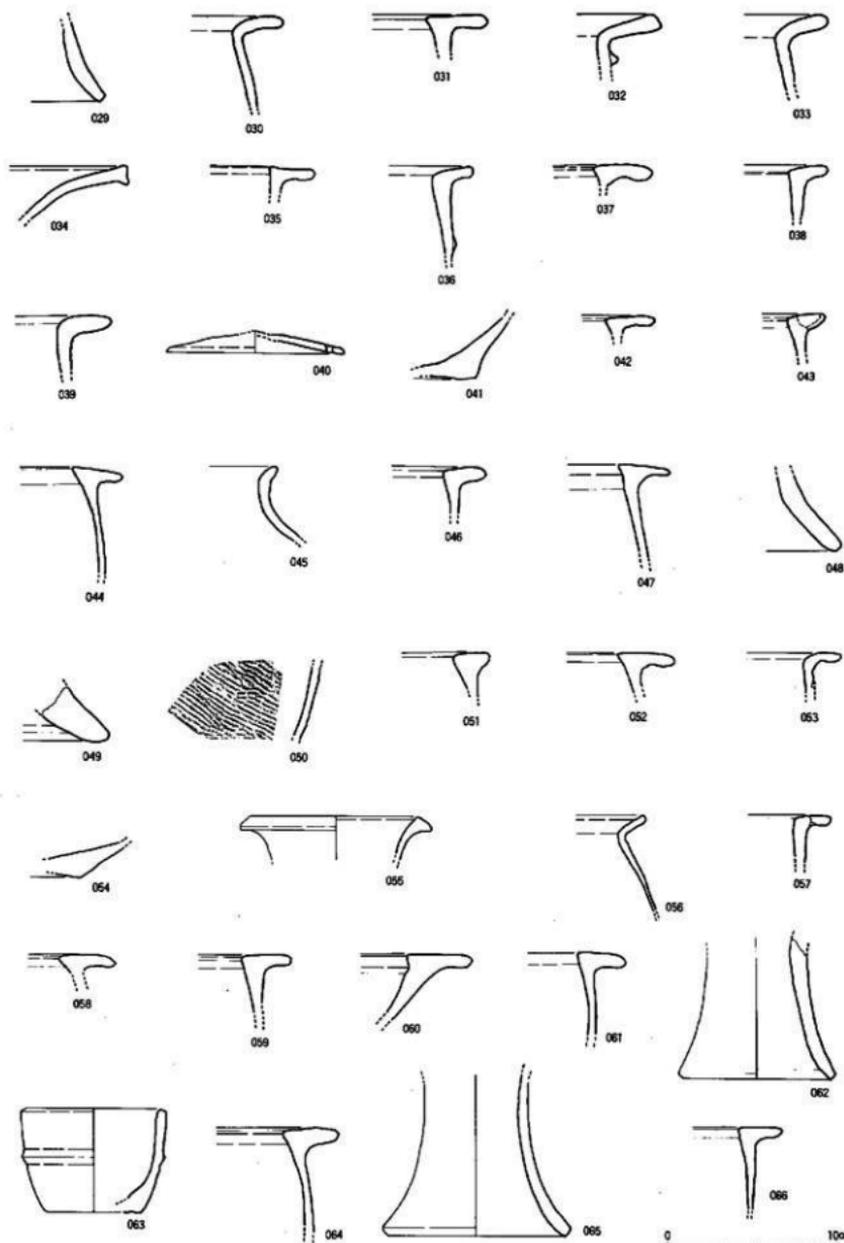


Fig.82 第四次調查遺物出土土器実測図(2)(1/3)

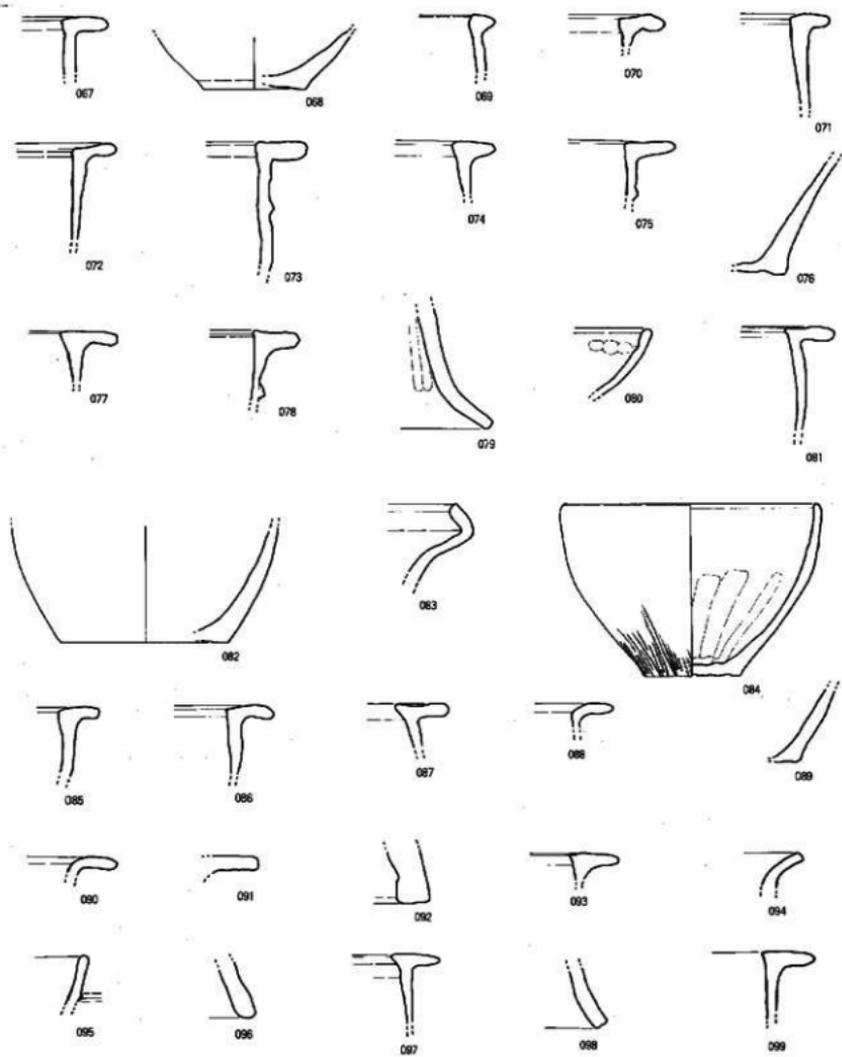


Fig.83 第四次調査建物出土土器実測図(3)(1/3)





Fig.84 第四次調査新生代遺構分布圖(3)



S B40建物 (Fig.78, PL.54, Tab.60)

S B40建物は、調査区西部端に検出された東西棟建物であり、S B39建物の東側に位置する。建物は、長軸をN-61°-Wにとる。その規模は、桁行2間、梁行1間と考えられる。

また、建物の桁行実長は、5.0mであり、柱間寸法は柱穴掘方2-3の間で2.5m、柱穴掘方3-4の間で2.5mをはかり、柱間規模は規則的である。また、梁行実長は、2.9mである。さらに、床面積は14.5㎡をはかる。

調査で検出された側柱の掘方は、全体で6本分である。形状は不整形を呈するものが多く、長・短の径が54×38cmのものから84×56cmまでのものが見られる。また、掘方の残存する深さは、掘方5・6を除けば12~37cm内外である。

出土遺物では、柱穴掘方のすべての掘方内から弥生時代中期後半の甕、壺、器台、鉢の細片が少量出土している。

出土遺物 (Fig.83) 092は、器台である。柱穴掘方3出土。093は、甕である。柱穴掘方4出土。

S B41建物 (Fig.78, Tab.60)

S B41建物は、調査区西部南端に検出された南北棟建物であり、S B42建物の西側に位置する。建物は、長軸をN-36°-Eにとる。その規模は、桁行2間、梁行1間と考えられる。

また、建物の桁行実長は、3.9mであり、柱間寸法は柱穴掘方2-3の間で1.8m、柱穴掘方3-4の間で2.1mをはかり、柱間規模は規則的である。また、梁行実長は、2.4mである。さらに、床面積は9.4㎡をはかる。

調査で検出された側柱の掘方は、全体で6本分である。形状は楕円形を呈するものが多く、長・短の径が48×38cmのものから64×50cmまでのものが見られる。また、掘方の残存する深さは、掘方1を除けば10~21cm内外である。

出土遺物では、柱穴掘方2以外の掘方内から弥生時代後期初めの甕の細片が少量出土している。

出土遺物 (Fig.83) 094は、甕である。柱穴掘方5出土。

S B42建物 (Fig.79, Tab.61)

S B42建物は、調査区西部南端に検出された南北棟建物であり、S B41建物の東側に位置する。建物は、長軸をN-19°-Wにとる。その規模は、桁行2間、梁行1間と考えられる。

また、建物の桁行実長は、7.0mであり、柱間寸法は柱穴掘方2-3の間で3.6m、柱穴掘方3-4の間で3.4mをはかり、柱間規模は規則的である。また、梁行実長は、4.0mである。さらに、床面積は28.0㎡をはかる。

調査で検出された側柱の掘方は、全体で6本分である。形状は隅丸長方形を呈するものが多く、長・短の径が48×40cmのものから94×86cmまでのものが見られる。また、掘方の残存する深さは、掘方5を除けば22~44cm内外である。

出土遺物では、柱穴掘方1以外から弥生時代中期の甕、壺、器台の細片が少量出土している。

出土遺物 (Fig.83) 095は、小形鉢である。柱穴掘方3出土。

S B43建物 (Fig.79, Tab.61)

S B43建物は、調査区西部南端に検出された南北棟建物であり、S B41建物の南西側に位置する。

建物は、長軸をN-45°-Eにとる。その規模は、桁行2間、梁行1間と考えられる。

また、建物の桁行実長は、3.8mであり、柱間寸法は柱穴掘方2-3の間で2.0m、柱穴掘方3-4の間で1.8mをはかり、柱間規模は規則的である。また、梁行実長は、2.6mである。さらに、床面積は9.9㎡をはかる。

調査で検出された側柱の掘方は、全体で6本分である。形状は隅丸長方形～方形を呈するものが多く、長・短の径が56×42cmのものから124×76cmまでのものが見られる。また、掘方の残存する深さは、掘方1を除けば19～28cm内外である。

出土遺物では、柱穴掘方1以外から弥生時代中期中葉の甕、壺、器台の細片が少量出土している。

出土遺物 (Fig.83) 096は、器台である。柱穴掘方3出土。097は、甕である。柱穴掘方5出土。

S B44建物 (Fig.80, Tab.62)

S B44建物は、調査区西部南西端に検出された東西棟建物であり、S B43建物の西側に位置する。建物は、長軸をN-56°-Wにとる。その規模は、桁行2間、梁行1間と考えられる。

また、建物の桁行実長は、5.6mであり、柱間寸法は柱穴掘方2-3の間で2.8m、柱穴掘方3-4の間で2.8mをはかり、柱間規模は規則的である。また、梁行実長は、3.0mである。さらに、床面積は16.8㎡をはかる。

調査で検出された側柱の掘方は、全体で6本分である。形状は不整長方形～方形を呈するものが多く、長・短の径が100×100cmのものから134×106cmまでのものが見られる。また、掘方の残存する深さは、25～36cm内外である。

出土遺物では、柱穴掘方内から弥生時代中期後半の甕、壺、器台、高杯の細片が少量出土している。

出土遺物 (Fig.83) 098は、器台である。柱穴掘方5出土。099は、甕である。柱穴掘方6出土。

3. 第四・五次調査小結

これまで第四次調査で検出された弥生時代の掘立柱建物について個別の説明を加えてきたが、以下では①建物の規模構成、②建物の時期別構成について再記し、若干の考察を加えることとしたい。

【建物の規模別の構成】(規模は桁行×梁行)

5×4間建物→1棟 (S B02)

5×3間建物→1棟 (S B21)

5×2間建物→1棟 (S B06)

3×3間建物→1棟 (S B23)

3×1間建物→1棟 (S B26)

2×1間建物→34棟 (S B01・03・04・05・09・10・11・12・14・15・16・17・18・
19・20・22・25・27・28・29・30・31・32・33・34・35・
36・37・38・39・40・41・42・43・44)

1×1間建物→4棟 (S B07・08・13・24)

【建物の時期別構成】（規模は桁行×梁行）

中期初頭→1棟（S B02）

中期前葉→9棟（S B01・04・17・18・22・27・28・32・35）

中期中葉→11棟（S B05・10・13・14・16・20・30・33・37・43）

中期後葉→18棟（S B06・07・08・09・11・12・15・19・21・23・25・26・29・31・
36・38・40・44）

中期 →1棟（S B42）

後期初頭→3棟（S B34・39・41）

弥生 →1棟（S B03）

ここに列記した掘立柱建物については、発掘調査中に確認したものと調査後に全体図面を作成する作業の際に認定したものとがある。何れの場合でも建物を構成する柱穴掘方内から出土した遺物すべての観察作業から時期的な比定を行った。しかしながら、他の遺構との重複の少ない建物であっても柱穴掘方から出土する土器類が時期的に幅があったり、遺構の重複する地点で検出された建物群の上に古墳時代の包含層を伴った場合などがあつた。このため図示した柱穴掘方の出土土器は、全てが直接に建物時期を示すものでなく、図化が可能なものである。このため建物の時期決定は建物掘方出土の、量的に主流を占める土器の示す時期を上限と考えた。また、第四次調査についてはほかの生活遺構の分布状況が明らかでなく、分布上の地域的対比や遺構の時期的な組み合わせが十分につかめない。

調査で検出された掘立柱建物群は、規模の上で圧倒的に桁・梁行き規模が2×1間のもが多く、中期初頭・後葉に桁行5間のものが見られる。また、時期的な分布としては、中期初頭では北東隅に南北棟大型建物（S B02）があり、西側50mにはほぼ同時期の吉武高木弥生墓地在位置する。中期前葉ではS B02建物の南西部100～150mにあたるF・G-16・17地区に建物長軸の統一性は見られないながら、集中して分布する。続く中期中葉では、前葉の分布地域と重複しながら、南東部端のD・E-17地区や南西端にあたるI-18地区などに分布する。また、中期後葉では、中葉の時期の主要分布であるF・G-16・17地区と重複しながら、D・E-16・17地区などの東端地区やI・J-17・18地区などの西端部などあわせて3地区に分布する。続く後期では、検出された建物も少なく、調査区内に散在する分布となる。第四次調査の整理調査については今後も継続され、建物群についての新たな追加確認もなされると考えている。

第四章 おわりに

これまで西区飯盛・吉武地区開場整備事業に伴って行われた吉武遺跡群の調査（第一～六次）のうち、特に弥生時代の掘立柱建物群について各調査年次毎に個別の報告をおこなってきた。

今回の報告は、教育委員会が平成五年度に設置した「吉武高木遺跡調査研究指導委員会」の指導による発掘調査報告書の第一冊である。

しかしながら、今回の報告にあたり、遺跡の調査規模が非常に広大であり、遺跡が各時代にわたるところから整理調査が十分に行き届かなかった点は否めない。

ところで、今回報告した弥生時代掘立柱建物については、第一・二・四次調査を主にしているがこれは第三次調査や第六次調査では弥生時代の生活遺構が比較的希薄と考えられることと、整理調査が十分に進捗していないことによる。ここで、今後の報告書刊行計画を記すと、平成7年度—吉武高木・吉武大石・樋渡墳丘墓などの特定集団墓地の報告、平成8年度—弥生時代の掘立柱建物を除く生活遺構の報告、平成9年度—旧石器時代・縄文時代・古墳時代・古代・中世の報告、平成10年度—特定集団墓地以外の弥生時代墓地の報告を予定しているが、かなり困難が予想される作業である。

さて、掘立柱建物群の総括については、前述のように平成8年度に予定している弥生時代竪穴住居跡・土壇・溝などの報告の際にまとめて行うことにしたいが、調査区全域の弥生時代の遺構の分布はFig. 85のようになる。

これの示す調査区北端にあたる第一次調査では、時期的に中期35棟、後期6棟、不詳1棟の掘立柱建物が確認されている。このうち第Ⅱ区では前期・後期はそれほど目立たないが、中期では円形竪穴住居跡21軒、掘立柱建物26棟が検出されている。竪穴住居跡は、切り合い関係からほぼ3段階に区別され、第一段階（古段階）—大型円形住居跡→第二段階（中段階）—小型円形住居跡→第三段階（新段階）—これらの中間サイズの円形住居跡と推移している。

これら各段階のものに付随すると考えられる掘立柱建物群は古段階では住居跡4軒に対して建物跡7棟・中段階では住居跡4軒に対して建物跡9棟・新段階では住居跡4軒に対して建物跡10棟と考えられている。

これによれば、住居跡1軒あたり平均2棟前後の建物跡がともなうとされる。

また、これの南側にある第二次調査では、時期的に中期19棟、後期21棟、弥生3棟の掘立柱建物が確認されている。このうち特徴的なのは、第Ⅸ区の後期では溝遺構5条、掘立柱建物21棟が検出されているが、建物群はこれらの溝遺構によって区画された倉庫群と考えられており、建替えなどを考慮すると大きく2群に区分されるかもしれない。

次にこれらの地点から南へ約300mほどのところが第四次調査地点である。第四次調査では、中期40棟、後期3棟、弥生1棟の掘立柱建物が確認されている。

建物群は、中期初頭の時期に先ず北東隅に大型建物が建てられたのを始めとして、これ以降南～西側一帯に建物群が推移する。

中期前葉では、大型建物の南西側100～150m一帯のところを中心に分布し、続く中期中葉ではこの分布を中心に調査区東・西側端にも広がるようになる。

さらに中期後葉になると建物規模もやや大型となり、先の分布地域を踏襲して、東・西側地点ではほぼ3群が区別される。また、後期は全体に遺構が希薄であり、分布は限られたものとなる。

第四次調査地点では、今後整理調査がさらに進捗すれば新たな建物群が確認される可能性が高いと考えられる。

ここで弥生時代の掘立柱建物群を含む集落跡に関連して、本遺跡の南東約3kmにある東入部遺跡を紹介しておく。

東入部遺跡は、早良平野の最奥部にあたり、北流する室見川の右岸に位置する。平成六年（1994）春の第九次調査で約4,000㎡の弥生時代集落を完掘調査した。集落は、前期末から中期前半にかけてのもので、遺構の時期はほぼ3時期に区別して理解される。第1期は前期末で、小型の円形竪穴住居跡3軒に貯蔵穴と考えられる土壇が複数伴う。第2期は中期初頭で、大型の円形住居跡3軒に桁・梁間規模が5×1間の建物3棟が伴う。また第3期は中期前半で、第2期の竪穴住居跡に替わって4×3間掘立柱建物3棟とこれに2×1間の掘立柱建物3～4棟が伴うと考えられている。特に、4×3間の建物は、前代の竪穴住居跡のサイズにはほぼ相当する床面積を有し、住居と考えられる。従って東入部遺跡では少なくとも中期前半期に住居としての掘立柱建物が出現していると考えられるのではないだろうか。

以上、最後にまとめが拙いものとなったのはひとえに執筆者の勉強不足のせいではありますが、今回報告の不備を補うためと今後のさらなる内容理解の為に簡単な建物編年表、フォッサマグナ以西の弥生時代掘立柱建物地名表と関連の参考文献を巻末に付けました。また、第四次調査で検出された大型建物についての復元をしていただきました若林弘子先生の復元についての概説文と関連の図面類を掲載させていただきました。記して感謝いたします。



東入部遺跡第7次調査掘立柱建物群



Fig.85 吉武遺跡群新石器時代遺構分布圖

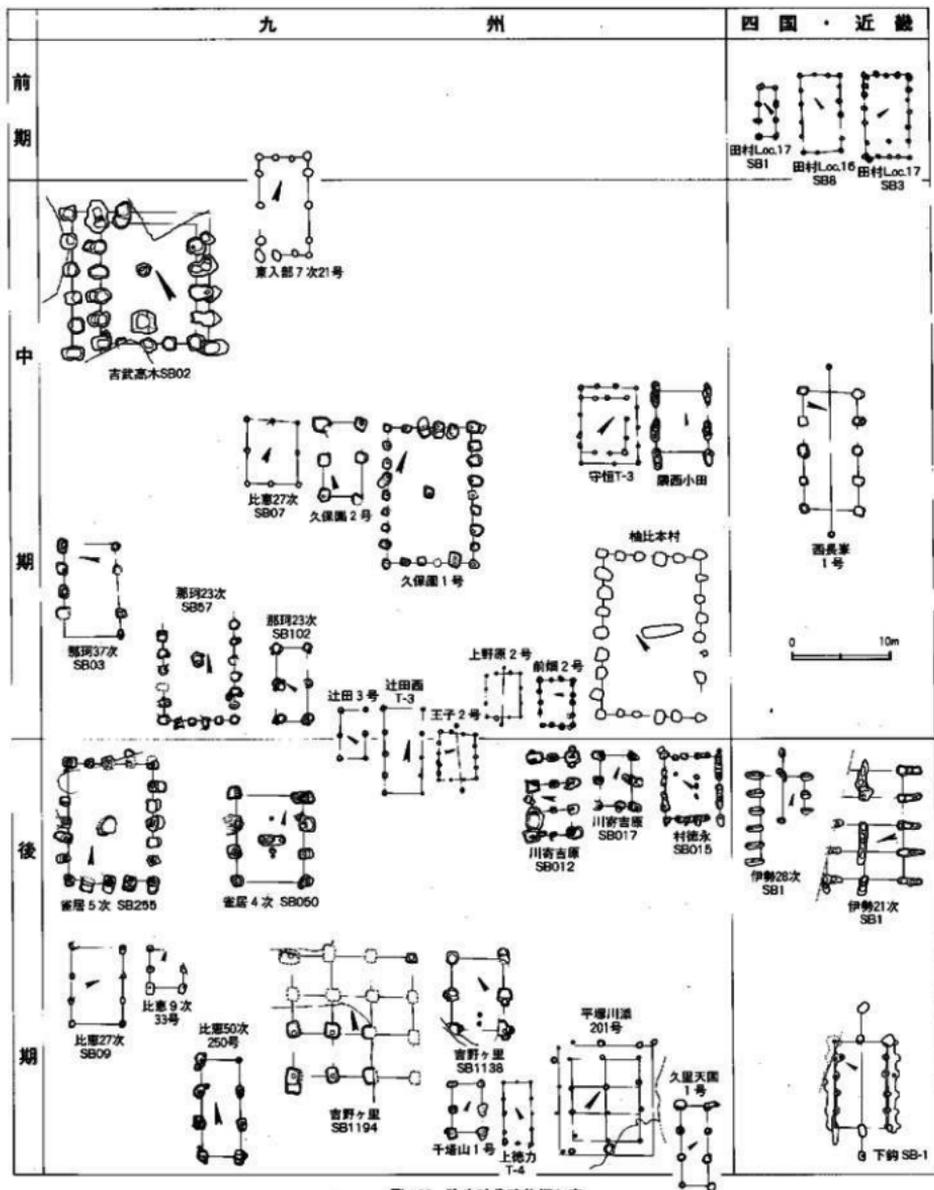


Fig.86 弥生時代建物編年表

吉武高木遺跡高殿の復元に関する概説

若林弘子

(1) 高床式建物と認められた最大の理由

四周に「廻り縁(まわりえん)」をめぐらせた柱くばりは、高床式建物の特徴である。

(2) 柱くばりと床面積

南北(桁行 けたゆき) 5柱間(はしらま)、東西(梁間 はりま) 4柱間の長方形で、18本の主柱からなっている。これら主柱は、柱根で50~60cmの大径木。

桁行の5柱間は、約2.5mずつで、全距離は、9.6m。床面積は、120.96㎡である。これに廻り縁の柱(縁束 えんづか)が四周に5柱間ずつ、総数20本ならんでいる。縁束の径は、柱根で40cmを前後する。

さらに、棟下通り付近に多数の柱穴遺構が重複して認められ、そのうちの3個を棟持ち柱とみた。

(3) 柱穴遺構の深さと形

柱の掘り方は直径1mを前後し、壺掘り(つぼぼり)と段掘り(だんぼり)の中間的な形状であるが、発掘地盤面は上層部全面が約60cm削平された状態で、その失われた層に主柱があったかもしれない。

主柱の穴の深さは、深いところで1.6m、浅いところで1.36mである。そして、縁束の穴の深さは、深いところで1.35m~1.20mで、主柱の深さよりやや浅く、主柱とは異なる機能に用いられたことを示している。

(4) 高床式の建築構造

床を高く持ち上げる方法にはいくつかの方法があるが、この場合は「総柱」の高床式とみた。つまり、地中に掘ったてられ、一本通しの柱の途中に床を組む構造で、「束柱」の構造ではない。

(5) 平面構造

廻り縁の平側の一边が他の三辺より広いことから、平入りに梯子を掛けたが、これは王の専用するもので、重臣などが使用するもう一本の梯子を妻側に掛けた。

屋内は棟下通りに立つ3本の棟持ち柱によって、内陣と外陣にわけられていたであろう。屋内を囲む壁は板壁、扉も一枚板とみたが、出土する木棺などから、かなりの厚さを持っていたであろう。板材を加工する技術は、十分そなわっていたと考える。

(6) 使われた尺度

古代の尺度は「尋(ひろ)や肘(ひじ)」などの人体寸法だったとする若林の考えを応用すると、みごとに41cmを前後する数値が、それぞれの柱間にあてはまった。つまり主柱の長辺方向の5柱間、短辺方向の4柱間とも4肘ずつの距離に測られていた。

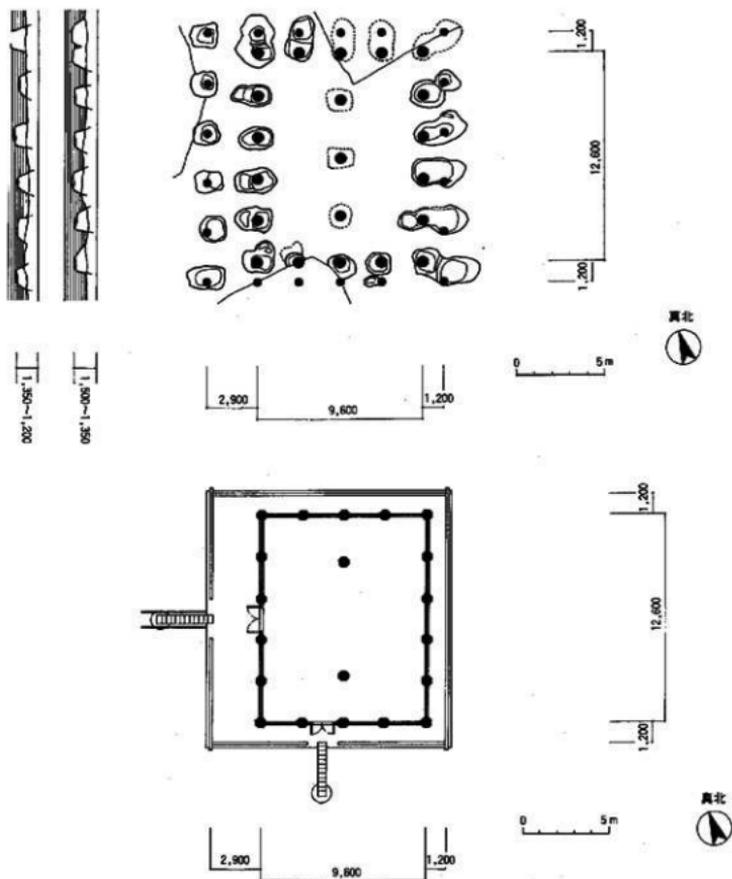


Fig. 87 第四次調査検出のSB02建物復元図

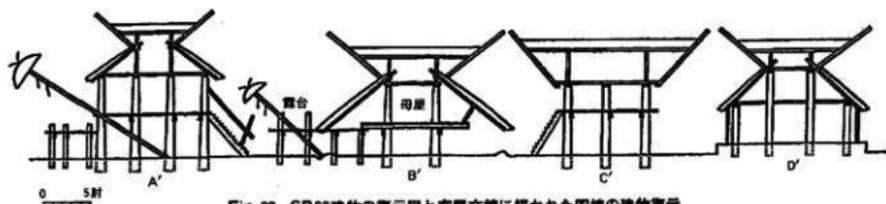
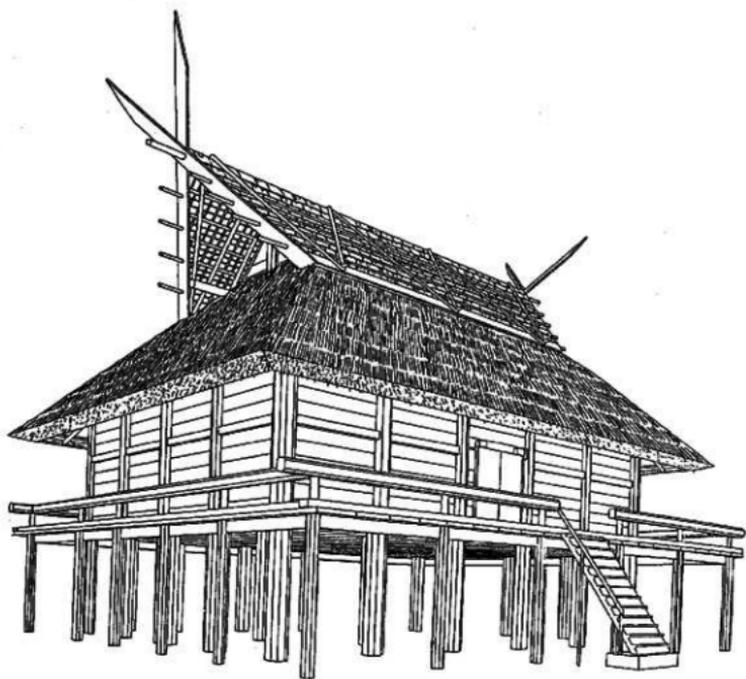


Fig. 88 SB02建物の復元図と家屋文鏡に描かれた四棟の建物復元

(7) 床や屋根までの高さ

推測による古代建物の復元で、もっとも苦慮するところは立体的な寸法であるが、尺度が判ればその割り出しは可能である。ただし古代のこと、現代建築に用いられているような架設足場や電動機械などを使わない施工方法を前提にした寸法を推測しなければならない。そのことを踏まえた上でこの建物は、地面から床の骨組みまで2.94m（7呎）、地面から軒の高さまでが5.88m（4呎）、地面から棟までの高さは11.28mが計算された。これに棟木上の垂木（たるき）や、棟を覆う茅（かや）の厚みを加えると建物の総高さは、地面からおおよそ12mになった。

(8) 尺度のルーツ

雲南奥地およびタイやベトナムなどの倭人と先祖を同じくする稲作民族の間では、漢民族の文化的影響をかなり受けているにもかかわらず、公定尺としての物差しをいっさい用いていない。建物の規模は水平方向、垂直方向とも尋、肘、咫（た）、握（つか）などの人体尺によって決められている。なお、人体寸法には個人差がある。

わが国において記紀などに、人体寸法をあらわす尋、咫、握（つか）などが散見されるが、それを神話の世界のこととして見逃してはならない。

(9) 人体寸法で復元する家屋文鏡の建物

家屋文鏡に描かれた4棟の建物に、その図を崩すことなく人体寸法をあてはめ、立体的・平面的な規模を求めるとともに、構造を推定し、復元作図した。（別図）

(10) 建物の性格

高さ12mにも達し、廻り縁までめぐらされているところから推して、穀倉や一般民衆の住居でないことは明らかである。それは（9）で述べた奈良県佐味田宝塚古墳から出土した「家屋文鏡」の四棟の建物のうち「高殿」に類する建物とみなしなければならない。つまり、魏志倭人伝にみる「樓觀」にあたるが、中国語の「樓觀」には二つの意があり、①たかどの（二階建てなどの高層な建物）、②やぐら（物見櫓）を意味する。ここでは前者の高層な建物、すなはち「高殿」としたい。

(11) 今後の発掘に期待すること

現在、発掘された中には他にも高床式建物の遺構が少なからず認められているが、これから発掘される地域からも高床式建物の遺構が発見され、恐らく魏志倭人伝が記す「宮室」や、また民衆のすまう多くの高床式住居も確認されることであろう。

(12) 結 論

床面積が約120㎡、総高12mの高殿は、出雲大社にせまる巨大建物であることが復元の結果推定された。

ちなみに出雲大社は、床面積132㎡、総高19.7mである。

Tab.63 弥生時代竪立柱建物地名表(1)

※ 備考欄の番号は、参考文献

番号	道路名	所在地	建物番号	建物規模		遺存時期	備考
				柱間×梁間 (即行式長)×(柱間梁長[m])	地面積 (㎡)		
1	ナガラ原南沢	沖繩県読谷郡伊江村	竪立土器柱式遺構	5×3	32.50	弥生中期	1
2	古瀬間味沢	沖縄県読谷郡公室味村	両形アウン掘り柱遺構	3×3 4.50×3.50	15.75	弥生	2 分館とピホウの跡出土
3	下下遺跡	鹿児島県瀬戸市十子町	1号	2×2 3.20×3.20	10.24	弥生中期末 ・後弥生	3 横持柱
			2号	5×2 3.20×3.60	19.50	*	横持柱
			3号	2×1以上	3.75	*	横持柱
			4号	2.50×1.90	15.30	*	横持柱
			5号	2×2 2.00×2.50	7.50	*	横持柱
			6号	4×2 4.50×4.00	18.20	*	横持柱
			7号	1×1 4.22×3.22	9.37	*	
			8号	2×2 3.50×3.20	8.58	*	
			9号	1×1 3.50×2.20	7.70	*	
			10号	1×1 4.00×2.20	6.80	*	
			11号	1×1 2.90×2.10	7.85	*	
			12号	2×2 4.30×2.20	18.27	*	
			13号	1×1 4.20×2.35	9.87	*	
			14号	1×1 4.50×2.70	12.23	*	
4	中ノ丸遺跡	鹿児島県瀬戸市大浦町	1号	2×1以上 3.00	-	弥生中期末	4
5	前畑遺跡	鹿児島県薩摩市城之原町	1号	4×2 4.50×2.80	12.47	弥生中期末	5 横持柱、土器跡
			2号	4×2 4.60×2.80	14.56	*	柱遺跡
			3号	3×2以上 3.60×2.70	10.53	*	柱遺跡
			4号	1×1 2.00×1.70	4.85	*	柱遺跡
			5号	1×1以上 1.80	-	*	
			6号	2×2 2.80×2.10	9.14	*	
			7号	2×1 3.60×2.34	8.18	*	柱遺跡
			8号	2×2 3.80×2.10	8.25	*	柱遺跡
6	上野原遺跡	鹿児島県瀬戸市川内町	2号	3×3 4.60×3.50	16.10	弥生中期末	6 高土壇遺構?
7	古保山打越遺跡	熊本県下益城郡松橋町	-	-	-	弥生中期後	7
8	南城美1遺跡	宮崎県都城市立野町	S801	1×1 3.50×2.30	8.75	弥生中期	8
			S802	1×1	7.00	*	
			S803	2×1 4.30×2.80	11.18	*	
9	西原美2遺跡	宮崎県都城市立野町	S804	1×1 3.70×2.20	11.10	弥生後葉	9
			S805	2×2 2.80×2.20	6.27	*	
10	下大山野遺跡	宮崎県都城市立野町	-	2×2	-	弥生後葉	10 竪、横持柱
11	長ノ原遺跡	佐賀県鳥栖市水古町	1号	2×1 2.20×2.50	18.20	弥生	11
			2号	1×1 3.60×2.40	8.64	*	
			3号	2×1 4.50×2.70	19.41	*	
12	水原遺跡	佐賀県鳥栖市原町	1号	2×1 4.60×2.40	15.64	弥生中期後葉 ・後弥生	12
			2号	2×1 3.00×2.70	10.75	*	
13	野入遺跡	佐賀県三養基郡草山町	2号	1×1 2.00×2.50	7.50	弥生中期後葉	-
			3号	2×1 4.80×3.40	16.70	*	
14	千尋山遺跡	佐賀県三養基郡草山町	1号	2×1 3.60×3.00	15.22	弥生中期後葉 ・後弥生	14
			5号	1×1 4.00×2.40	9.80	*	
15	都方原遺跡C地区	佐賀県三養基郡瀬原	S806	1×1 3.80×2.30	10.89	弥生中期後葉 ・後弥生	15
16	町南遺跡	佐賀県三養基郡瀬原	S807	2×1 3.00×3.00	9.00	弥生後葉	16
			S808	2×2 2.10×4.20	29.82	*	
			S809	2×1 4.50×3.80	17.55	*	
			S804	2×1 3.50×2.40	9.36	*	
			S805	2×1 3.60×3.20	12.48	*	

Tab. 64 弥生時代獨立柱建物地名表 (2)

			SB139	3 × 1 6.00 × 4.30	25.20	*	
			SB140	2 × 1 3.40 × 2.00	7.20	*	
			SB141	2 × 1 6.10 × 2.40	21.96	*	
			SB142	1 × 1 3.10 × 3.00	9.30	*	
			SB143	1 × 1 3.20 × 2.70	8.91	*	
			SB144	1 × 1 4.40 × 3.00	13.20	*	
			SB145	2 × 1 3.20 × 3.00	9.60	*	
			SB146	2 × 2 5.20 × 3.30	29.15	*	
			SB147	1 × 1 3.30 × 3.30	10.20	*	
			SD148	1 × 1 2.80 × 2.30	6.10	*	
			SB149	2 × 1 4.80 × 3.00	14.40	*	
			SD150	1 × 1 2.70 × 2.80	10.30	*	
			SB233	2 × 1 6.90 × 3.00	20.70	*	
17	南ノ島門遺跡	佐賀県二豊郡中里町	SB070	2 × 4 10.00 × 8.00	80.00	弥生中期末 ・ 弥生末	春期?
			SB071	2 × 1 5.20 × 2.80	14.56	*	
			SB072	2 × 1 5.60 × 4.00	22.40	*	
18	船石南遺跡	佐賀県三豊郡上峰町	SB539	1 × 1 2.80 × 2.80	7.80	弥生前期?	14
			SB540	2 × 1 2.00 × 3.00	9.00	*	
			SB613	1 × 1 3.90 × 2.80	9.80	*	
			SB606	1 × 1 3.50 × 2.80	10.30	*	
			SB658	1 × 1 3.10 × 2.70	8.40	*	
			SB682	1 × 1 3.10 × 3.00	9.30	*	
19	船石遺跡	佐賀県三豊郡上峰町	SB384	2 × 1 5.80 × 3.10	18.20	弥生前期?	15
			SB417	2 × 1 3.80 × 2.20	7.90	*	
			SB418	2 × 2 2.60 × 2.30	7.90	*	
20	夕ノ草遺跡	佐賀県神埼郡東谷村	-	2 × 1 3.60 × 2.70	9.72	弥生中期末 ・ 弥生期	16
			-	1 × 1 4.00 × 3.50	14.00	*	
21	西豊洲A遺跡	佐賀県神埼郡東谷村	SB101	2 × 1 4.10 × 2.80	10.60	弥生中期末 ・ 弥生期	17
			SB102	1 段 E × 1 → 4 段 E	-	*	
			SB103	1 段 E × 1 → 3 段 E	-	*	
			SB223	2 × 2 6.00 × 5.40	35.64	*	
			SB225	1 × 1 3.60 × 2.40	8.64	*	
			SB224	2 × 1 6.00 × 4.00	24.00	*	
			SB225	1 × 1 3.40 × 2.60	8.84	*	
			SB226	1 × 1 3.40 × 2.60	8.84	*	
			SD227	1 × 1 3.45 × 3.00	10.35	*	
			SB228	1 × 1 2.00 × 3.30	11.88	*	
			SB229	2 × 2 7.20 × 3.60	25.92	*	
			SB230	1 × 1 3.00 × 3.00	10.80	*	
			SB231	2 × 1 6.00 × 3.00	18.00	*	
			SB232	1 × 1 3.50 × 3.00	10.80	*	
			SB233	2 × 1 5.40 × 3.60	19.44	*	
			SB234	1 × 1 3.80 × 2.80	10.64	*	
			SB235	1 × 1 2.20 × 2.30	9.90	*	
			SB236	1 × 1 3.60 × 3.60	12.96	*	
			SB237	2 × 2 5.20 × 3.10	8.82	*	
22	亀作A遺跡	佐賀県神埼郡東谷村	SB004	2 × 2 3.20 × 2.75	8.80	弥生前期後半	18
			SB005	2 × 1 2.55 × 2.70	9.59	*	
			SB024	2 × 1 3.60 × 2.39	8.60	*	柱成跡
			SB028	2 × 1 3.52 × 3.00	10.77	*	柱成跡

Tab. 65 弥生時代獨立柱建物地名表 (3)

			S8029	1 × 3 2.90 × 2.55	6.62	*	
			S8030	1 × 3 3.10 × 2.18	6.78	*	柱狀跡
			S8031	1 × 3 3.00 × 2.39	6.87	*	
			S8033	1 × 3 3.09 × 2.80	8.85	*	榿木跡、柱痕跡
			S8034	2 × 3 3.09 × 3.10	11.44	*	柱痕跡
			S8035	1 × 3 2.99 × 2.07	5.01	*	
			S8036	1 × 3 2.80 × 2.80	7.84	*	
			S8037	1 × 3 2.99 × 2.54	7.80	*	
			S8038	1 × 3 2.41 × 2.00	4.35	*	
			S8039	1 × 3 2.90 × 2.54	6.39	*	
			S8040	1 × 3 3.44 × 3.19	10.54	*	
			S8041	2 × 3 3.03 × 2.87	9.32	*	柱痕跡
			S8042	1 × 3 2.87 × 2.79	8.01	*	
			S8045	1 × 3	-	*	
			S8046	1 × 3 2.99 × 2.79	8.34	*	
			S8047	1 × 3 2.73 × 2.02	4.66	*	
23	大島前原古遺跡	佐賀県神埼郡東牟婁町	-	-	-	-	弥生前期後半 19
24	吉野ヶ里遺跡	佐賀県神埼郡神埼町 平塚地区の坪(2)地区	S8186	1 × 3 3.75 × 2.50	9.25	弥生前期後半 - 弥生中期	20, 21, 22, 23
			S8189	1 × 3 3.26 × 2.81	9.16	*	
			S8211	2 × 3 4.02 × 2.66	10.64	*	
		佐賀県神埼郡神埼町 志良野地区の坪地区	S10660	2 × 3 2.50 × 2.80	87.80	弥生前期後半	弥生場
			S81196	1 × 3 4.30 × 3.30	34.65	*	
			S81197	2 × 3 4.30 × 3.30	51.53	*	
			S81198	2 × 3 4.50 × 3.00	42.50	*	
			S81200	1 × 3 4.80 × 3.00	27.20	*	
		佐賀県神埼郡神埼町 志良野+長尾地区V区	S81030	2 × 3 4.10 × 3.46	13.94	*	
			S81033	2 × 3 4.00 × 3.44	11.24	*	
		佐賀県神埼郡神埼町 吉野ヶ里東地区E区	S30630	2 × 3 5.20 × 4.40	17.68	*	柱跡?
		佐賀県神埼郡神埼町 吉野ヶ里地区V区	S81138	2 × 3 3.80 × 3.30	19.56	*	柱跡?
		佐賀県神埼郡神埼町 藤立遺跡南西(北内路)	S81134	3 × 3 12.50 × 12.50	156.25	*	弥生中前期? 柱跡、柱礎
		佐賀県神埼郡神埼町 吉野ヶ里東地区E区	S8201	1 × 3 1 × 1 22.5	6.36	弥生前期	榿木
			S8202	1 × 3 22.5 3.00 × -	-	*	榿木
			S8203	1 × 3 22.5 2.60 × -	-	*	榿木
		佐賀県神埼郡神埼町 吉野ヶ里東地区E区	S8201	1 × 3 3.55 × 3.11	11.04	弥生中前期	榿木
			S8202	1 × 3 3.55 × 2.44	8.66	*	
		佐賀県神埼郡神埼町 吉野ヶ里東地区V区	S8201	2 × 3 4.80 × 3.70	25.16	弥生中前期	高床倉庫跡 礎石、フタ
25	熊鷹遺跡C地点 (吉野ヶ里遺跡V区)	佐賀県神埼郡神埼町	-	2 × 3 6.10 × 3.75	22.88	弥生中期	榿木
26	の尻本遺跡 2区	佐賀県神埼郡神埼町	S8201	2 × 3 5.30 × 3.45	17.94	弥生前期後半 - 弥生中期	24 榿木
			S8202	1 × 3 3.39 × 2.92	9.94	*	
			S8203	1 × 3 4.10 × 3.40	13.94	*	
27	川寄吉野遺跡	佐賀県神埼郡神埼町	S3021	1 × 3 3.00 × 2.85	8.55	弥生前期	26
			S3022	1 × 3 3.00 × 2.48	8.24	*	柱礎
			S3023	1 × 3 3.54 × 3.09	10.62	*	柱礎
			S8004	1 × 3 3.75 × 3.09	10.64	*	榿木
			S8005	1 × 3 2.87 × 2.97	5.65	*	柱礎、榿木
			S8006	1 × 3 3.60 × 3.00	10.80	*	
			S8007	1 × 3 3.34 × 2.35	7.85	*	柱礎、榿木
			S3008	1 × 3 3.20 × 3.05	8.75	*	柱礎、榿木、榿木
			S8009	1 × 3 2.84 × 2.35	6.64	*	柱礎、榿木
			S8010	1 × 3 3.75 × 3.00	11.25	*	柱礎、榿木

Tab. 66 弥生時代獨立柱建物地名表(4)

			S8011	1×1 2.84×2.62	7.44	*	柱礎、礎木	
			S8012	2×2 8.20×4.00	32.80	*	柱礎、礎木、礎木	
			S8013	1×1 2.30×1.94	4.46	*	柱礎、礎木、礎木	
			S8014	1×1 2.68×2.69	8.21	*	柱礎、礎木	
			S8015	2×2 4.40×3.04	13.38	*	柱礎、礎木、礎木	
			S8016	2×2 4.40×3.45	14.96	*	柱礎、礎木、礎木	
			S8017	2×2 5.15×3.20	16.78	*	柱礎、礎木、礎木	
			S8018	1×1 3.10×2.40	7.44	*	柱礎	
			S8019	1×1 3.30×2.80	9.24	*	柱礎	
28	尾崎土倉遺跡 (舊・V区)	佐賀県神埼郡神埼町	—	—	—	—	弥生後期	—
29	比田西分貝塚	佐賀県神埼郡千代田町	S8001	2×1 4.00×3.00	12.00	弥生中期中葉		27
30	黒井遺跡	佐賀県神埼郡千代田町	S8102	2×1 3.50×1.75	6.13	弥生中期中葉		28
31	立野遺跡	佐賀県佐賀市久保原町	S8003	1×1 3.06×2.25	6.89	弥生中期		29
			S8004	1×1 2.87×2.89	11.18	*	倉庫、隔持柱	
			S8005	1×1 2.75×2.50	6.88	*	倉庫、隔持柱	
			S8006	2×2 4.00×3.36	13.44	*	倉庫、隔持柱	
			S8008	1×1 4.20×3.00	12.60	*		
32	村屋水遺跡	佐賀県佐賀市久保原町	S8005	5×5 6.45×5.55	35.80	弥生後期	柱礎、礎木、遺構付柱下	30
			S8007	2×2 3.70×3.05	11.29	*	柱礎、礎木	
			S8070	2×1 4.06×3.16	12.83	*	礎木	
			S8071	2×1 4.48×2.82	12.63	*	柱礎、礎木	
			S8072	2×1 3.28×2.35	7.71	*	柱礎、礎木	
			S8073	1×1 3.60×3.22	11.55	*	柱礎	
			S8035	1×1 3.30×2.70	8.91	*	柱礎	
			S8039	1×1 3.40×2.60	6.80	*	柱礎、礎板	
33	惣堀遺跡	佐賀県大和町	S8040	2×2 3.80×3.00	11.40	弥生後期後半		31
			S8050	2×2 8.25×3.20	27.23	*	礎柱	
			S8051	2×2 6.25×3.30	20.63	*	礎柱	
			S8052	1×1 2.45×2.25	5.76	*		
			S8053	1×1 2.75×1.55	4.26	*		
			S8054	2×2 2.92×2.50	9.88	*		
			S8055	1×1 2.60×1.70	4.42	*		
			S8056	2×2 3.50×2.95	11.51	*		
			S8059	1.15×1.35 —×2.5	—	—	遺構不明?	
			S8075	2×1 4.25×2.55	10.84	弥生後期後半		
			S8076	1.15×1.15以上 4.90×4.10	20.1	遺構不明?		
			S8077	2×1 4.40×2.95	12.98	*		
			S8078	1×1 2.70×2.05	5.54	*		
			S8087	1×1 2.65×1.80	3.99	弥生前期後半		
34	嶋崎西分貝遺跡	佐賀県小城郡三日月町	S8005	2×1 4.40×2.80	12.32	弥生後期		32, 33
35	十年遺跡群	佐賀県小城郡三日月町	—	1.15以上×1.15以上 3.10×4.30	21.42	弥生中葉		34, 35
36	半田川遺跡	佐賀県多久市南多久町	1号	2×2 4.74×3.04	30.49	弥生中期中葉		36
			2号	2×1 4.50×2.36	10.62	*		
			3号	2×1 6.11×1.80	11.00	*	敷石	
			4号	2×1 8.99×2.92	31.71	*		
			5号	3×4 7.60×3.51	43.21	*		
37	浜崎家遺跡	佐賀県杵築郡白石町	S8071	2×1 4.80×2.80	10.56	弥生後期	37 弥生式倉庫、柱礎、礎木	
			S8003	1×1 3.60×3.00	10.80	*	柱礎、礎木、 礎物礎板、埋木付柱下	
38	茂手遺跡	佐賀県杵築町	S8701	2×1 4.70×3.70	17.39	弥生後期	38, 39 礎木	
			S8703	2×1以上 4.80×—	—	*	礎木	

Tab. 67 弥生時代獨立柱建物地名表 (5)

			SB1205	1 × 1 2.50 × 2.0	5.00	*	柱脚
30	小野塚遺跡	佐賀県武雄市横町(1区)	SB105	1 × 1 3.40 × 3.30	11.52	*	39.40 礎木、柱脚跡
			SB106	1 × 1 2.60 × 3.00	9.00	*	礎木
			SB107	1 × 1 2.40 × 2.49	5.75	*	礎木
			SB108	1 × 1 2.20 × 2.00	4.43	*	礎木
		佐賀県筑前国藤井(2区)	SB113	1 × 1 3.30 × 2.90	9.28	*	礎木
40	みやこ遺跡	佐賀県武雄市横町(1区)	SB1109	1 × 1 3.60 × 2.50	7.20	弥生	43 礎木
			SB1115	1 × 1 2.40 × 2.40	6.76	*	
			SB1119	2.40 × 2.60	6.76	*	柱脚、礎木
41	茶臼遺跡	佐賀県唐津市荒浜	—	—	—	弥生前期	41
42	高道八反瀬遺跡	佐賀県唐津市赤浜	—	—	—	弥生前期	41
43	高見谷遺跡	佐賀県唐津市荒浜	—	—	—	弥生一古墳	42 柱石六付柱
44	久里天龍遺跡	佐賀県唐津市久里	1号	3 × 1 2.50 × 2.70	22.90	弥生前期	43
			2号	2.40 × 2.30	7.48	*	
45	藤中野遺跡	佐賀県唐津市藤中野	1号	1 × 1 2.60 × 2.00	7.20	弥生前期	44
			2号	1 × 1 2.80 × 2.20	10.12	*	
46	一箇田遺跡	大分県中津市上原	—	—	—	弥生前期	—
47	小迫辻原遺跡	大分県日田市浅原	—	—	—	弥生後葉	45.46.47.48
48	安岡寺遺跡	大分県国東郡国東町	—	—	—	弥生後葉	49.50
49	高西遺跡	大分県大野郡中農村	—	1 × 1 1 × 1	—	弥生後葉	51 礎木
			—	—	—	*	礎木
50	藤原尾遺跡	大分県大野郡中農村	—	1 × 1 —	—	弥生後葉	52 礎木
51	陣崎遺跡	大分県大野郡三農町	—	1 × 1 —	—	弥生後葉	53 礎木
52	日高遺跡	大分県大野郡野中町	—	1 × 1 —	—	弥生後葉	54 礎木
			—	—	—	*	礎木
53	津吉遺跡	長崎県平戸市津吉町	—	2.51 × 2.1	—	弥生前期	55
54	香神貝塚	長崎県南松浦郡桂井町	—	—	—	弥生前期	56
55	白井川遺跡	長崎県佐賀市藤本園町	—	—	—	弥生後葉	57.58
56	神田遺跡	長崎県大村市藤野中津庄	—	—	—	弥生前期	59
57	富の原遺跡	長崎県大村市富の原	—	—	—	弥生中期	60.61.62.63 54.65.66
58	重留遺跡	福岡県北九州市 小倉南区重留	1号	2 × 1 2.80 × 2.30	20.13	弥生中期	67 高足土庫
59	辻田遺跡	福岡県北九州市 八幡西区島津止	T-1	2 × 1 2.24 × 2.84	11.79	弥生中期	68 高足土庫
			T-2	2 × 1 2.80 × 2.80	16.34	*	
			T-3	4 × 1 6.00 × 3.00	35.10	*	
			T-4	2 × 1 2.10 × 2.10	4.41	*	
			T-5	2 × 1 2.00 × 2.50	12.50	*	柱脚跡
			T-6	1 × 1 2.40 × 2.40	5.76	*	
			T-7	1 × 1 1.90 × 1.90	3.64	*	
			T-8	1 × 1 2.50 × 2.30	4.84	*	
			T-9	1 × 1 2.40 × 2.49	5.76	*	
			T-10	1 × 1 2.60 × 2.30	4.30	*	
			T-11	2 × 1 2.60 × 2.30	10.20	*	礎木高足土庫、柱脚跡
			T-12	3 × 1 3.80 × 2.00	7.60	*	
			T-13	2 × 1 3.00 × 2.00	7.20	*	柱脚跡
			T-14	2 × 1 3.80 × 2.30	8.74	*	柱脚跡
			T-15	1 × 1 4.45 × 3.77	12.35	*	
			T-16	2 × 1 7.30 × 2.40	16.72	*	
			T-17	3 × 1 3.80 × 2.70	34.66	*	
			T-18	1 × 1 2.10 × 2.30	5.04	*	
60	宇賀遺跡	福岡県北九州市 小倉南区宇賀	T-1	2 × 1 3.10 × 2.30	16.32	弥生中期	69 高足土庫

Tab.68 甌生時代獨立柱遺物地名表(6)

			T-2	2 × 1 5.30 × 2.20	12.10	*	高床會塚
			T-3	3 × 3 6.90 × 4.95	25.76	*	3間×花4 × 3
61	上浦水邊跡V區	福岡縣北九州市 小倉南区池代	1号	2 × 1 5.20 × 3.40	17.68		弥生終末 → 柱礎跡
			2号	2 × 1 3.40 × 3.60	9.36	*	柱礎跡
62	新邊跡第二地点	福岡縣北九州市 八幡西区馬場山	跡2号	2 × 1 3.40 × 2.10	7.14		弥生中期後半 71
63	馬場山遺跡 (B地点)	福岡縣北九州市 八幡西区馬場山	-	2 × 1 4.80 × 3.72	17.86		弥生中期前半 高床會塚、柱礎跡
64	比田遺跡	福岡縣北九州市 八幡西区馬場山	跡2号	2 × 1 4.40 × 2.81	11.04		弥生中期 → 柱礎
			跡3号	2 × 1 5.90 × 3.60	12.74		高床會塚、柱礎跡
			跡4号	2 × 1 3.90 × 2.50	9.75		高床會塚
			跡6号	2 × 1 4.00 × 2.90	13.34		高床會塚
65	上郷力遺跡	福岡縣北九州市 小倉南区堀力	跡5地点 T-1	2 × 1 3.48 × 2.28	7.90		弥生前期後半 73, 74, 75, 76, 77
			跡13地点 T-2	2 × 1 3.05 × 2.42	7.41		弥生後期 高床跡
			跡14地点 T-1	2 × 1 4.62 × 2.54	11.73		弥生前期後半
			T-2	2 × 1 4.05 × 1.88	7.63	*	
			T-3	3 × 2 3.92 × 2.04	11.92	*	
			T-4	2 × 1 5.48 × 3.02	19.57	*	
			T-5	3 × 2 4.02 × 3.34	13.43	*	
66	吉富遺跡	福岡縣久留米市合川町	-	1 × 1 -	-		弥生終末 78, 81, 83, 85, 86 高床式會塚
67	大和遺跡	福岡縣久留米市合川町	-	-	-		弥生後期 85
68	御成遺跡	福岡縣久留米市合川町	-	-	-		弥生後期 79, 80, 82
69	青山遺跡	福岡縣久留米市合川町	-	-	-		弥生後期 93 高床式會塚
70	朝倉遺跡	福岡縣久留米市御所町	-	-	-		弥生終末 82, 83, 84, 85
71	東藤原寺遺跡	福岡縣久留米市東藤原町	-	-	-		弥生前期後半 87, 88, 89
72	塚津遺跡	福岡縣久留米市安武町	SB1	2 × 1 4.30 × 3.15	13.35		弥生中期 → 柱礎
			SB5 (南)	2 × 1 4.30 × 3.65	15.70	*	柱礎跡
			SB5 (内)	2 × 1 4.28 × 3.72	15.85	*	柱礎跡
			SB6	1 × 1 -	-	*	柱礎跡
			SB7	1 × 1 -	-	*	柱礎跡
			SB8	2 × 1 5.14 × 3.58	18.30	*	柱礎跡
			SB9	1 × 1 2.92 × 2.80	8.18	*	柱礎跡
			SB11	1 × 1 3.40 × 2.48	7.50	*	柱礎跡
			SB12	1 × 1 2.70 × -	-	*	柱礎跡
			SB14	1 × 1 3.94 × 2.72	7.97	*	柱礎跡
			SB15	1 × 1 3.78 × 2.30	8.32	*	柱礎跡
			SB16	1 × 1 2.30 × 2.30	5.29	*	柱礎跡
			SB18	1 × 1 2.96 × 2.06	5.98	*	柱礎跡
			SB20	2 × 1 4.80 × 2.78	11.83	*	柱礎跡
			SB25	1 × 1 3.64 × 2.12	11.36	*	柱礎跡
			SB26	1 × 1 3.28 × -	-	*	
			SB31	2 × 1 4.47 × 3.52	22.84	*	柱礎跡
			SB32	1 × 1 2.92 × 2.6	7.72	*	柱礎跡
			SB35	1 × 1 3.54 × 3.48	12.32	*	柱礎跡
			SB37	1 × 1 3.37 × 3.15	10.62	*	柱礎跡
			SB39	1 × 1 3.20 × 2.90	9.54	*	柱礎跡
			SB41	2 × 1 5.10 × 4.00	20.40	*	柱礎跡
			SB53	1 × 1 3.35 × -	-	*	柱礎跡
			SB54	1 × 1 3.33 × 2.97	9.80	*	柱礎跡
			SB55	1 × 1 3.22 × 3.20	10.30	*	
			SB56	1 × 1 3.28 × -	-	*	柱礎跡
			SB57	1 × 1 3.08 × -	-	*	柱礎跡

Tab. 69 弥生時代獨立柱建物地名表 (7)

				SB56	1 × 1 2.05 × 2.05	8.85	*	住居跡
				SB59	1 × 1 2.90 × 2.92	11.39	*	住居跡
73	女 部 遺 跡	福岡県久留米市安武町	-	-	-	-	弥生中期中葉 ・ 弥生中葉	90
74	安武二反新遺跡	福岡県久留米市安武町	-	-	-	-	弥生後期	92.93
75	押 方 遺 跡	福岡県久留米市安武町	-	-	-	-	弥生後期	92.93
76	津 藏 遺 跡	福岡県久留米市大津寺町	-	-	-	-	弥生後期	94
77	竹 点 遺 跡	福岡県行橋市竹点・矢留	A 中地区 柱穴群	- × - 5.50 × 4.00 - × -	22.00	弥生前期末 ・ 弥生前期	-	95
				A B 地区柱穴群	5.80 × 3.50	20.30	*	-
78	道 敷 遺 跡	福岡県朝倉郡筑前町	-	-	-	-	弥生中期後半	-
79	北山遺跡 一第 9・10 次-	福岡県福岡市博多区北原	SB01	1 × 1 2.40 × 2.10	30.54	弥生前期 弥生前期	-	住居跡
			SB02	2 以上 × 1 以上 2.43 × 1.80	4.32以上	-	-	-
			SB03	1 以上 × 1 2.00 × 2.20	9.60以上	*	-	-
			SB04	2 × 1 5.10 × 4.30	21.93	*	-	-
			SB05	2 × 1 4.80 × 3.60	17.30	*	-	-
			SB06	4 × 2 6.00 × 4.20	16.20	*	-	-
			SB07	2 × 1 2.90 × 3.30	12.90	*	-	礎石
			SB08	2 × 1 5.10 × 3.30	16.80	*	-	-
			SB09	2 × 1 4.80 × 3.80	18.24	*	-	-
			SB10	1 以上 × 1 2.10 × 2.10	6.51以上	*	-	-
			SB11	3 × 1 4.80 × 4.00	19.20	*	-	-
			SB12	2 × 1 6.30 × 3.00	25.50	*	-	-
			SB13	1 × 1 3.18 × 2.00	9.00	*	-	-
			SB14	1 × 1 2.20 × 2.60	7.92	*	-	-
			SB15	1 以上 × 1 3.00 × 4.80	14.40以上	-	-	-
			SB16	2 × 1 以上 6.80 × -	9.60以上	-	-	-
			SB17	2 以上 × 1 以上	6.80以上	-	-	-
			SB18	3 × - 6.30 × -	7.00以上	-	-	-
			SB19	1 × 1 2.43 × 2.40	5.90	-	-	-
			SB20	1 × 1 3.6 × 3.00	10.80	-	-	-
			SB21	1 × 1 3.00 × 2.40	11.75以上	-	-	-
			SB22	1 以上 × 1 - × 2.20	7.10以上	-	-	-
			33号	2 × 1 4.10 × 3.50	14.35	弥生前期後半	-	礎石
			29号	2 × 1 3.43 × 3.40	11.56	弥生中期 六 遺 跡 群	-	礎石、住居跡
			SB04	2 以上 × 1 2.40 × 2.50	13.30	弥生前期末	-	礎
			SB07	2 以上 × 1 5.30 × 2.70	14.31	弥生中期 一 遺 跡 土	-	-
			SB20	2 × 1 6.30 × 2.00	22.60	弥生中期 行 跡 遺 跡	3 第 2・1 層 2 層 3 層 4 層	-
			SB21	2 × 1 5.80 × 3.20	18.56	*	-	柱痕跡
			SB22	2 × 1 4.90 × 2.80	13.72	*	-	柱痕跡
			SB23	2 × 1 4.80 × 3.00	14.40	*	-	柱痕跡
			SB25	2 × 1 7.05 × 2.65	18.68	*	-	柱痕跡
			SB07	2 × 1 6.80 × 2.20	35.36	弥生中期 中 遺 跡 群	-	98
			SB08	2 × 1 5.20 × 2.50	18.20	弥生中期 中 遺 跡 群	-	-
			SB09	3 × 1 8.00 × 3.20	41.60	弥生前期後半	-	礎石
			SB10	3 × 1 7.50 × 2.20	24.68	弥生前期後半 中 遺 跡 群	-	礎石
				3 × 1 6.50 × 2.90	37.05	弥生前期後半	-	-
			1号	8 × 5 14.10 × 8.74	123.23	弥生中期末 ・ 弥生中葉	-	103 柱痕跡
			2号	2 × 1 7.40 × 4.06	30.86	*	-	柱痕跡
			SB 0 2	3 × 4 12.00 × 0.80	115.20	弥生中期後半	-	101
			11号	2 × 1 5.50 × 2.50	13.75	弥生前期後半 ・ 弥生前期	-	102 礎石
			12号	2 × 1 9.00 × 1.80	9.00	*	-	倉庫

Tab.70 弥生時代掘立柱建物地名表(8)

			13号	2 x 1 5.00 x 2.30	11.50	*	倉庫
			14号	2 x 1 3.00 x 2.50	7.50	*	倉庫
			15号	2 x 1 4.30 x 2.50	11.75	*	倉庫
			16号	2 x 1 5.00 x 2.50	12.50	*	倉庫
			17号	2 x 1 8.00 x 2.50	20.00	*	倉庫
			18号	4 x 1 11.00 x 1.80	19.80	*	倉庫
			19号	4 x 1 15.50 x 1.80	18.90	*	倉庫
			20号	4 x 2 8.00 x 1.50	36.00	*	母屋
			21号	4 x 2 10.50 x 1.50	52.50	*	母屋
			22号	4 x 2 9.00 x 1.50	49.50	*	母屋
83	新河邊跡 —第2次—	福岡県福岡市博多区行下	SB87	8 x 5 13.50 x 7.30	98.55	弥生中期末	103 柱倉跡
			SB100	2 x 1 7.70 x 3.00	23.10	*	
	新河邊跡 —第3次—		SB03	4 x 1 9.70 x 5.82	54.13	弥生中期末	104
84	家茂遺跡 —第4次—	福岡県福岡市博多区空里内	SB060	3 x 2 9.10 x 7.10	64.81	弥生中期中 —弥生中期末—	105 柱倉跡、礎石
	家茂遺跡 —第5次—		SB255	6 x 4 12.30 x 6.40	105.78	弥生前期	102 柱倉
85	家茂遺跡	福岡県福岡市博多区行下	—	—	—	弥生中期中 —中期末—	106 柱倉跡(1—2—)
86	関原小和遺跡 掘立柱	福岡県筑紫郡行	—	2 x 1 4.30 x 1.30	33.29	弥生中期	—
87	平塚川原遺跡	福岡県筑紫郡	201号	3 x 2 8.30 x 6.30	57.27	弥生前期終末	108 柱倉? 礎石(掘立柱? 掘立柱?)
88	渡辺水田遺跡	福岡県春日市春日の岡町	1号	2 x 1 3.84 x 2.04	11.60	弥生中期中 —中期終末—	107 礎石
			2号	3.85 x 2.30	9.09	*	柱礎、礎石、柱礎跡
			3号	1 x 1 3.71 x 2.48	9.13	*	柱礎、礎石、柱礎跡
			4号	1 x 1 2.80 x 1.82	5.10	*	柱礎、礎石、柱礎跡
			5号	2 x 1 3.54 x 1.24	7.93	*	礎石、柱礎跡
			6号	2 x 1 3.65 x 2.32	11.42	*	
			7号	1 x 1 3.23 x 2.49	8.69	*	礎石、柱礎跡
			8号	2 x 1 4.19 x 2.48	10.39	*	礎石
			9号	2 x 1 4.15 x 2.48	10.32	*	礎石、柱礎跡
			10号	1 x 1 3.60 x 2.65	9.78	*	礎石、礎石
			11号	1 x 1 3.66 x 1.14	11.49	*	礎石、礎石、柱礎跡
			12号	2 x 1 3.50 x 2.02	10.57	*	礎石、礎石、柱礎跡
			13号	1 x 1 2.95 x 2.30	6.67	*	礎石
			14号	1 x 1 3.42 x 2.01	4.96	*	礎石、礎石
			15号	2 x 1 5.14 x 2.72	19.12	*	礎石
89	渡辺水田遺跡	福岡県春日市春日	1号	2 x 1 3.75 x 2.12	17.94	弥生中期中 —中期終末—	108 柱倉跡
			2号	2 x 1 4.89 x 2.99	14.62	*	柱倉跡
			3号A	2 x 1 5.21 x 2.87	16.30	*	
			3号B	2 x 1 3.57 x 2.77	15.43	*	礎石、柱倉跡
			4号	2 x 1 4.62 x 2.56	10.37	*	柱倉跡
			5号	2 x 1 4.84 x 2.18	15.25	*	礎石
			6号	2 x 1 3.79 x 2.54	9.63	*	柱倉跡
			7号	1 x 1 2.69 x 2.61	6.79	*	
			8号	2 x 1 4.29 x 2.32	9.95	*	柱倉跡
			9号	2 x 1 4.98 x 2.24	16.14	*	柱倉跡
			10号	2 x 1 2.95 x 1.98	5.84	*	柱倉跡
			11号	1 x 1 3.12 x 2.81	8.77	*	柱倉跡
			12号	2 x 1 3.99 x 2.91	14.11	*	
			13号	2 x 1 4.20 x 3.36	19.78	*	
			14号	2 x 1 3.73 x 2.84	10.39	*	礎石、柱倉跡
			15号	2 x 1 4.92 x 3.16	11.12	*	
			16号	2 x 1 4.12 x 2.35	13.97	*	

Tab. 71 弥生時代獨立柱建物地名表 (9)

			17号	1.5 × 1 4.27 × 2.78	11.87	*	
			18号	2 × 1 4.12 × 2.55	10.51	*	
			19号	2 × 1 4.45 × 3.31	15.39	*	
			20号	1 × 1 2.58 × 2.33	8.15	*	柱痕跡
90	駿河道跡	福岡縣中津市	—	—	—	—	弥生後期 109
91	一ノ口道跡	福岡縣小郡市三沢	1号	1 × 1 4.87 × 4.12	19.78	*	弥生前期 110
			2号	1 × 1 2.84 × 2.76	7.72	*	
			3号	2 × 1 4.87 × 3.80	25.84	*	
			4号	1 × 1 2.40 × 2.38	5.47	*	
92	北谷堀門遺跡	福岡縣小郡市三沢	1号	4 × 3 5.20 × 4.00	20.80	*	弥生前期 111
93	田村遺跡	高知縣高岡市田村	L o c. 16 SB 1	4 × 3 7.84 × 3.88	29.64	*	弥生前期 112, 113
			L o c. 16 SB 2	4 × 3 7.42 × 3.82	29.09	*	
			L o c. 16 SB 3	5 × 3 7.94 × 4.2	34.20	*	
			L o c. 17 SB 1	3 × 1 5.33 × 1.60	8.52	*	弥生式倉庫、住家跡
			L o c. 17 SB 2	3 × 1 5.00 × 1.60	8.96	*	弥生式倉庫、住家跡
			L o c. 17 SB 3	4 × 3 8.80 × 4.40	37.84	*	弥生前期 弥生式倉庫、住家跡
			L o c. 25 SD 1	5 × 3 7.76 × 4.36	32.48	*	弥生前期 柱痕跡
			—	1 × 1 3.62 × 3.62	4.77	*	
94	下分遺跡	高知縣香美郡野我美町	SB 1	3 × 1 5.10 × 2.80	14.28	*	弥生前期 114
			SB 2	3 × 1 3.50 × 1.80	6.48	*	
			SB 3	2 × 1 3.40 × 1.49	5.61	*	
95	深沼遺跡	高知縣香美郡野我美町	—	—	—	—	弥生前期 115
96	大神ノ台遺跡	愛媛縣松山市江津	—	—	—	—	弥生中期 116
97	文芸遺跡	愛媛縣松山市文芸町	—	—	—	—	弥生前期 117, 119, 120
			第2次調査区	—	—	—	121
98	文芸遺跡	愛媛縣松山市文芸町	—	—	—	—	弥生前期 117, 118
			第2次調査区	—	—	—	
99	平土山遺跡	愛媛縣内子市飯岡	SB31	1 × 1 —	—	—	弥生後期 未発表
			SB32	1 × 1 —	—	—	
			SB33	1 × 1 —	—	—	
100	勝野市谷遺跡	香川県大正郡定楽町	SB9901	3 × 1 4.87 × 3.00	13.50	*	弥生前期 122
101	加藤遺跡	香川県高松市川津町	—	3 × 1 2.20 × 2.60	19.04	*	弥生後期 123
102	久米遺跡	香川県高松市 新出町、東山崎町	第1号	2 × 1 4.40 × 3.70	20.00	*	弥生前期 124
			第2号	2 × 1 —	16.28	*	跡石 (同第1号)
			第3号	3 × 1 —	—	—	
103	上大神遺跡	香川県高松市 天神町、三基町	SB01	2 × 1 —	—	—	弥生後期 125
			SB02	3 × 1 —	—	—	
			SB03	—	—	—	
			SB04	2 × 1 —	—	—	
			SB07	2 × 1 —	—	—	
			SB11	2 × 1 —	—	—	
			SB12	2 × 1 —	—	—	
			SB15	2 × 1 —	—	—	
			SB16	3 × 1 —	—	—	
104	中山田遺跡	香川県高松市池田町	SB9906	— 2.50 × 2.85	— 7.15	—	弥生前期 —
105	川津一ノ又遺跡	香川県高松市川津町	SB165	2 × 1 5.50 × 3.20	29.80	*	弥生後期 126
106	新宮日代遺跡	香川県丸亀市新宮町	SB02	3 × 1 4.40 × 4.00	19.30	*	弥生後期 127
107	美ノ塚遺跡	香川県高松市 古原町、神野町	SB0501	3 × 1 5.80 × 3.85	16.24	*	弥生後期 128
			SB0503	2 × 1 4.70 × 3.84	11.00	*	
			SB0504	2 × 1 6.80 × 3.25	16.68	*	
			SB9901	4 × 1 4.60 × 3.34	22.31	*	
			SB9902	4 × 1 8.34 × 3.85	33.41	*	

Tab. 72 弥生時代掘立柱建物地名表 (10)

			SBS5003	2 × 1 4.40 × 2.82	12.41	*	
			SBS5004	2 × 1 5.40 × 2.80	15.68	*	
			SBS5005	2 × 1 3.60 × 2.84	10.22	*	
			SBS5006	2 × 1 6.20 × 2.60	21.08	*	
			SBS5007	2 × 1 6.02 × 2.70	22.27	*	
			SBS50.5	1 × 1 2.70 × 2.68	6.70	*	
108	水 井 遺 跡	香川縣香川郡香川町 香川町・中村町	SB001	3 × 1 6.34 × 2.24	15.55	弥生前期?	125.128
			SB002	2 × 1 2.14 × 2.40	7.54	*	
			SB003	1 × 1 2.74 × 1.88	5.15	*	
109	新 島 出 山 遺 跡	香川縣三倉郡乾野町	高松倉庫跡	2.50 × 2.50	6.25	弥生後期	130.117, 132 高松式倉庫?
			高松倉庫跡	1 × 1 2.90 × 2.80	6.25	*	高松式倉庫?
110	延 命 遺 跡	香川縣三倉郡倉中町	SB09	3.85 × 2.52	13.55	弥生後期以前	133
			SB10	2 × 1 4.07 × 2.52	14.33	*	
111	一 の 谷 遺 跡	香川縣高松市本町	第21号	2 × 1 3.44 × 2.30	11.35	弥生後期	134
112	山 岡 遺 跡	香川縣三倉郡大野町	-	1 × 1 5.00 × 2.00	15.00	弥生後期	-
113	高 谷 川 郡 廣 瀬 遺 跡	徳島縣板野郡板野町	S A 101 (I次)	3 × 1 5.82 × 2.81	11.12	弥生後期中頃	135, 136, 137 138
			S A 102 (II次)	3 × 1 3.25 × 2.1	18.66	*	
			S A 103 (III・IV次)	4 × 2 8.94 × 4.28	25.70	弥生後期	
			S A 104 (V次)	3 × 1 4.90 × -	-	*	
			S A 401 (IV次)	3 × 1 4.70 × 2.30	16.45	弥生後期中頃	高松式倉庫
			S A 201 (V次)	3 × 1 4.70 × 2.40	15.98	*	
114	北 原 遺 跡	徳島縣板野郡土成町	地区1号	1 × 1 4.00 × 2.20	12.80	弥生後期初期	139
115	大 橋 遺 跡	徳島縣三好郡三好町	-	-	-	-	140-141
116	西 長 輪 遺 跡	徳島縣阿波郡阿波町	SB01	4 × 1 12.10 × 6.50	66.55	弥生中・期 弥生末・期 高松式	142 高松式・弥生末 高松式
			SB02	4 × 2 8.40 × 2.80	33.54	*	
			SB03	3 × 1 6.20 × 2.00	18.40	*	高松式
			SB04	2 × 1 4.00 × 2.80	11.20	*	
			SB05	3 × 1 6.60 × 3.10	20.46	*	高松式倉庫?
			SB06	3 × 1 6.70 × 3.40	22.78	*	高松式倉庫?
			SB07	3 × 1 5.70 × 3.80	21.66	*	高松式倉庫?
117	塩 田 遺 跡	山口縣熊毛郡熊毛町	1号 (旧)	1 × 1 5.50 × 2.22	7.33	弥生後期	143 柱礎跡
			1号 (新)	1 × 1 3.70 × 1.60	9.62	*	
			2号	3.60 × 2.18	7.78	*	柱礎跡
			3号	3 × 1 2.40 × 2.52	9.93	*	
			4号	3 × 2 4.06 × 2.72	11.04	*	
			5号	1 × 1 2.52 × 2.28	6.90	*	
			6号	1 × 1 3.12 × 2.08	6.49	*	
			7号	2 × 1 3.76 × 2.80	10.53	*	
			8号	2 × 1 3.94 × 2.56	10.09	*	
			9号	1 × 1 2.73 × 1.90	4.09	*	
			10号	2 × 1 3.70 × 3.86	13.32	*	
			11号	1 × 1 3.06 × 1.96	6.00	*	
			12号	1 × 1 2.68 × 1.72	4.61	*	
			13号	1 × 1 2.32 × 2.00	7.50	*	
			14号	2 × 1 4.60 × 3.08	14.17	*	柱礎跡
			15号	1 × 1 2.96 × 2.28	6.75	*	柱礎跡
			16号	1 × 1 2.60 × 1.75	4.55	*	
			17号	2 × 1 3.20 × 2.30	7.36	*	
			18号	1 × 1 2.20 × 1.82	4.19	*	
			19号	2 × 1 4.10 × 3.20	13.12	*	

Tab. 73 弥生時代据立柱建物地名表 (11)

			20号	2 × 1 3.52 × 2.72	9.57	*	
			21号	2 × 1 3.18 × 2.70	8.59	*	
			22号	2 × 1 2.58 × 1.90	5.06	*	
			23号	2 × 1 2.29 × 1.90	6.23	*	柱礎跡
118	天王遺跡	山口縣熊毛郡阿武町	1号	2 × 1 4.60 × 3.80	17.46	弥生後期	141
			2号	1 × 1 2.50 × 2.30	5.75	*	
			3号	2 × 1 4.10 × 2.99	11.89	*	
119	岩波遺跡	山口縣阿武郡阿武町	SR12	2 × 1 3.90 × 3.00	11.70	弥生後期	145
			SR13	2 × 1 2.50 × 2.00	5.00	*	
			SR14	1 × 1 2.60 × 2.00	5.20	*	
120	御原本郷内池遺跡 (埋没地区)	山口県下関市御原本郷	SB 4	1 × 1 3.63 × 2.69	9.88	弥生前期	146
			SB 5	1 × 1 3.20 × 2.00	6.50	*	
121	石鏡遺跡通称 C地点	広島県福山市筑紫町	—	—	—	弥生後期	147, 148
122	曹ヶ神遺跡	広島県福山市筑紫町	SB54 遺物1	1 × 1 3.10 × —	—	弥生中期	149
			SB54 遺物2	2 × 1 4.55 × 2.40	10.92	*	
			SB54 遺物3	1 × 1 2.70 × 2.35	6.37	*	
			SB54 遺物4	4 × 1 7.35 × 2.30	21.17	*	
127	大明池遺跡	広島県広島市安芸区北門町	—	—	—	弥生後期	150
128	下沖5号遺跡	広島県広島市 安芸区北門町西	2号	2 × 1 3.90 × 2.20	12.10	弥生後期	151
			3号	2 × 1 3.20 × 2.20	7.04	*	
			4号	1 × 1 2.70 × 2.10	4.62	*	
			5号	2 × 1 3.20 × 2.40	8.40	*	
			6号	1 × 1 2.40 × 1.90	4.52	*	
129	西川津遺跡	福岡県松江市西川津町	SR01	2 × 1 3.05 × 2.42	7.43	弥生中期 — 埋没	152
			SR02	2 × 1 3.75 × 2.68	10.00	*	柱礎、礎礎
			SR03	2 × 1 3.31 × 1.82	6.02	*	礎礎
			SR04	2 × 1 2.92 × 1.79	5.23	*	柱礎、礎礎
130	石台遺跡	福岡県松江市筑津町	—	—	—	弥生後期	153, 154
131	糸田遺跡	福岡県松江市竹矢町	SR01	2 × 1 5.50 × 2.80	8.10	弥生中期	155
			SR02	1 × 1 2.80 × 1.80	4.14	*	
132	宮内遺跡	福岡県安芸市 宮内町、松久保町	—	—	—	弥生中期	156
133	南蔵武庫田遺跡	福岡県八幡郡地島町	—	—	—	弥生後期	157
134	新市谷遺跡	岡山県阿曾郡神郷町	建物1	2 × 1 5.10 × 1.80	9.18	弥生前期?	158 柱礎跡?
			建物2	2 × 1 5.48 × —	—	*	
135	熊川遺跡	岡山県上房郡北郷町	856	4 × 1 8.53 × 1.90	16.21	弥生中期後半	159
136	上野遺跡	岡山県真庭郡久米町	—	—	—	弥生中期 大塚遺跡	160
137	笠田遺跡	岡山県久米郡久米町	建物1	5 × 1 3.90 × 2.40	23.76	弥生中期後半 大塚遺跡	161
138	落山遺跡	岡山県久米郡久米町	建物1	2 × 1 2.60 × 1.25	3.50	弥生中期後半 大塚遺跡	161
			建物2	1 × 1 3.35 × 2.25	7.51	*	
			建物3	2 × 1 4.90 × 1.90	9.31	*	
139	塚山遺跡	岡山県久米郡久米町	建物1	1 × 1 2.50 × 2.35	5.63	弥生中期後半 大塚遺跡	162
			建物2	1 × 1 3.00 × 1.80	5.40	*	
			建物3	1 × 1 3.40 × 1.68	5.71	*	
140	元柳遺跡	岡山県久米郡久米町	建物1	1 × 1 2.13 × 1.20	2.56	弥生中期後半 大塚遺跡	161
			建物2	2 × 1 4.67 × 2.80	13.08	*	
			建物3	1 × 1 2.37 × 1.87	4.81	*	
			建物4	2 × 1 3.00 × 1.90	6.00	*	
			建物5	1 × 1 2.47 × 2.40	5.93	*	
			建物6	1 × 1 3.54 × 2.30	8.14	*	
			建物7	1 × 1 3.67 × 2.43	8.92	*	

Tab. 74 弥生時代掘立柱建物地名表 (12)

			建物#				
			建物8	1 × 1	2.75	*	
			建物9	2.30 × 1.10	4.77	*	
141	京 東 遺 跡	岡山県津山市		1 × 1			弥生中期後半
142	沼 戸 遺 跡	岡山県津山市		2.77 × 2.10	4.77	*	弥生中期後半 弥生中期前半 弥生中期
143	沼 戸 遺 跡	岡山県津山市	建物1	2 × 1	12.50	*	162
				3.00 × 5.50			
			建物2	3 × 1	25.50	*	163
				2.10 × 3.60			
144	東 蔵 跡 遺 跡	岡山県津山市東蔵跡	1号	4.00 × 1.30	5.32	弥生中期	165
			2号	1 × 1	4.54	*	礎石
				2.40 × 1.80			
			3号	3.70 × 2.00	7.40	*	
				1 × 1			
145	向 林 遺 跡	岡山県津山市大森	S801	2.30 × 1.80	5.76	弥生中期	166
			S802	3 × 1 柱上			
				9.07 × -			
			S803	2 × 1 柱上			
				3.40 × -			
			S804	2 × 1 柱上			
				3 × 1 柱上			
			S805	2.50 × 1.50	6.68	*	
				2 × 1 柱上			
			S306	3.30 × -			
			S807	3 × 1 柱上			
				5.70 × -			
			S808	3 × 1 柱上			
				7.30 × -			
			S809	8 × 2	78.25	*	
				15.00 × 9.97			
146	押 入 西 遺 跡	岡山県津山市押入	建物1	1 × 1	6.46	弥生中期後半	167
				4.42 × 1.39			
			建物2	4 × 1	39.31	*	
				10.74 × 6.66			
			建物3	1 × 1	10.57	*	礎石
				3.90 × 2.77			
147	天 神 塚 遺 跡	岡山県津山市河野	建物2	2 × 1	27.47	弥生後期	168
				6.70 × 1.30			
			建物3	3 × 1	31.42	*	柱前跡
				6.60 × 2.70			
148	四 宮 田 遺 跡	岡山県津山市西宮田 (A地区)	建物址1	1 × 1	10.03	弥生中期 弥生中期	169
				4.40 × 2.28			
			建物址2	3.52 × 2.24	7.88	*	柱前跡
				1.2 × 1.02			
			建物址3	2.00 × -		*	柱前跡
				3 × 1			
			建物址1	7.62 × 2.30	15.84	*	
				1 × 1			
			建物址3	4.48 × 2.52	11.29	*	
				2 × 1			
				3.92 × 1.92			
149	一 貫 西 遺 跡	岡山県津山市金井巻貫	建物址1	3 × 2	23.84	弥生中期	170
				6.97 × 3.45			
			建物址2	4 × 1	38.45	*	
				12.00 × 3.28			
				4 × 1			
150	深 田 河 内 遺 跡	岡山県津山市金井	建物址1	6.70 × 3.10	20.77	弥生中期	171
				2 × 1			
151	小 中 遺 跡	岡山県津山市東町(4区)	N-29建物	5.50 × 3.30	13.75	弥生後期	172 柱前跡
152	野 田 遺 跡	岡山県津山市東町	B-1	4 × 1 柱上		弥生中期	173
				6.72 × -			
			B-2	2 × 1	7.20	*	
				2.60 × 2.60			
			H-3	2 × 1	9.56	*	
				4.12 × 2.32			
			D 4	4 × 2	16.38	*	
				5.90 × 2.80			
			H-5	5 × 1	18.13	*	
				6.40 × 2.88			
			B-6	4 × 1	13.06	*	
				4.88 × 2.80			
			B-7	4 × 1	22.85	*	
				6.72 × 3.40			
			H-8	4 × 1	15.38	*	
				6.20 × 2.48			
			B-9	4 柱上 × 1	15.65	*	
				8.20 × 2.92			
			B-10	2 柱上 × 1	13.92	*	
				4.52 × 3.08			
			D 11	4 柱上 × 1	15.12	*	
				5.60 × 2.70			
			B-12	3 柱上 × 1	10.40	*	
				4.00 × 2.60			
			B-13	2 × 1	14.63	*	
				5.84 × 2.30			
			B-14	5 × 1	17.99	*	
				6.88 × 2.60			
			H-15	2 × 1	11.86	*	
				5.60 × 2.28			
			D-16	4 × 1	14.08	*	
				5.50 × 2.56			
			B-17	4 × 1	17.62	*	
				6.72 × 3.08			

Tab. 75 弥生時代獨立柱建物地名表 (13)

133	廣 津 江 北 邊 跡	岡山縣倉敷市大東	H-18	3 × 1	16.65	*	174		
				4.12 × 2.72	11.60	弥生中前期			
			建物-1	3 × 1					
				4.27 × 1.85					
			建物-2	2 × 1					
				4.30 × 2.48	19.62	*			
				2 × 1					
134	大ノ島遺跡	岡山縣倉敷市久代	—	—	—	弥生中前期	175		
135	前 庭 穴 遺 跡	岡山縣岡山市津守	—	—	—	弥生中前期	176		
136	辰 邊 跡	岡山縣倉敷市味野城	—	—	—	弥生中前期	177		
137	敷 地 遺 跡	岡山縣岡山市大内田	No. 27	2 × 1	12.46		178		
				4.72 × 2.64					
				1 × 1					
				4.05 × 2.43	9.50	*			
				1 × 1					
				3.68 × 2.80	10.30	*			
				—					
				No. 143	1 × 1	11.90		*	
				4.44 × 2.08					
				2 × 1					
				No. 28	1.60 × 3.38	16.82		*	柱基礎
				No. 33	1 × 1	5.85		*	柱基礎
				No. 33	4 × 1	17.16		*	
				No. 38	3.75 × 2.30	14.21		*	柱基礎
				No. 38	2 × 1				
	3.28 × 2.40								
	1 × 1	8.06	*	柱基礎					
	No. 27	2.88 × 2.80	7.74	*	柱基礎				
		3.76 × 2.36							
	No. 61	1 × 1	7.58	*	柱基礎				
		3.16 × 2.40							
	No. 139	2 × 1	14.30	*					
		5.35 × 2.40							
		1 × 1							
138	廣 島 遺 跡	岡山縣岡山市小高町	—	—	弥生中前期	179			
139	百 間 川 野 邊 遺 跡	岡山縣岡山市翠尾島	建物-3	1 × 1	5.85	弥生後期	180		
				2.50 × 2.24					
				1 × 1					
				2.32 × 1.80	4.41	*		柱基礎	
				1 × 1					
				4.32 × 1.90	4.79	*		柱基礎	
				1 × 1					
				2.44 × 2.20	5.37	*		柱基礎	
				2 × 1					
				2.40 × 2.80	9.52	*			
				2 × 1					
				2.50 × 2.20	9.72	*			
				2 × 1					
				3.39 × 2.10	6.93	*			
				2 × 1					
4.10 × 2.30	9.43	*							
1 × 1									
3.38 × 2.54	8.13	*	柱基礎						
2 × 1									
3.93 × 2.55	13.85	*	柱基礎						
2 × 1									
3.61 × 2.56	9.32	*							
2 × 1									
4.48 × 2.38	13.02	*	柱基礎						
2 × 1									
3.64 × 2.88	10.18	*	柱基礎						
2 × 1									
4.61 × 2.36	10.95	*	弥生中期						
2 × 1									
3.60 × 2.40	8.64	*	弥生後期						
2 × 1									
4.20 × 2.30	12.90	*							
3 × 1									
2.30 × 2.50	14.05	*	弥生中期						
2 × 1									
3.20 × —									
2 × 1									
2 × 1									
3.00 × 2.49	12.00	*	柱基礎						
1 × 1									
1.90 × 1.40	2.66	*							
2 × 1									
4.40 × 2.58	11.00	*							
2 × 1									
4.20 × 2.50	10.50	*							
2 × 1									
3.30 × 2.78	12.04	*	柱基礎						
2 × 1									
4.50 × 2.10	10.29	*							
2 × 1									
4.80 × 2.20	10.56	*	柱基礎						
2 × 1									
5.10 × 2.28	11.48	*							
2 × 1									
3.45 × 2.40	10.56	*							
3 × 1									
2.65 × 2.10	15.96	*							
2 × 1									
5.00 × 2.20	11.00	*	柱基礎						
2 × 1									
3.90 × 1.80	5.22	*							
2 × 1									
4.70 × 2.30	10.81	*							

Tab. 76 弥生時代獨立柱建物地名表 (14)

			建物-16	2 × 1 8.00 × 2.30	11.50	*	
			建物-17	3 × 1 4.45 × 2.30	10.70	*	柱痕跡
			建物-18	2 × 1 2.30 × 2.10	6.90	*	
			建物-19	2 × 1 2.45 × 2.30	5.83	*	礎石
			建物-20	2 × 1 4.70 × 2.40	11.28	*	
			建物-21	2 × 1 3.20 × 2.80	9.34	*	
			建物-22	2 × 1 3.30 × 2.10	11.55	*	
			建物-23	2 × 1 2.25 × 2.1以上	10.00	*	柱痕
			建物-24	2 × 1 3.20 × 2.30	7.04	*	
			建物-25	2 × 1 2.82 × 2.25	10.39	*	柱痕跡
			建物-26	2 × 1 6.25 × 2.20	18.09	*	
			建物-27	2 × 1 4.90 × 2.50	11.25	*	
			建物-28	4 × 1 7.40 × 2.10	15.54	*	柱痕
153	新開川東田遺跡	真山真蹟山家永田	建物101	2 × 1 4.10 × 2.30	13.53	弥生中期	183
			建物103	2 × 1 5.20 × 2.60	16.72	*	柱痕跡
			建物104	2 × 1 4.00 × 2.72	10.88	*	
			建物105	2 × 1 3.22 × 2.50	8.05	*	
			建物106	2 × 1 3.58 × 2.90	10.32	*	
			建物107	2 × 1 2.88 × 2.70	7.78	*	
163	堀野遺跡	阿比孫西口古跡町	建物1 (彌生前期)	2.15 × 1.88	4.04	弥生中期	184
164	木崎山遺跡	岡山県倉敷市吉町	—	—	—	弥生中期	185
165	青木遺跡	鳥取県米子市水江	SB01	2 × 1 2.85 × 2.60	7.41	弥生後期	186
			SB02	2 × 1 2.50 × 1.80	4.50	*	
			SB03	2 × 2 9.00 × 3.00	27.00	*	
166	除日第1・6遺跡	鳥取県米子市水江 (1地区) 鳥取県米子市福田・大谷 (弥生前期) 鳥取県米子市福田・大谷 (弥生前期)	穴築SB01	2 × 2 3.31 × 2.30	10.37	弥生後期	187
			SB02	1 × 1 3.13 × 2.85	9.29	*	
167	赤松遺跡	鳥取県米子市赤松	第1号	2 × 1 4.70 × 2.85	13.40	弥生中期 弥生前期	188
168	藤原止遺跡	鳥取県西伯郡赤見町	—	—	—	弥生前期 弥生前期	189
169	貝田遺跡	鳥取県西伯郡赤木町	第38	3 × 2 3.88 × 3.28	12.07	弥生後期	礎石、柱痕跡
			第48	3 × 2 4.09 × 2.92	18.25	*	
170	林ヶ池遺跡	鳥取県西伯郡赤木町	第2	1 × 1 3.22 × 2.60	9.67	弥生後期	189
			第12	1 × 1 3.48 × 2.48	8.56	*	
171	塚田遺跡	鳥取県西伯郡大山町	SD003	4 × 2 7.05 × 2.20	23.02	弥生中期	190
172	八尾第3遺跡	鳥取県西伯郡中山町	SB01	2 × 1 4.12 × 2.80	10.71	弥生前期	191
			—	2 × 1 4.08 × 2.00	8.16	*	
173	河原ヶ池遺跡	鳥取県西伯郡赤木町	SB01	1 × 1 1.68 × 1.6	2.69	弥生後期	192
			SB02	2 × 1 3.40 × 1.68	5.71	*	
			SB03	1 × 1 1.33 × 1.43	2.13	*	
			SB04	1 × 1 1.72 × 1.12	1.93	*	
174	下山川遺跡	鳥取県日野郡瀨白町	SD01	3 × 2 7.92 × 2.82	22.51	弥生後期	193
			SB00	3 × 2 4.00 × 3.30	13.20	*	建物1:弥生式火付
175	真山真蹟遺跡	鳥取県日野郡瀨白町	SB08	4 × 2 12.20 × 4.60	61.24	弥生中期末	194
176	上中ノ原遺跡	鳥取県日野郡瀨白町	SB02	6 × 2 8.04 × 3.32	26.69	弥生後期	195
			SB03	2 × 1 5.23 × 3.08	10.39	*	下層付
177	大山遺跡	鳥取県倉吉市助	1号	2 × 1 3.72 × 2.32	8.63	弥生後期	196
			3号	3 × 1 3.45 × 2.00	6.90	*	柱痕跡
			5号	1 × 1 2.00 × 1.88	5.64	*	柱痕跡
			6号	1 × 1 2.60 × 2.00	5.20	*	
178	水原ヶ池遺跡	鳥取県西伯郡赤見町	1号	3 × 2 5.09 × 4.13	20.53	弥生中期 弥生前期	197
			2号	1 × 1 1.84 × 1.48	2.31	*	

Tab. 77 弥生時代獨立柱建物地名表 (15)

179	高橋第1・第2遺跡	鳥取県東伯耆郡白河町	3号	1×1 1.72×1.56	2.68	*	
			4号	1×1 2.29×1.72	3.78	弥生後期	190
			5号	1×1 2.52×2.34	5.64	*	
			6号	1×1 3.74×2.17	10.11	*	
			7号	1×1 3.12×3.12	9.73	*	
180	大塚遺跡	鳥取県東伯耆郡白河町	SH01	2×3 3.36×2.68	5.00	弥生後期	190
			SH02	2×3 3.00×3.29	8.21	*	池原9
			1号	1×1 3.00×3.03	9.00	弥生後期	200
181	大塚遺跡	鳥取県東伯耆郡白河町	2号	2×3 4.12×3.00	12.36	*	
			3号	1×1 2.58×2.08	5.32	*	
			4号	2×3 3.32×3.28	10.88	*	
			3号	2×3 2.94×2.08	7.99	弥生後期	201
			4号	1×1 2.22×1.76	4.08	*	
182	草木第4遺跡	鳥取県東伯耆郡大塚町	3号	2×3 2.22×1.76	7.80	*	
			4号	1×1 2.32×2.16	6.28	*	
			5号	1×1 2.70×2.32	6.28	*	
			6号	1×1 4×3	-	弥生後期以降	232
			SH01	4×3 6.30×4.36	33.73	弥生後期	203
183	久末・古部家遺跡	鳥取県鳥取市久末	SH02	4×3 5.28×4.00	21.12	*	
			SH03	2×2 4.18×2.80	10.82	弥生前期 = 岡部	204 = 岡部
184	青柳グラウンド第2遺跡	鳥取県鳥取市青柳	SH01	1×1 2.40×2.40	5.76	*	
			SH02	1×1 3.40×3.12	10.61	*	
			SH03	2×3 4.28×3.40	10.73	弥生後期	205 遺構、柱礎
			SH04	2×3 4.30×2.53	10.75	*	礎石、柱礎
			SH05	2×2 3.44×2.32	8.07	弥生後期	206
185	岡山第2遺跡	鳥取県鳥取市岡山町	SH01	2×2 3.16×2.48	7.84	*	礎石
			SH02	2×3 2.09×1.80	3.60	*	
			SH03	2×2 2.74×2.32	12.98	弥生中期 = 岡部	207 = 岡部
			SH04	1×1 2.74×2.32	6.31	弥生中期 = 岡部	208 = 岡部
186	秋良遺跡(不詳)	鳥取県鳥取市津浜	SH01	2×2 1.99×1.80	2.10	弥生後期	209 遺構、柱礎
			SH02	1×1 2.32×3.10	9.92	弥生後期	210 遺構
			SH03	1×1 3.80×3.30	12.54	*	
			SH04	1×1 3.80×3.30	12.54	*	
			SH05	1×1 3.80×3.30	12.54	*	
187	所の目遺跡	鳥取県鳥取市白河町	SH06	2×2 3.16×2.48	7.84	*	209 遺構、柱礎
			SH07	2×2 3.16×2.48	7.84	*	210 遺構
188	石岡山遺跡	和歌山県伊都郡かつらぎ町	SH01	2×2 2.74×2.32	6.31	弥生中期 = 岡部	211 = 岡部
			SH02	1×1 2.74×2.32	6.31	弥生中期 = 岡部	212 = 岡部
189	美輪遺跡	大取町美輪市街	SH01	2×2 1.99×1.80	2.10	弥生後期	213 遺構、柱礎
			SH02	1×1 2.32×3.10	9.92	弥生後期	214 遺構
190	紅葉山遺跡	大取町高野町	SH01	2×2 1.99×1.80	2.10	弥生後期	215 遺構、柱礎
			SH02	1×1 2.32×3.10	9.92	弥生後期	216 遺構
191	安清遺跡	大取町高野町八丁遺跡(23-D、H区)	SH01	1×1 3.80×3.30	12.54	*	
			SH02	1×1 3.80×3.30	12.54	*	
192	八幡遺跡	大取町守口市八雲北町	SH01	1×1 3.80×3.30	12.54	*	
			SH02	1×1 3.80×3.30	12.54	*	
193	丸尾川遺跡 一第7次	大取町東大取市池田町	建物1	1×1 3.10×2.30	7.13	弥生中期後半	217 遺構、柱礎
			建物2	1×1 2.70×2.00	5.40	*	遺構、柱礎
			建物3	1×1 3.00×2.30	6.90	*	遺構、柱礎
			建物4	1×1 3.00×1.80	5.40	*	遺構、柱礎
			建物5	1×1 3.00×1.80	5.40	*	遺構、柱礎
			建物6	1×1 1.80×2.30	4.14	*	遺構、柱礎
			建物7	2×3 2.50×2.30	5.75	*	遺構、柱礎
			建物8	2×3 2.50×2.30	5.75	*	遺構、柱礎
			建物9	2×3 2.50×2.30	5.75	*	遺構、柱礎
194	瓜中堂調査区	大取町東大取市瓜中堂	建物1	1×1 2.80×2.60	7.41	*	218 遺構、柱礎
			建物2	1×1 1.80×1.50	2.70	*	小遺構
			建物3	1×1 1.80×1.50	2.70	*	小遺構
			建物4	1×1 1.80×1.50	2.70	*	小遺構
			建物5	1×1 1.80×1.50	2.70	*	小遺構
			建物6	1×1 1.80×1.50	2.70	*	小遺構
			建物7	1×1 1.80×1.50	2.70	*	小遺構

Tab. 78 弥生時代獨立柱建物地名表 (16)

			8号	1×1 2.30×1.30	3.80	*	住居
			9号	1.12上×1.1	3.24	*	花壇、柱礎
	瓜生東門遺跡		-	1×1 3.33上×1.23	6.60	*	小塚、柱礎
	瓜生堂文化財センター	住居跡1		1×1 2.40×1.40	5.76	弥生後期	内郭住居、柱礎
		建物1		2×2 1.00上×1.30	1.92	*	柱礎、礎石
	瓜生堂市協会	J地区		-	-	弥生中期 = 16期	建物、柱礎
195	若江北遺跡	大阪府東大阪若江遺跡新発	SB101	5.00×3.80	19.00	弥生後期	大塚住居、柱礎
			SB102	3×2上1 4.40×3.50	35.20	*	住居
			SB103	2.80×3.50	12.30	*	住居
			SB104	4×2 4.00×3.50	21.00	*	住居、柱礎
			SB106	3.40×3.00	10.20	*	住居
			SB110	2×2 2.00×2.00	9.00	*	住居
			SB112	2.80×2.10	5.88	*	住居、柱礎
			SB114	3.13上×1.1	4.32	*	住居
			SB115	3.90×1.30	5.07	*	住居
			SB115	4×2 4.80×3.50	16.10	*	住居、柱礎
			SB116	3×2 4.50×3.50	15.75	*	住居
			SB117	2.80×1.80	5.04	*	住居
196	山賀遺跡	大阪府八尾市新東町	1	2.13上× 2.40× 2.13上× 1.40× 4×2 8.33上×3.40	-	弥生前期	220
			2	2.13上× 1.40× 4×2	-	*	住居
			3	8.33上×3.40	44.80	*	住居
			4	1.85上×1.25 2.13上×2 4.00×3.30	2.31 14.52	*	柱礎
			5	2.13上×2 3.60×3.20 2.70上×1.10	11.52 5.67	*	住居
			6	2.13上×2 3.60×3.20 2.70上×1.10	11.52 5.67	*	住居
			7	2.13上×2 3.00×2.80	8.40	*	住居
			8	2.13上×2 3.00×2.80	8.40	*	住居
			9	2×2 -×2 -×2	-	*	柱礎
			10	-×2 -×2	-	*	柱礎
			11	4.60× 2.13上×2 2.30×2.30 2.13上×2 4.20×3.60	- 10.34 15.2	*	柱礎
			12	2.13上×2 2.30×2.30 2.13上×2 4.20×3.60	10.34 15.2	*	柱礎
			13	2.13上×1 2.60×2.40 2.13上×1.18上 2.00×2.00	8.54 4.00	*	住居
			14	2.13上×1 2.60×2.40 2.13上×1.18上 2.00×2.00	8.54 4.00	*	住居
			15	2.13上×1 2.60×2.40 2.13上×1.18上 2.00×2.00	8.54 4.00	*	住居
			16	3.15上×2 3.00×2.40 3×2 3.30×3.60 2.13上×2 3.20×2.60 3.13上×2 3.30×3.60	7.80 8.58 7.80 8.58	*	住居等
			17	3.15上×2 3.00×2.40 3×2 3.30×3.60 2.13上×2 3.20×2.60 3.13上×2 3.30×3.60	7.80 8.58 7.80 8.58	*	住居等
			18	2.13上×2 2.30×2.30 2.13上×2 4.20×3.60	10.34 15.2	*	柱礎
			19	3.30×3.60 1×1 2.13上×1.18上 1×1 1.60×1.60 3×2 2.80×1.65	8.58 4.02 2.60 4.80	*	弥生前期 住居、柱礎 住居、柱礎 住居、柱礎
197	美濃遺跡	大阪府八尾市美濃町	SB201	1×1 2.13上×1.18上 1×1 1.60×1.60 3×2 2.80×1.65	4.02 2.60 4.80	*	弥生前期 住居、柱礎 住居、柱礎 住居、柱礎
			SB202	1×1 2.13上×1.18上 1×1 1.60×1.60 3×2 2.80×1.65	2.60 4.80	*	住居、柱礎 住居、柱礎 住居、柱礎
			SB203	1×1 2.13上×1.18上 1×1 1.60×1.60 3×2 2.80×1.65	4.80	*	住居、柱礎
			SB204	-×2 -×1.70 2×2 2.70×2.80	- 10.36	*	住居等 222 住居
198	久宝寺遺跡 南地区(その1)	大阪府八尾市南久宝寺	建物-1	2×2 2.70×2.80	10.36	弥生後期	222 住居
			建物-2	3×2 3.60×3.20	11.52	*	住居
			建物-3	2×2 2.00×2.30	5.72	*	柱礎
			建物-4 (HD)	1×1 2.60×2.30	5.72	*	住居
			建物-4 (HD)	2×2 3.70×3.35	12.40	*	住居
			建物-5	2×2 3.00×2.40	7.20	*	住居
199	亀井遺跡	大阪府八尾市亀井町(旧区)	-	2×2 4.00×3.80	15.20	弥生中期 = 16期	223
200	城山遺跡	大阪府大東市平野区美音	SB1101	2.13上×1 3.90×3.00	11.40	弥生後期新発	224 住居
			SB1102	1×1 3.80×3.15	11.97	*	住居
201	瓜生北遺跡	大阪府大東市平野区瓜生	SB01	2.13上×2.13上 2.80×2.40	13.26	弥生後期	225 弥生式住居?柱礎跡

Tab. 79 弥生時代獨立柱建物地名表 (17)

No.	地名	所在地	遺跡番号	柱間幅		弥生段階	備考
				1×1	2×2		
202	鹿島遺跡	大阪府河内郡石川町	SB005	3.20×2.20	7.50	弥生前期	250 ?の位置?
203	中野遺跡	大阪府藤井寺市石切町	SB025	3×3	9.60	弥生中期	何の遺物?
			SB026	3.60×4.20	35.12	*	
204	西ヶ池遺跡	大阪府堺市東区北町 (第4区)	—	3.00×3.20	32.16	弥生中期	228, 229
		大阪府堺市東区北町 (第2地区)	SB002	3以上×3以上	33.44	弥生中期	
		大阪府堺市東区北町 (第3地区)	SB01	2×2	19.80	弥生前期	
205	船岡山遺跡B地点	大阪府東淀川区中津本	SB01	2.40×2.20	4.16	弥生後期	250
206	工ヶ田中遺跡	兵庫県神戸市西久保町	S Yトレンチ 遺跡群	4×3	—	弥生中期	231, 232
			特設トレンチ 遺跡群	4×3	—	*	
			屋敷トレンチ 遺跡群	4以上×2	—	*	
207	玉津田中遺跡 (南大田地区)	兵庫県神戸市西区玉津町	SB01	4×2	—	弥生中期	—
208	广川高台弥生遺跡	兵庫県宝塚市广川高台	建物址	2×2	—	弥生後期	233
209	六角敷市跡	兵庫県姫路市打越	—	—	—	弥生後期	234
210	平方遺跡	兵庫県篠原郡久美子町	—	3×2	—	弥生後期	235
211	大浜内遺跡	兵庫県西脇郡大内町	—	2×2	—	弥生後期	235
212	赤中遺跡	兵庫県洲本市納	建物址 1	3×1	16.24	弥生中期	237
			建物址 2	5.90×2.90	30.23	*	
213	七日市遺跡	兵庫県赤松郡七日市町	SB001	4.20×4.40	14.40	弥生中期	238
			SB002	3×2	12.52	*	
			SB003	5.30×2.30	16.52	*	
			SN004	4×2	13.14	*	
			SB005	5.20×2.90	19.51	*	
			SB006	3×2	19.51	*	
			SB007	5.22×2.70	14.62	*	
			SB008	2以上×2	13.31	*	
			SB009	2×2	19.01	*	
				3.60×3.20	—	—	—
214	馬子・東行×砂 遺跡	兵庫県神戸市東灘区舞子区	—	—	—	弥生中期	239
215	狩口台遺跡	兵庫県神戸市東灘区狩口台	—	—	—	弥生中期	240
216	山田・中遺跡	兵庫県神戸市北区山田町	SB05	2×2	15.54	弥生後期	241 ?の遺物、柱礎
217	二井岡遺跡	奈良県生駒郡雑司町	S H-01	1×1	3.20	弥生後期	弥生中期
			S H-02	2.00×1.90	4.94	*	弥生中期
218	横吉・横遺跡 — 第2次	奈良県磯城郡田原町	SB001	3×2	—	弥生前期	242
219	柳本遺跡	奈良県天理市柳本町	建物址	4.90×—	—	弥生中期	—
220	特郎遺跡 — 第3次	奈良県橿原市ワキガミ	建物 1 (柱跡)	3×1	6.36	弥生後期	243, 244 柱礎、柱礎
			建物 2 (柱跡)	3.30×1.30	6.36	*	柱礎
221	宮岡遺跡	奈良県吉野郡吉野町	SN-001	3×2	12.04	弥生中期	245
222	奥谷西遺跡	京都府福知山市大内	—	4.30×2.90	—	弥生中期	246
223	クシケ谷遺跡	京都府福知山市吉ケケ谷	SR03	2×2	—	弥生中期	247 柱礎
224	北金屋遺跡	京都府亀岡市大井町	—	5×2	—	弥生後期	248
225	田道天神山遺跡	京都府福知山市田道町	中央柱穴群	—	—	弥生後期	249
226	谷山遺跡	京都府長岡京市元光台	SB23708	3×1	—	弥生後期	250
227	今笠・井ノ内遺跡	京都府長岡京市	SR15702	2以上×2以上	9.20	弥生中期	251, 252, 253, 254 柱礎、柱礎、柱礎
228	特足遺跡	京都府長岡京市 神足、東神足	—	—	—	弥生中期	255
229	船A遺跡	三重県鈴鹿市安部町	SB13	2×1	7.20	弥生中期	256 柱礎
230	鶴広遺跡	三重県鈴鹿市高岡町	—	4×1	—	弥生中期	257
			—	2×2	—	—	—
231	中尾山遺跡	三重県鈴鹿市野分町	—	6×1	—	—	258 柱礎
232	早山遺跡	三重県鈴鹿市 久保町・下井町	SB03	4×1	14.96	弥生中期	259, 270 柱礎、柱礎
			SB04	4×1	14.52	*	
			SB05	4.40×3.20	14.72	*	

Tab. 80 弥生時代竪立柱建物地名表 (18)

草山遺跡	位置(町)	柱間幅・下付町	SB番号	柱間幅・下付町		柱高	備考
				柱間幅	下付町		
			SB43	3 × 1		8.58	*
			SB44	3.30 × 2.60			
			SB44	3 × 1		8.68	*
			SB45	3.10 × 2.80			
			SB45	3 × 1		13.15	*
			SB50	3.30 × 2.50			
			SB50	4 × 1		14.40	*
			SB51	4.80 × 2.00			
			SB51	3 × 1		13.44	*
			SB51	3.50 × 2.90			
			SB52	4 × 1		13.94	*
			SB52	4.15 × 2.40			
			SB59	4 × 1		17.34	*
			SB59	5.10 × 2.40			
			SB60	— × 1		—	*
			SB60	— × 3.40			
			SB61	5 × 1		8.68	*
			SB61	3.10 × 2.80			
			SB62	4 × 1		19.60	*
			SB62	4.30 × 4.00			
			SB67	4 × 1		18.40	*
			SB67	4.00 × 4.00			
			SB68	3 × 1		9.12	*
			SB68	5.80 × 2.40			
			SB69	3 × 1		12.60	*
			SB69	3.60 × 3.50			
			SB70	3 × 1		10.08	*
			SB70	4.20 × 2.40			
			SB73	3 × 1		—	*
			SB73	3.70 × —			
			SB76	4 × 1		13.64	*
			SB76	4.40 × 2.10			
			SB77	4 × 1		15.89	*
			SB77	4.10 × 3.90			
			SB82	3 × 1		9.45	*
			SB82	3.50 × 3.70			
			SB85A	4 × 1		15.40	*
			SB85A	4.40 × 3.50			
			SB85B	4 × 1		13.44	*
			SB85B	4.20 × 3.20			
			SB87	3 × 1		10.85	*
			SB87	3.50 × 3.10			
			SB88	3 × 1		11.20	*
			SB88	3.50 × 3.30			
			SB90	4 × 1		10.60	*
			SB90	2.90 × 3.00			
			SB91	3 × 1		9.57	*
			SB91	3.30 × 2.90			
			SB92	3 × 1		10.88	*
			SB92	3.40 × 3.20			
			SB93	3 × 1		10.23	*
			SB93	2.90 × 3.10			
			SB97	3 × 1		11.86	*
			SB97	3.30 × 3.90			
			SB103	3 × 1		10.80	*
			SB103	3.00 × 3.00			
			SB107	3 × 1		16.80	*
			SB107	4.80 × 3.50			
			SB109	3 × 1		10.20	*
			SB109	3.00 × 3.40			
			SB110	3 × 1		7.92	*
			SB110	3.60 × 2.20			
			SB116	3 × 1		12.13	*
			SB116	4.50 × 2.70			
			SB120	4 × 1		12.24	*
			SB120	2.60 × 3.40			
			SB121	4 × 1		16.32	*
			SB121	4.50 × 3.40			
			SB125	3 × 1		10.44	*
			SB125	3.60 × 2.90			
			SB126	3 × 1		11.00	*
			SB126	4.40 × 2.90			
			SB131	4 × 1		12.00	*
			SB131	4.00 × 3.00			
			SB132	2.55 × 2.1		9.90	*
			SB132	2.30 × 2.50			
			SB133	4 × 1		16.77	*
			SB133	4.30 × 3.90			
			SB134	3 × 1		10.56	*
			SB134	3.30 × 3.20			
			SB150	4 × 1		15.18	*
			SB150	4.40 × 2.45			
			SB151	3 × 1		11.02	*
			SB151	3.80 × 2.90			
			SB187	3 × 1		10.15	*
			SB187	3.50 × 2.90			
			SB192	3 × 1		9.00	*
			SB192	3.00 × 2.50			
			SB193	3 × 1		9.72	*
			SB193	2.90 × 2.70			
			SB197	3 × 1		6.72	*
			SB197	2.80 × 2.40			
			SB172	5 × 1		10.20	*
			SB172	3.40 × 2.00			
			SB311	3 × 1		7.80	*
			SB311	1.00 × 2.60			
			SB312	2 × 1		6.86	*
			SB312	2.30 × 2.45			
			SB404	2 × 1		5.94	*
			SB404	2.70 × 2.20			

Tab. 81 弥生時代獨立柱建物地名表 (19)

	草山遺跡	三處原松原片 八重町・下村町	SB405A	2×1 2.90×1.20	9.28	*	
			SB405B	4×1 8.62×1.65	14.97	*	
			SB409	2×1 3.00×1.90	8.70	*	
			SB412	2×1 2.90×1.05	7.63	*	
			SB414A	2×1 3.60×2.85	10.26	*	
			SB414B	2×1 3.75×1.30	12.38	*	
			SB419	2×1 3.75×1.20	12.38	*	
			SB420	2×1 7.43×1.20	24.42	*	
			SB421	2×1 2.45×1.00	16.35	*	
			SB423	2×1 2.73×1.70	7.29	*	
			SB424	2×1 5.00×1.25	16.20	*	
			SB427	2×1 5.40×1.90	18.56	*	
			SB430	4×1 3.70×1.95	10.92	*	
			SB432	2×1 2.80×2.15	6.96	*	
			SB433	4×1 5.90×2.55	12.75	*	
			SB434	2×1 2.60×1.00	7.80	*	
			SB435	2×1 3.10×1.38	7.29	*	
			SB441	2×1 3.78×1.90	10.88	*	
			SB443	2×1 4.15×2.10	12.24	*	
			SB444	2×1 3.10×1.20	11.47	*	
			SB445A	2×1 4.00×1.10	14.26	*	
			SB445H	2×1 4.60×1.30	15.18	*	
			SB446	2×1 2.60×1.05	11.74	*	
			SB447A	4×1 4.50×2.20	9.80	*	
			SB447H	4×1 4.50×2.20	10.35	*	
			SB448	1×1 —×2.90	—	—	
			SB435	2×1 2.12×2.90	8.99	*	
			SB438	2×1 3.20×1.10	10.21	*	
			SB460	2×1 3.10×1.00	8.06	*	
			SB461	2×1 3.90×1.60	5.60	*	
233	上山遺跡	三處原駅前町	—	—	6.20	弥生 前期	271 起程
234	赤坂内遺跡	三處原坂倉町七蔵町	SB22	—	—	弥生後期	272
235	平口古墳群	三處原安部安達町	ビ・ト群	—	—	弥生 前期	273
236	横山遺跡	遊賀橋伊香郡新井町	—	—	—	弥生中期	274
237	磨川遺跡	遊賀橋伊香郡高月町	—	—	—	弥生後期	275
238	正口寺遺跡	遊賀橋長沢市南田所町	SB01	4×1 2.00×2.40	7.56	弥生中期 後期	—
			SB02	2×1 4.26×2.40	11.53	—	—
			SB05	4×1 8.62×2.17	7.66	—	—
239	川崎遺跡	遊賀橋長沢市山分田町	特殊遺構	—	—	弥生前期 後期	276
240	鳥塚遺跡	遊賀橋長沢市日夏町	—	—	—	弥生前期 後期	277, 278
241	宮の南遺跡	遊賀橋神尾郡能登川町	獨立柱建物 可能半柱穴	—	—	弥生中期 後期	279
242	中沢遺跡	遊賀橋神尾郡能登川町	—	—	—	弥生後期末	280 起程
243	小沢遺跡	遊賀橋神尾郡能登川町	—	—	—	弥生中期 後期	281
244	大中ノ湖南遺跡	遊賀橋長沢市安土町	—	—	—	弥生中期 後期	282
245	高木遺跡	遊賀橋長沢市横市渡小字南	ビ・ト群	—	—	弥生中期	283
246	高野(法曹堂)遺跡	遊賀橋長沢市八幡町中森町	SB2	1×1 2.70×2.20	7.29	弥生後期	284
247	野入遺跡	遊賀橋長沢市八幡町中森町	—	—	—	弥生後期	285 本居安 種持屋(古型)
			—	1×1	—	—	種持屋(同型)
248	朝上遺跡	遊賀橋長沢市藤上町	—	—	—	弥生中期	285, 286
249	出町遺跡 一層式溝渠一	遊賀橋長沢市藤上町 菅野町・出町	SB03	3×1 8.62×3.15	18.43	弥生中期 後期	287, 288, 289 起程

Tab. 82 弥生時代掘立柱建物地名表 (20)

250	南田遺跡	沼賀郡足利八幡宮土居・掘立町	—	—	—	弥生前期 池田平区	未発表
251	三明遺跡	沼賀郡足利八幡宮市蔵町	—	—	—	弥生中期	該遺跡地区は未発表 250
252	真西城遺跡	沼賀郡津生郡日野町	SB01	3×1 5.30×3.16	16.43	弥生期	291
253	西河原墓／内遺跡	沼賀郡野洲郡中庄町	—	—	—	弥生前期 池田平区	292
254	F・塚遺跡	沼賀郡野洲郡河内町	SB07	2×1 2.90×2.47	7.16	弥生前期 池田平区	293
			SB08	2.75×2.53	6.91		
			SB09	1×1 2.80×2.09	4.55		
			SB10	2×1以上	—		
			SB11	1×1 2.87×2.09	7.06		
			SB12	1×1 3.13×2.90	8.76		
255	久野遺跡	沼賀郡野洲郡河内町 (A地区)	SB-1	3×1 4.80×3.40	15.64	弥生前期 池田平区	294, 295
			SB-2	2.90×3.00	11.70	*	
			SB-3	2×1 2.50×3.10	7.75	*	
		沼賀郡野洲郡河内町 (B地区)	SB-4	2×1 4.40×2.00	15.84	*	
256	下長遺跡	沼賀郡守山古高町	—	—	—	弥生前期 池田平区	—
257	小津沢遺跡	沼賀郡守山古高町	—	—	—	弥生前期 池田平区	296
258	下之郷遺跡	沼賀郡守山古高町	ビット群	—	—	弥生前期	297, 298, 299
259	横穴遺跡	沼賀郡守山古高町	SB-1	6×2	—	弥生後期末	—
			SB-2	2×1	—	*	
			SB-3	3×1	—	*	
260	志摩中遺跡	沼賀郡津生郡中庄町	—	—	—	弥生中期後半	300
261	初登遺跡	沼賀郡津生郡中庄町 (A地区)	SB-1	2×1 4.30×2.40	10.32	弥生前期 池田平区	301
			SB-2	2×1 5.40×2.00	14.58	*	
			SB-3	2×1以上 2.59×—	—	*	
			SB-4	1×1以上 2.70×—	—	*	
			SB-5	1×1以上 2.49×—	—	*	
		沼賀郡津生郡中庄町 (B地区)	SB-6	1×1 1.80×1.00	2.88	弥生中期後半	—
			SB-7	1×1 1.20×1.00	1.44	*	
			SB-8	1×1 2.50×1.00	4.25	*	
262	下島遺跡	沼賀郡津生郡中庄町	SB-1	3×2 4.40×3.40	47.52	弥生前期後半	2007-2011年度 中野・中野・中野・中野・中野・中野
		沼賀郡津生郡中庄町 (A地区)	SB-1	2×1 4.00×2.00	11.60	弥生期	—
			SB-2	2×1 4.00×1.20	12.80	*	
263	伊勢遺跡 一期21次	沼賀郡守山古高町	SB-1	4×2 11.30×7.80	88.14	弥生後期	2007年度 中野・中野・中野・中野・中野・中野
			SB-2	3×2 3.80×2.40	9.12	*	
			SB-3	3×2 3.30×3.40	19.08	*	
	伊勢遺跡 一期24次	沼賀郡守山古高町 (C-1区)	SB-1	2×2 9.10×4.40	41.86	弥生後期	308
264	荒田中遺跡	沼賀郡津生郡中庄町	—	—	—	弥生中期	309
265	針江低遺跡	沼賀郡高島郡新庄町 (新3遺跡南)	—	—	—	弥生中期	—
		(新3遺跡南)	SB-1	3×2	—	弥生前期	—
		(新3遺跡南)	SB-2	3×2	—	*	—
266	針江東北遺跡	沼賀郡高島郡新庄町	SB-3	3×1 4.51×4.32	19.48	弥生後期	310, 311 機持柱・柱頭
267	大原巴倉跡	沼賀郡長浜町大原巴町	—	—	—	弥生中期 池田平区	312
268	真田遺跡	沼賀郡長浜町高田町	—	—	—	弥生前期 池田平区	313
269	金剛寺遺跡	沼賀郡長浜町加田町	—	—	—	弥生後期	314

参考文献

1. 安里嗣淳ほか、「伊江島ナガラ原西貝塚一緊急発掘調査報告書」、伊江村教育委員会、1979年3月
2. 岸本義彦ほか、「古巫間味貝塚一範囲確認調査報告」沖縄県教育委員会、1982年3月
3. 『一般国道220号線鹿屋バイパス建設に伴う発掘調査報告書(Ⅰ)』、鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(34)、1985年3月
4. 『一般国道220号線鹿屋バイパス建設に伴う発掘調査報告書(Ⅱ)』、鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(48)、1989年3月
5. 『一般国道220号線鹿屋バイパス建設に伴う発掘調査報告書(Ⅲ)』、鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(52)、1990年3月
6. 『鹿児島県上野原遺跡Ⅲ-1986年度に注目された発掘調査の概観-』、日本考古学年報39(1986年度版)、1988年4月
7. 『古保山打越遺跡』、熊本県文化財調査報告書第93集、熊本県教育委員会、1987年
8. 『向原第1・2次遺跡概観』、『平成元年度遺跡発掘報告』、都城市教育委員会、1990年
9. 藤瀬領博編「長ノ原遺跡調査概観」、鳥栖市文化財調査報告5、鳥栖市教育委員会、1979年
10. 石橋新次編「本原遺跡」、鳥栖市文化財調査報告36、鳥栖市教育委員会、1988年
11. 中牟田賢治編「千塚山遺跡」基山町遺跡発掘調査団、1978年
12. 『郷方原遺跡-G地区-』、中原町文化財調査報告書第16集
13. 『町南遺跡』、佐賀県文化財調査報告書第68集
14. 公民館報『かみみね』号外文化財特集号、上峰町教育委員会、1986年
15. 『船石遺跡』、上峰町教育委員会、1983年
16. 久保伸洋「タケノ里遺跡 佐賀県農業基盤整備事業に係る文化財調査報告書1」、佐賀県文化財調査報告書第69集 佐賀県教育委員会、1983年3月
17. 岩永正博「西前田遺跡」、東吾振村文化財調査報告書第5集、東吾振村教育委員会、1981年3月
18. 久保伸博「亀作A遺跡」、東吾振村文化財調査報告書第15集、東吾振村教育委員会、1989年3月
19. 久保伸博「大曲遺跡群 佐賀県農業基盤整備事業に係る文化財調査報告書3」、佐賀県文化財調査報告書第79集、佐賀県教育委員会、1985年3月
20. 佐賀県教育委員会編「環濠集落 吉野ヶ里遺跡調査概観」、佐賀県教育委員会、1990年
21. 佐賀県教育委員会編「吉野ヶ里遺跡一確認調査の報告書一」、佐賀県文化財調査報告書第100集、佐賀県教育委員会、1990年
22. 草野誠司「田手二本黒木遺跡」、三田川町教育委員会、三田川町文化財調査報告書第3集、1990年
23. 『吉野ヶ里 神埼工業団地計画に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書』、佐賀県文化財調査報告書第113集、佐賀県教育委員会、1992年3月
24. 八尋実「馬郡遺跡」、神埼町教育委員会、1981年
25. 『の五本黒木遺跡』、神埼町文化財調査報告書第11集、神埼町教育委員会
26. 天本洋一編「川寄吉原遺跡」、佐賀県文化財調査報告書第61集、1981年3月
27. 『詫田西分貝塚・高志神社遺跡』、千代田町文化財調査報告書第2集、千代田町教育委員会、1983年3月
28. 『黒井遺跡』、千代田町文化財調査報告書第6集、千代田町教育委員会、1987年3月
29. 福田義彦「立野遺跡ほか」、佐賀市文化財調査報告書第24集、1989年3月
30. 木島慎治「村徳永遺跡」、佐賀市文化財調査報告書第34集、1990年3月
31. 『惣座遺跡』、『九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書(11)』、佐賀県文化財調査報告書第96集、1990年
32. 藤井伸之他「V織島西分B遺跡」、『織島西分遺跡群Ⅰ』、三日月町文化財調査報告書第5集、1983年
33. 木下巧「原始二、弥生時代」『三日月町史』上巻、1985年
34. 木下巧他「土生・久蘇遺跡」、佐賀県文化財調査報告書第25集、佐賀県教育委員会、1973年

35. 木下巧「土生遺跡群」佐賀県農業基盤整備事業に係る文化財調査報告書、佐賀県文化財調査報告書第37集、佐賀県教育委員会1977年
36. 『本田辺遺跡 第Ⅲ次』、多久市文化財調査報告書第3集、多久市教育委員会、1978年
37. 『佐賀県農業基盤整備事業に係る文化財調査報告書8』、佐賀県文化財調査報告書第98集、佐賀県教育委員会、1990年3月
38. 『みやこ・茂手遺跡—六角川河川改修に伴う文化財調査報告書—』、武雄市文化財調査報告書第15集、1986年
39. 『小野原遺跡』、武雄市文化財調査報告書第17集、1987年
40. 『みやこ遺跡Ⅱ』、武雄市文化財調査報告書第19集、1989年
41. 中島直幸・田島龍太「柔畑」、唐津市文化財調査報告書第5集、唐津市教育委員会、1982年
42. 中島直幸・嶋倉巳三郎「巡見遺跡」、唐津市文化財調査報告書第3集、唐津市教育委員会、1982年
43. 田島龍太・奈良崎和典・中島直幸「九里天間遺跡」、唐津市文化財調査報告書第19集、唐津市教育委員会、1987年
44. 田島龍太・中島直幸・松夫吉高「論中野遺跡」、唐津市文化財調査報告書第14集、唐津市教育委員会、1985年
45. 『九州横断自転車道（日田地区）建設に伴う発掘調査概報Ⅴ』、大分県教育委員会、日本道路公団、1988年
46. 『日田地区遺跡群発掘調査概報Ⅲ』日田市教育委員会、1988年
47. 『日田地区遺跡群発掘調査概報Ⅳ』日田市教育委員会
48. 『日田地区遺跡群発掘調査概報Ⅴ』日田市教育委員会
49. 『安国寺弥生遺跡の調査』、九州文化総合研究所、1958年
50. 『安国寺遺跡』、国東町教育委員会、1989年
51. 『高添遺跡』、千歳村教育委員会、1988年
52. 『鹿遺原遺跡の調査』、九州史学会発表要旨、1990年
53. 『陣粕遺跡』、三重町教育委員会、1987年
54. 『日当遺跡』、大分県教育委員会、1982年
55. 萩原博文他「津吉遺跡群」、平戸市教育委員会、1986年
56. 鏡山猛也「妓宿貝塚」「五島遺跡調査報告書」、長崎県教育委員会、1964年
57. 安楽勉「白井川遺跡」、長崎県東彼杵町教育委員会、1989年
58. 安楽勉「白井川遺跡Ⅱ」、長崎県東彼杵町教育委員会、1990年
59. 稲富裕和「稗田遺跡」、大村市・稗田遺跡調査会、1988年
60. 稲富裕和「富の原常盤遺跡発掘調査報告書」、大村市教育委員会、1981年
61. 稲富裕和「富の原遺跡群確認調査概報」大村市教育委員会、1982年
62. 稲富裕和「富の原遺跡群確認調査概報」大村市教育委員会、1983年
63. 稲富裕和「富の原遺跡群確認調査概報」大村市教育委員会、1984年
64. 稲富裕和「富の原遺跡群確認調査概報Ⅳ」、大村市教育委員会、1985年
65. 稲富裕和「富の原遺跡群確認調査概報Ⅴ」、大村市教育委員会、1986年
66. 稲富裕和「富の原」大村市教育委員会、1987年
67. 『北九州市を掘る(16)「重宿遺跡」』、1990年
68. 栗山伸司「辻田西遺跡」、北九州市埋蔵文化財調査報告書第13集、朝北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室、1982年
69. 栗山伸司「守国遺跡」、北九州市埋蔵文化財調査報告書第50集、朝北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室、1986年
70. 『原遺跡第二地点』、北九州市埋蔵文化財調査会、1976年
71. 栗山伸司「馬場山遺跡第B・C・D地点」、北九州市埋蔵文化財調査報告書第37集、朝北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室、1985年
72. 栗山伸司「辻田遺跡」、北九州市埋蔵文化財調査報告書第35集、朝北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室、1980年

73. 『上徳力遺跡 第15-1地点』、北九州市埋蔵文化財調査報告書第67集、(北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室、1988年)
74. 『上徳力遺跡1』、北九州市埋蔵文化財調査報告書第76集、(北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室、1989年)
75. 『上徳力遺跡2』、北九州市埋蔵文化財調査報告書第77集、(北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室、1989年)
76. 『徳力土地区面整理事業関係調査報告2』、北九州市埋蔵文化財調査報告書第78集、(北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室、1989年)
77. 『徳力土地区面整理事業関係調査報告3』、北九州市埋蔵文化財調査報告書第93集、(北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室、1990年)
78. 波多野皖三「古宮・阿弥陀遺跡」『筑紫史論』第三輯、1975年
79. 『筑後国府跡Ⅰ』、久留米市文化財調査報告第12集、久留米市教育委員会、1976年
80. 『筑後国府跡Ⅱ』、久留米市文化財調査報告第13集、久留米市教育委員会、1977年
81. 『筑後国府跡』、久留米市文化財調査報告第26集、久留米市教育委員会、1981年
82. 『筑後国府跡・国分寺跡』、久留米市文化財調査報告第44集、久留米市教育委員会、1985年
83. 『筑後国府跡』、久留米市文化財調査報告第46集、久留米市教育委員会、1986年
84. 『筑後国府跡』、久留米市文化財調査報告第51集、久留米市教育委員会、1987年
85. 『筑後国府跡』、久留米市文化財調査報告第54集、久留米市教育委員会、1988年
86. 『筑後国府跡・国分寺跡』、久留米市文化財調査報告第59集、久留米市教育委員会、1989年
87. 『東徳原今寺遺跡』現説用パンフレット、久留米市教育委員会、1976年
88. 横尾義明「弥生時代」『久留米市史』第一巻、1981年
89. 『東徳原今寺遺跡第二次調査』現説用パンフレット、久留米市教育委員会、1988年
90. 『安武地区遺跡群Ⅰ』、久留米市文化財調査報告書第56集、久留米市教育委員会、1988年
91. 『安武地区遺跡群』現説用パンフレット、久留米市教育委員会、1987年
92. 『安武地区遺跡群』現説用パンフレット、久留米市教育委員会、1988年
93. 『古代久留米を探る』第14回くめの考古資料展パンフレット、久留米市教育委員会、1989年
94. 『古代久留米を探る』第15回くめの考古資料展パンフレット、久留米市教育委員会、1990年
95. 『竹並遺跡-弥生-古墳-』、竹並遺跡調査会、1979年
96. 横山邦雄・浜石哲也編『比恵遺跡-第6次-』福岡市埋蔵文化財調査報告書第94集、福岡市教育委員会、1983年
97. 杉山富雄・吉留秀敏編『比恵遺跡-第9・10次-』福岡市埋蔵文化財調査報告書第145集、福岡市教育委員会、1986年
98. 『比恵遺跡群(8)』、福岡市埋蔵文化財調査報告書第174集、福岡市教育委員会、1988年
99. 『比恵遺跡群(10)』、福岡市埋蔵文化財調査報告書第255集、福岡市教育委員会、1991年
100. 力武卓治編『席田遺跡群-久保園遺跡』、福岡市埋蔵文化財調査報告書第91集、福岡市教育委員会、1983年
101. 『吉武高木』、福岡市埋蔵文化財調査報告書第143集、福岡市教育委員会、1986年
102. 『平成5年度埋蔵文化財調査の概要』、福岡市教育委員会、1994年
103. 『那珂遺跡4』、福岡市埋蔵文化財調査報告書第290集、福岡市教育委員会、1992年
104. 『那珂遺跡11』、福岡市埋蔵文化財調査報告書第366集、福岡市教育委員会、1994年
105. 『弥生時代後期の拠点集落発見』、福岡市教育委員会、1993年
106. 『平塚川添遺跡』発掘調査概報、甘木市教育委員会、1993年
107. 九山康晴、平田定幸『須玖永田遺跡』、春日市文化財調査報告書第18集、春日市教育委員会、1987年
108. 平田定幸、中村昇平『須玖唐梨遺跡』、春日市文化財調査報告書第19集、春日市教育委員会、1988年
109. 平田定幸『福岡県春日市駿河遺跡の調査』『日本考古学協会1990年度大会発表資料集』、日本考古学協会、1990年
110. 1989年度九州史学会資料集

111. 「北松尾口遺跡Ⅰ地点」、小都市文化財調査報告書第54集、小都市教育委員会、1989年
112. 「高知空港拡張整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 田村遺跡群」Ⅰ～Ⅴ、高知県教育委員会、1986年
113. 井原恵三「初期農耕集落の構造」『考古学研究』第34巻3号 1987年
114. 「下分遺跡遺跡」(1)、香我美町教育委員会
115. 「深淵遺跡発掘調査報告書」、野市町教育委員会、1980年
116. 栗田茂敏「大峰ヶ台遺跡」『松山市文化財調査年報Ⅱ』、松山市教育委員会、1989年
117. 古代学協会四国支部、1988年シンポジウム「道後城北の弥生遺跡をめぐって」資料
118. 下条恒行「近年の文京遺跡調査の成果と課題」『社会科学研究』、社会科学研究会、1987年
119. 長井敦秋「農耕文化の形成と発展」『愛媛県史 原始・古代Ⅰ』、愛媛県、1982年
120. 西尾幸剛「文京遺跡」『松山市資料集第2巻』、松山市、1987年
121. 西尾幸剛「文京遺跡」『古代の松山平野』、松山市教育委員会、1982年
122. 「鴨部南谷遺跡発掘調査概報」志度町教育委員会、1990年
123. 「加藤遺跡現地説明会資料」、寒川町教育委員会・香川県教育委員会、昭和53年
124. 「久米池南遺跡発掘調査報告書」、高松市教育委員会、1989年
125. 大久保・山元敏裕「上天神遺跡」『香川県埋蔵文化財調査年報-昭和59年度-62年度-』、香川県教育委員会、1988年
126. 「川津一ノ又遺跡現地説明会資料」、(財)香川県埋蔵文化財調査センター、1990年
127. 「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報 昭和63年度」、香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・日本道路公団高松建設局、平成元年
128. 「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第三冊 矢ノ塚遺跡」、香川県教育委員会・日本道路公団、昭和62年
129. 「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第9冊 水竹遺跡」、香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・日本道路公団、平成3年
130. 「香川県埋蔵文化財調査年報-昭和63年度-」、香川県教育委員会、平成元年
131. 「香川県指定史跡雲雲山遺跡発掘調査現地説明会資料」、詫間町教育委員会、昭和63年
132. 「紫雲出」、詫間町文化財保護委員会、昭和39年
133. 「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第8冊 延命遺跡」、香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・日本道路公団、平成2年
134. 「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第7冊 一ノ谷遺跡群」、香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・日本道路公団、平成2年
135. 「黒谷川郡頭遺跡Ⅰ」、徳島県教育委員会、1986年
136. 「黒谷川郡頭遺跡Ⅱ」、徳島県教育委員会、1987年
137. 「黒谷川郡頭遺跡Ⅲ・Ⅳ」、徳島県教育委員会、1989年
138. 「黒谷川郡頭遺跡Ⅴ」、徳島県教育委員会、1990年
139. 「上成可北原遺跡」、徳島県教育委員会、1988年
140. 「大柿遺跡発掘調査概報」、徳島県・三好町教育委員会、1976年
141. 菅原康夫「日本の古代遺跡 37 徳島」、保育社、1988年
142. 「西長峰遺跡現地説明会資料」、徳島県教育委員会文化課、1990年
143. 「追迫遺跡」『山口県埋蔵文化財調査報告第107集』、山口県教育委員会他、1988年
144. 「天王遺跡」『山口県埋蔵文化財調査報告第108集』、山口県教育委員会他、1988年
145. 「羽波遺跡・片山遺跡」『山口県埋蔵文化財報告第121集』、山口県教育委員会他、1989年
146. 「磯羅木郷台遺跡(明神地区)」『山口県埋蔵文化財報告第112集』、山口県教育委員会他、1988年

147. 『石籠堆現遺跡群発掘調査報告Ⅰ-C地点遺跡』、広島県立埋蔵文化財センター、1985年
148. 『石籠堆現第2号古墳発掘調査報告』、広島県立埋蔵文化財センター、1984年
149. 『西ヶ崎遺跡』、『石籠堆現遺跡群・西ヶ崎遺跡発掘調査報告』、財団法人広島県埋蔵文化財センター、1985年
150. 『大明地遺跡』、『山陽自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅳ』、財団法人広島県埋蔵文化財センター、1987年
151. 『一般国道原田五日市線(石内バイパス)道路改良工事事業地内遺跡群発掘調査報告』、広島市教育委員会、1988年
152. 『朝野川河川改修工事に伴う西川津遺跡発掘調査報告書・Ⅳ(海崎地区2)』、鳥根県教育委員会、1988年3月
153. 『国道9号線バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書・Ⅳ』、鳥根県教育委員会、1983年3月
154. 『国道9号線バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書・Ⅴ』、鳥根県教育委員会、1989年3月
155. 『国道9号線バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書・Ⅵ』、鳥根県教育委員会、1989年3月
156. 『一般国道9号(安来道路)建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告-宮内遺跡-』、鳥根県教育委員会、1990年
157. 『南講武草田遺跡現地説明会資料』、鹿島町教育委員会、1989年8月
158. 井上弘『新市谷遺跡の調査』、『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告15』、岡山県教育委員会、1977年3月
159. 田村尚雄他『桃山遺跡』、『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告12』、岡山県教育委員会、1976年3月
160. 山崎康平他『中国横断道建設に伴う発掘調査』、『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告20』、岡山県教育委員会、1990年3月
161. 村上幸雄、橋本悠司『鎌山遺跡群 資料編』、久米開発事業に伴う文化財調査委員会、1979年3月
162. 中山俊紀『京免・竹ノ下遺跡』、『津山市埋蔵文化財調査報告書第11集』、津山市教育委員会、1982年
163. 河本清他『津山市沼E遺跡発掘調査』、『岡山県埋蔵文化財報告9』、岡山県教育委員会、1979年3月
164. 中山俊紀『沼E遺跡Ⅱ』、『津山市埋蔵文化財発掘調査報告第8集』、津山市教育委員会、1981年
165. 安川豊史『東蔵坊遺跡・B地区発掘調査報告』、『津山市埋蔵文化財発掘調査報告第9集』、津山市教育委員会、1981年
166. 安川豊史『向林遺跡・中鎌田墳墓』、『津山市埋蔵文化財発掘調査報告第29集』、津山市教育委員会、1989年
167. 河本清他『押入西遺跡』、『岡山県埋蔵文化財報告3』、岡山県教育委員会、1973年3月
168. 橋本悠司『大神原遺跡』、『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告7』、岡山県教育委員会、1975年3月
169. 行田裕美『百吉田遺跡』、『津山市埋蔵文化財発掘調査報告第17集』、津山市教育委員会、1985年
170. 行田裕美『一貫西遺跡』、『津山市埋蔵文化財発掘調査報告第33集』、津山市教育委員会、1990年
171. 行田裕美『深田河内遺跡』、『津山市埋蔵文化財発掘調査報告第26集』、津山市教育委員会、1988年
172. 栗野己他『小中遺跡』、『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告7』、岡山県教育委員会、1975年
173. 浅倉秀昭『野田遺跡』、『奈良町農協肉用牛等振興施設建設に伴う埋蔵文化財発掘調査』、野田遺跡調査委員会、1984年
174. 正岡睦夫他『唐津池北遺跡』、『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告69』、岡山県教育委員会
175. 村上幸雄『大ノ奥遺跡』、『総社市史』、総社市、1987年
176. 中野雅美他『高速自動車国道山陽自動車道建設に伴う発掘調査』、『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告18』、岡山県教育委員会、1988年3月
177. 伊藤見他『倉敷市(児島)城遺跡発掘調査報告』、岡山県教育委員会、1977年3月
178. 高畑知功、横田正経『天神坂遺跡・奥坂遺跡・新屋敷古墳岡山県総合流通センター建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告』、『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告53』、岡山県教育委員会、1983年
179. 津島遺跡発掘調査団『岡山県津島遺跡調査概報』、岡山県教育委員会、1970年3月
180. 正岡睦夫他『百間川原尾島遺跡2・旭川放水路(百間川)改修工事に伴う発掘調査Ⅴ』、『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告56』、岡山県教育委員会、1984年
181. 高畑知功他『百間川葦基遺跡』、『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告51』、岡山県教育委員会、1982年11月
182. 正岡睦夫他『百間川今谷遺跡』、『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告51』、岡山県教育委員会、1982年11月
183. 岡本寛久他『百間川米田遺跡3(旧当麻遺跡)・旭川放水路(百間川)改修工事に伴う発掘調査Ⅵ』、『岡山県埋蔵

文化財発掘調査報告74」、岡山県教育委員会、1989年

184. 高橋護他「雄町遺跡」岡山県埋蔵文化財発掘調査報告1」、岡山県教育委員会、1972年3月
185. 江見正巳他「木鍋山遺跡」岡山県埋蔵文化財発掘調査報告12」、岡山県教育委員会、1982年3月
186. 「青木遺跡発掘調査報告書」I・II・III、鳥取県教育委員会、1976-1978年
187. 「陰田」、米子市教育委員会、1984年
188. 「東宗像遺跡」、鳥取県教育文化財団、1985年
189. 「久古第3遺跡・貝田原遺跡・林ヶ原遺跡発掘調査報告書」、鳥取県教育文化財団、1984年
190. 「塚田遺跡」、大山町教育委員会、1979年
191. 「八重第3遺跡発掘調査報告書」、中山町教育委員会、1987年
192. 「佐川遺跡群」、鳥取県教育文化財団、1986年
193. 「下山南通遺跡」、鳥取県教育文化財団、1986年
194. 「長山馬籠遺跡」、溝口町教育委員会、1989年
195. 「上中ノ原・井後草馬遺跡発掘調査報告書」、溝口町教育委員会、1983年
196. 「立鶴遺跡群Ⅲ 大山遺跡発掘調査報告書」、倉吉市教育委員会、1988年
197. 「水溜り・茂籠掘場遺跡、森藤第3遺跡発掘調査報告書」、東伯町教育委員会、1988年
198. 「森藤第1・森藤第2遺跡発掘調査報告書」、東伯町教育委員会、1987年
199. 「大峰遺跡発掘調査報告書」、東伯町教育委員会、1985年
200. 「大畑遺跡発掘調査報告書」、東伯町教育委員会、1989年
201. 「青木第4遺跡発掘調査報告書」、大栄町教育委員会、1980年
202. 「久末・古都家遺跡発掘調査報告書」、鳥取市教育委員会、1974年
203. 「布勢遺跡発掘調査報告書」、鳥取市教育文化財団、1981年
204. 「湖山第2遺跡発掘調査報告書」、鳥取県教育文化財団、1982年
205. 「秋黒遺跡(西菅竹)」、鳥取県教育文化財団、1990年
206. 「柄杓目遺跡Ⅱ」、鹿野町教育委員会、1990年
207. 「船岡山遺跡発掘調査報告書」、和歌山県教育委員会、1986年
208. 「摂津豊中大塚古墳」、豊中市文化財調査報告第20集、豊中市教育委員会、1987年
209. 「高槻市史」第6巻、考古編、1973年
210. 「高槻市安満弥生遺跡発掘調査概報」、大阪府文化財調査概要、1968年
211. 「八雲遺跡発掘調査概要・Ⅰ」、大阪府教育委員会、1987年
212. 「虎虎川遺跡第7次発掘調査報告書第3冊-遺構編-」、朝東大阪市文化財協会、1984年
213. 「瓜生堂遺跡」、中央南幹線内西岩田瓜生堂遺跡調査会、1971年
214. 「瓜生堂遺跡Ⅱ」、瓜生堂遺跡調査会、1973年
215. 「瓜生堂遺跡Ⅲ」、瓜生堂遺跡調査会、1981年
216. 「瓜生堂」、大阪府教育委員会・朝大阪文化財センター、1980年
217. 「巨摩・瓜生堂」、大阪府教育委員会・朝大阪文化財センター、1981年
218. 「瓜生堂遺跡発掘調査概報」『朝東大阪市文化財協会概報集 1988年度』、朝東大阪市文化財協会
219. 「若江北」、大阪府教育委員会・朝大阪文化財センター、1983年
220. 「山賀(その3)」、大阪府教育委員会・朝大阪文化財センター、1984年
221. 「美園」、大阪府教育委員会・朝大阪文化財センター、1985年
222. 「久宝寺南(その1)」、大阪府教育委員会・朝大阪文化財センター、1987年
223. 「亀井(その2)」、大阪府教育委員会・朝大阪文化財センター、1986年

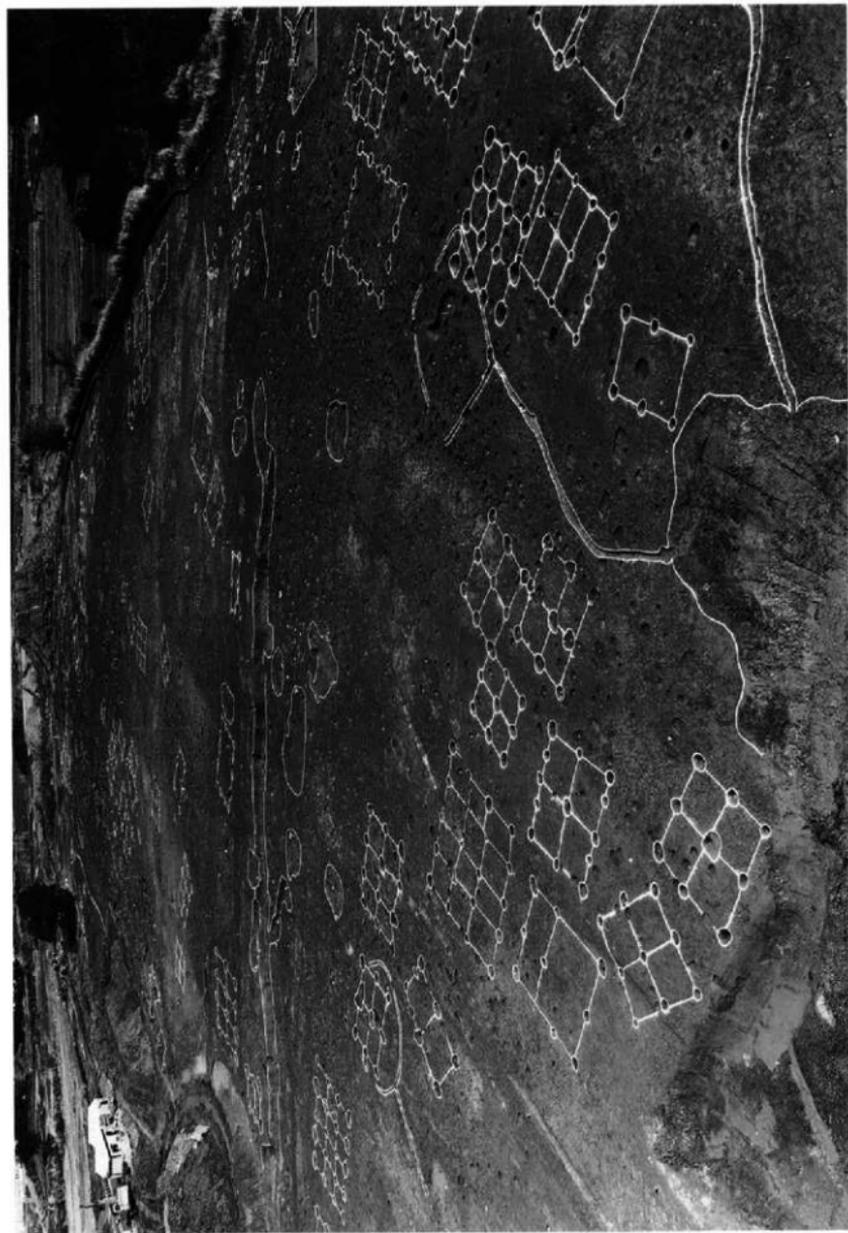
224. 『城山(その2)』、大阪府教育委員会・財大阪文化財センター、1986年
225. 『城坂北遺跡共同溝建設工事に伴う発掘調査報告書』、財大阪市文化財協会、1980年
226. 『北島池・池島遺跡発掘調査概要』『東大阪市遺跡保護調査会発掘調査概報集1980年度』1、東大阪市遺跡保護調査会、1981年
227. 『中野 I、大谷女子人学資料館報告 第2冊 大谷女子大学資料館、1979年
228. 『四ツ池遺跡—第82地区—』、『昭和57年度国庫補助事業発掘調査報告』、堺市教育委員会、1984年
229. 『四ツ池遺跡—第83地区—』、『堺市文化財調査報告書第16集』、堺市教育委員会、1984年
230. 『船岡山遺跡 B 地点発掘調査報告書』、『泉佐野市埋蔵文化財発掘調査報告書 V』、泉佐野市教育委員会、1985年
231. 『埋蔵文化財専門職員研修資料』、昭和60年度(後期)、1985年
232. 深井明比古『掘り出された弥生のムラー神戸市玉津田中遺跡』、『季刊考古学』第19号、1987年
233. 『三川高台弥生遺跡(宝塚市文化財調査報告第13集)』、宝塚市教育委員会、1979年
234. 『六角敷布地現地説明会資料』、兵庫県教育委員会、1989年
235. 『兵庫県埋蔵文化財年報・昭和59年度』、兵庫県教育委員会、1986年
236. 『現地説明会資料』、兵庫県教育委員会、1987年
237. 『寺中遺跡—淡路縦貫道関係埋蔵文化財調査報告書 IV—』、兵庫県教育委員会、1990年
238. 『七日市遺跡(1)—第2分冊—(弥生・古墳時代遺跡の調査)』、兵庫県教育委員会、1990年
239. 『舞子・東石ヶ谷遺跡 II』、神戸市教育委員会、1990年3月
240. 『鈴ヶ台遺跡発掘調査報告書』、神戸市教育委員会、1990年3月
241. 『昭和61年度 神戸市埋蔵文化財年報』、神戸市教育委員会
242. 藤田三郎編『昭和60年度唐古・鍵遺跡第22・24・25次発掘調査概報』『田原小町埋蔵文化財調査概要4』、田原町教育委員会、1986年
243. 網干善教『高床式建築考』『近畿古文化論叢』、奈良県立橿原考古学研究所、1962年
244. 網干善教『鴨波遺跡』、『御所市史』、御所市、1965年
245. 前田実知雄『宮滝遺跡発掘調査概報』『奈良県遺跡調査概報1976年度』、奈良県立橿原考古学研究所、1977年
246. 藤原敏晃『奥谷西遺跡』、『京都府遺跡調査報告書』第10冊、京都府埋蔵文化財調査研究センター、1988年
247. 岩松保『ケシケ谷遺跡』、『京都府遺跡調査報告書』第10冊、京都府埋蔵文化財調査研究センター、1988年
248. 石井清司『北金岐遺跡』、『京都府遺跡調査報告書』第5冊、京都府埋蔵文化財調査研究センター、1985年
249. 森浩一他『京都府綴喜郡田辺天神山弥生遺跡』、1976年
250. 木村泰彦『右京第237次(7ANJNN地区)調査略報』、『長岡京市埋蔵文化財センター年報』昭和61年度財長岡京市埋蔵文化財センター、1988年(昭和63年)3月31日
251. 高橋英久二『長岡宮跡昭和五三年度発掘調査概要』、京都府教育委員会、『埋蔵文化財発掘調査概報』、1979年(昭和54年3月)
252. 奥村清一郎他『長岡宮跡右京第27次発掘調査概要』、京都府教育委員会、『埋蔵文化財発掘調査概報』、1980年(昭和55年3月)
253. 山本博・肥後弘幸他『長岡宮跡右京第83・105次発掘調査概要(7ANINC-2・3, IHT, IFK, IMK地区)』、『京都府遺跡調査概報』第9冊、財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター、1984年(昭和59年3月)
254. 長谷川達『長岡宮跡右京第153次発掘調査概要(7ANIAE-3地区)』、『京都府遺跡調査概報』第15冊、財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター、1985年(昭和60年3月)
255. 原秀樹『右京第280次(7ANIAE-6地区)調査略報』、『長岡京市埋蔵文化財センター年報』昭和62年度財長岡京市埋蔵文化財調査研究センター、1989年。(平成元年5月31日)
256. 山本輝雄『右京第223次(7ANITT-12地区)調査略報』、『長岡京市埋蔵文化財センター年報』昭和60年度財

- 長岡京市埋蔵文化財調査研究センター、1989年、(昭和62年2月28日)
257. 木村泰彦「右京第157次(7ANITT-8地区)調査概報」、「長岡京市埋蔵文化財センター年報」昭和58年度財団法人長岡京市埋蔵文化財調査研究センター、1984年、(昭和59年8月22日)
258. 山本輝雄「長岡京跡右京第80・86次(7ANITT-5.6地区)調査概要」、「長岡京市文化財調査報告書」第9巻、長岡京市教育委員会、1982年(昭和57年3月)
259. 木村泰彦「右京第227次(7ANIAE-5地区)調査略報」、「長岡京市埋蔵文化財センター年報」昭和61年度財団法人長岡京市埋蔵文化財調査研究センター、1988年、(昭和63年3月31日)
260. 原秀樹「右京第202次(7ANIAE-4地区)調査概報」、「長岡京市埋蔵文化財センター年報」昭和60年度財団法人長岡京市埋蔵文化財調査研究センター、1987年、(昭和62年2月28日)
261. 山本輝雄・久保哲正他「長岡第九小学校建設にともなう発掘調査概要一長岡京跡右京第10.28次調査(7ANMMB地区)」、「長岡京市文化財調査報告書」第5巻、長岡京市教育委員会、1980年(昭和55年3月31日)
262. 岩崎誠「神足遺跡第16次発掘調査略報」、「長岡京市文化財調査報告書」第3集、財団法人長岡京市埋蔵文化財調査研究センター、(昭和63年10月29日)
263. 岩崎誠「神足遺跡第16次調査」、「長岡京市文化財調査報告書」第4集、財団法人長岡京市埋蔵文化財調査研究センター、1989年(平成元年3月25日)
264. 岩崎誠「右京第274次(7ANMDB-2・MTT-3地区)調査略報」、「長岡京市埋蔵文化財センター年報」昭和62年度財団法人長岡京市埋蔵文化財調査研究センター、1989年、(平成元年5月31日)
265. 原秀樹「右京第187次(7ANMTT地区)・右京第209次(7ANMTT-2地区)調査略報」、「長岡京市埋蔵文化財センター年報」昭和60年度財団法人長岡京市埋蔵文化財調査研究センター、1987年(昭和62年2月28日)
266. 山下雅春「起A遺跡」昭和57年度農業基盤整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告、三重県教育委員会、1983年3月
267. 「扇広遺跡」『鈴鹿市埋蔵文化財だより9』1990年
268. 「中尾山遺跡」『鈴鹿市埋蔵文化財だより8』、1990年
269. 榎本義謙「草山遺跡出土の小銅鐸」『考古学雑誌』第73巻第4号、1988年3月
270. 「草山遺跡発掘調査月報No.1~10」、松坂市教育委員会、1982-1985年
271. 「第二巻 資料編 考古」『松坂市史』、松坂市、1978年
272. 「赤垣内遺跡」『昭和48年度県営團場整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告』、三重県教育委員会、1979年
273. 「平田古墳群」、安濃町遺跡調査会、1987年
274. 黒坂秀樹「近江における弥生玉作研究ノート」『滋賀考古3』、1990年
275. 用田政晴「伊香郡高月町唐川遺跡」『團場整備関係遺跡発掘調査報告書X-1』、滋賀県教育委員会・湖滋賀県文化財保護協会 1981年
276. 大江他「川崎遺跡・南方東遺跡」『国道8号線長浜バイパス関連遺跡調査報告書』、滋賀県教育委員会、1971年
277. 島野泰樹「馬場遺跡発掘調査報告書」滋賀県教育委員会・湖滋賀県文化財保護協会、1984年3月
278. 本田修平「彦根市埋蔵文化財調査報告第15集 馬場遺跡」、彦根市教育委員会、1988年3月
279. 「團場整備関係遺跡発掘調査報告書Ⅴ-5」滋賀県教育委員会・湖滋賀県文化財保護協会、1980年
280. 「能登川町埋蔵文化財調査報告書」第6・7・11・15集
281. 「能登川町埋蔵文化財調査報告書第10集-斗西遺跡」能登川町教育委員会、昭和63年
282. 水野正好「大中ノ湖南遺跡」滋賀県教育委員会監修、滋賀民俗学会、1967年
283. 宮崎幹也「県営千拓地等農地整備事業関係発掘調査報告書目一浅小井(高木)遺跡」、滋賀県教育委員会、1983年
284. 岩崎直也「法華堂遺跡」『近江八幡市埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ』、近江八幡市教育委員会、1987年
285. 岩崎直也「掘上遺跡」『掘上遺跡 余内遺跡 堂ノ内遺跡』、近江八幡市教育委員会、1984年

286. 岩崎直也「住居型式からみた集落の一類型—掘上遺跡例から単一型集落を探る—」『滋賀考古』第4号、滋賀考古学研究会、1990年
287. 岩崎直也「出町遺跡発掘調査報告書」、近江八幡市教育委員会、1984年
288. 岩崎直也・角上寿行他「出町遺跡」『近江八幡市埋蔵文化財発掘調査報告書(Ⅵ)』、近江八幡市教育委員会、1985年
289. 岩崎直也・依竹幸他「出町遺跡」『近江八幡市埋蔵文化財発掘調査報告書(XⅢ)』、近江八幡市教育委員会、1987年
290. 岩崎直也・角上寿行「三明遺跡(三次調査)」『近江八幡市埋蔵文化財発掘調査報告書(XⅩ)』、近江八幡市教育委員会、1990年
291. 『滋賀歴史ニュース』第124号、滋賀県埋蔵文化財センター、1990年
292. 辻広志「中主町文化財調査報告書第12集 西河原森ノ内遺跡第3次発掘調査報告書：中主町教育委員会・中主町埋蔵文化財調査会、1987年
293. 伊達宗泰他「下々塚遺跡発掘調査報告書」、滋賀県野洲町教育委員会・花園大学考古学研究室
294. 兼康保明「久野部遺跡発掘調査報告書」、1977年
295. 古川与志継「久野部遺跡発掘調査概要」、1984年
296. 岡本武憲「16.新守山川その1・その2・その2-1」『文化財調査出土遺物収納保管業務 昭和62年度発掘調査概要』、滋賀県教育委員会・滋賀県文化財保護協会、1988年
297. 山崎秀二「冨下之郷遺跡発掘調査概要」『守山市文化財調査報告書第20冊』、守山市教育委員会、1986年
298. 山崎秀二他「冨下之郷遺跡の調査」『守山市文化財調査報告書第27冊』、守山市教育委員会、1988年
299. 山崎秀二「下之郷遺跡」守山市埋蔵文化財センター、1989年
300. 大塚信弥・谷口徹「第10章 草津市支那中遺跡」『園場整備関係遺跡発掘調査報告書Ⅴ』、滋賀県教育委員会、滋賀県文化財保護協会、1978年
301. 「埋蔵文化財調査昭和63年度年報」勸業東町文化体育振興事業団、1989年
302. 「埋蔵文化財調査 1990年度報告」勸業東町文化体育振興事業団、1990年
303. 「下鈎遺跡発見の弥生時代の柱列について」『栗東の文化』14号、勸業東町文化体育振興事業団、1986年
304. 「1991年度 年報Ⅱ—下鈎・狐塚・上鈎遺跡—」財団法人栗東町文化体育振興事業団、1993年
305. 「下鈎遺跡現地説明会資料」、栗東町教育委員会、勸業東町文化体育振興事業団、栗東町歴史民俗博物館、1992年5月23日
306. 宮本長二郎「弥生時代・古墳時代の掘立柱建物、春成秀爾「描かれた建物」、『弥生時代の掘立柱建物 本編』、埋蔵文化財研究会編、1991年
307. 「伊勢遺跡現地説明会資料」、守山市教育委員会、1992年9月19日
308. 「伊勢遺跡第28次調査現地説明会資料」守山市教育委員会、1994年1月30日
309. 「栗東の歴史」古代・中世第一巻、栗東町史編纂委員会、1988年
310. 「高島バイパス新旭町発掘調査概要 6—針江川北遺跡—」、滋賀県教育委員会、滋賀県文化財保護協会、1986年
311. 清水尚「弥生時代後期における集落形態—近江高島郡針江遺跡群の調査成果より—」『第四回近畿地方埋蔵文化財担当者研究会資料』、大阪文化財センター、1986年
312. 森口調男「大辰巳遺跡(Ⅲ)」『長浜市埋蔵文化財調査資料』第6集、長浜市教育委員会、1990年6月
313. 「高田遺跡(長浜電報電話局敷地内所在)調査報告書」、滋賀県文化財保護協会、1980年3月
314. 稲垣正宏「長浜市金剛寺遺跡」『園場整備関係発掘調査報告』Ⅳ-3、滋賀県教育委員会文化部保護課・滋賀県文化財保護協会、1987年3月

圖 版

P L A T E S



第4次調査調査区東半部全景（西から）



▲ 1. 第4次調査SB02建物検出状況（南から）

▼ 2. 第4次調査SB02建物検出状況（西から）





1 第一次I区調査全景SB-01,SA-01 (北から)



2 第一次I区調査全景SA-01他 (南から)



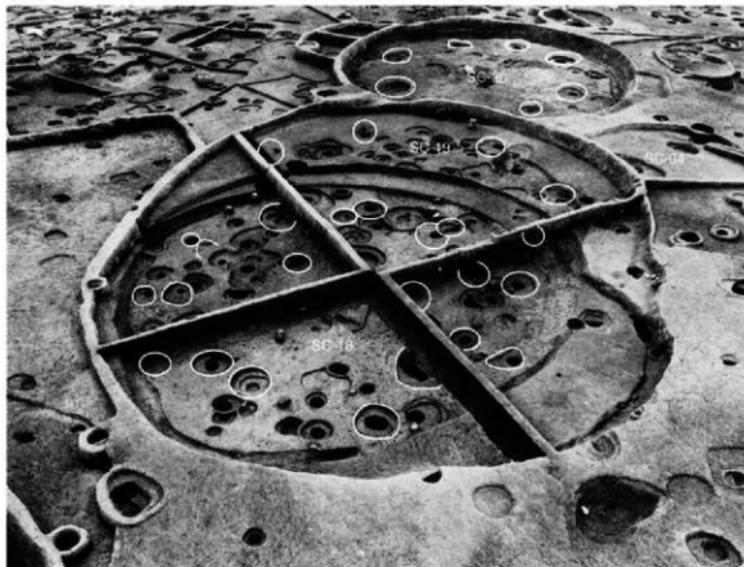
1 第一次Ⅱ区調査円形住居址SC-04・16～20 (北東から)



1 第一次Ⅱ区調査住居址の切合い（北西から）



2 第一次Ⅱ区調査住居址・甕棺墓・掘立柱建物（北東から）



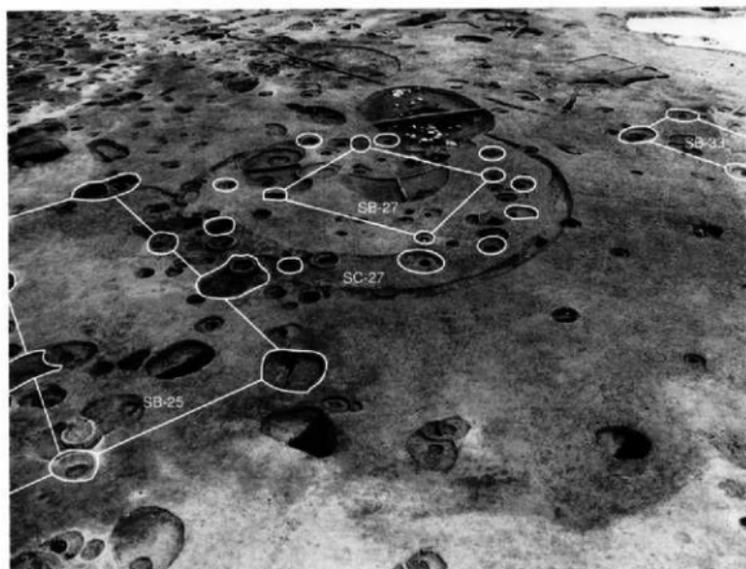
1 第一次Ⅱ区調査SC-04・18～20の切合い（北東から）



2 第一次Ⅱ区調査SC-27住居址（南から）



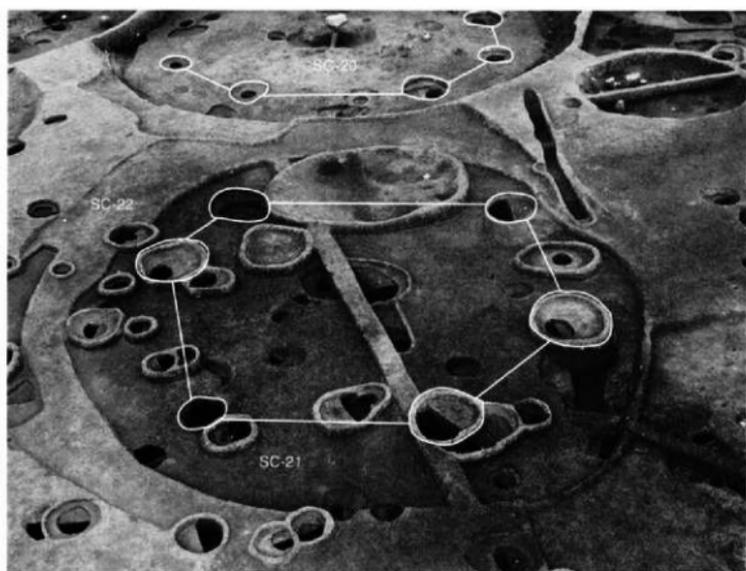
1 第一次Ⅱ区調査SC-24・32の切合い関係（東から）



2 第一次Ⅱ区調査住居SC-27と掘立柱建物SB-25・27・33（南西から）



1 第一次Ⅱ区調査住居SC-21・23と掘立柱建物SB-16～18（北東から）



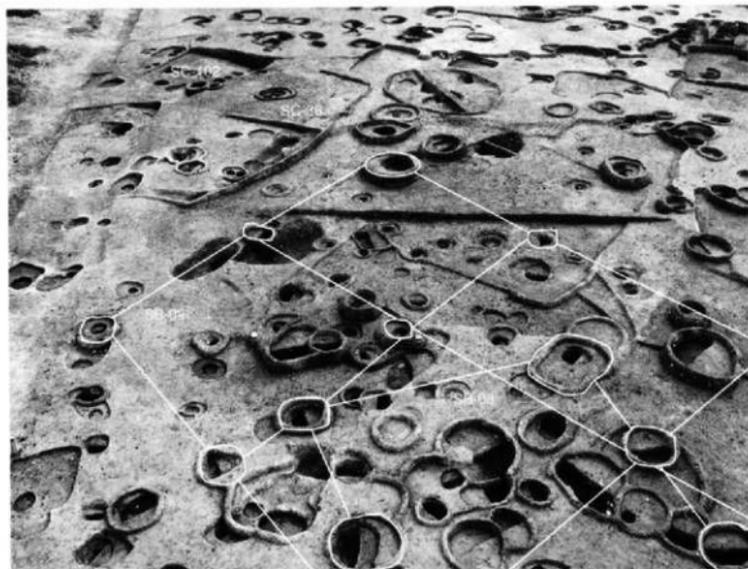
2 第一次Ⅱ区調査SC-21円形住居（北西から）



1 第一次Ⅱ区調査掘立柱建物SB-21 (南東から)



2 第一次Ⅱ区調査住居址SC-36・37と掘立柱建物SB-07～10・12 (南東から)



1 第一次Ⅱ区調査掘立柱建物SB-08・09との切合い関係（北東から）



2 第一次Ⅱ区調査掘立柱建物SB-07～11の切合い関係（東から）



1 第一次Ⅱ区調査掘立柱建物SB-12・21とSC-37・39・40（北東から）



2 第一次Ⅱ区調査南東隅SC-36・37他（南東から）



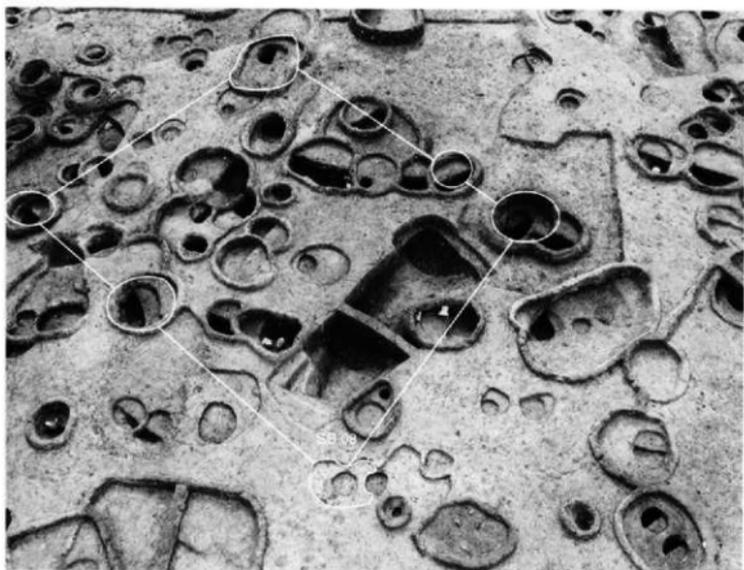
1 第一次Ⅱ区調査SB-07・10~12とSC-37・40・41 (東から)



2 第一次Ⅱ区調査南東隅SC-36・38,SB-21・1010・1011 (北東から)



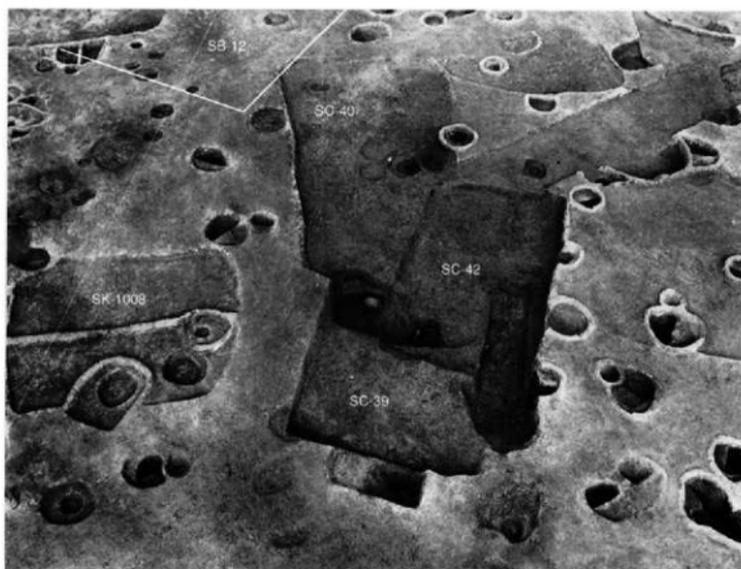
1 第一次Ⅱ区調査SC-104と古墳時代の掘立柱建物SB-1012 (南から)



2 第一次Ⅱ区調査SB-08他 (北東から)



1 第一次Ⅱ区調査住居址・甕棺・掘立柱建物（南東から）



2 第一次Ⅱ区調査住居址切合い関係と掘立柱建物（SC-39・40・42）（南西から）



1 第一次Ⅱ区調査北側遺構検出状態（西から）



2 第一次Ⅱ区調査北側遺構検出状態（東から）



1 第一次Ⅱ区調査北側遺構検出近景（東から）



2 第一次Ⅱ区調査北側遺構検出近景（南から）



1 第一次Ⅲ区調査SD-01全景（北から）



2 第一次Ⅳ区調査検出甕棺墓（東から）



1 第一次Ⅳ区調査全景（西から）



2 第一次Ⅳ区調査中央部近景（南東から）



1 第一次Ⅳ区調査SC-53検出状態（南東から）



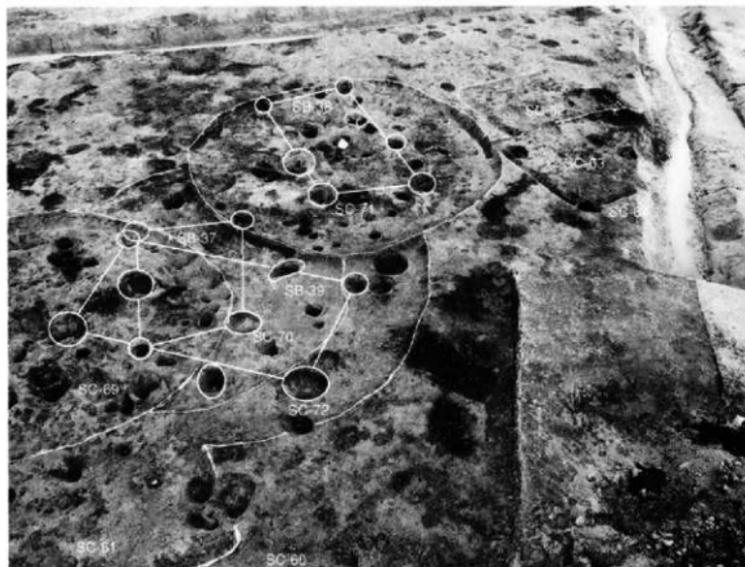
2 第一次Ⅳ区調査中央部甕棺墓とSC56・58・67検出状態（北から）



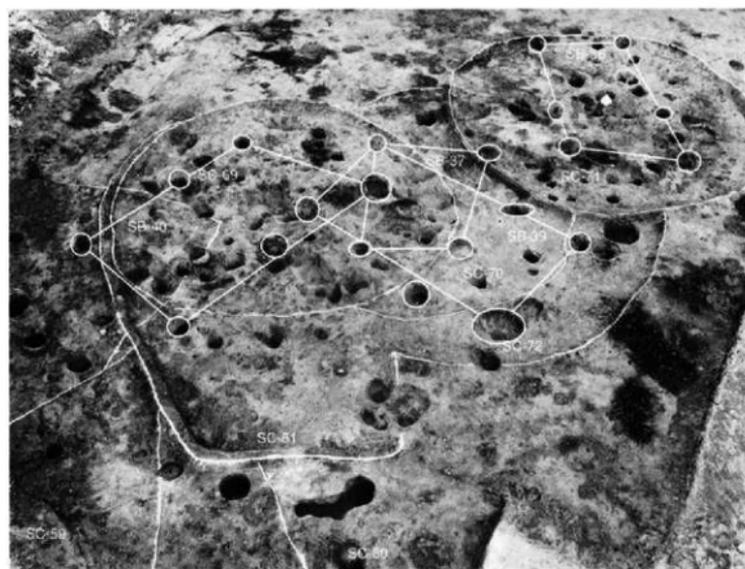
1 第一次Ⅳ区調査SK-211～214検出状態（南東から）



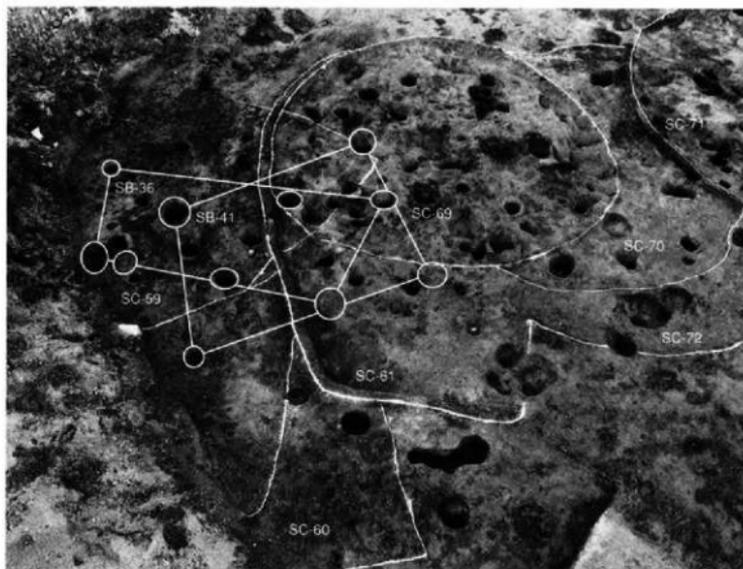
2 第一次Ⅳ区調査SC-59～64、68～72検出状態（北から）



1 第一次Ⅳ区調査SC-59~61・70~72.SB-37~39 (西から)



2 第一次Ⅳ区調査SC-51~55.SC-66.SB-37~40 (西から)



1 第一次Ⅳ区調査SC-60～64・69～72,SB-36・41 (西から)



2 第一次Ⅳ区調査SC-69～72,SB-35 (南東から)



1 第一次Ⅳ区調査SC-67完掘状態（北から）



2 第一次Ⅳ区調査SC-66完掘状態（南西から）



1 第二次Ⅹ区調査遺景（南西から）



2 第二次Ⅹ区調査南東隅SB-10～13、SC-73（北から）



1 第二次区画調査SC-73・SB-15・24 (南東から)



2 第二次区画調査遺構SB-10・12・13他 (北東から)



1 第二次K区調査南西隅遠景（北から）



2 第二次K区調査東隅遠景SB-14・15（南東から）



1 第二次Ⅸ区調査北隅遠景（南西から）



2 第二次Ⅸ区調査東側調査区SB-09～12（南東から）



1 第二次Ⅸ区調査北隅SB-02～07 (東から)



2 第二次Ⅸ区調査北隅SB-06・10、SD-03 (北東から)



1 第二次K区調査中央部SB-10～12（南東から）



2 第二次K区調査中央部SB-24～29（西から）



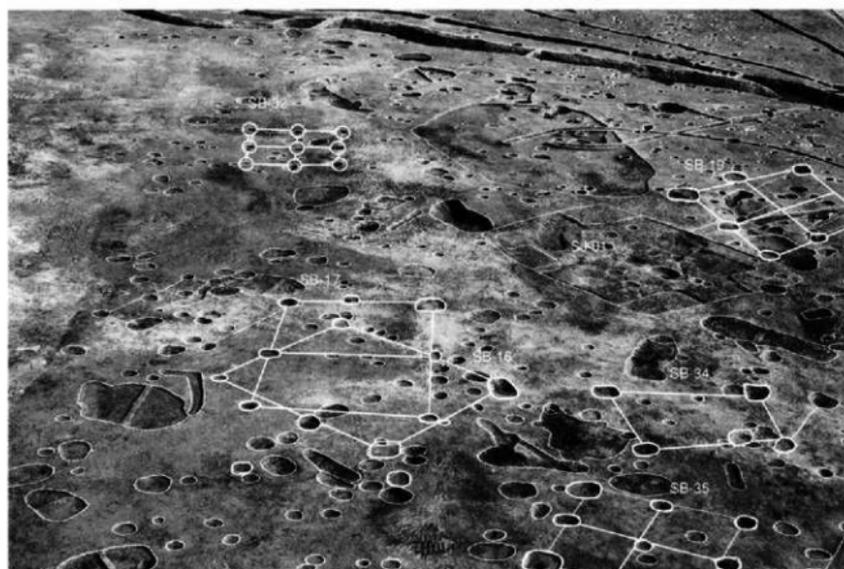
1 第二次K区調査中央部北側SD-08・05、SB-13・20～24（北西から）



2 第二次K区調査東中央部SB-13・14、SD-05・08（東から）



1 第二次Ⅸ区調査南東側SB-13~15・24.SD-05・08 (東から)



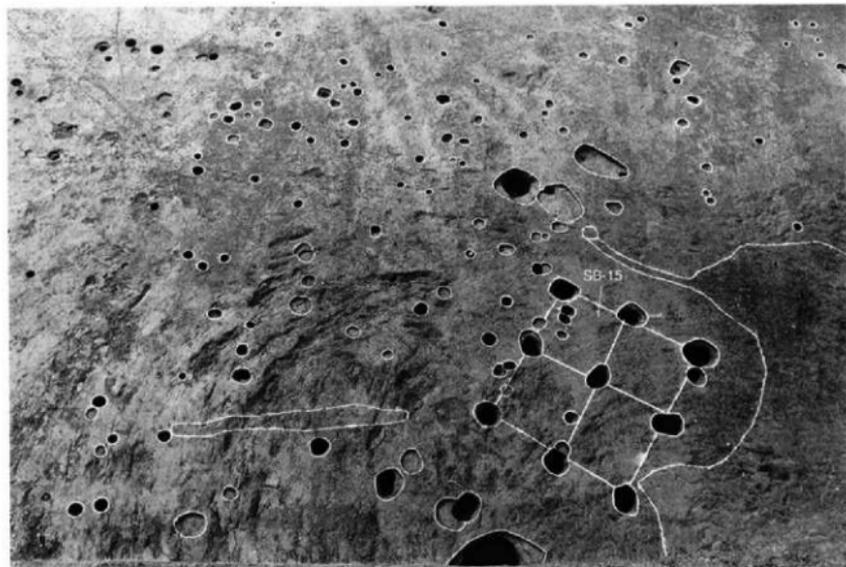
2 第二次Ⅸ区調査西側SB-16・17・19・32・34・35古墳時代住居址 (西から)



1 第二次K区調査中央部SB-13、SD-05・08、SC-75（東から）



2 第二次K区調査西隅SB-18・19・31他（南から）



1 第二次Ⅹ区調査SB-15 (東から)



2 第二次Ⅹ区調査SD-05～08と堰状遺構 (北から)



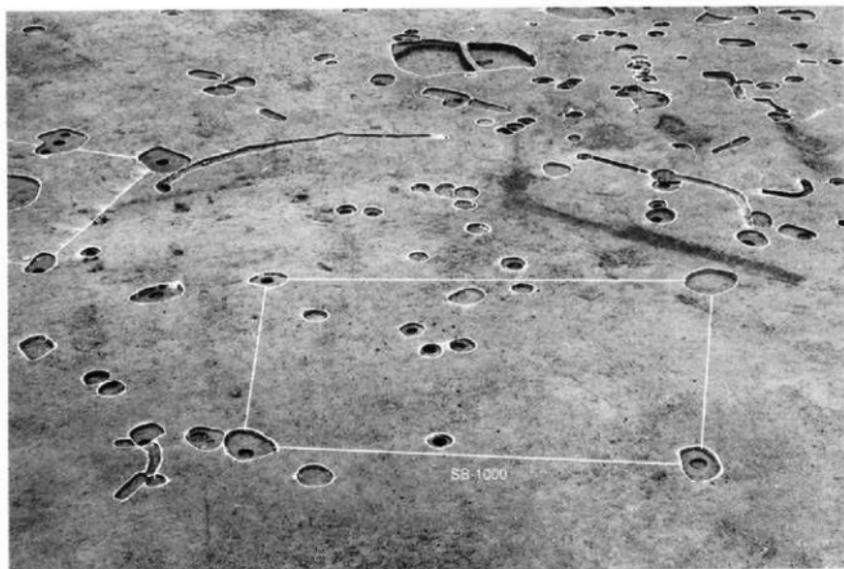
1 第二次区画調査北隅SB-02～07・09（東から）



2 第二次区画調査SD-06・07とSB-18・29・31（北から）



1 第二次K区調査南東隅SB-14・15.SC-73 (北から)



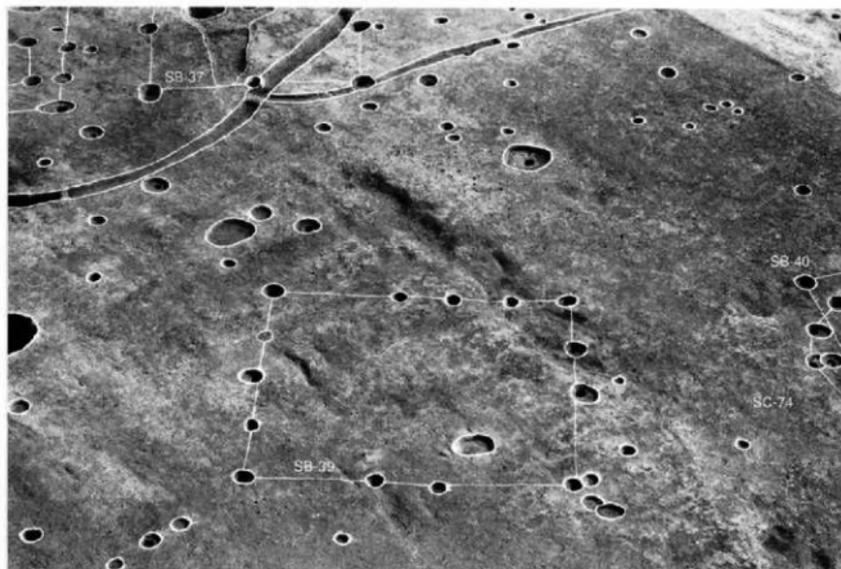
2 第二次区調査SB-1000



1 第二次Ⅸ区調査南東隅SB-14・15・24、SC-73（北東から）



2 第二次Ⅸ区調査SB-18・31・32（北西から）



1 第二次区画調査SB-37・39・40、SC-74（北西から）



2 第二次区画調査SD-34~38（北から）



1 第二次K区調査SC-74,SB-39・40 (北西から)



2 第二次K区調査SB-30・33~38 (西から)



1 第二次V区調査SD-10・11、SB-41検出状態（西から）



2 第二次V区調査SD-11土器出土状態（北西から）



1 第二次Ⅶ区調査全景（北から）



2 第二次Ⅶ区調査全景（南から）



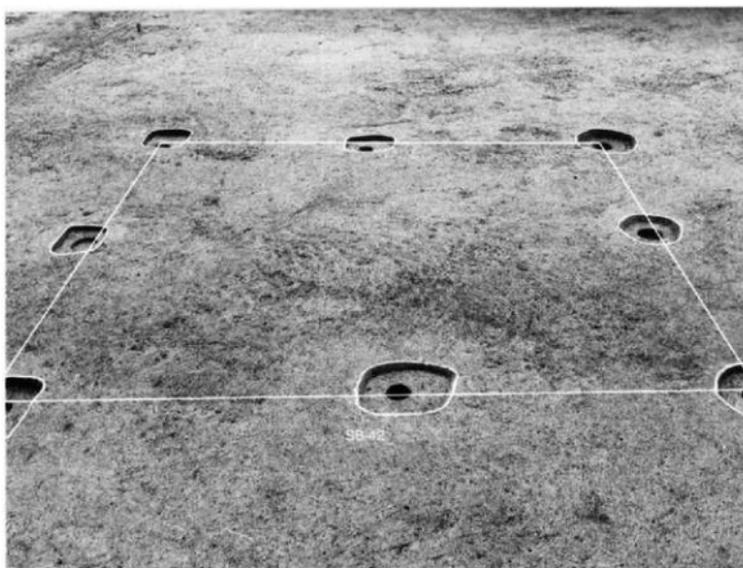
1 第二次Ⅶ区調査SD-15近景（西から）



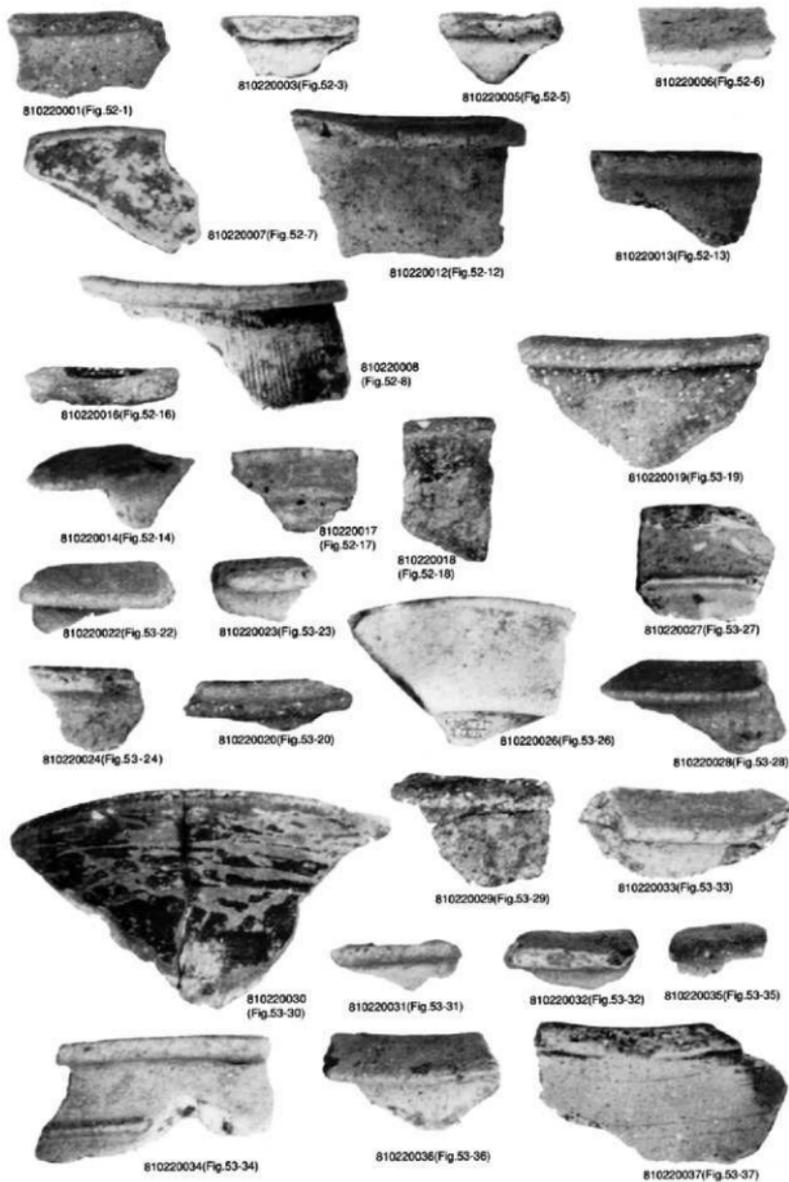
2 第二次Ⅶ区調査SD-14・15近景（北から）

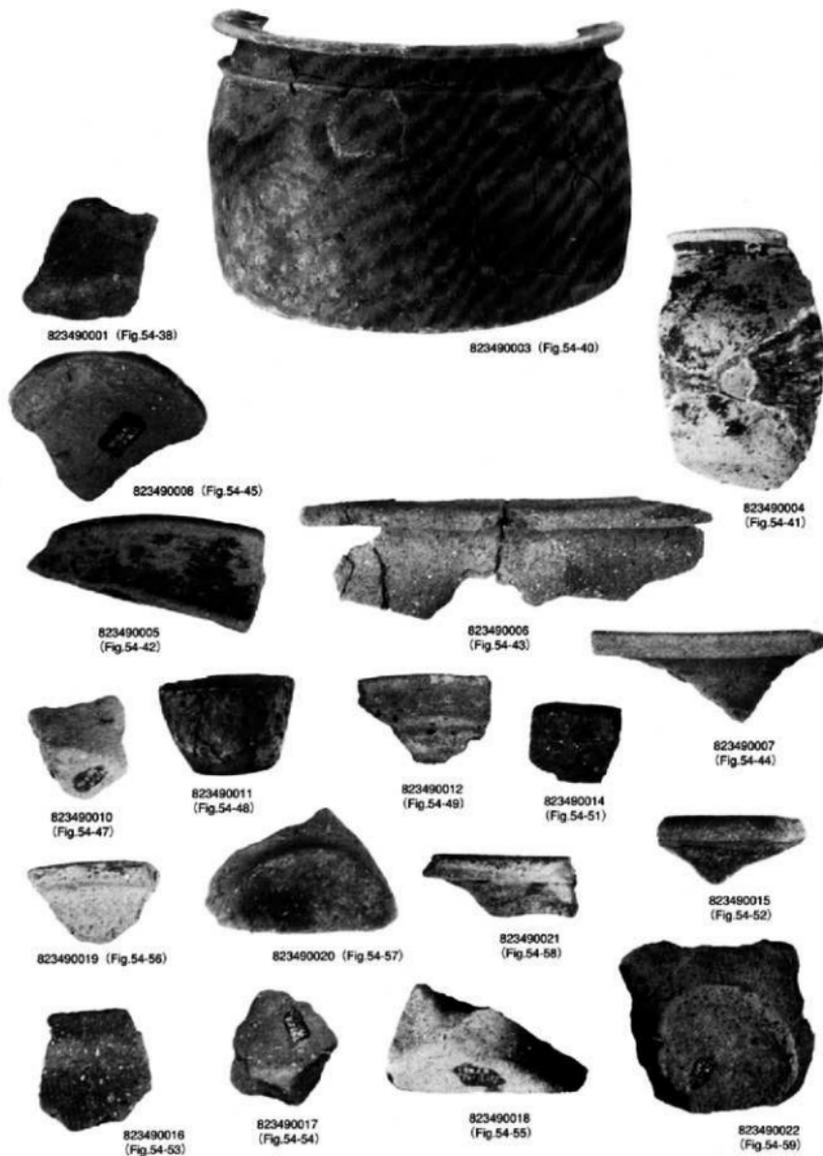


1 第二次Ⅵ区調査D-14他近景（南東から）



2 第二次Ⅵ区調査SB-42全景（北から）







第4次調査1号幹線道路第4区遺構検出状況（西から、向こうがSB02大型建物）



◀ 1. 第4次調査
1号幹線道路第4区遺構検出状況
(西から、向こうが吉武高木弥生墓地)

2. 第4次調査
4号支線道路北端部遺構検出状況(南から)
▼



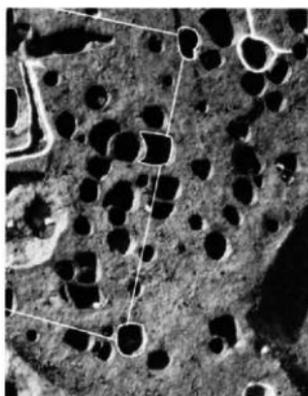


第4次調査区東半部遺物群検出状況（東から）



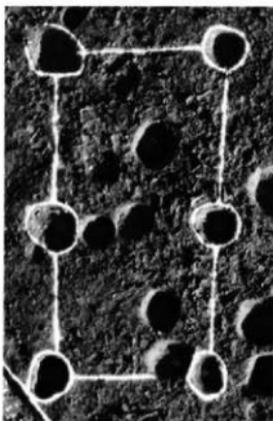
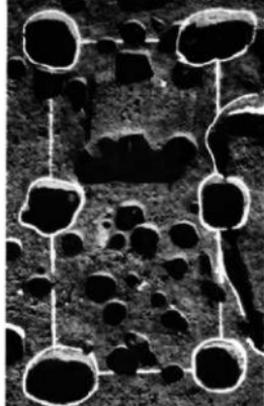
▲第4次調査SB17建物検出状況

▲第4次調査SB16建物検出状況



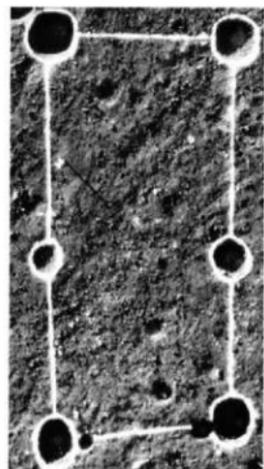
◀第4次調査SB18建物検出状況

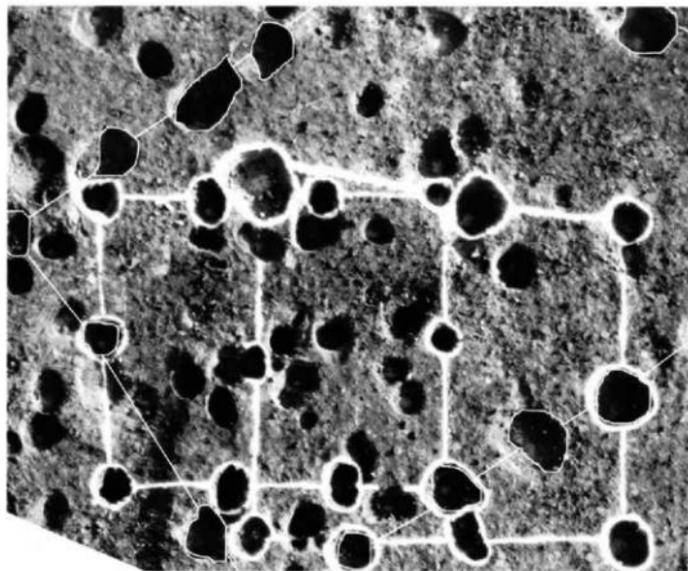
▶第4次調査SB15建物検出状況▶



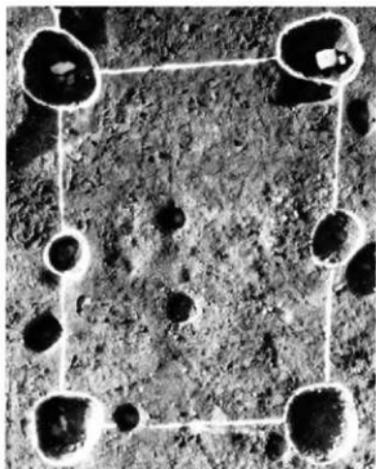
◀第4次調査SB19建物検出状況

▶第4次調査SB20建物検出状況▶

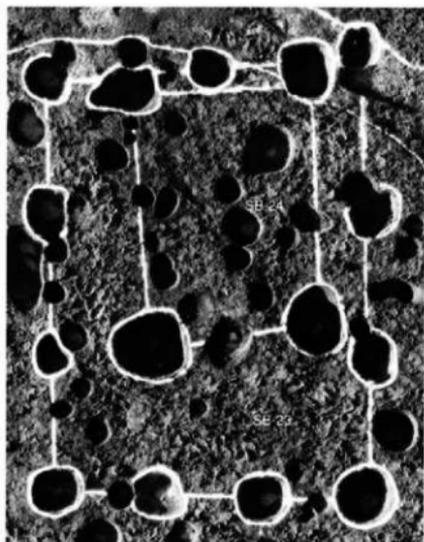




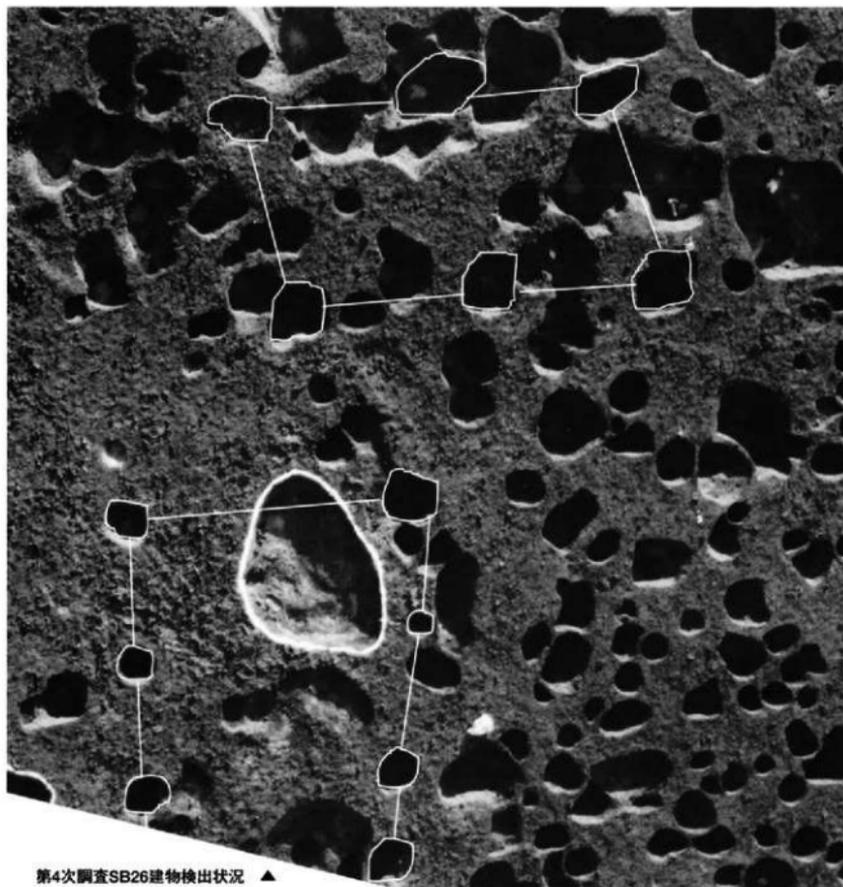
第4次調査SB21建物検出状況



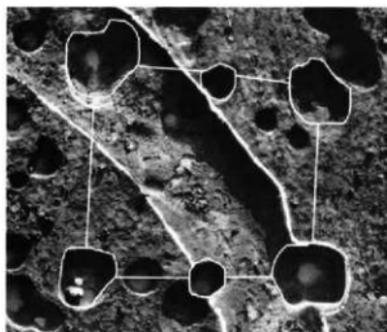
第4次調査SB22建物検出状況



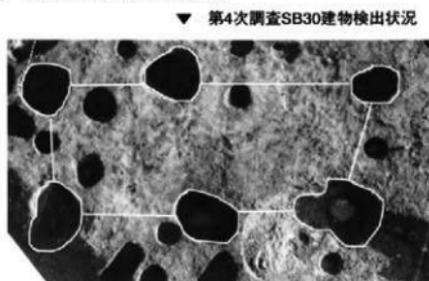
第4次調査SB23・24建物検出状況



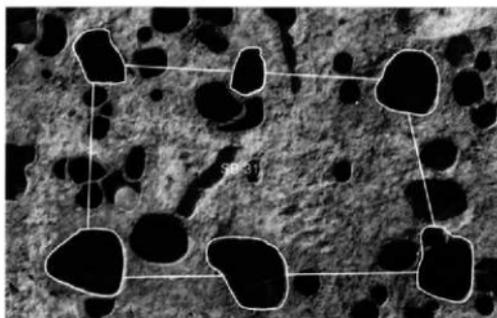
第4次調査SB26建物検出状況 ▲



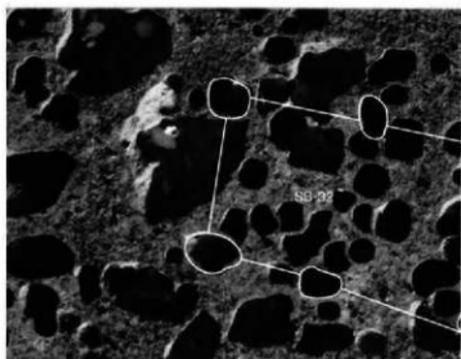
▲ 第4次調査SB27建物検出状況
◀ 第4次調査SB25建物検出状況



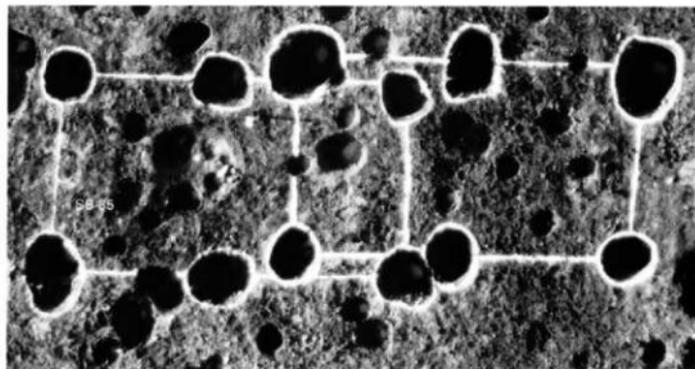
▼ 第4次調査SB30建物検出状況



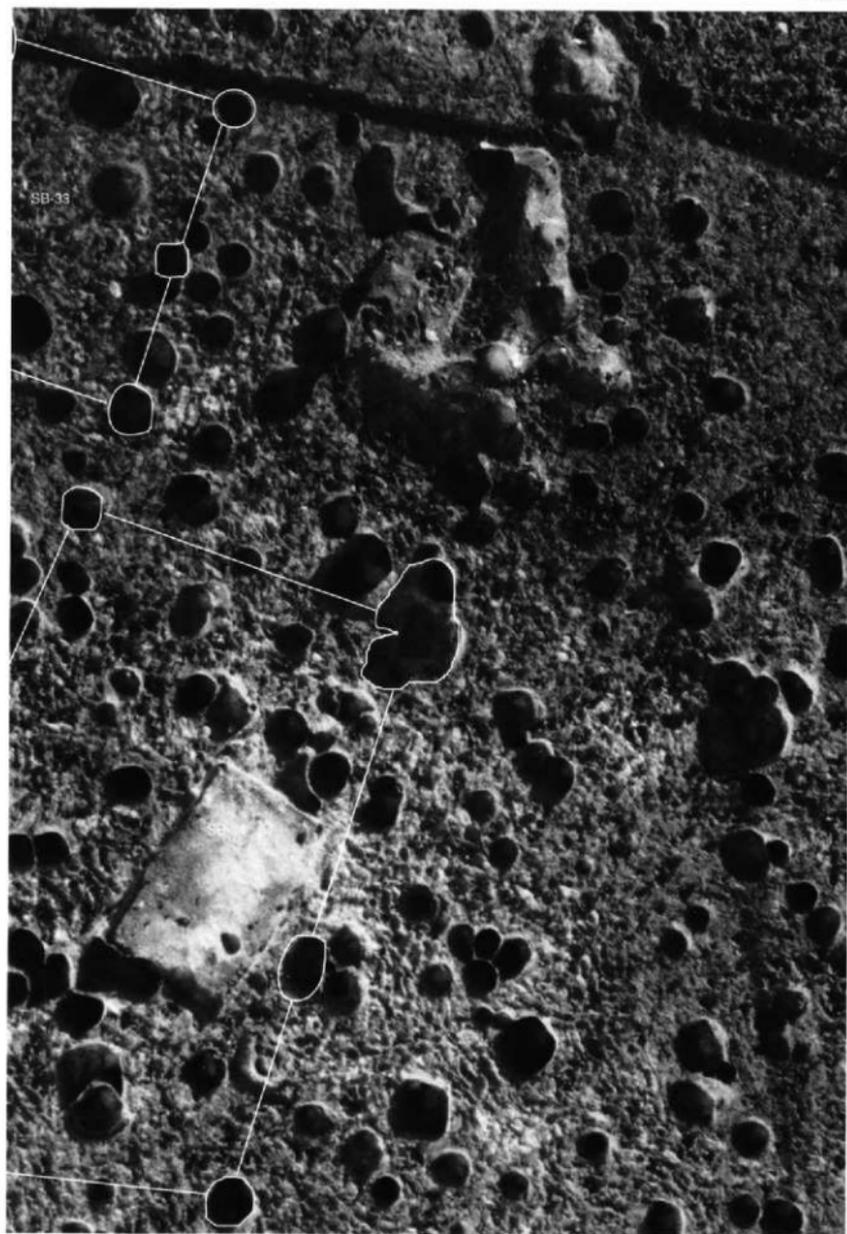
◀ 第4次調査SB31建物検出状況



◀ 第4次調査SB32建物検出状況

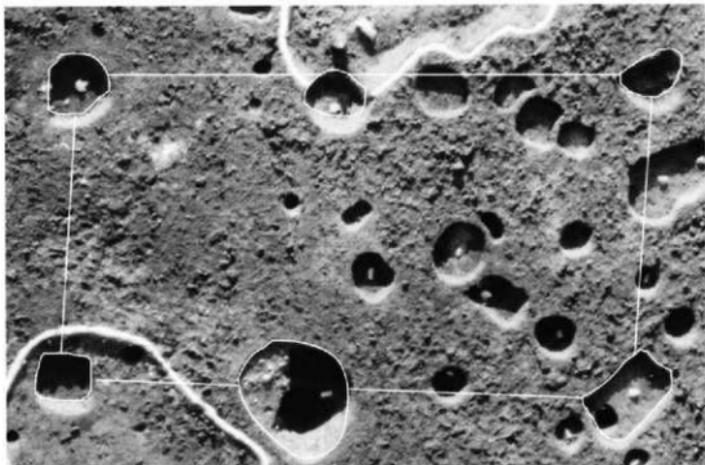


▼ 第4次調査SB35建物検出状況

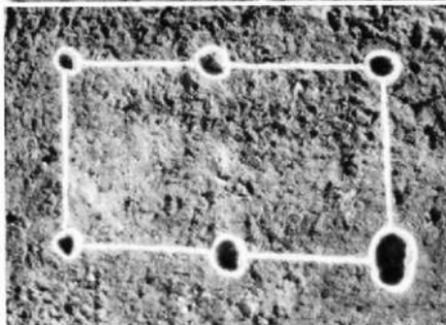




第4次調査調査区西半部建物群検出状況（裏から）

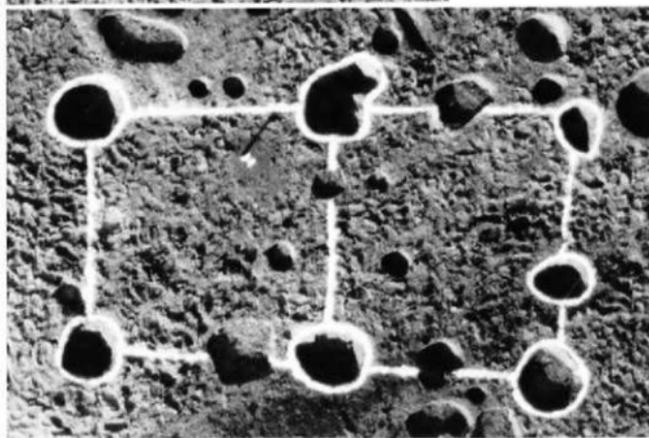


▲ 第4次調査SB38建物検出状況



◀ 第4次調査SB39建物検出状況

▼ 第4次調査SB40建物検出状況



吉武遺跡群Ⅶ

—弥生時代掘立柱建物の調査—

福岡市埋蔵文化財調査報告書第437集

1995年3月31日

発行 福岡市教育委員会
福岡市中央区天神1丁目8番1号

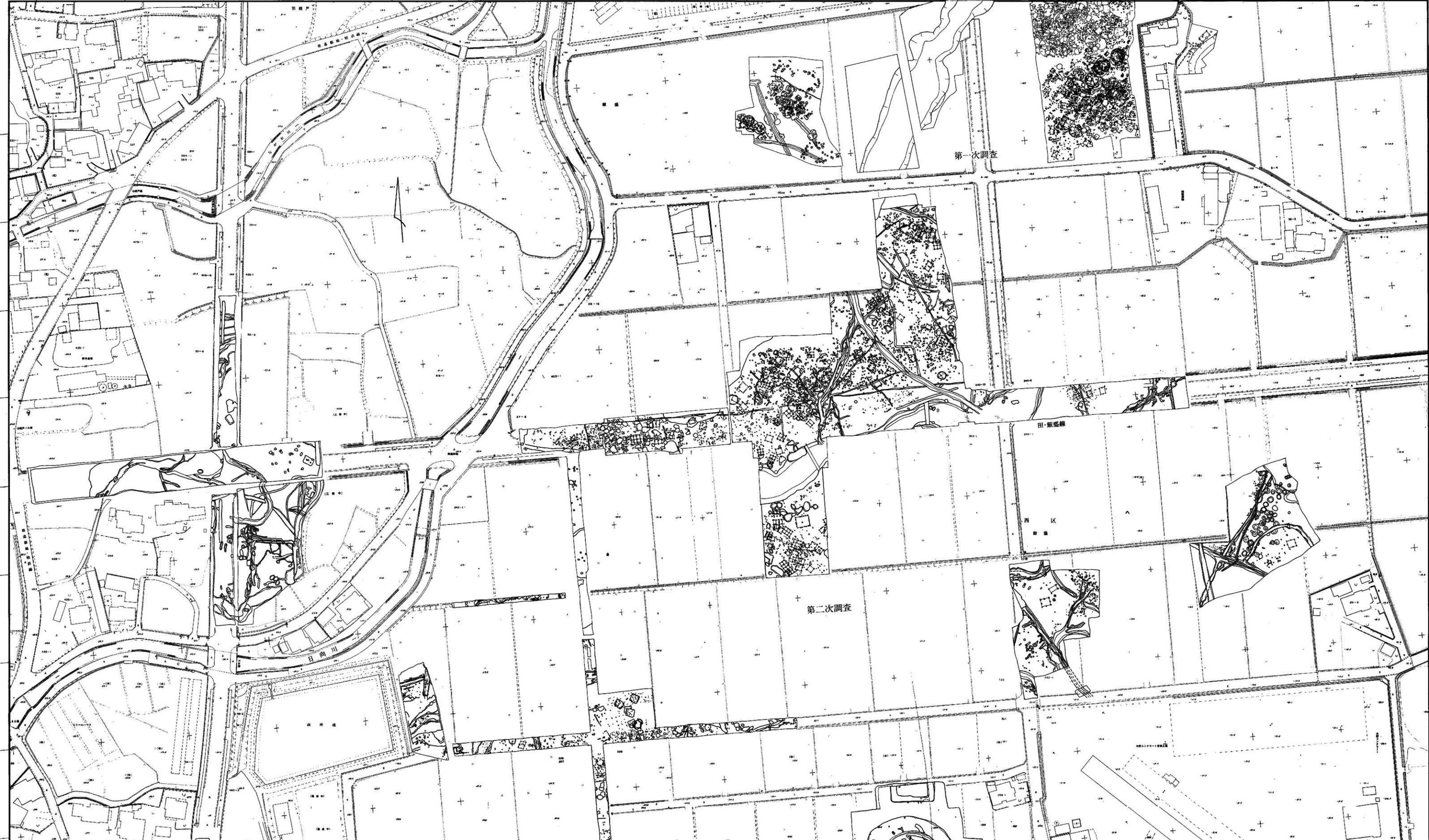
印刷 久野印刷株式会社
福岡市中央区天神5-5-8
TEL 092-741-0637

付図 第1～6次調査区全体図 (1/1,000)

よし たけ
吉武遺跡群 VII

飯盛・吉武圃場整備事業関係調査報告書 I
福岡市埋蔵文化財調査報告書 第437集

P O N M L K J I H G F E D C B A



1
2
3
4
5
6
7
8
9

2
3
4
5
6
7
8
9
10

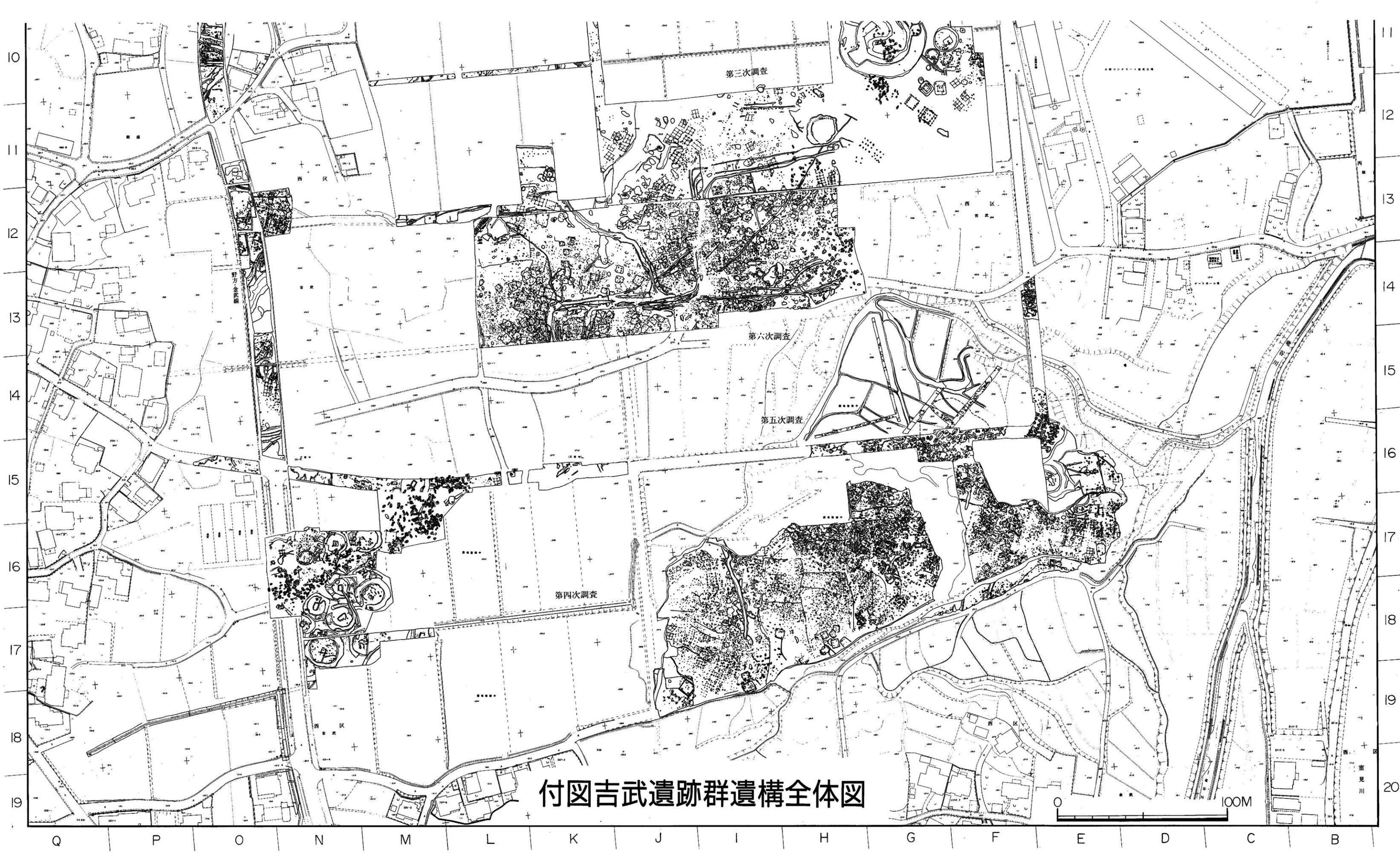
第一次調査

第二次調査

田・飯盛線

日商川





付図吉武遺跡群遺構全体図

室見川